日訓條ノ旨趣ニ原キ江華砲擊ノ事及彼ノ從前我使書ヲ接受セサルノ件ヲ談判ニ及ヒシニ彼云フ雲揚艦ヲ砲擊セシハ其日本船タルヲ認メサルニ由ル今已ニ日本船タルヲ知ル豈驚歎セサランヤ而シテ使書ヲ接受セサルハ全ク當時ノ疑惑ニ出テ今日ニ在テハ既ニ盡ク氷解セリト糊塗模稜未タ其要領ヲ獲サルニ由リ續テ翌十二日戊辰以來無禮ヲ我ニ加ヘタル事實幷ニ曩キニ我船舶ノ旗號ヲ送付シタル件ヲ歷叙シ文憑ヲ取リ問詰セシニ彼初テ此事必ス朝廷ヨリ相當ノ謝辭アルヘシト明言セリ是ニ於テ兩國相交ル必ス條約アリテ以テ其信ヲ固フセサル可ラサルノ意ヲ陳シ條約案ヲ出シ商議ニ及ヒシニ彼レ京師ニ稟報シ其處分ヲ待ツヲ求メ十日ノ期ヲ刻シ決答スヘキヲ約ス乃チ府ニ留リ報ヲ待ツ然ルニ彼其屬官ヲシテ意ヲ通セシメ條約中異議アルノ件ヲ删改センヲ乞フ臣等以爲ク和好ノ大局ヲ全フセンニハ亦少シヲ寛恕スル所アルヘシト因テ彼ノ欲スル所ニ從ヒ其緊要ナラサル條件一二ヲ删改ス但批准ノ一節ニ至テ彼已ニ國王ノ名ヲ署スルヲ欲セス僅ニ其御寶ヲ鈐スルヲ肯ンスルノミ蓋シ彼陽ニ和好ヲ主トスト雖モ內情猜嫌ヲ懷キ苟且局ヲ了セント欲スルノ意アルヲ揣リ二十日ニ至リ遽ニ面接ヲ乞ヒ批准ノ事ヲ議シ反覆辨論スレドモ彼禮典ヲ以テ口ニ藉キ多方節辭我ノ言フ所ニ服セス適マ京師回報アルニ會ス彼又議政府照會スル所ノ謝辭文案ヲ出示ス之ヲ見ルニ言頗ル辨解ニ涉リ申謝ノ實ナシ是ニ於テ使事協ハサルヲ知リ已ムヲ得ス歸國スヘキヲ發言シ斷然決去ノ意ヲ示セリ二十二日歸裝ヲ理メ將ニ去ラントスルノ際申尹二人旅館ニ來リ爲ニ行期ヲ緩フスルヲ請ヒシカトモ聽カス彼又云フ明日ヨリ五日ヲ限リ事順成ニ至ルヲ期スヘシト乃チ答フルニ明日ヨリ四日間船ヲ止メ報ヲ待ツヘキヲ以テシ府ヲ發シ船ニ回ル二十五日ニ至リ彼一切我ノ求ムル所ニ應シ條約ヲ互換スヘキヲ決答セシニヨリ二十六日再ヒ江華府ニ入リ二十七日申尹ト會同シ條約互換ノ事全ク畢リ卽日府ヲ發シ二十八日護衞艦一同解纜歸朝セリ謹テ事狀ヲ具シ併テ修好條規及ヒ批准謝辭ヲ呈シ以聞ス頓首再拜

明治九年三月

特命全權辨理大臣　黑田清隆

特命副全權辨理大臣　井上馨

（黑田辨理大臣使鮮始末）

**註**　右ハ「黑田辨理大臣使鮮日記」「岩倉公實記」等ニ依リ三月五日ノ項ニ入ル





## 三二　三月十日　宮本外務大丞ヨリ寺島外務卿宛

**朝鮮國判中樞府事申櫶ヨリ日鮮修好條規ニ六ケ條追加方ノ希望アリ右ニ關シ同人ニ手錄ヲ手交セル經緯具申ノ件**

**附屬書**　二月二十六日宮本外務大丞ヨリ朝鮮國判中樞府事申櫶ニ與ヘタル手錄

下官儀朝鮮接見大官申櫶ヘ條約の條款談判中同官申聞候には同國政府にて日本政府より差示たる條約條款案の內へ差加度ケ條有之由を以一通のケ條書を差示候或は條約の附錄にいたし度旨をも申聞候則其條々は

一日本人常平錢の使用を許さゞる事

一米穀を貿易するを禁する事

一貿易はすべて物を以物に易ふる事幷彼我商人賣買に手附金又は錢物貸借及利息を取る事を禁する事

一外國（歐米を指）人民朝鮮開港場へ入込を禁する事

一鴉片烟輸入幷洋敎宣布禁止の事

一彼我逃亡人を互に隱匿し置事幷故漂を禁する事

右六ケ條の文章は其紙面を談判の末彼へ差戻候に付記憶不致候得共大要右の通に有之候依て下官其席に於て申櫶へ申談候には既に條約調印の期限一兩日中に切迫の場合におよひ又々新に右樣のケ條を被望候ては不都合に有之彼是と往復の內日限を過ぎ談判取纏らさる時は兩國の大事に及候に付此ケ條をは暫相止め候方可然旨申談候得共申櫶おゐては政府よりの命令に付中間にて廢止候譯には至りかたき旨强て申立候依て下官より申談候は此ケ條の如きは何れも六ケ月後通商章程を議する時會商して可なるべし今度の條約には揭載に及ばすして濟べきケ條也と申聞候得共彼大官の身に取候ては何分點止（ママ）かたき趣に有之由也依て下官より更に一二條を辯解して曰常平錢を日本人民使用する能はさる時は日本人朝鮮に在つて菓物一顆烟草一斤を買入るゝ事も能はさる譯に相成寬裕貿易を許したる詮なき事にて決して行はれさる事なり第二條米穀の事は假令貴國より輸出を禁するとも輸入は禁するに及まし貴國饑饉の時は我國より米穀輸入自由に候得は貴國人民餓莩を免れ候理也然れは此條も不用也第三條物を以物に易ゆるは古風の貿易法にて方今各

國にても更に用ひさる法也則寛裕貿易とはケ様の事に規則を用ひさる事也と段々辯解に及候處彼におひても頗了解いたしたる體にて更に申聞候には然らは此六ケ條中我國にて最注意いたし禁止を乞度ケ條は鴉片なり洋教を日本人より傳播するや外國人をして日本人の名を以朝鮮居留地へ雜居せしむるや此ケ條は是非とも日本政府にて承諾無之候ては我政府にて甚困却いたし候事故是非とも此度表向の談判に及はねは不相濟也と申聞候下官熟考候處鴉片は我邦外國條約中既に嚴禁中のもの也洋教は現今國禁中の一則なり外國人日本人の名籍を冒し朝鮮地方に來住するも方今外國人我支配の下に在らす又內外商社組合の許可も無之上は是亦我政府の許可せさる處なり然らは彼の要用として禁忌するケ條は我に於て敢て差支無之ケ條に付其席にて彼へ相答候には右三條の如きは我政府にて格別差支候筋有之間敷と考候なり故に追て條約の節目を議候時此ケ條を加入せん事を被望候て可然候今日此切迫の日に臨み新に談判を興されすとも可ならんと再三說喩候處彼れは本政府の命令なれは何分困却の樣子にて然れは此三ケ條は貴下見込の趣を此場にて書付になしくれ候樣いたし度其餘のケ條は何樣にも我政府へ申立べくとの事にて一篇の書付を懇請候に付右書付差遣し候得は彼れも安堵いたし既に八九分結果に至候條約談判も無滯相濟可申と愚考候に付右書付差遣し候事は承諾いたし候得共其席にては不相渡歸來の上副辨理大臣へも其始末申立候末別紙草稿をも同大臣の內見を經たる後彼大臣へさし遣候處右にて大に安心いたし候樣子にて我方より差出候條約下案へ別條を加入候事は彼より公然と不申立廿五日夕に至り彌條約調印相決候段政府より指令有之旨申樞より相答候事

但別紙は和文漢文とも半紙罫紙に書記し花押調印とも不致さし遣し置候也

其翌日朝訓導玄昔運來り昨日申樞より依賴の書付催促いたし且西洋船日本の國旗を假冒し朝鮮に來候事有之節は如何との問に付左樣の事は決して無之則其れか爲領事有之船籍書類等を船より預り候に付假冒する能はさる事なりもし甲國の商船濫りに乙國の旗章を揭ける如きは乙國の軍艦是を取捕て差支なしと相答候處訓導申聞候には右の趣も今朝政府より申來り大に憂慮する處なれは昨日依賴に及候書付中へ序に書加へくれ候樣との賴に付則右のケ條をも差加へ候事なり



此段上伸いたし置候條追て條約節目を議候爲出張の官員へ御傳達有之右の者差含居候樣いたし度候也敬具

明治九年丙子三月十日

外務大丞　宮本小一

外務卿　寺島宗則殿

**（附屬書）**

凡貿易の爲め外國の諸港へ往く日本商船は必す日本政府より渡したる航海公證及ひ該船の船籍を帶往せざるなし外國の港へ到着し二十四時を過きさる內に船主より右等の諸書類を其地に在る日本領事官へ引渡し領事官は是を點撿して後船主は其地方に在る役所へ入津したる屆書を出すなり此屆書には領事官證書あり故に日本船にあらさる疑ある事なし國旗は至大至重の物なり若甲國の船乙國の旗章を假冒する事ある時は海賊の所業と見て乙國の軍艦是を捕へて十分に罰して可也

一鴉片の輸入は朝鮮政府是を禁して日本人に差支ある事なし

一現今日本人民耶蘇教を奉するを聞かす若朝鮮政府日本人民の耶蘇教を朝鮮人民に傳ふる事あらんを恐るゝが爲め是を禁止せんと欲するは朝鮮政府の望次第たるべし

一朝鮮國にて日本人民の爲開きたる港の居留地へ他の外國人日本人の籍を借り居留商買する事は日本政府の許さゝる所なり

右判中樞府事申閣下の御尋に付愚意演述し置候也

明治九年二月

外務大丞　宮本小一

註　右附屬書日附ハ本號文書不文ノ文意ニ據ル

**（右附屬書漢譯文）**

凡日本國商船因貿易等事進往他國莫不領帶政府所付之船牌及航海公證既到港口不出四十八時貴國二十四時該船主呈船牌公證于駐在該地日本領事官驗明然後報狀于該地方官其報單內必有領事官印記故其爲日本國船隻也確乎有憑據又每船必立國旗々々是至貴至重之物若有甲國船假冒乙國旗號則視與海賊同乙國兵艦緝拿懲罰

朝鮮政府禁鴉片進口與日本人民無礙

現今不聞日本人民奉耶蘇教朝鮮政府爲預防日本人民或有傳耶蘇教于朝鮮人民欲禁止之事日本政府應無不允

別國人民在朝鮮國通商各口假日本人之名籍居住貿易一事是日本政府所不許也

右各件蒙申大官詢問故陳鄙見如此

外務大丞　官本小一

## 三三　三月二十二日

### 日鮮修好條規御批准書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐タル大日本國皇帝此書ヲ以テ宣旨ス大日本國大朝鮮國ト世々隣交ニ厚シ玆ニ全權辨理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黑田清隆副全權辨理大臣議官井上馨ニ特命シ朝鮮國ニ往カシム清隆等判中樞府事申櫶都總府副總管尹滋承ト締約スル所ノ修好條規ヲ歸奏ス朕之ヲ閲覽シ逐欵允當ナルヲ以テ批准ヲ予フ宜シク之ヲ永遠ニ遵行シ以テ兩國ノ親睦ヲ固フスヘシ

神武天皇卽位紀元二千五百三十六年明治九年三月廿二日東京宮中ニ於テ親ラ名ヲ署シ國璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

奉勅　外務大臣　寺島宗則（印）

（右漢譯文）

保有天佑踐萬世一系帝祚大日本國皇帝以此書宣示大日本國與大朝鮮國世厚隣交玆特命全權辨理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黑田清隆副全權辨理大臣議官井上馨往朝鮮國清隆等將與判中樞府事申櫶都總府副總管尹滋承所締約之修好條規歸奏朕閲覽之逐款允當予批准宜永遠遵行以固兩國親睦

神武天皇卽位紀元二千五百三十六年明治九年三月廿二日於東京宮中親署名鈐國璽

御名

奉勅　外務大臣　寺島宗則印

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 三四　三月日缺　宮本外務大丞等ヨリ寺島外務卿宛

### 朝鮮國ニ駐派スヘキ我カ外交代表ノ齎スヘキ國書又ハ書翰ニ關シ朝鮮國判中樞府事申櫶ト談合ノ次第具申ノ件

**附屬書**　宮本外務大丞等ヨリ朝鮮國判中樞府事申櫶ニ書示セル代理公使派遣ニ關スル書翰文例

朝鮮國接見大官申櫶え條約未整前下官應接の節日本より可差出公使の談に及候彼の望は公使を都下え差置すら甚畏懼する情なきにあらすもし右公使國書を帶往し來る時は朝鮮國王え謁見を乞ふべし又は國王の答書を要すべし或は朝鮮より日本え出す公使其國王の國書なかるべからす然るに自ら王と稱し日本帝へ書を送るは更に忌諱する處なれは此一條彼れは殊の外憂慮する趣屢申聞候依て公使を互に派遣する手續等いさゐ承知いたし度旨彼の尋に從ひ我より答曰外國へ公使を出すに凡三等あり第一を全權公使と云第二を辨理公使といふ共に其國王の親書を帶往して駐劄（カ）の國主へ謁見を乞右親書を手渡しになす手續なり第三等は代理公使と稱す是は自國外務卿より駐劄（カ）すべき國の外務卿へ書簡を齎らし往き直に是を其外務宰相へ渡して其國主へ表立謁見を乞ふ事なし然し交際事務を所分するに至ては三等とも異る事なしと相答候處彼又問貴國より朝鮮へ派遣せらるゝ公使は何等なるべき哉願くは貴國外務卿より禮曹判書へ書簡を送らるゝまてにして爲濟度とのこと申聞候間下官答曰今より何等公使を貴國へ可派出との約束はいたし難けれとも貴國にて斯く迄國書往復を被嫌候事ならは當分の間は可成國書往復等の手數を省き候樣拙者共外務省へ歸り申立置へし且公使の儀は高官の者を互に派出するを其國を敬禮する事と相成居候得共高官は隨て隨員等も多く入費相增候故何れの國にても可成は次官の方を派出して事を爲濟度と思ふは常情也貴國は我隣邦にて交際事務も多けれは高官を出すへき筈なるに多少差支有之譯に候はゝ代理公使又は理事官にて當分の間爲濟候事は必す相叶ひ候事なるへしと相答候處左候得は大に重疊也何卒右等の處にて御周旋有之度候且又貴國外務卿より禮曹判書へ差越さるへき書簡は何樣の事なる哉一向心得さる事に付右も兼て承知いたし置度と申聞候間下官の答に右文體固より一定したるものあらす然れとも意味は大抵心得居候間假りに作文して可差示候とて別紙文案さし示候處殊の外悅喜の樣子にて凡右文案の體に候はゝ惣て都合よろしき旨申聞候此段兼て上伸いたし置候也

明治九年三月

宮本大丞

野村權大丞

寺嶋外務卿殿

（附屬書）

日本國外務卿某謹ンテ書ヲ朝鮮國禮曹判書閣下ニ呈ス曩ニ

兩國ニテ取結ヒタル條約ノ旨趣ニ隨ヒ今般我政府何某ヲシテ日本代理公使ノ職務ニ任シ貴國都府ニ派遣セシム此者ハ從來忠勤特亮ノモノニシテ能ク兩國交際事務ヲ辨理スルニ適當ノ者ト存候條貴國政府ニテモ右ノ者ヲ御信認被下交際事務ニ付同人ヨリ申出候諸件ハ總テ相當ノ御接遇ヲ以テ御採聽有之候樣祈望イタシ候茲ニ乍序貴國ノ平安ヲ祝シ且閣下ノ健康ヲ賀ス敬具

（右附屬書漢譯文）

日本國外務卿某謹致書

朝鮮國禮曹判書某閣下茲我政府遵議立和約之旨命代理公使某派遣于　貴國該員忠直有才幹克適其任望　貴政府幸諒斯意信遇該員兩國交際事務一切與該員商量其有所陳請特賜聽納爲此崇佈順祝兩國平安并頌台祉不宣

## 三五　四月日缺　黑田辨理大臣等ヨリ三條太政大臣宛

### 日鮮修好條規ノ履行運營ニ關シ上申ノ件

太政大臣　三條實美殿

特命全權辨理大臣　黑田清隆
特命副全權辨理大臣　井上馨

朝鮮國條約履行之目的

朝鮮國ノ儀維新ノ報知ヲ擯斥セシ以來頗艱難ノ交際ヲ爲スニ至ル朝廷下官等ヲ派遣シ舊交ヲ重修シ盟約ヲ結ハシム幸ニシテ彼亦我意衷ニ應シ既往ヲ謝シ修好條規ヲ結ヒ同國ノ事件是ニ於テ一段落ヲ成シタリ就テハ同國將來ノ交際ハ此時機ニ當リ篤ト廟議ヲ盡サレ目的確立ノ上御着手相成度事ト存候也如何トナレハ下官等彼實地ヲ閱スルニ所見纔ニ外面ノ一部分ニ過キスシテ一般ヲ概論シカタシト雖トモ要スルニ上下貧困到處寂寞タル部落アル而已彼ト强テ貿易セントト欲スルモ貨幣アル無ク產物一ノ貴重スヘキナケレハ至急繁盛ノ互市ヲ開ク時ニアラス然ルニ今ヨリ三所ニ開港シ各領事ヲ派出シ彼亦稅關ヲ設立シ貿易事務官ヲ置ク等雙方多少ノ體裁ヲ備ルハ既約ノ事トハ申ナカラ兩政府共徒ラニ煩擾ト費用トヲ增生スル而已ニテ結句方今ノ緊務ニ有之間敷ト思考候條先差向釜山一港ノ陋習而已改正シ其餘ハ在來ノ形模ニ隨ヒ較潤飾ヲ加ヘ對州及內地人民等些少ノ物品取引ニ付差支ナキ程ノ章程取設ラレ彌內地人民彼ト貿易スルノ





便法ヲ考出シ物品盛ニ出入シ其勢他ノ二口ヲモ開市スルヲ希望スルノ時節ニ至候ハヽ先咸鏡道ノ方ニ一口ヲ定メ傍魯領ボシエツト港ヘ通商ノ便ヲ爲スノ地ヲ與ヘ領事モ夏天ハ該港ニ派出シ冬天ハ歸國スル等ノ方法ヲ設ラレ右二港ニテ猶不足シ我人民彼南海地方ノ互市モ開カント欲スルノ勢ニ至リ候ハヽ更ニ彼政府ニ申入レ南方沿海ニテ一口ヲ開カシムルノ順叙ニ取極置先ツ數年ノ間ハ彼我貿易ノ形況及西洋各國朝鮮ヘ對スル如何ヲ視察シ同國政府ノ方向モ彌開明ヲ欽慕スル歟又ハ依然舊套ヲ墨守スルカ否ヲ熟考シ何事モ當分ノ內ハ更張セサル方ニ御廟算ヲ定メラレ候ハヽ獨リ費用ヲ省ク而已ナラス百事都合可然ト存候尤第十一款六ケ月中雙方委員ヲ派出シ貿易章程等ヲ會商セシムル一事ハ右期月ヲ失ハス派出セラレ候方可然候此員ハ先釜山ニ駐留シ篤ト從前兩國人民貿易ノ始末ヲ取調サセ其要旨ニ據リ章程ヲ編制スル方實地適要ノ條案ヲ作成スルニ至ル可ク候其他新條約ノ各款ニ付現今施行シテ可ナルヘキ廉ト暫ク延期シテ可ナルヘキ廉トモ逐件ノ見込左ニ陳述候條猶篤ト御賢考有之度候也

一十五ケ月後公使派出ノ事

方今兩國交際事務稀少ニ付十五ケ月ノ後ト雖モ今日ノ如キ形勢ナル時ハ公使派出ニ及マシク候モシ臨時派出セサルヲ得サル緊要ノ事務有之節ハ代理公使ニテ足ルヘク候辨理公使以上ニテ國書捧呈等ハ彼レ現今嫌惡スル禮典ニ付彼ノ自解スル迄ハ代理公使ニテ濟マセ置方ナルベシ理事官ノ名義ハ彼何タルヲ解セス却テ卑等ノ官ト見做シ交際ヲ商議スルニ不都合ナルヘク依テ此官名ヲ用ヒサル方可然候

一管理官派出ノ事

釜山ヲ初嗣後開クヘキ二口共該地ニ居留スル日本人ヲ管理スルハ領事官ノ名ヲ有セストモ其時宜ニ隨ヒ差支ナカルベシ故ニ條約文中領事ト指名セス然シ當分ノ內京城ヘ公使ヲ派出セサル時ハ在釜山ノ官員ヲシテ隱然兩國ノ交際ヲモ管領セシムル場合モ可有之ニ付奏任官以上ノ官員撰擇シテ派出ノ方可然候

一草梁公館ノ事

從來草梁公館ノ儀廣大ノ地所ヲ圍込無地代ニテ宗氏ノ祖先ヨリ借受來候彼ヨリ地所ヲ讓リ受タル說アレトモ確證ナシ此公館內對州人民ノ居宅モ有之一箇ノ城廓ニ類似スルモノ也然ルニ新條約第九款ノ趣意ニ隨ヒ各自人民寬裕貿易ヲ營ムニ至リテハ最早無用ノ館地トナル也故ニ此儘保存シ置モ廨署修繕ノ費用ハ勿論朝鮮政府ヲシテ周圍ノ束縛ヲ放解セシムル期ニ不都合ナルヘシ依テ領事館等ニ用ヘキ部分ノ外官舍ハ廢撤シ或ハ彼ヘ返却シ地所モ不用ノ分ハ彼ヘ返地シ我商民後來居留ニ便ナル地勢ノ地所ハ地代ヲ定議シ新ニ借受ル方可然候尤委曲ハ其筋官員實地ニ付措辨ノ件々伺出ノ上ニテ取計ハセ度候也

一從前慣例廢止ノ事

宗氏歲遣船公貿易等ノ事ハ條約面既ニ廢止シタリ但從前對州人民朝鮮人民ニ對シ商法上其他共欺罔貪慾或ハ强壓ノ風習アリ量ヲ二樣ニ製シ或ハ故課シテ米穀ヲ貪リ取ノ類此積弊今以痼疾トナリ容易ニ改正シカタキ件

々有之趣ニ候此惡弊一洗セサレハ朝鮮官民ヲシテ新條約ニ從ヒ面目ヲ一新セシムルノ期ナカルベシ故ニ此地ニ限リ當分ノ内禁令ヲ設立シ犯禁ノ者ハ該地居留官員速ニ懲罰ヲ施シ追々内地人民輻湊ノ節右惡弊ニ傳染セサル樣前以取締改正ノ御處分有之度候也

一二口發見ノ事

二口發見指定ノ儀ハ我ヨリ着手スルノ順叙ナレトモ港口ノ便利而已ニテ内地運輸ノ不便ナル地勢ニテハ後來別シテ貿易ノ盛衰ニ關係スル義ニ付追々時節ヲ謀リ彼ノ政府ヘモ協議シテ其筋官員彼内地ヲ經過シ開港場ヘ輸出ノ便否ヲ地勢ニ就キ取調サセ候ハヽ較良港ノ目的モ可相立候尤測量船ノ儀ハ本年暑天ノ候ヨリシテ先ツ肝要ノ地各所ヲ概測シ良港發見ニ至リ候ハヽ其所ノミ精測シ報上スヘキ旨其筋ヘ御下命相成度候事

一今度應接ノ節咸鏡道ノ沿海ニ一良港有之地圖ニ就キ點檢スル處永興府ノ附近ニ相見候ニ付永興府ノ海港ト指名シテ彼ヘ申入候處該地ハ朝鮮祖先ノ陵廟アルノ地ナレハ開港ニ差支ルノ旨ヲ以彼同意イタサズ候依テ暫ク地名指定ハ相止メ候得共其後同國人ヨリ承ル處ニテハ右海灣中元山津ト稱スル處頗良港ニテ永興トハ距離有之由ナリ然レハ我望ム處彼拒ム處其意互ニ齟齬スル歟モ難計候何分實地檢査セサル間ハ發輝ト難相分候此咸鏡道沿海ハ前述ノ意味モ有之先以本夏此一港而已指向測量ヲ命セラレ實地審檢相成候ハヽ政府御考案ノ基礎速ニ可相定ト存候事

附言朝鮮海岸測量ノ儀ハ前以其地方ヲ概定シ在釜山外務官員ヨリ彼ヘ右地名ノ概略ヲ指示シ置且測量船モ日本外務卿ノ公證ヲ帶往シ測量ノ前右公證并船長ノ名等彼ヘ差示シ彼國耕農漁業等ニ差支不相成場所ヨリ測量致サセ度其他別段嚴密ノ條例ヲ附與セラレ成ルヘク溫和ヲ主トシ粗暴ノ處置無之樣命セラレ度彼國ヨリモ昨年ノ如キ暴舉ハ再度有之マジク候得共同國政府ヨリ全國海岸ヘ號令徹底ノ有無難計ニ付此方ヨリハ惣テ平和ヲ主トシ萬一彼傲慢粗忽ノ舉アル時ハ委曲ヲ具上シ其場ニテ懲治ハ決シテ相成ラサル旨等嚴令相成度候且外國人ヲ測量船ヘ乘組セ候儀ハ可成差止度儀ニ候得共測量學科上是非不召連候テハ差支候儀ニ候ハヽ海軍省雇英人ゼームスハ其人物モ宜敷韓人ニ對シ不都合ノ擧動有之間敷候ニ付同人ヲ召遣ハサレ度候尤同人ト雖モ彼ヨリ見ル時ハ西洋人ニ付又々疑惑ヲ生スヘキモ難計候ニ付成ルベク韓人ノ目ニ觸レサル樣無用ノ地ヘ上陸遊歩スルハ差控ヘキ旨兼テ命セラレ度候事

一困難救助ノ事

困難救助ノ事第六款所載從前ノ成規ト抵觸スルノ件無之候得共猶其筋ニテ取調長崎縣ヘ漂民引渡方等今一應御布令相成度候且彼國ヘモ照會シ我漂民ヲ待スル或ハ厚キニ過キ又ハ苛酷ニ失スル等不都合ノ處置モ有之趣ニ付右等モ改正相成度候事

一測量圖誌ノ事

朝鮮人測量ノ何タルヲ知ラス圖誌ノ要用何タルヲモ辨知セス徒ラニ我測法ヲ疑惑スル而已依テ今般江華港口并從前各所ヲ測量セシ諸圖共海陸軍省ヨリ至急取調差出サセ并外國人ノ測量圖ヲモ取集メ追テ通商章程ノ爲往議ノ官員齎ラシ往テ彼ヘ相渡シ嗣後彼ノ安心ヲ得セシメ候樣相成度事

一通商章程等議立ノ事

商議ノ場所ハ江華府ニテ可然候尤彌被差遣候節右場所并人名等彼ヘ先報イタシ彼レモ江華ヘ出張迎接ノ運ニ相成候樣爲致度候右派出ノ官員ハ海軍省ヨリ測量旁軍艦差廻シ右ヘ乘込出張シ聊護衛兵モ附從セラレ商議決定迄ハ少シク兵威ヲ示サヽレハ彼亦怠慢ノ心ヲ生シ急速ニ一定シカタカルベクト存候且右章程又ハ細目共前文概陳スル如キ形勢ニテ今ヨリ充分ノ條規ヲ備ヘ候共却テ實際ノ用ヲ成スヘカラサル歟ニ思考候條先從前兩國輸出入ノ諸品ニ付キ見込ヲ定メ彼國ニテモ稅關官吏等多員ヲ置スシテ辨了スルノ方法ヲ設立シ且貿易ノ形況ニ隨ヒ次第ニ章程ヲ何時ナリ共雙方協議シテ追加又刪正ヲ成シ得ヘキ約束ヲ立後來ノ餘地ヲ保存シ置候方都合可宜候尤右章程又ハ細目ノ件々ニ付接見大官申樞ヨリ外務大丞宮本小一權大丞野村靖ヘ申聞候件々モ有之右ハ下官等公然承リ及候事ニハ無之候得共彼地ノ事情ヲ酌量スルノ參考ニ可相成ノ廉モ有之候條右書類別紙ニ附錄イタシ置候其筋ニテ章程等取調ノ節御下附相成度候且右章程案取調出來候節ハ一應下官ヘモ御垂問相成候ハヽ猶愚見上陳可致候一體朝鮮ノ貿易ハ從前對州人民而已ノ取引ニ付長崎縣官此地ニ出張聊輸出稅ヲ收メ來リタル由ナレトモ嗣後全國一般ノ人民朝鮮ヘ往航シ貿易ヲ成シ得ルニ至ル時ハ一々對州ニ至リ輸出稅ヲ收ムル如キ窮屈ノ法ニテハ第一倭船不便ノ帆具等ニテハ釜山等ヘ航着ニ時機ヲ失フ而已ナラス風波ノ難モ少ナカラス依テ以來ハ右ノ方法ヲ廢止シ日本形西洋形ノ船ヲ論セス惣テ政府ヨリ平素船籍ヲ附與シ置レ該船ニ積載スル諸荷物ハ船主必ス積荷目錄ヲ所持シ目錄ナクシテ積荷スル事ハ内地ト雖トモ一切ニ禁止セラレ朝鮮發航ノ船ニハ必ス此船籍ト積荷目錄ヲ帶往セシメ若積荷目錄ニ遺漏ノ積荷アル時ハ政府ニテ其荷ヲ沒收スル旨布告ニ至リ候ハヽ故サラニ對州ヘ寄泊スルニ及ブマシク且從前收稅シ來リタル輸出物ハ稅額些少ニ付嗣後廢止セラレ當分ノ内朝鮮ヘノ輸出物品ハ惣テ無稅ニ定メラレ候方貿易催進ノ一端ナルベク候

依テ此段上伸候也

明治九丙子年四月

註　本號文書ニ「右書類別紙ニ附錄」トアル別紙詳ナラサルモ三二、三四等ハ其ノ内容ニ於テ之ニ該當スルモノカ

三六　五月一日

## 「黑田辨理大臣使鮮始末」及「黑田辨理大臣使鮮日記」献上ノ表

臣清隆臣馨謹テ白ス臣等無似叨ニ專對ノ命ヲ奉シ特ニ全權ノ任ヲ忝フス折衝ノ才ニ乏シト雖モ幸ニ尋盟ノ好ヲ全フス伏シテ惟ルニ天皇陛下日月ト明ヲ同シ天地ト德ヲ合ス豪番款ヲ納レ琉球藩ト稱ス獨リ彼ノ雞林乃チ故俗ニ安ンシ乃チ舊習ニ慣レ久シク外交ヲ絶ツ韜車境ニ入レハ翻然圖ヲ改メ金石渝ラス山河誓ヲ表ス陛下ノ睿明ト列聖ノ威靈トニ由ルニ非スンハ犬馬ノ勞アリト雖モ安ンソ能ク微効ヲ奏スルヲ得ン謹テ使鮮始末及ヒ日記ヲ上リ以テ乙夜ノ清覽ニ備ヘ他日ノ參考ニ供ス臣清隆臣馨誠恐誠惶頓首頓首

明治九年五月一日

特命全權辨理大臣　黑田清隆

特命副全權辨理大臣　井上馨

（黑田辨理大臣使鮮始末）

# 事項二　朝鮮問題等ニ關シ森公使清國政府ト交渉一件（事項一、一〇參照）

## 三七　一月十三日　清國駐劄森公使ヨリ三條太政大臣等宛

**朝鮮問題ニ就キ清國駐劄英國公使ト意見ノ交換ヲ遂ケタルニ關シ報告ノ件**

（朱書）「明治九年第二號」

機密別信第一號ノ一

一月五日英公使ウエド氏ヲ訪ヒ總理衙門ニ示ス覺書ノ大意ヲ語リ且ツ問テ曰ク閣下ノ考ヘ如何清國ノ策朝鮮ニ說諭ヲ加ヘテ事ヲ平隱ニ謀ルニ出ルベキヤ否ヤウエド氏曰貴國ノ主意和親條約ヲ結フニ在ルカ將タ貿易ニ在ルカ予曰ク第一ノ目的ハ江華島邊ニ一所ヲ開クニ在ルナリ閣下ノ知ル如ク朝鮮ト我トハ接近ノ國ニシテ彼邊ハ我國民ノ航海スル者風潮ノ險難ヲ避ルニ必要ノ處ナリ故ニ先ツ之ヲ談シ以テ我カ難船ヲ救ヒ且ツ宇內ノ海客ノ爲メニ永遠ノ便ヲ得セシメントス而シテ又朝鮮沿海測量ノ公許ヲ得又我國書ヲ異儀ナク接收セシムル事ヲ談セントス此三件卽チ今般辨理大臣ヲ發スル主意ノ最モ重モナルモノニシテ外ニ一二ノ小件アリ清國政府若シ着手ヲ怠ル時ハ閣下或ハ說テ之ヲ爲サシムルヲ欲スルヤ否ヤウエド氏曰欲セサルニ非レトモ我ヨリ之ヲ先ニ發スルハ便ナラズ先般臺灣ノ事我レ初メ之ヲ言フ時キ衙門諸官以テ意トセス葛藤紛錯スルニ至リ彼レヨリ來テ之ヲ謀ル我初メ言フ所ノ意ヲ以テ之ニ告ク彼則チ喜テ之ヲ謝納ス故ニ今般ノ事ニ於テモ我ヨリ之ヲ發センヨリハ彼レヨリ來テ我ニ謀ルヲ待ツニ如カシ貴君朝鮮事件ヲ我ニ語レリト云ハヽ彼或ハ來ツテ我ニ謀ル有ンカ尙ホ總理衙門ニテ御應接ノ上委曲承リタシト云々

右ハ英公使ト對談ノ大略ニ候總理衙門ニテ談判後ハ未タ英公使ニ逢不申候是亦爲御含密啓申進候也

明治九年一月十三日

北京　森有禮





兩大臣殿

寺島外務卿殿

**註**　森公使ハ一月四日北京ニ到着セリ因ニ同公使ノ清國赴任ニ關シテハ第八卷六一參照

## 三八　一月十三日　清國駐劄森公使ヨリ三條太政大臣等宛

**清國ヨリ朝鮮國ニ對シ日本トノ隣交ヲ成全スルヤウ諭セシムル儀ニ關シ清國政府トノ交渉經過等報告ノ件**

**附屬書**　明治八年十二月二十四日上海申報抄錄

森公使ノ動靜竝ニ朝鮮國使節ノ使命ニ關スル報道ノ件

（朱書）「明治九年第二號」

機密別信第一號ノ二

本月十日總理衙門ヘ赴キ朝鮮事情開談候趣別紙談判書ノ通ニテ彼ノ所答到底我期望ノ意ニ感適セサルヲ覺候ニ付翌十一日鄭書記官ニ內意ヲ含メ他事ニ托シテ總署ヘ遣シ總辨周家楣ヘ面談ノ序彼カ內情ノ如何ヲ令探索且清政府ヨリ使ヲ朝鮮ヘ遣シ我辨理大臣ヲ款接シテ必ス日韓ノ隣交ヲ成全スル樣ニ諭セヨト試ニ令諷勸候處清國ノ朝鮮ニ於ケル只彼ノ方貢ヲ納レ彼ノ王位ヲ封冊シ或ハ兩民互市スル而已ノ事ニテ固ヨリ彼カ內事ニ與聞セス其自主ニ聽カセ候儀ハ獨滿清ニ始マルニ非ス從前歷代ノ例典ト爲リタル故先年英佛米等ノ船韓ニ往テ彼カ慘暴ニ逢フニ因リ之ヲ清國政府ヘ告テ理論ニ及ヒシ時モ亦タ如是答ヘ置更ニ關與セズ卽チ都下ヘ在留シタル韓使モ只貢納頒曆等ノ事ヲ辨理スルノミ且禮部衙門ヨリ韓事ヲ專掌スル故例典ヲ據准スル外總理衙門ヨリ他國ノ事ヲ談入ルトモ一切承辨スル事無之此國守舊ノ頑固ナル如此實ニ奈何トモスヘキナシト相答候由

右同日午後四時我新年ヲ賀スル爲メ大學士寶鋆及成林夏家鎬三名入來ノ序我ヨリ談掛候ハ本月半比我辨理大臣舟ヲ發シ韓ニ赴カルヽ筈ニ付本大臣一使ヲ發シ該辨理大臣ノ到着ヲ俟テ委詳報告致度事件有之ニ付當地ヨリ盛京ヲ經テ朝鮮都城ヘ達スル迄ノ貴衙門護照ヲ發給有之度將又直隸總督李中堂ヘ本國伊達大久保等各大臣ヨリノ寄語有之及本大臣モ一謁ヲ渴望居候處船遲シテ津ニ入ル能ハス未タ所願ヲ遂ケス因テ近日ノ內保定府ヘ赴キ李中堂ヘ一見セント欲ス希ク

ハ貴大臣ヨリ預メ書ヲ李中堂ヘ致シ其可否ヲ定メ給ハヽ大幸也ト寶鋆等答右兩條ハ何レ恭親王ヘ申聞ケ追テ可及御答云々

右我官員ヲ朝鮮ヘ陸行セシムル儀ハ清政府ニ於テ一大煩難ノ事ト明知スル所ニ候ヘトモ是ヲ題號ト爲シ詰リ清政府ヨリ或ハ自ラ飛脚ヲ發シ我書信ヲ朝鮮ニ在ル辦理大臣ヘ達セシムルノ地歩ト爲スヘキ積リニ候條爲御含此段申啓候也

明治九年一月十三日　　森、有禮（朱印）（印）

兩大臣
外務卿輔　各閣下

追テ下出ノ上海申報ノ内一則適々看出候付寫ツシ取リ附覽候事

（附屬書）

西歴一千八百七十五年十二月念四日申報抄錄

東洋公使抵華

日本公使莫鶩。聞於月之望日。乘坐哥魯大火船。駛往燕臺。卽於十九日。由燕臺登岸。取陸路前赴北京。論者謂。現正隆冬之際。北地苦寒。而公使奉命出疆。不避風饕雪虐。自必爲要務來也。現已傳。高麗王業經遣使來華。請中國調兵駐高。以爲抵禦日師之計。是則日公使之來。殆卽爲此事歟。

## 三九　一月十三日　清國駐劄森公使ヨリ寺島外務卿等宛

### 清國總理衙門諸大臣等トノ晤談筆記送附ノ件

附屬書　一月十日清國總理衙門ニテ清國駐劄森公使ト清國總理衙門諸大臣等トノ晤談筆記

朝鮮國ヨリ清國ニ援兵ヲ求ムトノ噂竝ニ日鮮交渉ニ對スル清國ノ對策ニ關スル件

附記一、一月二十二日總署總辦周家楣ヨリ顯川書記官等宛

右晤談我方筆記ノ漢譯文ニ附札シ返送ノ件

附屬書　右漢譯文

二、右晤談清國側筆記

（朱書）「明治九年第二號ノ二　密件第一號ノ三」

當十日總理衙門ニ於テ晤談ノ筆記密件中別冊ノ通ニ候尤雙方共筆記有之當便迄彼此ノ校合屆兼候ニ付何レ後便ヨリ彼レノ筆記送覽ニ可及先ツ不取敢別冊呈覽候也

明治九年一月十三日





北京

寺島外務卿殿

森　有禮

鮫島外務大輔殿

左ノ筆記書御一閲大概可相分候得共清政府ノ奥意所在ヲ叩問候ニ朝鮮ハ屬國ノ名ヲ帶ルト雖モ清ヨリ彼カ内政教令ニ關與スルヲ得ス又外國ト交接スル等ノ事ニモ一切關與スル無キ旨ヲ答フ是ヲ以テ若シ外國ヨリ彼地ヲ占據セラルヽニ至ルモ清國ヨリ聊過問スル所無キヤト再詰スル處是ニハ彼ヨリ何トモ答話セサリシ也

（附屬書）

（朱書）「明治九年第二號　密件第一號ノ四」

明治九年一月十日午後二時森公使總理衙門ニ於テ清國諸大臣ト晤談大意左ノ如シ

通譯　鄭書記官
筆記　顯川書記官
竹添進一

列座
沈桂芬
毛昶熙
董恂
崇厚
郭嵩燾
陪席
周家楣

（朱書）「一」森大臣開談

今日貴署ニ至ルハ一件事情ヲ告ルカ爲メナリ其告ルトコロ時刻ヲ費スヲ省キ通譯ノ際混雜ヲ防クノ爲メ之ヲ筆シ以テ閲ニ備フニ便ニス請フ之ヲ視ヨト（是ニ於テ節略ヲ出シ示ス諸大臣之ヲ接閲ス）

略節

一曾經由署使鄭報

貴衙門以朝鮮國開礮情節玆本大臣所更告者客歲九月二十日我火輪船壹隻駛往牛莊船至朝鮮國江華島邊將需淡水岸上礮臺陡然開礮我船俄遭轟擊勢極危逼不得已當行防護僅得免難轉回本國夫朝鮮乃係數百年通交之國而我政府特以

盡心修交殆斯十載數次派使往謀其事彼只頑固不納使意而接遇之際頗形輕陋將至辱我使命者數次矣我國人聞之皆憤怒不堪屢欲暴動而我政府惟主平和百方抑之勉欲使貫其數年來所謀平和修交之道而二年前朝鮮政府稍改其方遂約應由東萊府使朴接受我外務卿書信並訂我國出使齎書至府之期我政府照期發書特派森山茂作理事使臣齎往從事詎料彼違前約託他詞不接使不受書使臣極口詰論不聽致令空歸而又江華島礮擊事起我政府實未識朝鮮政府心意所在而我國人憤極怒極殆無可狀於是我政府深憾其十多年來所盡平和修交之心一旦付之流水故今特派全權辨理大臣往問朝鮮政府心意所在爲兩國得保親好于永遠之地也總之妥平結局是爲主爲竝非敢要多事耳祇未能保朝鮮果爲平穩辨法或以一二兵艦護從使臣不得已也惟以事關隣竝宜將此案緣由與我旨趣所向告之

大清政府以昭我政府與

大清政府推誠無隱之意也

本大臣竗祈朝鮮國以禮接我使臣不拒我所求以能永保平和也若不然事遂至敗則韓人自取不測之禍必矣彼此不幸何似今日事機實係禍福攸判朝鮮見果及此則應言歸于好矣



覺　書

一曾テ臨時代理公使鄭ヨリ

貴衙門ニ報スルニ朝鮮國發砲ノ情節ヲ以テセリ玆ニ本大臣更ニ告ル所ノ者ハ客歲九月二十日我火輪船壹隻牛莊ニ駛往シ朝鮮國江華島邊ニ至リ將ニ淡水ヲ需メントス岸上ノ礮臺ヨリ陡然發砲我船不意ノ轟擊ニ逢ヒ勢極テ危逼ナルヲ以テ已ヲ得ス相當ノ防禦ヲ爲シ僅ニ難ヲ免レテ本國ニ歸ルヲ得タリ夫朝鮮ハ數百年通交ノ國ニテ殊ニ十年來ハ我政府心ヲ修交ニ盡シ數次使節ヲ派遣シテ其事ヲ謀ラシム彼頑固ニシテ使意ヲ納レス而シテ接遇ノ際頗ル輕陋ヲ形シ將ニ我使命ヲ辱シムルニ至ラントスルモノ數回ナリ我國人之ヲ聞テ皆憤怒ニ堪ス屢暴動セント欲ス而シテ我政府ハ偏ニ平和ヲ主トシ百方之ヲ抑ヘ勉テ其數年來謀ル所ノ平和修交ノ道ヲ貫カシメント欲ス而シテ二年前朝鮮政府稍ク其方ヲ改メ遂ニ東萊府使朴ヨリ我外務卿ノ書ヲ接受スベキヲ約シ並ニ我國使ヲ出タシ書ヲ齎シ府ニ至ルノ期ヲ訂ス我政府期ノ如ク書ヲ發シ特ニ森山茂ヲ理事使臣ト爲シ往テ事ニ從ハシム何ソ料ラン彼前約ニ違ヒ他詞ニ託シテ使ヲ接セス又書ヲ受ケス使臣口ヲ極テ詰論スレトモ終ニ聽カス空ク歸ラシムルヲ致セリ而シテ又江華島礮擊ノ事起レリ我政府實ニ未タ朝鮮政府心意ノ在ル所ヲ知ラス而シテ我國人憤極マリ怒極マリ殆ト狀スベキナシ是ニ於テ我政府深ク其十年來盡ス所ノ平和修交ノ心一旦水泡ト成ルヲ憾ム故ニ今特ニ全權辨理大臣ヲ派シ往テ朝鮮政府心意ノ在ル所ヲ問ヒ兩國ノ親好ヲ永遠ニ保スルノ地ヲ得ント欲ス之ヲ要スルニ妥平結局ヲ主意トシ敢テ多事ヲ好ムニ非ス祇タ未タ朝鮮果シテ平穩ノ辨法ヲ爲スヲ保ツ能ハサルヲ以テ已ヲ得ス或ハ一二ノ兵艦ヲ以テ使臣ヲ護セサルヲ得サルナリ惟事隣竝ニ關スルヲ以テ宜タ此事ノ緣由ト我旨趣ノ向フ所ヲ以テ之ヲ

大清政府ニ告ケ以テ我政府

大清政府ト誠ヲ推シテ隱ス無キノ意ヲ昭ラカニスルナリ

本大臣竗ニ祈ル朝鮮國禮ヲ以テ我使臣ニ接シ我求ル所ヲ拒マス以テ能ク永ク平和ヲ保タン事ヲ若クハ然ラスシテ事遂ニ敗ルヽニ至ラハ韓人自ラ不測ノ禍ヲ取ル事必然ナリ彼此ノ不幸如何ゾヤ今日ノ事機實ニ禍福ノ判スル所ニ係ル朝鮮ノ見果シテ此ニ及ハヽ則言必好ニ歸スルナルヘシ

(朱書)「二」郭大臣問

朝鮮ニ派出スル所ノ辨理大臣ハ誰ソ大臣彼ノ國ニ到ル陸ニ上ルヲ要スルヤ

(朱書)「三」森大臣答

本使東京ヲ發スルノ際開拓長官黑田氏上諭ヲ承シヲ聞ク其陸ニ上ルト否トハ彼地ニ到リ談判ノ便宜ニヨルベキカ本使未タ之ヲ豫メ定言スルヲ得ス然レトモ又該使ノ彼地ニ到ルヤ必ス其京城ニ赴クヲ期スルト聞ク

(朱書)「四」森大臣問

因テ問フ所有ラントス本使此行芝罘ニ到ルヤ朝鮮援兵ヲ貴國ニ乞フトノ風說アリ果シテ其事アルヤ其兵ヲ請フ所以ハ彼國或ハ土寇等ノ發スルヲ以テノ故カ果シテ然ラハ我國今使命ヲ彼地ニ發スルノ際尤其實否ヲ知ルニ關スル所アリ

(朱書)「五」沈大臣答

朝鮮國ハ我國ノ屬管禮部衙門ニ隷スル所ニシテ本大臣等其細底ヲ知ル能ハスト雖モ彼國土寇ノ發スル事有ルヲ聞カス援兵ヲ乞フノ事ニ至テハ更ニ又聞ク所ナシ且必ラス其無キヲ信ス果シテ有ルヤ本大臣等モ亦之ヲ聞カサルヲ

得サルナリ

〔朱書〕「六」森大臣問

本使芝罘ニ於テ朝鮮兵ヲ貴國ニ乞フノ風説其事確實ニ屬スト聞ケリ請フ諸大臣實ニ聞ク所アラハ幸ニ教ヲ吝スル勿レ

〔朱書〕「七」沈大臣答

朝鮮ハ我屬管タルヲ以テ彼國土寇ノ變援兵ノ乞アラハ本大臣等必ラス聞ク所アルヘシ此事ナキヲ以テ之ヲ聞カス聞カサルヲ以テ其必ラス無キヲ信スルナリ

〔朱書〕「八」森大臣問

其謂ハユル屬管トハ何分ノ關係スル所アルヤ請フ其詳ヲ聞カン

〔朱書〕「九」沈大臣答

政教禁令ノ如キ總テ彼レノ自カラ爲スニ任カス之ヲ告ルアリ告ケサルアリ故ニ土寇ノ事ヲ聞カス又兵ヲ乞フノ事ヲ聞カザルナリ

〔朱書〕「十」森大臣問

政教禁令既ニ其國ノ自カラ爲スニ任ス其ノ外國ニ對スル事ニ至ツテハ如何



〔朱書〕「十一」沈大臣答

外國ト交ル如キモ彼ノ自由ニ任セテ中國之ニ關セザルナリ乃チ朝鮮ノ如キ我カ屬國タルヲ以テ我カ貴國ト親睦ナル如ク彼ノ貴國ト交ルモ猶然ラン事ヲ期望ス

〔朱書〕「十二」森大臣曰

誠ニ貴諭ノ如ク然リ我政府ノ期望スル所モ專ラ和好ニ在ルノミ然シテ略節中述ル所ノ如クシテ萬一事敗ルヽニ至ルハ實ニ吾カ深ク憂フル所ナリ

〔朱書〕「十三」又問

貴國既ニ朝鮮ヲ屬管ト云フ其ノ屬管ノ關係アルヲ以テ應ニ照會スル所アルヘシ

〔朱書〕「十四」沈大臣答

所謂屬國トハ我カ所有ノ地ニアラズシテ其ノ時ヲ以テ進貢シ我冊封頒曆ヲ奉スルヲ以テ云フナリ若シ其ノ國ヲ以テ我カ彊土內ニ屬スルモノト爲ハ關係セサルヲ得スト雖トモ其國彊域內ニ在ラザルヲ以テ其國事ヲ管スル事ナシ

〔朱書〕「十五」森大臣問

所謂冊封トハ貴國其主ヲ撰ミテ之ヲ立ルカ或ハ彼カ立ル所ノ主ノ請ヒニ應シテ單ニ冊封ノ禮式ヲ行フモノカ



〔朱書〕「十六」沈大臣答

我ヨリ撰ミテ立ツルニ非ス彼ノ請ニ從テ冊封スルノミ我屬國皆然リ

〔朱書〕「十七」森大臣問

朝鮮ヲ除クノ外尙ホ何等ノ屬國アリヤ

〔朱書〕「十八」沈大臣答

アンナンリユキユ例朝鮮ト同シ惟緬甸ハ冊封ノ例ナシ又一定ノ貢獻ナシ

〔朱書〕「十九」森大臣問

屬國ノ外國ト約ヲ通スル事アル如キモ貴國ニ報セスシテ妨ケナキカ

〔朱書〕「二十」沈大臣答

總テ彼ノ自主ニ任セ管スル所ナシ

〔朱書〕「廿一」沈大臣問

朝鮮ノ貴國ト通商スル既ニ久シキカ

〔朱書〕「廿二」森大臣答

然リ

〔朱書〕「廿三」沈大臣曰

其事亦嘗テ彼ヨリ我ニ報スル所有ルヲ聞カス

〔朱書〕「廿四」森大臣問

貴諭ノ如クナレハ所謂屬國ナルモノハ彼ヨリ中國ヲ慕懷シ來タルモノニシテ或ハ又其疎濶過キ去ル有レハ屬國ト認メ做ス可キ由ナキモノニ似タリ

〔朱書〕「廿五」沈大臣答

屬國トシテ貢獻朝覲スル等ノ事本朝ニ創マルニ非ス前代ヨリ然リ惟例ニ照シ其來ルヲ接シ之ヲ冊封シ之ニ賜資ス又別ニ之ヲ處置スルトコロナシ總テ彼ノ自主ニ任スルノミ

〔朱書〕「廿六」森大臣曰

屬國ハ其貢獻冊封等アルヲ以テ其屬國タルノ實體ヲ認ムヘシ緬甸ノ如キ或ハ來リ或ハ來ラス其認ムヘキ實體ナキモノニ似タリ是ノ如キハ屬國ノ名自カラ泯沒スルニ至ルヘシ

〔朱書〕「廿七」沈大臣答

從來屬國タル者皆其自主ニ任ス而シテ彼來ラザルナク又嘗テ禮ヲ闕クトコロナシ我レ亦例ヲ照シテ之ヲ接遇スルノミ緬甸ハ朝鮮琉球ト固ヨリ異ナルトコロ有リ殊ニ雲南土匪發シ路壅ルヲ以テ來ラサル事久シ

(朱書)「廿八」森大臣問

我レ朝鮮ト交ヲ通スルニ於テハ其ノ中國ノ屬國タルノ名分ヲ明晰領敎シ以テ彼ト相交ルニ妨礙ナキニ便セント欲ス因テ再三問テ之ニ及フ請フ明確ニ之ヲ示セ

(朱書)「廿九」沈大臣答

朝鮮ノ屬國タルヤ本朝ニ創ルニ非ス前代ヨリ然リ順從以テ我ニ屬ス嘗テ禮ヲ闕クトコロナシ

(朱書)「三十」森大臣問

借リニ問フ朝鮮若シクハ中國ニ進貢ノ禮ヲ闕ク事アラハ貴國ニ於テ何等ノ處置ヲ爲スカ我今朝鮮ト議スル事アルノ際關係ナキニ非ス因テ更ニ問テ以テ心照スル所アラントス

(朱書)「卌一」沈大臣答

朝鮮ヨリ進貢ノ禮ヲ闕クハ其無キ事ヲ決ス故ニ未タ嘗テ其事ニ想ヒ至ラス

(朱書)「卌二」森大臣曰

朝鮮ノ貴國ニ背ク事ナキ萬モ之ヲ信ス然ト雖トモ彼ノ如キ隣交ノ誼尙ホ解スル能ハス或ハ時勢ノ變遷ニヨツテ其貴國ニ背カザル事亦タ保シ難カルヘシ

(朱書)「卌三」沈大臣答

想フニ朝鮮隣好ノ情誼ヲ會セザルモノニ非ス只其小國ノ故ヲ以テ若シ貴國ト交ヲ訂スルニ及フヤ各外國ニ於テモ亦然ラザルヲ得ザルヲ恐ルヽノ致ス所ナルヘシ

(朱書)「卌四」森大臣問

我國彼ノ性質ヲ知ルヲ以テ其間事乖戾多シト雖モ尙ホ之ヲ恕スル所アリ若シ別外國ニ對シ彼レノ我ニ於ケル如キノ擧アルニ至テ其ノ之ニ處スルニ何等ノ强手ヲ加フルモ亦知ルベカラス其時ニ當リ貴國之レニ對シテ如何ンノ辨法ヲ爲スカ

(朱書)「卌五」沈大臣答

若シ外國其事有ルカ如キハ定約ニ原キ之ヲ論スベキノミ

(朱書)「卌六」森大臣問

各國條約文中ニ屬國辨法ノ明文アリヤ

(朱書)「卌七」沈大臣答

條約文中是ノ明文アル事ナシト雖トモ屬國ヲ侵越スル事ハ情理上ニ於テ作シ得サルノ事ナリ

(朱書)「卌八」森大臣曰

西洋各國ニ於テ其屬國ニ種々ノ差別アリ卽チエジフトノ





トルコニ於ルホンガリヤノヲースタリヤニ於ルカナダノ英吉利斯ニ於ル如キ同一屬國タリト雖トモ各異ナル所アリ或ハ緊要ニ關切スルアリ或ハ甚タ關切セザルアリ是ノ如ク屬國各差異アルヲ以テ尙ホ精細ニ之ヲ問ハザルヲ得ス

(朱書)「卌九」沈大臣曰

條理上屬國ヲ侵ス事ヲ得サルヘシ又條約上ニ此文無キヲ以テ此事無キヲ必ス

(朱書)「四十」森大臣問

玆ニ緊切敎ヲ乞フノ一事アリ若シ不幸ニシテ我ト朝鮮ト事有ルニ至リ我勝チ彼敗レ我兵陸ニ上リ其戰地ニ於ケル勢ヒ寸ヲ得レハ寸ヲ占メ尺ヲ得レハ則尺ニ據ラザルヲ得ス其時ニ至ツテハ貴國ノ之ヲ視ル知ラス何等ノ觀ヲ做スヤ屬國ノ名ヲ以テ異詞ヲ其間ニ容ルヽノ理決シテ無カルヘシ獨我日本ノミナラス外別國ノ彼ト是ノ事アルモ亦然ルヘシ本大臣專ラ和平ヲ欲スト雖モ萬一事此ニ至ルヲ恐ルヤ預メ之ヲ問明理會セザルヲ得ス故ニ更ニ鄭重此ニ及フ此問問テ暫ク答ル所ナシ因テ

(朱書)「四十一」森大臣又曰

此事若シ今日此席ニ於テ回決ヲ得サレハ明後十二日ヲ期シ其回決スル所ヲ書ニシ以テ之ヲ送リ示サル、事ヲ望ム且之ヲ今十三日陸遞ニ托シ本國ニ送致セン事ヲ欲ス惟其回答速ナルヲ願フ

(朱書)「四十二」沈大臣答

須ラク之ヲ王爺恭親王ヲ指ス ニ禀シ以テ回決スル所アルヘシ

(朱書)「四十三」又曰

想フニ朝鮮國ノ意獨リ貴國ノ修交ヲ峻拒スルニ非ス惟別外國ノ亦來リ然ラン事ヲ恐ル、ナラン

(朱書)「四十四」森大臣曰

玆ニ我カ意ヲ以テ窃ニ問フ所アリ我皇帝我政府ニ於ル極メテ平和ナル事ヲ要シ道ヲ盡シ心ヲ盡ス一モ遺ス所ナキヲ覺フ諸大臣ノ意其レ何如ト思フ諒(カ)ルニ貴國ニ於テ我政府ニ毫モ疑ヲ容ル、事無カルヘシ

(朱書)「四十五」沈大臣答

誠ニ然リ疑ヲ容レサルナリ

(朱書)「四十六」又曰

回決ノ事但十三日ヲ期ス或ハ回決シ及ハサル事ヲ恐ル若シ其期ニ後ル、時ハ我レ別ニ郵遞ヲ發シ爲メニ之ヲ上海

ニ傳致ヘシ

「(朱書)四十七」森大臣曰

本使命ヲ奉シテ此事ヲ報告スルヤ惟告明ヲ主トスルノミニシテ回答ノ有無ヲ論セス且又回決ヲ待テ後定見スルモノニ非ルナリ

「(朱書)四十八」森大臣曰

我思フニ辨理大臣今已ニ朝鮮ニ派到セルナルヘシ但使意專ラ平和ヲ主トスルニ在ルヲ以テ縱令彼ニ暴擧アリト雖トモ直ニ戰端ヲ開クニ至ラサルヘシ然トモ勢ノ變スル處已ヲ得スシテ此ニ至ラハ貴國我レヲ以テ理アリトシ怪ム所ナカルヘシ

「(朱書)四十九」沈大臣答

我等思フ大臣至ルノ日彼レ必ス開戰ノ事無キヲ信ス或ハ其事アルヤ我但條約ヲ照シ信義ニ原ツキ談別スヘシ貴國ノ朝鮮ニ於ケルハ其條理ヲ盡セルヲ信ス

「(朱書)五十」森大臣曰

條約ニ拘ハラス我日本ヲ理アリト認ムル時ハ當ニ友盟ノ故ヲ以テ我日本ヲ援ケ屬國ヲ以テ異辭有ルニ及ハサルヘシ因テ此意ヲ反復丁寧ス

「(朱書)五十一」沈大臣曰

然リ

「(朱書)五十二」森大臣曰

更ニ敎ヲ乞フ諸大臣良法ノ以テ能ク朝鮮人ヲシテ暴動ニ至ラザラシムル有リヤ

「(朱書)五十三」沈大臣答

思フニ朝鮮人徒ニ峻拒スルニ非サルヘシ辨理大臣彼ニ至ラハ必ス其事ナキヲ保スルナリ

「(朱書)五十四」森大臣曰

朝鮮自來ノ形迹ニヨツテ之ヲ見ルニ我レ其ノ事ナキヲ信スル能ハス

「(朱書)五十五」沈大臣答

貴國好意ヲ以テ之ニ臨ム彼決シテ暴擧ナカルヘシ

「(朱書)五十六」森大臣曰

玆ニ更ニ一言ス萬一戰ヒニ及ハヽ貴國ノ我レヲ助ケ善ク成ス所アルヲ望ム

「(朱書)五十七」沈大臣曰

到底此ノ事ナカルヘシ

「(朱書)五十八」森大臣曰





凡ソ事ヲ慮リ事ヲ爲ス意先ツ其成ル所ノ善惡ヲ判チ豫メ其最惡處ヲ期シ而シテ或ハ其善處ヲ得ルニ至ラハ豈望外ノ喜ヒナラスヤ

「(朱書)五十九」沈大臣答

最善ヲ期シテ最善ヲ得ハ更ニ益々善ナラスヤ

「(朱書)六十」森大臣曰

朝鮮ノ事ノ如キ其萬全ヲ期スルト雖トモ終ニ今日ノ狀形ヲ成スニ至レリ然ラハ則最善ヲ期シテ最善ヲ得ス寧ロ最惡ヲ期シテ其或ハ善處ヲ得ル事有ルヲ望マンノミ畢テ明後十二日午後二時我カ書記官此署ニ來リ今日對談スル所ノ彼此ノ筆記ヲ對照スル事ヲ約シ辭シ歸ル時已ニ六時ニ近シ

**註**　右晤談筆記ノ我方漢譯文ニ清國側ニ於テ附札シ返送シ來レル際ノ關係文書ノ寫及清國側ノ右晤談筆記便宜左ニ附記ス但シ此等文書ハ何レモ用紙ハ在清帝國公使館用ノモノニシテ我方漢譯文端書竝ニ外務省記錄ノ綴込順序等ヨリ察スルニ四四ト同便ニテ森公使ヨリ寺島外務卿宛ニ送付シ來レルモノト認メラル

**(附記一)**

「(朱書)壹月廿二日總署來啓筆記ヘ附鰭云々一件」

二　朝鮮問題等ニ關シ森公使清國政府ト交渉一件　三九

遝啓者日前
惠臨晤譚爲快交來筆記業經呈請
各堂逐細核閱內有詞語大致相同口氣未能吻合各處毋庸校正外所有不符之處摘出若干條卽於原筆記各條上粘簽註出送交
閣下查收轉呈
森大人覆閱是荷專此布泐順頌
日祉

附送原筆記一冊　名另具　十二月二十六日　周家楣

「(朱書)前文の譯」

顯川竹添　大老爺台啓

○文略申入候先達は御來臨御面話いたし快き事に存候御渡し相成候筆記諸大臣へ呈し逐一熟覽被致候處其內語意大概同樣にして口振り合體いたしかたき所有之桁には校正不相用して符合不致分幾條を引分け直と原筆記の其條々の所に於て附札を以て書出し閣下まて差出し候付御落手森大人へ呈覽被成度存候是のみ申入度序に御無事を祝し

候

原書筆記壹冊添

十二月二十六日　卽ち壹月廿二日

周家楣

潁川閣下

竹添

（附記一附屬書）

我レノ書取リシ筆記ヲ漢語ニ譯セシモノ

（朱書）「明治九年第四號

機密別信第三號ノ二」

明治九年一月十日午後二點鐘森大臣於總署與該諸大臣晤談筆記如左

（朱書）「一」森大臣開談

今日到貴署爲告一件事話長日短又虞傳譯參差書之代口以便備閱請看隨出示節略一紙諸大臣接閱之

（朱書）「二」郭大臣問

派往朝鮮國的辨理大臣是誰大臣到那地也要上岸麽

（朱書）「三」森大臣答

本大臣在東京起行時聽過開拓使長官黑田氏奉此使命的話他去上岸不上岸想來且到那地看他說話怎麽樣定見的本使此時不敢定見說又聞說該使到那地必要到他京城的話

（朱書）「四」森大臣

因有一件請教本使此行到了烟臺聽風聞說朝鮮來貴國請援兵果有此事他要請援兵是何意想必那國裡有甚麽土匪發了所以請援兵的麽若果如此我國正要派使到彼的時候也有干係的要曉得確實的說話

（朱書）「五」沈大臣

朝鮮國是我國屬管禮部衙門管的所以本大臣等不曉得細底事那國土匪發了這一事還不聽見請援兵一事越發不曾聽見了想來這事必沒有的若有了呢本大臣等也該聽見的

（朱書）「六」森大臣

本使在烟臺聽風聞朝鮮請援兵一事說來甚是確實望各位中堂大人實有所聞幸勿吝教

（朱書）「七」沈大臣

朝鮮是我屬管那國土匪發請援兵有這等事本大臣等也該聽見的此事沒有所以不聽不聽可知必沒有的

（朱書）「八」森大臣

所說的屬管是有甚麽要照管的道理要詳細請教

（朱書）「九」沈大臣





貼紙

政教禁令都是憑他自己做主有的告有的不告所以不聽土匪事又不聽請兵事

（朱書）「十」森大臣

政教禁令既說是憑他自己做主至其與外國有何交涉的事怎麽辨

貼紙

（朱書）「十一」沈大臣

與外國交亦任其便中國不管朝鮮是我屬國所以他與貴國相交也想要他照我國與貴國相交這般親睦就好了

（朱書）「十二」森大臣

誠如尊諭我政府所望亦專在和好耳但此一事節略上也寫了說過恐怕保不得沒事了本大臣好不放心

（朱書）「十三」又問

承教了朝鮮是貴國屬管既有了屬管名分還該有甚麽要照管之處

貼紙

（朱書）「十四」沈大臣

所謂屬國者原不是我國管轄之地但以其時進了貢又奉我冊封頒曆的便叫做屬國其地屬在我國疆土之內是該不得不管其國不在疆域內所以不管他國裡事

（朱書）「十五」森大臣

所謂冊封者貴國選定其主而冊立的呢抑或依他所立之主之請行此冊封之禮的麽

貼紙

（朱書）「十六」沈大臣

不是我去選立他不過依請封之而已我屬國皆然

（朱書）「十七」森大臣

除朝鮮外還有甚麽屬國麽

貼紙

（朱書）「十八」沈大臣

安南暹暎例同朝鮮惟緬甸沒有冊封的例又沒有一定的貢獻

（朱書）「十九」森大臣

屬國與外國通好這等事不報貴國也不妨麽

（朱書）「二十」沈大臣

憑他自己做主總不去管

貼紙

（朱書）「二十一」又問

朝鮮與貴國通商好長久麽

（朱書）「廿二」森大臣

是長久

貼紙

（朱書）「廿三」沈大臣

這事也還不聽過他來報我的話

（朱書）「廿四」森大臣

據說來看所謂屬國者彼自仰慕中國而來的或有甚麼稀疎過去的是好像沒有認做屬國的緣故

貼紙八

(朱書)「廿五」沈大臣

屬國貢獻朝覲等事不是本朝始起的自前代皆有但惟循例接之封之賜之而已另外沒有甚麼辨他的所在總由他自已做主

(朱書)「廿六」森大臣

屬國有此貢獻冊封等事纔可見得屬國名分至如緬甸或來或不來的好像有名無實的模樣這樣的豈不是連那屬國名目也漸々沒了去

貼紙九

(朱書)「廿七」沈大臣

從來屬國者都是由他自已做主也沒有一箇不來又沒有會缺其禮的我只循例接之而已緬甸是與朝鮮嚼咏自不相同又自雲南軍發以來道路不通所以長久不來

(朱書)「廿八」森大臣

我與朝鮮通交須先將其中國的屬國名分道理請教明白方好與他相交免有阻碍所以再三請教望乞明確示之

(朱書)「廿九」沈大臣

朝鮮屬我非始本朝前代皆然惟順從屬我又未嘗缺其禮

(朱書)「三十」森大臣

借問朝鮮倘不來中國進貢貴國如何辨理我國正與朝鮮有所議々之際這又不是沒有干係的所以特要請教明白

貼紙十

(朱書)「卅一」沈大臣

朝鮮不來進貢此決必沒有的事故曾不作此想耳

(朱書)「卅二」森大臣

我亦想此決必沒有的事雖然如彼鄰交之誼尚未能解則其又因時勢之變或不能保其不背貴國也未可知

貼紙十一

(朱書)「卅三」沈大臣

想朝鮮不是不解鄰好情誼不過是他想道自已國小若與貴國訂交後來又恐別外各國也不得不如此的意思

(朱書)「卅四」森大臣

我國知他情形不同所以其間事雖多乖尚亦有恕之處但彼至對別外國有如加我一樣暴舉而其別外國用何等强手也未可知若如此貴國對之如何辨理

(朱書)「卅五」沈大臣

若外國有此事但據條約論之耳

(朱書)「卅六」森大臣

各國條約文中有此辨理屬國明文否

(朱書)「卅七」沈大臣





條約文中雖無明文惟侵越屬國一事情理上做不得的事

(朱書)「卅八」森大臣

西洋各國其屬國有幾樣差別即如某地之於獨國某地之於澳國某地之於美國雖一屬國各不相同有的緊要關切有的不甚關切一樣屬國如此不一樣所以貴國的屬國道理還要詳細請教

貼紙一二

(朱書)「卅九」沈大臣

情理上屬國自應不得侵犯條約上又無明文可見此事必沒有的

「四十」森大臣

玆有一件緊要請教若不幸我與朝鮮至有事起我勝彼敗我兵登陸則於其戰地得寸即占寸得尺即據尺勢所不免而其占據之間歲月久暫亦不可知事至于此貴國視之作何等觀耶以其有屬國之名或容異詞其間否應必決無此理也不獨我日本國如此即如別外國與彼有此事亦當然耳本大臣雖固專欲和平惟恐事或至此不得不預先將此請教明白故更鄭重及此

貼紙一三

此間不聞所答

(朱書)「四十一」又曰

此事若此席不得回決望于明後十二日將其回決之處書以賜示更妙且欲即今十三日將此托附信便寄回本國故惟速賜回決是幸

(朱書)「四十二」沈大臣

須俟回明王爺方好回決

貼紙一四

(朱書)「四十三」又曰

想朝鮮國之意並不是只不要與貴國修交的恐怕別外國也又來了所以如此

(朱書)「四十四」森大臣

據我自已意思請教一件我

皇上我政府辨朝鮮極要和平覺已盡道盡心一無所遺諸位中堂大人看來以爲何如貴國看我政府想應毫無所疑矣

貼紙一五

(朱書)「四十五」沈大臣

說得是無所疑也

(朱書)「四十六」又曰

回決一事十三日那一天恐怕來不及若來不及時我當別派專遞送去上海

(朱書)「四十七」森大臣

本使奉命報告此事惟主告明回答有無不論原來不是要討回話定見的

(朱書)「四十八」又曰

想辨理大臣今已派到朝鮮矣但此去主意專在和平則彼卽自行暴動亦不敢直要打仗耳然或勢之所變萬不得已而至此則必貴國以我爲有理應不見怪

(朱書)「四十九」沈大臣

我們想辨理大臣到彼彼必沒有打仗的事或有此事但看條約原以信誼是論貴國辨朝鮮盡其情理之處亦已明白

(朱書)「五十」森大臣

且不拘條約看我日本認爲有理的時節友邦情誼應該幫助我日本屬國緣故想說不得

此間因以此意反覆及之

(朱書)「五十一」沈大臣

是々

(朱書)「五十二」森大臣

又要請教各位中堂大人有何良法能使朝鮮人不至于暴

(朱書)「五十三」沈大臣

想朝鮮人不是只要峻拒的辨理大臣到彼保必沒有此事

(朱書)「五十四」森大臣

據朝鮮自來舉動看來我卻保不得無此事

(朱書)「五十五」沈大臣

貴國好意相待彼必沒有此事

(朱書)「五十六」森大臣

茲又一言相告萬一至及開戰望貴國善爲我助善爲我成

(朱書)「五十七」沈大臣

到底沒有此事

(朱書)「五十八」森大臣

凡慮事意先判其成處善惡取其最惡處以期之而或偶至得其善處豈非望外之喜

(朱書)「五十九」沈大臣

期最善得最善更不益善乎

(朱書)「六十」森大臣

如朝鮮事期其萬全今終如此期最善不得最善寧欲期其最惡而或得其善處耳

畢以明後十二日午後二點鐘我書記官來此署對校本日晤談彼此筆記相約辭歸時已近六點鐘

(朱書)「九」有的告有的不告無此說





(朱書)「十一」也想要他照我國與貴國相交這般親睦就好了 不是如此說是說 中國亦願貴國與朝鮮和好

(朱書)「十四」原不是我國管轄之地 無此說 其國不在疆域內所以不管他國裏事 不是如此說是說 他是中國朝貢之國 如新立國王必要受中國册封至其國中各政由其自主

(朱書)「十六」不過依請封之而已 不是如此說是說 他國人公舉中國纔册封爲王亦是從衆之意

(朱書)「十八」惟緬甸沒有册封的例又沒有一定的貢獻 不是如此說是說 朝貢年限各國亦不一樣

(朱書)「二十一」朝鮮與貴國通商好長久麼 無此說

(朱書)「廿三」這事也還不聽過他來報我的話 無此說

(朱書)「廿五」另外沒有甚麼辨他的所在總由他自己做主 無此說

(朱書)「廿七」都是由他自己做主 無此說 緬甸是與朝鮮琉球自不相同 不是如此說是說 朝貢年限各國亦不一樣

(朱書)「卅一」故曾不作此想耳 不是如此說是說 朝鮮與中國素稱恭順向無此事不能疑惑他

(朱書)「卅三」後來又恐別外各國也不得不如此的意思 無此說

(朱書)「卅九」條約上又無明文可見此事必沒有的 不是如此說是說 西洋各國無有相擾屬國之理與中國屬國亦自然無相擾之事

(朱書)「四十」此間不聞所答 不是如是情形是繙譯甫畢卽接說復節略之話

(朱書)「四十三」恐怕別外國也又來了所以如此 不是如此說是說 他亦從無與他國有不和好的事

(朱書)「四十五」說得是無所疑也 不是如此說是說 貴國諒亦無不照條約辨理之理

（貼紙一六）
（朱書）「四十九」彼必沒有打仗的事貴國辨朝鮮盡其情理之處亦已明白不是如此說是說他不是不願與貴國和好不過是斤々自守

（貼紙一七）
（朱書）「五十一」是是乃答應之詞本大臣等並未答應

（貼紙一八）
（朱書）「五十三」辨理大臣到彼保必沒有此事不是如此說是說如貴國不派人去朝鮮斷不出來滋事

（貼紙一九）
（朱書）「五十七」到底沒有此事不是如此說是說貴國與朝鮮無此萬一之事中國又何所怪

（貼紙二〇）
（朱書）「五十九」期最善得最善更不益善乎不是如此說是說總不要到不好時候

（貼紙二一）
（朱書）「粘簽處共二十條」
第九第十一第十四第十六第十八第貳拾一第貳拾三第貳拾五第廿七第卅一第卅三第卅九第四拾第四十三第四十五第四拾九第五拾一第五十三第五十七第五十九

（附記二）
（朱書）「我明治九年一月十日午後二時　我筆記ハ顯川書記官竹添進一郎ナリシ　此漢文ハ總署書記官ノ筆セシ也」

光緒元年十二月十四日、日本　森大臣、同鄭署使來署
經
沈崇毛董郭夏中堂
大人接見、寒暄畢、鄭署使傳

森大臣話云、問
諸位大臣、到過東洋否、答以均未曾去過、
森大臣云、相距甚近、大可以去的、
沈中堂云、中國將來總要有人去的、
森大臣云、由山東海面、路過高麗、不過十天、即可到東洋、若由天津到上海、再赴東洋、路途反遠
森大臣又云、中國人住日本者不少、如今均蓋了會館、緣中國與日本同在一洲、較西洋爲親近也、
森大臣云、今日來貴署、有與
各位大臣說的話、惟天氣甚短、言語太長、恐來不及、玆特備一略節、請



各位大臣閱看、隨呈出節略一紙、鄭署使云、
森大臣未起身之先、已派黑田到朝鮮、朝鮮與之相見否、
尙不知道、鄭署使云、
森大臣有請教的話、來中國時、路過煙臺、聞聽朝鮮人有求中國援兵的話、不解其何故、或爲防土匪而設、請教各位大臣知其底裡否、
沈中堂、答以朝鮮屬中國禮部管、我們却未聞有請援兵之說、
森大臣云、可以問禮部衙門有無此事、
各位大臣、答以不必問、並無此事、
森大臣云、在煙臺聽得此信甚確實、所以要請教的、
沈中堂云、朝鮮雖係中國屬國、其政教禁令、向由自主、有無土匪作亂、亦不咨報中國、如其有求援之事、我們必然知道的、
森大臣云、朝鮮無請兵之事、
各位大臣既然知道、想來各事都知道的、
中堂大人答以方才說過、其政教禁令、由朝鮮自主、其有無土匪、中國不能知道、伊亦不報知中國、
森大臣云、政教禁令、由其自主、若他與外國相交、諒亦不管他、
沈中堂云、雖然不管他、他既是中國屬國、中國與貴國和好、中國亦願貴國與朝鮮和好、
森大臣云、日本與朝鮮、從先是和好的、近年來無有往來、屢次遣人到朝鮮、總沒說得好、
森大臣云、請教、朝鮮既係中國屬國、一切自然應照管他、何以云政教禁令、由其自主、
沈中堂董大人云、他是中國朝貢之國、如新立國王、必要受中國冊封、至其國中各政、由其自主、
森大臣云、請教、高麗世世國王、必受中國冊封、是中國派定的、抑是他國中自立的、
中堂各位大人答以是他國人公舉、中國纔冊封爲王、亦是從衆之意、
森大臣又問、高麗如此、他國似高麗者、亦係如此辨法否、答以如安南琉球等國、均是一律辨理、
森大臣又云、他國若與外國換約通商、報過貴國否、
中堂各位大人云、並未曾見他報過、鄭署使云、
森大臣請教、各屬國仰慕中國德教、願來朝貢、自然是有一定年限、答以朝貢年限、各國亦不一樣、

森大臣云、由其自主、是他願來便來、不願來即不來耶、
答以由其自主、是他國中政教禁令、且不自
大清國起、從前各屬國、亦是如此的、
森大臣又云、再請教、緬甸國進貢、有時來、有時不來、
是何緣故、如將來他總不來了、應如何辨理、
董大人云、中國
大皇帝、其仁如天、所以不勉强各國、周章京云、緬甸非高
麗可比、其路途甚遠、且前數年、因雲南有軍務、道路
不通、是以未能進貢、
森大臣云、高麗進貢、亦由其自主麼、答以高麗進貢、一
年不止一次、偶有故不來、亦必說明、
森大臣云、看起來、高麗時來進貢、兼受貴國的封、想是
仰慕貴國德化、才肯爲中國的屬國、答以自然是仰慕中
國的意思、其爲中國藩屬、並不從本朝起、
森大臣又云、高麗國自從貴國列代以來、均服中國德化、
倘以後他不來朝貢、中國有何辨法、答以高麗於中國素
稱恭順、向無此事、不能疑惑他、
森大臣云、高麗與中國素好、萬一不來、將如何辨、鄭署
使云、



森大臣意思、見日本屢欲與他和好、他執意不肯、所以疑
惑、將來與中國、亦有不和好的時候、
各位大人云、他不是不願與貴國和好、是他自揣其國大小、
不敢酹應之意、
森大臣云、再請教一事、我們與高麗、往來已數代、因日
本知道高麗情形不同別國、如別國要到高麗一定要與他
和好、他是中國屬國、貴國將何以處之、答以別國從無
此事、緣均有條約爲據、
森大臣云、各國條約、均有此等話麼、答以所屬邦土、不
准侵越、便是此等意思、
森大臣云、貴國與西國所換條約、都有此兩句話否、
董大人云、各國均有屬國、不准侵越、是一定的道理、不
必爲明、自然都有的、
森大臣云、就西國而言、英國有英之屬國、美國有美之屬
國、奧國有奧之屬國、各有各屬國的樣子、又有一等屬
國、與中國毘連本國看得甚重、如他國前來滋擾他、本
國皇帝、心中不快的很、如他國來與高麗爲難、中國將
何如、答以西洋各國、無有相擾屬國之理、與中國屬國、
亦自然無相擾之事、

森大臣云、此件事、刻下尚不要緊、緣日本已派黑田大臣
到高麗去說、亦許講和、倘他執意不肯、必要決裂、打
起仗來、如中國說高麗是中國的屬國、日本不應前去打
仗、日本人必不肯聽此等話、所以今日要將屬國一節、
先論說明白、日本與中國和好、萬不願與高麗弄到不和
好的地步、倘高麗終不願和好、將何以處之、是以向
各位大臣前請教、又云、現在說的話、請
各位大臣後天答以節略、寄回本國、與和好大有益處、
沈中堂云、尚須呈
王爺、並　各堂閱看、鄭署使云、
森大臣實爲保全和好之意、
沈中堂云、高麗並不是不願與他國和好、不過他國小不敢
酹應、且他亦從無與他國有不和好的事、鄭署使云、此
是
森大臣自己的話、他在本國時、見日本合國、同心一意、
均要與高麗和好、所以他請教
各位大臣、尚要請
各位大臣見諒、
沈中堂云、節略不能就覆、尚須請



王爺、暨　各堂商定、再送過去、鄭署使云、本館急要發
信周章京云、貴館信必須送到總稅司、伊仍須送至本衙
門發遞、少遲不妨、鄭署使云、
森大臣他從日本來時候、本國
皇帝吩咐他如此、所以開具此節略、以代說話、請
各位大臣仍復一節略、不必行文、伊好回復本國、又云、
此信回到本國、本國尚要行知黑田大臣、如高麗聽他開
導黑田大臣、斷不肯打仗、倘高麗始終固執、黑田大臣
亦不與打仗、惟回本國後、日本政府沒奈何用兵、要求
各位大臣勿怪、
沈中堂　毛董大人　云、高麗不過是謹守、從無與各國有不和好之事、
貴國諒亦無不照條約辨事之理、
森大臣云、請教辨事、固必要按照條約、但須看日本要與
高麗和好、是有道理、無道理、如今高麗不願和好、便
是他無道理、
沈中堂云、他不是不願與貴國和好、不過是斤斤自守、鄭
署使云、從先日本有文書與他、他不肯收、派人前往、
他又不肯見、因而日本合國、都不快意、請
各位大臣看高麗有情理、無情理、

森大臣與
各位大臣說的話、仍是願和好的意思、願中國推心置腹
沈中堂云、中國與日本、無不推心置腹、
森大臣云、請教
各位大臣有何法、令高麗知道這個意思、肯聽好話、
沈中堂云、他不願與各國往來、他自然有他的意思、周章京云、如貴國不派人去、高麗斷不敢出來滋事、鄭署使云
森大臣尙有一句話、倘將來日本與高麗、萬一弄到打仗地步、請
各位大臣不要見怪、
沈中堂 董大人云、貴國與高麗無此萬一之事、中國又何所怪、
森大臣云、如作一事、本意要好、轉到了不好地步、何如、答以總不要到不好時候、鄭署使云、
森大臣說、日本與高麗本是要好、如到不好地步、豈不是奇事、
沈中堂云、不作到不好地步、便不奇了、

---

## 四〇　一月十三日　清國駐劄森公使ヨリ三條太政大臣等宛

### 清國駐劄露國公使トノ朝鮮問題ニ關スル談話大意報告ノ件

（朱書）「明治九年第二號」

機密別信第一號ノ四

當十一日魯公使ブツフ來訪ス予因テ朝鮮暴發ノ一件且今般辨理大臣ヲ派遣スル等ノ大略ヲ語リ且ツ曰ク此事機密ニ屬ス但貴國ハ朝鮮ト接近ノ國ニシテ殊ニ足下ハ久シク我國ニ駐在アリシ事ニ付我政府ヨリハ足下ヲ見テ一ノ日本ノ親友トナス故ニ腹藏ナク之ヲ告クト彼大ニ喜テ曰ク幸甚シサテ總理衙門應答ノ都合ハ如何予曰サシタル事モナシ魯公使曰然ルナルベシ朝鮮固ヨリ支那ノ援ケヲ仰カズ故ニ支那ヨリ之ヲ親ムモ亦之ヲ疎ンスルモ甚ダ意トセザルニ似タリ或ハ朝鮮國專ラ支那ニ依賴スト云人アレトモ僕ハ信セスト又曰ク今日急件アリ寬晤ヲ得ス他日來テ前件ノ詳細ヲ問フヘシト乃辭シ去ル

右談話ノ大意書取リ爲御含密啓申進候也

明治九年一月十三日　　北京　森有禮

兩大臣殿
寺島外務卿殿

---

## 四一　一月二十日　清國駐劄森公使ヨリ寺島外務卿宛

### 清國側トノ朝鮮問題ニ關スル交渉經過ヲ報シ併セテ朝鮮國ハ獨立國ナルモ清國屬管ノ名ヲ冒稱スルニ由リ日鮮條約ハ右ヲ斟酌シテ締結スヘキ旨上申ノ件

附屬書一、　一月十四日清國恭親王ヨリ清國駐劄森公使ヘ提出ノ覺書和譯文

清國ハ朝鮮國ノ內治外交ニ干涉セサルモ日鮮交涉ニ當リテハ日本側カ日清條約ニ隨ヒ屬邦ヲ侵越セサルヤウ希望スル旨申出ノ件

二、　一月十五日清國駐劄森公使ヨリ清國恭親王宛書翰寫





（朱書）「明治九年第三號」

機密別信第二號ノ一

清國政府朝鮮ヲ其屬國ナリト揚言スト雖モ既ニ本月十三日郵報ノ通同月十日總理衙門談判中ニ朝鮮ノ地ハ清國ノ所領ニ非ス故ニ彼國ノ內政ニ干預スル事能ハス亦其外交ノ事ニ至テモ彼ノ自主スルニ任スト明ニ言ヲ發セシヲ以テ觀レハ其ノ所謂屬國ノ實更ニ見ル可キ者無シ夫レ內政外交ノ權利ヲ全有スルノ國ハ其政體勢力等ノ如何ニ拘ワラス之ヲ獨立自在ノ國ト云フ是レ公法諸家ノ皆其說ヲ同スル所ニシテ且ツ歐米諸國現ニ此ノ理ヲ公認シ其ノ外交ヲ掌理ス卽エヂプトセルウキヤ等ノ國ニ對シテ掌理スル所ノ交際是ナリ名家腓力莫爾氏其編著スル所ノ萬國公法第二編第一章第六十三條ニ此理ノ大意ヲ論述セリ夫レ公法ノ理既ニ如此而シテ我カ政府ノ朝鮮ヲ認ル處亦タ獨立國ヲ以スルアルニ因リ今後凡ソ日本朝鮮ノ間ニ係ル事件ニ付テハ清國政府ヲシテ片言モ容ルヽ事能ハサラシムルカ爲メニ去十五日總理衙門ニ告

朝鮮國ハ獨立國ニシテ日鮮交涉ニ關シテハ日清條約ニハ關係ナキ旨照會ノ件

致スルニ別紙㊐號ノ照會ヲ以テス又之ヲ用テ十四日衙門ヨリ接收セシ覺書卽別紙㋑號ノ末文兩國所屬邦土不相侵越トノ異議ヲモ同時ニ打チ消シタリ

本使最初ヨリ專ラ親ト寬トヲ主トシテ衙門ノ諸官ニ接シ若シ或ハ朝鮮ノ隣緣ニ係ルヲ以テ之ニ說キ事ヲ穩和ニ整頓セント欲スル意モ有ラン歟ト之ヲ謀ルノ機會ヲ彼ニ許シタレトモ彼等憤發ノ氣色ナク亦更ニ朝鮮ノ禍福ニ意ヲ注クノ狀ヲ顯ワサス思フニ是レ支那內部不治ノ形勢他ヲ顧ルノ餘力無キニ歸スヘシ

朝鮮獨立ノ實ハアリト雖トモ淸國屬管ノ名ヲ冒ムルニ由リ猶セルウキヤヤ等ノ土耳格國ニ係ルカ如クニシテ純然タル他ノ獨立諸國ト同視スル事ヲ得ス且ツ其品位甚タ異ナルアリ故ニ我派出ノ使節ニ善ク此ノ意ヲ領會セシメ日本朝鮮對等ノ條約卽チ互相京地ニ交際官ヲ駐劄セシムル約ノ類ハ一切揭ル事ナク唯領事官ヲ京地及ヒ諸開港場ニ置ク等ノ事ノミヲ約スルヲ要トス此等ノ事固ヨリ廟謨ノ洩サザル所タルヲ信スト雖トモ聊カ爰ニ之ヲ附言シテ以テ賢考ニ供ス

明治九年一月二十日

北京　　寺島外務卿殿　　森有禮

（附屬書一）

㋑

過日貴大臣ヨリ交到セラレシ節略書一通ヲ接收ス內ニ貴國ノ船高麗ノ江華ニ至リ淡水ヲ需メントスルニ岸上ノ砲臺ヨリ砲ヲ開キ轟擊セシヲ以テ現今貴國ヨリ官員ヲ彼地ヘ差遣ハサル丶其意ハ和好ニ在リトノ趣ヲ述ラレタリ然ニ此事ハ前月貴國署大臣鄭ヨリノ書函ヲ接收シ海邊ヲ測量シ此事出來スト報セラレシヲ承知シ諸新聞紙ニモ亦縷々申述有之今復タ貴大臣ノ略節ニ各情ヲ詳述セラレシヲ接准セリ抑朝鮮ハ有國ヨリ以來斤々自守スルヲ以テ我中國ハ其自ラ理ムルニ任セ華人ヲシテ彼地ニ至リ交涉セシメサルモ亦其志已カ分ヲ守ルニ在ルヲ信スルナリ故ニ之ヲ强ヒ責ル事無シ卽チ理ヲ以テ之ヲ揆ルニ朝鮮ハ必シモ獨貴國ト芥蔕スル所アルニ非ス今前事ニ因テ貴國使ヲ彼地ヘ遣シ兩國ノ爲メニ親好ヲ保スルヲ得ント欲セラル丶ハ具サニ其意ノ兵ヲ息ルニ在ルヲ見ルナリ卽チ此度貴大臣中國和好之情ヲ推念シ詳ニ述ヘ意ヲ用ヒラル丶モ我國修好條規ヲ信守シテ敦睦渝ラサル





ニ非サル無ケン中國ノ朝鮮ニ於ケル固ヨリ强ヒテ其政事ニ預ラサレトモ切ニ其安全ヲ望マサル能ハス過日貴大臣ノ面話ニ事ヲ辨スルニハ固ヨリ條約ヲ照ラスヘケレトモ但須ク日本ノ高麗ト和好ナラン事ヲ要スルハ是レ道理有ル事ナルヤ道理無キ事ナルヤヲ看ヨモシ今高麗和好ヲ願ハスンハ便ハチ是レ彼ニ道理無キナリト申述ラレタリ朝鮮モシ故ナクシテ兵ヲ他國ノ境內ニ稱タラバ自カラ理有リト謂ヒ爲スヲ得ス朝鮮モシ他國ト往來シテ獨貴國ト往來スルヲ願ハズンハ亦タ尙以テ理有リト謂ヒ爲スヲ得サルナリ貴大臣旣ニ事ヲ辨スルニハ條約ヲ照スヲ要スト云ヘリ唯希クハ貴大臣之ヲ貴國政府ニ轉致シテ只兵ハ必シモ用ヒザルノミナラズ卽チ使ヲ遣シ往テ問フノ一節モ亦須ク自ラ萬全ヲ籌畫シ務テ雙方ノ情願スルヲ期シ各々疆土ヲ安ンシテ終ニ此ノ修好條規ノ兩國ニ屬セル邦土ハ相侵越セザルトノ言ヲ守リ給ハン事ヲ是則チ本王大臣ノ切ニ盼所ノ者也

十二月十八日我明治九年一月十四日

註　右文書ハ譯文ナリト認メラルル處原文ハ森公使ヨリ送致シ來ラサリシモノノ如シ

（附屬書二）

二　朝鮮問題等ニ關シ森公使清國政府ト交渉一件　四一

㊐

大日本國欽差全權大臣森照會ヲ爲ス事本大臣明治九年一月十日ニ於テ貴王大臣ニ晤會シ朝鮮約ニ背キ使ヲ拒ミ況ヤ江華ニ在テ我船ヲ砲擊ス今我政府猶主和ノ使臣ヲ遣シ彼ニ往テ事ヲ問フ其仍前芥蔕シテ事ヲ僨ルヲ恐ル丶ヤ本大臣ニ命シテ之ヲ貴國ヘ告ケ以テ兩國鄰竝ノ誼ヲ昭カニスル等ノ情ヲ詳述セリ貴王大臣ノ云フニ據レハ朝鮮ハ屬國ト曰フト雖トモ地固ヨリ中國ニ隸セス故ヲ以テ中國曾テ內政ニ干預スル無ク其ノ外國ト交涉スルモ亦タ彼國ノ自主スルニ聽セタレハ相强ユ可ラストノ語ナリ由是觀之朝鮮ハ是レ一ノ獨立スル國ニシテ貴國ノ之ヲ屬國ト謂ヘルハ徒ニ空名耳ミ彼旣ニ鄰ト爲リ我ニ暴戾ヲ加フ而今使ヲ遣シ以テ之ヲ責メ且我國人民ノ爲メニ自ラ海疆ヲ保安スルノ義ヲ盡サ丶ルヲ得ス此ニ因テ凡ソ事ノ朝鮮日本ノ間ニ起ル者ハ淸國ト日本國トノ條約上ニ於テ關係スル所無シ玆ニ本大臣事ニ臨ミ意ヲ決シ本國ヘ回明スル如此相應サニ文ヲ備シ貴王大臣ヘ照會シ查照セハ可也須ク照會者ニ至ルヘシ右

大淸欽命總理各國事務王大臣ヘ照會ス

明治九年一月十五日

## 四二　一月二十日　清國駐劄森公使ヨリ寺島外務卿宛

### 朝鮮問題ニ關スル清國側トノ交渉經過報告ノ件

附屬書一、一月十八日清國恭親王等ヨリ清國駐劄森公使宛書翰寫

朝鮮國ハ清國ノ屬國ナルニ付日清條約ニ關係アル旨回答ノ件

二、一月十九日清國駐劄森公使ヨリ清國恭親王宛書翰寫

朝鮮國ハ屬國ナリトノ主張ハ空論ニ付日清條約ニハ關係ナキ旨反駁ノ件

（朱書）「明治九年第三號」

機密別信第二號ノ二

本月十八日別紙㋑號照覆文從總理衙門送來候右意彼ニ於テ朝鮮ヲ不動ノ屬國ト爲シ其主權ノ及ハサル義ハ彼ノ㋑號節略書ニ盡セリト云ヒ末尾ニ條規第一條中不侵屬土ノ一句ヲ擧テ我㋺號照會ニ主トスル於條約上無所關係ノ意ヲ打消シ來候仍テ我亦㋺號ノ通疑問ヲ設ケ猶結フニ前照會ノ原意ヲ以テシ昨十九日總署ヘ及照會候條一併抄錄呈覽候也

明治九年一月二十日

北京　森有禮

寺島外務卿殿

（附屬書一）

㋑

大清欽命總理各國事務和碩恭親王九大臣　爲照復事光緒元年十二月十九日准

貴大臣照會一件以日前

貴大臣來本衙門議及

貴國欲與朝鮮和好各情謂本王大臣曾有朝鮮雖曰屬國地固不隸中國以故中國曾無干預內政其與外國交涉亦聽彼國自主不可相强等語本王大臣查朝鮮爲中國屬國隸卽屬也既云屬國自不得云不隸中國且日前回復

貴大臣竝無不隸中國之說修好條規內載所屬邦土朝鮮實中國所屬之邦之一無人不知至中國向不勉强各情已於本月十八日具復節略中備言其義今准





貴大臣照會本王大臣仍應聲明合照修好條規所屬邦土不相侵越之意彼此同守不敢斷以己意謂於條約上無所關係相應照會

貴大臣查照可也須至照會者

右　照　會

大日本國欽派駐京全權大臣森

光緒元年十二月貳拾貳日

（附屬書二）

㋺

大日本國欽差全權大臣森照會ヲ爲ス事明治九年一月十八日

貴王大臣ノ覆文ヲ接准ス內ニ修好條規內ニ所屬邦土ト載セタルハ朝鮮ハ實ニ中國ヘ屬セル邦ノ一ナル事人ノ知ラサル無シ合サニ修好條規ノ所屬邦土不相侵越之意ヲ照シテ彼此同守シ敢テ斷スルニ己ノ意ヲ以テシ條約上ニ關係スル所無シト謂ハサルヘシ等ノ語ヲ稱シタリ本大臣實ニ未タ其意ノ所在ヲ明解スル能ハス因テ思フ貴王大臣條規ノ所屬邦土不相侵越之意ヲ引ク所以ノ者ハ蓋シ將來我國與朝鮮國交涉シテ凡ソ該國政府及其人民ヨリ我ニ向テ爲ス所ノ事有ルニ就テ卽チ貴國ヨリ自ラ其責ニ任スルノ謂ナル歟若シ自ラ其責ニ任スル能ハスト謂ハヽ屬國ト云フト雖トモ徒ニ空名耳ミナレハ則我國自ラ其理ヲ伸ヘサルヲ得ス條規ニ於テ何ノ關係スル事有ラン哉相應サニ貴王大臣ヘ照會ス希クハ卽チ明復セハ可也須ク照會者ニ至ルヘシ右

大清欽命總理各國事務　王大臣ヘ照會ス

明治九年一月十九日

## 四三　一月二十日　清國駐劄森公使ヨリ寺島外務卿宛

### 日鮮間不調ノ際ニ備ヘテ天津、芝罘、牛莊ニ領事ヲ在勤セシムヘク且清國ヲシテ中立ヲ守ラシムヘキ工作ニ着手ノ要アル旨上申ノ件

（朱書）「明治九年第三號」

機密別信第二號ノ三

朝鮮事破ルヽニ至ラハ天津芝罘牛莊ノ如キ實ニ以テ緊要ノ場所ニ付右三ケ所ニ領事心得ニ類スル官員ヲ置カサル可ラス而シテ以テ清國ヲシテ中立ヲ守ラシムルニ注目シ且ツ來着ノ戰艦兵員等之ヲ料理セシムヘシ芝罘ニ至ツテハ芝罘公信第二號ヲ以テ密啓セシ所ノ英商マクレンニ命シテ之ニ任セシメ牛莊ハ米國領事ニ日本領事兼任ヲ倚賴スル方可然存

候尤牛莊米領事ニ兼任ノ義ハ池田副領事ヨリ天津ノ米領事ニ内々頼談シ是ヨリ牛莊米領事ノ諾否ノ談判ヲ爲サシメ候樣池田ニ申含置候將又朝鮮事破ルヽニ決セハ清國ヲシテ中立ヲ守ラシムルニ迅速着手セザル可カラザルヲ以テ速ニ電報有ラン事ヲ請フ此段密啓申進候也

明治九年一月廿日

北京　森有禮

寺島外務卿殿

## 四四　二月三日　清國駐劄森公使ヨリ三條太政大臣等宛

**朝鮮問題ニ關スル清國總理衙門トノ交渉埒明カサルニ付清國大學士李鴻章ト談話スルニ至リタル事情竝ニ右談話大意報告ノ件**

（朱書）「明治九年第四號」

機密別信第三號ノ一

以別信啓達候有禮奉委朝鮮事件今度總理衙門エ開談候大趣意ハ我政府該國ノタメ飽迄好友和平ノ心ヲ懷キ前拾年來彼ニ尋交ヲ求ルノ旨趣ヲ貫徹セント專ラ注意セル情理ヲ懇々ト語リ告ケ我政府是程迄ニ手ヲ盡セシ上彼若シ依然相拒其事成サル時ハ我國嗣後彼ニ向テ何等ノ事ヲ爲ストモ清國ヨリ一言モ異詞有ル間敷ト申述實ハ清政府ヲシテ爰ニ顧ミ自ラ朝鮮エ說諭スル所有ラシメント希望候處彼大臣等所答ハ朝鮮ノ鎖國スルハ其自主ニ由リ中國之ヲ奈何トモスヘキナシ然レトモ受封獻貢シテ我ニ藩屬ノ國タルハ天下共ニ所知ナレハ日本ハ我ト兩國結ヒタル條規ヲ相守リ所屬邦土ヲ侵越ス可ラスト云ヒ既ニ我屬國ナルヲ以テ此事件ニ付テハ何ト歟方法ヲ可施トノ意ハ毫末モ無之只々含糊不斷全無氣力ノ體案外ノ次第遺憾ニ不堪玆ニ大學士李鴻章ハ原來日清條約ヲ取結ヒ方今内閣ノ首位ニ居リ京外ニ威望ヲ振ヒ候人物ニ付此人マテモ我政府ノ朝鮮エ向ヒ誠實好意ヲ以テ辨理スル所ヲ解セス皆ト共ニ之ヲ不是ト看做ス時ハ後來自然我國ノ害ト成ル事モ有ラント慮リ且之ト語ラハ或ハ得ル所モ可有之ト見込去月二十日京城ヲ出廿四日保定府エ着シ即日面晤ヲ遂ケ此日ハ彼ノ十二月廿八日歲暮ノ處午後三時ヨリ九時迄及長談候開話ノ始ハ我說ク所ノ朝鮮事情ヲ總署ヨリ





疾ク同人エ通知セシ由ニテ總理大臣ト同體ノ論意ニ有之我話殆ト彼カ機ニ投セス然レトモ我政府誠意ノ所在ヲ總理大臣實ニ未タ了解セス清國自ラ朝鮮ヲシテ無限ノ不幸ニ陷ラシムルノ理堂々論破候處李鴻章終ニ致明悟總署ヨリ僅ニ所屬邦土不可侵越ノ句ヲ引テ答ヘシハ甚麁忽ニ覺候就テハ自分モ當政府ノ事ニ於テ一々與聞候故右事件ニ付屹度建言可致存意有之因テ貴大臣ヨリ總署エ對シテ切迫ノ談判ハ暫時見合呉候樣賴出候迄ニ至リ歲寒ヲ冒シ彼地エ相運候甲斐ハ有之候得共畢竟如何結落候哉未タ料ル可ラス尤同人ニテ斯迄呑込候上ハ何程歟趣意ハ相立可申ト存候隨テ廿七日該地出發三十日歸館右談話ノ委詳昨今編述中ニ有之候故筆記落成候ハヽ次便可呈出候間先以此段概略啓達候也

明治九年二月三日

北京　森有禮（朱印）

太政大臣
外務卿　兩閣下

## 四五　二月三日　清國駐劄森公使ヨリ寺島外務卿宛

**清國大學士李鴻章トノ第一次談話筆記送付ノ件**

**附記**　一月二十四日同二十五日清國保定府ニテ清國駐劄森公使ト清國大學士李鴻章トノ應接記和譯文朝鮮問題竝ニ日本ノ衣服、外債ニ關スル件

機密洋文別信第三號ノ三

保定府ニテ李鴻章ト兩度ノ面晤彼ヨリ洋語ノ譯者ヲ以テ通譯致シ候ニ付右談判ノ次第總テ横文字ニテ書取リ此便迄ハ飜譯間ニ合兼候間横文ノマヽ呈覽候右ハ初會ノ面晤ニ有之第二會ノ談判ハ書取ノ上次便可及呈覽候也

明治九年二月三日

北京　森有禮（朱印）

寺島外務卿殿

**註**　右文書ニ謂フ「横文」見當ラサルモ「保定府ニテ李鴻章ト兩度ノ面晤」ノ應接記和譯文ト認メラルルモノ存スルニ據リ左ニ附記ス

（附記）

紀元二千五百三十六年一月廿四廿五日パオチン府ニ於テ日本國公使森ト總督李鴻章ト應接ノ記

○

初回ノ應接

右兩大臣ノ外ニ日本國公使館一等書記官鄭氏翰林院學士ホアンニン氏此人碩儒ノ聞アリ幷ニ英語譯官ホアンウェイリン氏席ニ列ス先ツ互ニ禮詞數言ヲ敍シ畢リ次テ彼ヨリ歐米經歷中實驗ノ事ヲ問フ

森　拙者世界ヲ周廻セシ事前後二回初回ニハ西ニ向テ發航シテ東ヨリ歸リ次回ニハ恰モ前回ニ反シ東ニ向テ發航シテ西ヨリ歸レリ而シテ最モ心ヲ樂マシメシ者ハ渺茫タル大洋航通ノ際ニ在リ此間更ニ陸地ヲ見サル事數晝夜唯仰テハ天ノ穹窿タルヲ視俯シテハ水面ノ團圓ナルヲ視ルノミ耳ニ塵世諠譁ノ聲ヲ聽カス目ニ船內雜遝ノ狀ヲ見ス精神全ク靜ニシテ旅客互ニ相親シム實ニ恍然夢裡ノ思ヲナセリ

李　其快樂實ニ知ル可キナリ

森　眞ニ然リ而シテ陸地ニ到着ノ後世上ノ事物ヲ見聞スルニ更ニ夢境ニ入ルカ如シ人ハ互ニ心ヲ分チ國ハ各々趣ヲ異ニス或ハ抑壓セラルヽ者アリ或ハ蹂躪セラルヽ者アリ卽チ土耳其印度幷ニ清國ノ如キハ其最タルモノ也



李　閣下ハ普ク全世界ヲ經歷シ博ク事物ヲ研究シテ大ニ知識ニ富リ今ニ方テ是等ノ數國ヲ扶テ抑壓ヲ免カレシメ國力ヲ興シ國榮ヲ復スルノ明智妙謀モ亦定テコレアラン請フ幸ニ高諭ヲ垂レヨ

森　拙者ハ現ニ見給フ如キ年少ノ徒ナリ豈ニ閣下ノ望ニ應スルノ才識アル可ンヤ只常ニ期スル所ハ勉メテ閣下ノ如キ大家ニ親接シテ其教ヲ受ケ以テ知識ヲ弘メント欲スルニ在ルノミ幸ニ今般ノ機會ヲ得ルニ至リシモ畢竟此素志ノ致ス所ナリ

李　乞フ謙遜スル勿レ試ニ亞細亞洲開化ノ度ヲ歐洲ニ比スレハ賢慮如何

森　敢テ鄙見ヲ陳述セン今公正ノ論者ヲシテ亞細亞ノ現狀ヲ判定セシメハ頗ル開化ノ度ニ達シタリト云ハン例ヘハ開化ノ最高度ヲ十度ト定メンニ亞細亞ハ三度ノ上ニ達シ歐羅巴ハ七度ニ下ラサル點ニ在ルヘシ



李　コレ極メテ公平ノ比較ナリ我清國ヲ振興スルノ良圖ハ如何願クハ高論ヲ聞カン

森　問題重大ナリ敢テ當ル可ラス況ヤ昨今此一大國ニ來リ未タ國內ノ狀形ヲ熟知セサルニ於テヲヤ但シ斯ノ如キ大國ヲ振興センニハ先ツ此大事業ニ匹敵スヘキ一大勢力ヲ得サル可ラス是或ハ穩當ノ論ナルヘシ然レトモ今更ニ三十名ノ李鴻章貴國ニ輩出スルニ非サレハ此事行ハレ難シ

李　（微笑シ）其故如何敝邦ニハ現ニ百李鴻章アリ

森　或ハ然ラン然リト雖トモ是等ノ人未タ適當ノ地位卽チ十八省ノ長官乃至總理衙門大臣ノ如キ官廳ニ在ラサルヲ如何セン愚察スルニ現ニ米國ニテ教育ヲ受ル少年輩ハ成長ノ後果シテ目今閣下ノ有セラルヽ如キ權力ヲ握リ顯官ニ昇ルノ人トナルヘシ

李　實ニ貴說ノ如シ彼ノ少年等ヲ派出セシハ實ニ拙者ノ所爲ニ係ル故ニ將來ノ望ヲ深ク彼輩ニ期ス閣下ハ敎ヲ歐洲ニ受ク希クハ其學ヒ得タル學術ノ科目ヲ聞カン

森　遊學ノ期長カラス故ニ何ノ學術ヲモ修メ得スコレ現ニ閣下カ親視スル如ク公務ノ爲ニ身ヲ役セラルヽ所以ナリ

李　敢テ貴庚ヲ問フ

森　稍三十ニ近シ

李　此妙齡ニシテコノ奇才アリ賤庚ハ幾ント貴庚ニ倍シ秋霜既ニ鬢邊ニ上レリ

森　貴我兩國ノ間ニ訂盟セシ條約ノ實効ニ就テハ賢慮果シテ如何知ラス多少雙國ノ稗益ヲ生セシ者アリヤ

李　實ニ然リ貴國ニ於テ條約中特ニ雙國ノ內一方ヨリ他方ノ封土屬地ヲ侵シ或ハ之ヲ掠ムル等ノ所業ヲ預防ノ爲ニ設クル所ノ條款ヲ信守セラルヽ以上ハ長ヘニ斯ノ如クナル可シ

森　凡ソ書冊上ニ記シタル事ト雖トモ之カ明解ナキトキハ往々紛議ヲ釀成シ來ル者アリ假令黑白ノ相違アル事ニテモ讀者ノ見解ニ依テ幾樣ニモ釋義セラル可シ例ヘハ今承リタル和親條款ト雖トモ雙方ニテ全ク相背反セル見解ヲ下タスヲ得ヘキ也

李　其故如何其類ノ事恐クハ致シ難カラン我清國ニ於テハ一旦固結セシ條約ニ背戾スル事決シテアル可ラス

該條約ハ永久雙國ニテ遵守スヘキ者ナリ

森　永久トハ何ノ言ソヤ極テ望ム可ラス極テ喜フ可ラサル事ナリ

李　望ム可ラス喜フ可ラサル事トハ知ラス如何ナル意ソヤ夫ノ犯ス可ラサル條約ヲ意トセス自家ノ便利ニ任セテ之ヲ破ルモ妨ナシトノ言歟

森　希有ノ尋問ナルカナ此類ノ奇問ヲ解得セン日本人ハ一個モアル可ラス夫レ條約ハ曾テ議立ノ際ニ當テ全ク雙方ノ意ニ適セシモノト雖トモ事務ノ變遷ニ從ヒ早晩之ヲ改メサル可ラス

李　然リト雖トモ貴我兩國ノ間ニ現存セル條約ハ良正完全ノ者ナリ況ヤ締結ノ日ヨリ少クモ十年ノ間ハ雙方共ニ固守セサル可ラサル者ニ於テヲヤ

森　實ニ然リ該條約定期ノ間ハ雙方共ニ固守スヘキ者ナリ然レトモ現ニ貴察スル如キ良正完全ノ約ニアラサル事ハ閣下忽チニ之ヲ看出スルニ至ラン

李　如何ナル故ソヤ何ニ由テ然ルヤ

森　總理衙門大臣等拙者ニ告テ云ク朝鮮ハ清ノ屬國ナリ故ニ條約ニ揭ケアル屬地ノ一ナリト

李　固ヨリ然リ朝鮮事件ニ付テ衙門ト貴公使館トノ間ニ往復セシ書翰中ノ趣ハ拙者之ヲ詳知セリ衙門大臣等ノ所說全ク鄙見ニ同シ即チ朝鮮ハ清國ノ屬隷ニシテ貴我ノ條約ニ基キ貴國ノ爲ニ屬國視セラル可キ者ノ一タリ

森　條約中ニ朝鮮ハ貴邦ノ屬國タル旨ヲ明示セル條款アルヲ見ス之ニ反シテ我政府ハ終始朝鮮ヲ獨立不羈ノ國ト看做シ現ニ獨立國ヲ以テ彼ヲ待セリ蓋シ自餘ノ列國ハ云フ迄モナク尙貴政府ト雖トモ亦彼ヲ待スルノ道爰ニ出サルヘシ貴政府曾テ明言シテ云フ朝鮮ニハ自家ノ政府アリテ隨意ニ內外ノ事務ヲ整理ス清國ハ毫モ之ニ干與スル事ナシト

李　實ニ貴說ノ如ク朝鮮ハ獨立ノ國ナリ然リト雖トモ其國王ハ現皇帝ノ命ニ依テ立ツ是ヲ以テ清國ノ屬隷トス

森　然ルカ如キハ單ニ貴邦ト朝鮮トノ交誼ニ關スル禮式ノミ此類敬禮上ノ事豈ニ朝鮮獨立ノ論ニ關センヤ

李　朝鮮ハ實ニ清ノ屬國ナリ是舊來世人ノ能ク知ル所ナリ



森　此一事ハ假令幾回討論スルトモ到底歸着スル所ナカルヘシ此上之ヲ論スルモ最早無益ノ事ナリ但シ爰ニ閣下ノ注心ヲ乞フヘキ一事ノ在ルアリ今之ヲ陳述セン貴我條約中ニ一方ヨリ他方ノ封土ヲ侵掠スルヲ禁スルノ一款アリト雖トモ其封土ノ限界ヲ確定セス曾テ臺灣事件ヲ生シ今將タ朝鮮事件ヲ起セシハ畢竟該款內ニコノ限界ヲ明記セサルノ致ス所ナリ此類無用ノ條款ヲ依然ト存シ置クトキハ後來再ヒ前轍ヲ踐ノ恐アルヘシ是レ現在ノ條約ヲ永存スルヲ欲セサル由緣ニシテ具理辨ヲ俟タスシテ知ルヘキ也和親ノ一款ヨリシテ斯ノ如ク紛紜ヲ釀成スルハ獨リ敝邦ノ爲ノミナラス殊ニ貴邦ノ爲ニ憂アル所ナリ

李　苟クモ貴邦ニ於テ無事ヲ守ラハ何ノ紛紜カ生ス可ケンヤ貴邦ヨリ砲船ヲ出シテ朝鮮海ヲ測量セスンハ彼レ如何ソ之ニ發砲スルノ理アランヤ之ニ由テ考フレハ貴邦ヨリ苦情ヲ訴フルノ事由モナク又朝鮮ヲ伐ツノ口實モアル事ナシ畢竟彼ヨリ砲船ニ發砲セシ一擧ハ其實貴邦ノ自ラ招ク所ナリ況ヤ該砲船海岸附近ノ所卽チ公法上所禁ノ三英里以內ノ所ニ進入シ之ニ加フルニ城地ヲ陷レ人ヲ殺シ財ヲ掠ムル等ノ事ヲナセリ然ルニ今又使節ヲ遣テ理非ヲ糺サント要ス是レ何爲ノ事ソヤ

森　閣下ハ朝鮮人カ我砲船ニ發砲セシ擧動ヲ罪ナシトスルノミナラス現ニ我國ヨリ派遣セル使節ヲ以テ惡意ヲ抱ク者ト見做スニ似タリ思フニ朝鮮事件ニ就テハ多少誤聞セラレシ所アリ請フ閣下ノ爲ニ其實況ヲ縷述セン

第一我砲船ハ專ラ海水測量ノ爲ノミニ朝鮮ニ赴キタルニ非ラス偶々船用ノ水ヲ求メンカタメ船ヲ寄セタルナリ但シ之ヲ近寄センニハ先ツ海水ノ淺深ヲ實測シ以テ船ノ進退ヲ無難ニセサル可ラス殊ニハ其桅頭ニ我國ノ旗章ヲ標シタレハ朝鮮人ハ固ヨリ之ヲ認識セシ筈ナリ然ルニ國旗アルヲ顧ミス突然該船ニ向テ發砲セリ閣下モ定テ知リ給ハン抑モ我國ト朝鮮トハ二百餘年ノ間友誼ノ情ヲ通シ輓近更ニ兩政府ノ間ニ取極ヲナシ以後ハ互ニ公信ヲ通シ愈々雙國ノ友誼ヲ親密ニセン事ヲ約セリ後幾クモ無シテ彼レ約ニ背キ妄リニ我國ノ名譽ヲ汚シ次テ我砲船ニ向テ發砲セリ

是ニ於テ使ヲ遣テ是等暴行ノ故ヲ問ハシム其之ヲ問フノ理アル事辨ヲ費サスシテ知ル可キナリ素ヨリ立刻ニ問罪ノ師ヲ出シテ彼ヲ膺懲スルハ我ニ於テ容易ノ事トス然リト雖トモ我國ハ此舉ヲナスヲ欲セス可成丈ハ懇信和好ノ意ヲ旨トシ勉メテ彼カ頑心ヲ改良シ以テ我榮譽ヲ全フスルニ如スト思考シ乃チ修好ノ使ヲ派遣シタル也

第二閣下ハ我國ノ砲船公法上所禁ノ近海ニ進入セリト云フ請フ之ヲ思ヘ夫レ公法ハ之ヲ遵守スルノ國ニ用ユヘク朝鮮ノ如キ公法ノ何タルヲ知ラス却テ之ヲ壓惡スルノ國ニ用ユ可ラス彼レ仁愛ノ道ヲ守ラス餘國ノ民ヲ入レス偶々外來ノ船アレハ妄ニ之ニ發砲シ剩ヘ沿海ノ測量ヲ許サス之カ爲ニ諸國船舶ノ中殊ニ朝鮮海上ヲ往來スル隣國ノ船舶往々沈沒ノ災ニ罹ル者少ナカラス故ニ隣國ノ一タル我國ノ船人ニ對シ斯ル不仁ノ事ヲ爲サシムルヲ得サル也

李　朝鮮ニ於テハ貴國ト交通ヲ開クノ意ナキニシモアラサル可シト雖トモ彼レ深ク其影響ヲ憂慮スル也若シ他ノ各國貴邦ノ例ヲ追ヒ彼ノ狡黠ナル商業ヲ營マハ



朝鮮ハ忽チニ衰亡セン是レ彼レノ恐ルヽ所ナリ

森　此事憂フルニ足ラサルナリ苟クモ朝鮮ニ於テ其海岸ニ漂着ノ外國人ヲ懇待スル以上ハ外國通商ノ爲ニ國ヲ開クヲ要セス只外國人ヲシテ航海無難ノタメ朝鮮海測量ノ自由ヲ得セシメハ乃チ可ナラン

李　然リト雖トモ外國商人等ノ欲望ハ閣下カ說ク所ノ事ノミニ止ラサルヘシ

森　或ハ然ラン假令然ルモ鄙說ノ外ニ出ス外國人ト雖トモ强テ通商ヲ朝鮮ニ迫ル事能ハス又我國ト雖トモ斯ノ如キ强迫ヲ朝鮮ニ加フルヲ欲セサル也

李　閣下之ヲ保シ能フヤ

森　固ヨリ然リ苟クモ朝鮮ニ於テ外交ヲ拒絕スルノ正理アラハ之ヲ行フモ妨ケナシ或ハ日本清國ノ如キ唇齒ノ國ヲ容レ自餘ノ遠邦ヲ拒ムモ亦然リトス

李　其事成シ得ヘキヤ

森　固ヨリナリ請フ我國ノ例ニ就テ之ヲ明知セヨ曾テ我國ニ歐洲ノ若干國ヲ容レテ交易ヲ營ミシ事アリタリ此事今ヲ距ル大約三百年前ニアリ然ルニ彼レ我內國ノ事務ニ干與セシヲ以テ和蘭國ヲ除クノ外ハ悉ク之



ヲ逐斥シテ再ヒ日本ニ來ルヲ禁セリ爾來蘭人ハ良好友愛ノ情ヲ我ニ示セシ事猶舊來貴國ノ我國ニ於ルカ如シ故ニ貴國及ヒ蘭國ハ數百年ノ間我國ト交通シ其間自餘ノ西洋諸國ハ一切我國ニ來タルヲ拒マレタリ漸ク二十年前ニ至リ外交ヲ開クヲ是ナリトシ遂ニ各國ト交ヲ結ヒタリ

李　果シテ斯ノ如クンハ朝鮮モ亦ソノ計畫ヲ變セサル可ラス

森　拙者ハ貴政府ノ協力同心ヲ得ン事ヲ切望シ依テ此國ニ來リシカ今ニ於テ貴政府ノ意ヲ察スルニ甚タ我所期ニ違ヘル者アリ

李　其然ル所以ハ如何

森　貴國大臣等云ク朝鮮ハ清國ノ隷屬ナリ故ニ彼レ清國ヲ尊崇スト然ルニ貴國大臣等ハ朝鮮ノ爲ニ事務ヲ理スルヲ欲セス素ヨリ我國ヨリ使節ヲ朝鮮ニ遣ハセシ眞主意ハ貴大臣等ノ既ニ了知スル所ナリト雖トモ之ヲ翼成スルニ意ナク條約中和親ノ條款否ナ寧ロ招難ノ條款ト云フヘシ此無用ノ條款ノ事ニ付拙者ニ書ヲ寄スル事數回ニ及ヒタリ斯ノ如キ接遇ヲ受クルハ實ニ失望ノ至ニ堪ヘス

李　閣下ノ失望實ニ之ヲ察セリ然リト雖トモ我政府ハ何故ニ朝鮮ノ事ニ於テ斯ル措置ヲ致セシヤ請フ閣下ノ爲ニ之ヲ辨セン我政府ノ目スル所ニ據レハ貴政府ハ事ヲ行フニ甚タ急劇ニ過クル所アリ況ヤ朝鮮ハ未タ貴國ノ望ヲ滿足スル景況ニ至ラサルヲヤ然リ而シテ貴國ハ臺灣事件ノ例ニ倣ヒ動モスレハ其隣邦ヲ攪亂シ機ニ乘シテ之ヲ奪領セント欲スル者ノ如シ

森　我國ヲ貴國ニ比セハ或ハ實ニ躁急快捷ノ風アル可シ歐人モ亦此兩國人ノ性情ニ大差異アルヲ見テ概ネ皆之ヲ怪メリ歐人ノ見ル所ニ依レハ我日本人ハ極テ敏捷ノ質ヲ具ヘ清國人ハ極テ耐忍ノ性ヲ備フ是ニ由テ視ルニ清國人タル閣下ノ目ニハ我國ノ朝鮮事件ヲ處スルノ法頗ル短慮ノ樣ニ見ユルモ亦宜ヘナリ但シ貴說中朝鮮ハ未タ我望ヲ滿タシムルノ景況ニ至ラスト云フニ至テハ蓋シ閣下ハ我期望如何ヲ辨知セサルニ似タリ我ヨリ朝鮮政府ニ要ムル所ノ者ハ極テ容易ノ一二件ニ過キス之ヲ許スニ將タ何ノ準備ヲ要センヤ

其一朝鮮ヨリ我國威相當ノ禮ヲ盡サン事ヲ要シ
其二朝鮮海ニテ我船人救護ノタメ必須ノ方法ヲ盡サン事ヲ要ス

我國ノ彼レニ需ムル所ノ者ハ此二件ノ外ニ出ス斯ノ如キ至簡至當ノ請求ヲ拒ムハ實ニ天譴ヲ怖レサルノ所爲ト云フヘシ又貴說中ニ日本國ハ動モスレハ隣邦ヲ攪亂シ云々ト云ヘリ此語ハ英明ナル閣下ノ說ニ似ス請フ我國ノ位置如何ヲ察セヨ四方環海ノ國ニシテ卽チ一個ノ島國ナリ故ニ水ニ依テ以テ生ヲ營ムモノト陸ニ依テ以テ生ヲ營ムモノト其數幾ント相同シ是レ卽チ我國ノ人民カ專ラ海利ノ事ニ關セル諸般ノ業ニ熱心スル由緣ニシテ我政府モ亦之カ爲ニ保護ノ道ヲ設ケサルヲ得サル所ナリ今閣下カ云ヘル征臺一件ト雖トモ全ク前條止ヲ得サルノ事情ニ出シモノ也將タ現ニ派出セル遣幹使モソノ主意全ク爰ニ基ケリ抑モ我政府ニ於テ莫大ノ費用ト苦辛トヲ厭ハズシテヨク是等ノ事ヲ爲スハコレ政府ノ政府タル義務ヲ盡サンカタメノミ事情斯ノ如シ果シテ知ルヘシ我國ノ志向ハ曾テ閣下カ臆測セシ如キ類ノモノニアラサル事



ヲ苟クモ征伐ヲ以テ我主意トセハ如何ソ嚮キニ占有セシ臺灣ノ一部ヲ棄ルノ理アランヤ又目下朝鮮事件ノ如キモ何ソ箇程迄ニ心ヲ苦シム可ケンヤ前ニモ述タル如ク我政府ノ趣意ハ良善實直ナリ貴政府之ヲ悟ルノ速カナラサルハ深ク遺憾トスル所ナリ

李　朝鮮ノ事ニ就テハ拙者急ニ一書ヲ總理衙門ニ致サン嚮キニ我政府貴翰ニ答フル書中ニ條約中和親ノ條款卽チ雙方互ニ領地ヲ侵ス事ヲ禁スル條款ヲ援引セシハ我政府ニ於テ少シク輕忽ノ事ナリキ

森　其一語ヲ拜聽シ實ニ怡悅ノ至ニ堪ヘス切ニ望ムラクハ貴政府ニ於テ充分我政府ノ眞意ヲ解得アラン事ヲ願クハ暫ラク之ヲ忍ヘ總理衙門ニ於テ拙簡中ノ趣旨ヲ熟思セン間ハ幸ニ之ニ迫ル勿レ

李　誠ニ幸甚貴國ニ到着以來未タ斯ノ如キ愉悅ヲ覺ヘス今宵ハ必ラス枕ヲ高シテ快眠スヘシ

---

第二回應接

此日列席ノ人員森日本公使總督李鴻章日本公使館附鄭一等官書記官翰林院學士「ハンホニヤン」氏並英語通辯官「ホンウユイリヤン」氏ナリ初應接ノ時ニ同シ二三細事ノ雜話ニ凡ソ十五分時ヲ移スノ後

李　近來貴國ニ於テ擧行セラルヽ所殆ト皆賞贊スヘキ事ナラサルハナシ然リ而シテ獨リ然ルヲ得サルモノアルハ貴國舊來ノ服制ヲ變シテ歐風ヲ模セラルヽノ一事是ナリ

森　其由緣甚タ單ナリ啻少シノ辨解ヲ要スルノミ抑々我國舊來ノ服制タルヤ閣下モ見賜ヒシ事アルヘシ寬濶爽快ニシテ無事安逸ニ世ヲ渡ルノ人ニ於テハ極メテ可ナリ然リト雖トモ多事勤勞ヲ事トスルノ人ニ在テハ全ク適セサル者トス然ルヲ以テ舊時ノ事態ニハ能ク應シタルモ既ニ今日ノ時勢ニ至テハ甚タ其不便ナルヲ覺ユ是故ニ舊制ヲ改メ新式ヲ用ヒ之カ爲我國ニ於テ裨益ヲ得ル尠シトセス

李　一體衣服制度ハ人ヲシテ祖先ノ遺意ヲ追憶セシムル所ノ一ニシテ其子孫タル者ニ在テハ宜ク之ヲ貴重シ萬世保存スヘキ事ナリ

森　若我國ノ祖先ヲシテ尙今日存セシメハ此ノ一事ニ於テハ其爲ス所モ亦我等ニ異ナラサルヘキハ一點モ疑ヲ容サル所ナリ今ヲ去ル凡ソ一千年前我祖先ハ貴國ノ服ノ我ニ優ル所アルヲ視テ忽チ之ヲ採用シタリ凡ソ何事ニセヨ他ノ善ヲ模擬スルハ是レ我國ノ一美風ト云フヘシ

李　貴國祖先ノ我國ノ服ヲ採用アリシハ最モ賢キ事ナリ蓋シ我國ノ服ハ織ルニ甚タ便利ニシテ且悉皆貴國內ノ出產物ニテ之ヲ製スルニ足リ現今歐服ヲ模倣セラルヽカ如ク莫大ノ冗費ヲ要スル事ナシ

森　然ルヘシト雖トモ我等ヲ以テ之ヲ視レハ一體貴國ノ衣服ハ歐服ノ精良ニシテ且便利ナルニ比スレハ其半ニモ及サルカ如シ頭髮長ク垂レ鞋ハ大ニシテ且粗ナリ殆ト我國人民ニ應セス此他尙貴國諸般ノ事能ク我等ニ適スルモノトハ思ハレス然ルニ歐服ハ然ラス假令經濟ノ要理ヲ熟知セサルノ人ハ之ヲ徒費ニ屬スルカ如ク察スヘシト雖トモ勤勞ハ富榮ノ基怠慢ハ貧枯ノ原ナリ之レ閣下ノ知ル處ナリ我舊服ハ寬快ナルモ輕便ナラス前ニモ申セシ如ク怠慢ニ應シテ勤勞ニ應セス之ヲ以テ我國ハ怠慢ニシテ貧ナルヲ好マス勤勞ヲ以テ富ン事ヲ欲スルカ故ニ舊ヲ捨テ新ニ就キ現今

ノ費ス所ハ將來ヲ迫テ無限ノ報アルヲ期スルナリ

李　然リト雖トモ閣下ハ貴國舊來ノ服制ヲ捨テ歐俗ニ傚ヒ貴國獨立ノ精神ヲ歐州ノ制配ニ委ネ聊カ耻ル所ナキ乎

森　毫モ耻ルナキノミナラス我等ハ却テ此ノ變革ヲ以テ將ニ誇ラントス此ノ變革タル決テ他ヨリ强迫セラレタルニ非ス全ク我國自己ノ所好ニ出ツ殊ニ我國ハ古ヨリ亞細亞亞米利加其他何レノ國ト雖トモ凡テ其長スル所アレハ常ニ之ヲ取テ我國ニ施サン事ヲ欲スルナリ

李　我國ニ在テハ決テ如斯ノ變革ヲ行フ事勿ルヘシ只軍器鐵道電信其他諸器械ノ如キハ之レ必須ノ品ニシテ彼ノ最モ長スル所タレハ之ヲ外國ニ取ラサルヲ得サルナリ

森　凡ソ將來ノ事ニ付テ誰カ預メ其所好ヲ確定スルヲ得ンヤ貴國四百年前ニ在テハ當朝ノ初メヨリ行ハレタル此ノ服制ヲ好ミシ人ハ非サルヘシ

李　是レ只我國ノミノ變革ニシテ決シテ歐俗ヲ用ヒシニ非ス



森　然レトモ變革ハ則變革ナリ殊ニ貴國ノ此變革ハ强迫ニ出テ貴國人民ノ忌嫌セシ所ニ非スヤ

李　是レ我等勤王ノ篤志ニ依リ斯クハ致セシナリ偖亞細亞ト歐羅巴ノ交際ハ將來如何ノ狀ヲ見ルニ至ルヘキ乎閣下之ヲ如何ニ明察セラルヽ哉

森　是レ大ナル問題ナリ此問題ノ趣旨ハ各種ノ人民各種ノ宗教互ニ其ノ權威ヲ相爭ヒ竝ニ世界ノ二大州互ニ其ノ人智富强ヲ相競フノ事ニ關スル者ト察セサルヲ得ス然レハ拙者モ亦亞細亞ノ人ナリト雖トモ鄙見ニ依レハ亞細亞カ歐羅巴ト犄角スルヲ得ヘキノ日ハ未タ遥カニ幾百年ノ後ニ在リト云サルヲ得サルナリ概面ヲ以テ論スルニ今日亞細亞人民ノ俗タル下賤野卑禽獸ヲ相距ル遠キニ非ラス

李　何ノ故ヲ以テ然ル乎

森　抑々婦人ノ貴重スヘキハ之レ天ノ定ムル所ナリ則チ婦人ハ人間ノ母ナリ一國一家ノ母ナリ然ルニ亞細亞州中何レノ地方ニテモ其婦人ヲ卑視シテ之ヲ遇スルノ無道ナル殆ト獸類ヲ遇スルニ等カラントス拙者カ亞細亞人民ヲ下賤ナリト論シタルモ其理ナキニ非サルハ多言ヲ要セス閣下了解セラルヘシ



李　是レ甚タ奇異ノ論ナリ閣下ハ西教ノ徒乎

森　拙者ニ於テハ西教佛教或ハ回教其他ト雖トモ一モ宗教ノ名アルモノヲ奉スル事ナシ現ニ如斯ノ俗人ナリ只平素正道ヲ守リ人ヲ害スルナキヲ以テ一身ノ目的トナスノミ然レトモ又我心ノ我心ヲ迷ハスアリテ甚タ之ヲ行ヒ難シトス

李　閣下ノ大才實ニ驚クヘシ大孔夫子ト雖トモ猶如此ノ談ハ謹テ之ヲ聞ン事ヲ欲セラルヘキナリ閣下ノ如キ大才ヲ以テ何ソ貴國ニ外征等征韓ヲ指ス淺慮ノ輕擧勿ラシメラレサルヤ況ンヤ貴國ハ方今國乏甚ク債ヲ歐洲ニ負フ程ノ時勢ナルニ於テヲヤ

森　苟モ思慮アル人ニシテ預メ計畫スル所ナクシテ妄リニ事業ヲ起ス者ハ在サルヘシ

李　勿論ナリ然ルニ今日ノ如ク莫大ノ經費ヲ顧ミス益々外債ヲ積ムトキハ遂ニ貴國ノ滅亡ヲ招クニ至ラン

森　負債一事ハ方法サヘ其宜キヲ得レハ敢テ忌憚スヘキモノニ非ス現ニ我國ノ歐洲ニ負債スル如キハ爲ニ甚タ實益ヲ見ル所ノ者アルナリ

李　何ヲ以テ然ル乎負債ハ決シテ是トスヘキ者ニ非ラス

森　我國先キニ外債ナキノ時ニ在テハ人民理財ノ方法ヲ知ラス國家ノ形勢ヲモ察セサリシカ今日ニ至テハ甚タ小額ト雖トモ外債之アルカ故ニ人民理財ノ方法ヲ解得シ其可否ヲモ論シ深ク事ニ注意シ殊ニ理財上ニ付テハ一擧措モ其宜ヲ失スル者ト認ムルトキハ喋々之ヲ論辯スルニ至レリ又百般ノ工業ヲ起シ其ノ利潤ヲ以テ外債支消ニ充ント謀リ目今大ニ其實功ヲ見ルモノアリ既ニ如此ナレハ則チ我國ノ此負債ハ我國ノ財政ヲ善良ナラシメシ者ト云フヘシ

李　貴國ニ於テ負債ト服制ノ變換トハ貴國人民ヲシテ幸福ヲ得セシムルノ源因トナルハ實ニ可喜ノ事ナリ然レトモ負債益々增加スレハ貴國ノ獨立ハ益々束縛セラルヘシ依テ自今更ニ歐洲ニ負債ヲ求メラルヽノ事勿ランヲ貴國ノ爲翼望セサルヲ得サルナリ

森　閣下悃情ノ切ナル感謝ニ堪ヘス伏テ希望ス閣下日本ニ來臨ノ日アラン事ヲ若來ルアラハ閣下ノ知友及我全國ノ人民ハ欣然トシテ將ニ閣下ヲ歡迎セント欲スルナリ

李　鳴謝時機ノ在ルアラハ必ス來遊スヘシ

---

## 四六　二月十日　清國駐劄森公使ヨリ三條太政大臣等宛

### 清國ヨリ我力節略書ヲ以テ朝鮮國王ヘ示諭セシ旨ノ情報報告ノ件

附屬書一、一月二十九日清國恭親王ヨリ清國駐劄森公使宛書翰寫
朝鮮國カ清國ノ屬國タルコトハ空名ナラス同國ノ事ハ日清條約ニ關係アル旨照復ノ件

二、二月一日清國駐劄森公使ヨリ清國恭親王宛書翰寫
朝鮮國政府竝ニ人民カ爲ス所ニ對シ責ニ任ストノ回答ナキニ由リ同國ハ清國ノ屬國ナラス且日鮮ノ交渉ハ日清條約ニ關係ナキ旨照會ノ件

九年第五號
機密別信第四號

以別信啓達候前便申進候李鴻章建言ノ模樣未タ端倪ヲ得ス本月七日別事ニ寄セ鄭書記官ヲ總署エ遣シ周家楣ト晤談ノ序探訪セシメ候處周家楣云朝鮮事件ニ付日來往復已ニ再三ニ及フモ未タ妥協ニ至ラス抑我衙門ハ從來佛米等ノ國ヨリ朝鮮エモノセント我ヘ報告セシ時ニモ我ハ彼カ內政ニ關與セサルヲ以テ辭シタル故今度森大臣ノ報告ハ我ト兩國ノ爲メ十分ノ好意有ル事ヲ了解シタレトモ各國交渉ノ事理總テ一律ニ歸スヘキヲ旨トスレハ我王大臣ハ前次照覆ノ如ク答ヘサルヲ得スシテ森大臣終ニ朝鮮ヲ空名ノ屬國ト論セラルヽニ至ル然ルニ此程李中堂ヨリ森公使ノ報告ハ日本政府ノ意誠ニ出テタルヲ我國ハ只朝鮮ノ自主ニ任セテ關與セスト云フ其宜キ所ニ非ス故ニ我政府ハ森公使ヨリ報告ノ節略書ヲ以テ朝鮮國王ヲ示諭セラルヽヲ是トスル旨ヲ建言セラレタリ是ハ我王大臣ノ所見ト符節ヲ合スルカ如ク我衙門ニテハ始ヨリ森大臣ノ好意ヲ理會シタル故疾クヨリ其節略書ヲ抄シ禮部衙門ヘ廻シテ朝鮮國王エ行知致シ有之併シ前各國トノ交渉振トモ一律ナラス我政府內々意ヲ盡ス迄ノ儀ニテ日來敢テ發言セス卽今森大臣エ再應ノ照覆ニ可及モ何分此意ヲ公文ニ明言スル能ハス我王大臣殆ト心痛ナリ因テ公文



中ニ言ヒ及ハサル所ハ幸ニ貴下ヨリ此意ヲ以テ森大臣ヘ辯解シ給ン事ヲ希フト鄭書記官又問右節略書ヲ行知被致候節彼ヨリ可否ノ回復申出候樣貴政府ヨリ被命候哉周家楣答夫レ迄ノ命令ニハ不至居候如何トナレハ朝鮮頑固ニシテ若シ我命ヲ拒ム事有ラバ我中國ノ失體トナルヲ慮ルノ意有リ云々右周家楣ニ因テ探訪セシ情由ニ據リ方今清政府ノ朝鮮ニ於ケル形狀ヲ概知スルニ足ルヘク尤我節略書ヲ朝鮮國王エ示諭セシ云々ハ十ニ七八分李鴻章ノ建言後ニ取計候義ト推料致候猶我カ㊞印ノ照會ニ彼ヨリ照覆文來候上事情申達可仕候得トモ先此段御含ノ爲メ今便致啓達候也

明治九年二月十日　　北京　森有禮

三條太政大臣
寺島外務卿　兩位閣下

（附屬書一）
（朱書）「一月二十九日狀」

㊞

大清欽命總理各國事務　王大臣　爲

照復事光緒元年十二月二十三日准
貴大臣照會一件以本王大臣前此照覆未能明解其意因思所引條規所屬邦土不相侵越之意蓋就將來交涉凡有該國政府及其人民所爲之事卽任其責之謂若不任其責雖云屬國徒空名耳於條約有何關繫等情查朝鮮爲中國屬國中外共知屬國有屬國分際古今所同本王大臣前次照會所稱朝鮮寔中國所屬之邦之一卽中國之自任也豈得謂屬國爲空名豈得謂於條約無所關繫
貴國旣與中國和好訂明修好條規理應彼此同守所屬邦土不可稍有侵越之約前月十八二十二等日所覆節略照會業已詳哉言之所期於
貴大臣者祇在按照修好條規所言永遠遵守不違其用意甚平其措詞甚顯相應照復
貴大臣一竝查照可也須至照會者
右　照　會
大日本國欽派駐京全權大臣森
光緒貳年　正月　初肆　日

註　右文書ハ本號文書本文ノ附屬書ト認メラルルニ付此ノ處ニ編入ス

（附屬書二）

㋑

大日本國欽差全權大臣森、照會スル爲メノ事、明治九年壹月廿九日、貴王大臣ノ覆文ヲ接准ス、內ニ朝鮮ノ中國ノ屬國タル事、中外共ニ知ル、屬國ハ屬國ノ分際アル、古今ノ同キ所ロ、朝鮮ハ實ニ中國ニ屬スル所ノ邦ノ一ニシテ、即チ中國之レ自ラ任スル也、豈屬國ヲ空名ト爲スト謂フヲ得ン豈條約ニ於テ關繫スル所無シト謂フヲ得ン等ノ語ヲ稱ス、本大臣查スルニ、謂フ所ノ中國自ラ任スルノ一語、言短ク意微ニシテ、其自ラ任スル所ノ者、果シテ何事カ、實ニ猶ホ未タ明カニ其意ヲ悉クス能ハス、又屬國空名ナラスト謂フ、而シテ其空名ナラサルノ實、亦タ曾テ見サルニ似タリ、又頻リニ兩國屬スル所ノ邦土稍々侵越アル可カラサル等ノ語ヲ以テ教ヘラル、是レ何ソ劇カニ侵越ヲ以テ言ト爲ンヤ、此等ノ處、本大臣實ニ未タ解スル能ハス、又敢テ己ノ意モテ自ラ解セス、惟タ本大臣前次ノ照會ニ稱スル所ノ我國ト朝鮮ト交渉ス、其該政府、及ヒ其人民、我ニ向ヒ爲ス所ノ事、貴國能ク自ラ其責メニ任スルヤ否ヤノ處、其前其後、嘗テ未タ一ノ確斷ノ言ヲ獲サレハ、則チ本大臣仍テ當サニ前次稱スル所ノ、朝鮮ハ是レ一ノ獨立國、貴國之レヲ屬國ト謂フモ、亦タ徒タ空名、而シテ凡ソハ事、朝鮮日本間ニ起ル者、斷シテ清國ト日本國トノ條約上ニ於テ、關係スル所無シト謂フ等ノ語ヲ以テ、准ト爲ル耳、仍テ貴王大臣ニ照會シ、希フハ即チ分別示復スヘクシテ可ナリ、須ク照會者ニ至ルヘシ右大清欽命總理各國事務王大臣ヘ照會ス

明治九年二月一日

（右附屬書二漢譯文）

譯漢文

爲照會事、明治九年壹月廿九日、接准貴王大臣覆文、內稱、朝鮮爲中國屬國、中外共知、屬國有屬國分際、古今所同、朝鮮寔中國所屬之邦之一、即中國之自任也、豈得謂屬國爲空名、豈得謂於條約無所關繫等語、本大臣查、所謂中國自任一語、言短意微、其所自任者果何事、實猶未能明悉其意、又謂屬國不空名、而其不空名之實、似亦不曾見、又頻以兩國所屬邦土不可稍有侵越等語見教、是何可劇以侵越言哉、此等之處、本大臣實未能解、又不敢己意自解、惟本大臣前次照會所稱、我國與朝鮮國交涉、其





該政府及其民人向我所爲之事、貴國能否自任其責之處、其前其後、嘗未獲一確斷之言、則本大臣仍當以前次所稱、朝鮮是一獨立之國

貴國謂之屬國亦徒空名、而凡事起于朝鮮日本間者、斷謂於清國與日本國條約上無所關係等語爲准耳、仍應照會貴王大臣、希即分別示復可也、須至照會者

## 四七　二月十七日　清國駐劄森公使ヨリ寺島外務卿宛

**清國總理衙門ヨリ我カ好意ヲ朝鮮國ニ傳達シタル旨報告ノ件**

附屬書一、二月十二日清國總理衙門ヨリ清國駐劄森公使宛書翰寫

朝鮮國ハ清國ノ屬邦ナルニ付清國政府ニ於テ同國ノ爲酌辨スル所アルヘキ旨照復ノ件

二、二月十四日清國駐劄森公使ヨリ清國總理衙門宛書翰寫

右酌辨ノ照復ニ對シ期待スル旨回答ノ件

機密別信第五號

有禮　朝鮮事件ニ付度々總理衙門ニ及談判候趣意ハ朝鮮內治外交總テ其ノ自主スル處タルヲ以テ我ヨリハ到底之ヲ獨立國ト看做シ我レト朝鮮トノ間ニ紛紜ヲ生スルモ決シテ清國ノ關係スル所ニ非サルノ旨ヲ主張セリ然レトモ清國ヨリ朝鮮ニ着手シテ我カ要求スル處ヲ妥辨シ日韓兩國平和ノ交際ヲ全フスルニ至ラハ獨リ朝鮮ノ幸而已ナラス我　皇國ニ於テモ害損ヲ除キ實利ヲ得ル所以ニ付有禮深ク之ヲ期望致シ居候處李鴻章ヨリ總署ニ申立候末我レノ好意ヲ朝鮮ニ通候次第ハ前便機密別信第四號申進候周家楣ヨリ鄭書記官ニ內話致セシ通ニ候然處當十二日總署ヨリ別紙㋖（註書翰）號ノ照會到來內ニ本王大臣早籌酌辨以期彼此相安ノ語有リ全ク周家楣ノ內話ト符合致シ候事ニ付右清國ヨリノ着手朝鮮ノ時機ニ後レ不申候得ハ日韓ノ交際和平ノ成局ニ至ル一助トモ相成可申歟就テハ朝鮮事件ニ付清國トノ談判大抵結果ノ姿ニ至リ申候右ノ通有禮和平ヲ旨トシテ茲ニ從事候段　廟堂ノ御趣意ニ不相戻義ト存候右內啓申進候也

明治九年二月十七日　　在北京　森有禮

寺島外務卿殿

註　「別紙㋒號」トアルハ左ニ掲クル㋑號ノ誤カ

（附屬書一）

㋑號

大清欽命總理各國事務　王九大臣　爲

照復事光緒二年正月初七日接准

貴大臣照會仍謂中國自任一語未能明悉其意屬國不空名之實似不曾見又以前引修好條規謂何可劇以侵越爲言而以事起於朝鮮日本間者於條約上無所關係等因本王大臣查朝鮮爲中國所屬之邦與中國所屬之土有異而其合於修好條規兩國所屬邦土不可稍有侵越之言者則一蓋修其貢獻奉我正朔朝鮮之於中國應盡之分也收其錢糧齊其政令朝鮮之所自爲也此屬邦之實也紓其難解其紛期其安全中國之於朝鮮自任之事也此待屬邦之實也不肯强以所難不忍漠視其急不獨今日中國如是伊古以來所以待屬國皆如是也本王大臣照會所引不稍侵越之言正以不侵越者厚期於

貴國非劇以侵越爲言也

貴大臣謂事起於朝鮮日本間者斷爲與條約無與則修好條規言之甚明未能諱也惟中國之於貴國友邦也鄰國也朝鮮則中國屬國也中國之望其相安無事則一也今

貴國之於朝鮮猶期無事而與我中國先開辦難之端揆之事理似非所宜至於中國苟有可爲之處自由本王大臣早籌酌辦以期彼此相安正不待

貴大臣再三言之也相應照會

貴大臣查照須至照會者

右　照　會

大日本國欽派駐京全權大臣森

光緒二年正月十八　日

（附屬書二）

㋒號

大日本國欽差全權大臣森照復ノ爲メニスル事明治九年二月十二日貴王大臣ノ復文ヲ接准シ逐層閱悉セリ本大臣查ス前ニ朝鮮ノ一節ヲ論シ極メテ本國使ヲ遣シ以テ無事ヲ期スルヲ稱セリ夫ノ朝鮮ヲ原スルニ實ニ獨立ノ體ヲ具シ其內外ノ





政令悉ク自主ニ由レハ我國モ亦自主ヲ以テ之ニ對ス是ヲ以テ該國自主ノ政令ヲ除クノ外其貴國トノ間ニ所有關係事理ハ我國決シテ顧及セス貴國モ亦條規中侵越等ノ字ヲ引テ我國ヘ加諸スルヲ得ズ故ニ所謂屬國トハ徒ニ空名ノミ凡ソ事朝鮮日本ノ間ニ起ル者ハ條約上ニ固ヨリ與カル無シト曰ヒシナリ今來文ヲ閱スルニ既ニ難ヲ紓ヘ紛ヲ解クヲ以テ中國自任之事トナシ復タ中國苟ニ爲ス可キノ事有レハ自ラ本王大臣ヨリ早籌酌辦シ以テ彼此相安スルヲ期ス等ノ語ヲ稱ス是本大臣ノ隣國ヘ期望スル所ノ者ト正ニ相符合セリ曷ソ額慶セサランヤ現在本國已ニ欽使ヲ派シテ韓ニ往タレハ自ラ其成ルヲ樂ミ觀ル可キナリ相應サニ貴王大臣ヘ照復シテ查照ス須ク照會者ニ至ルヘシ右

工部左侍郎成
頭品頂戴兵部左侍郎崇
吏部尚書毛
軍機大臣大學士管理吏部事務寶
和碩恭親王
軍機大臣大學士文
軍機大臣協辦大學士兵部尚書沈
戶部尚書董
兵部左侍郎郭
署三品頂戴通政使司副使夏

大清欽命總理各國事務　軍機大臣ヘ照會ス

明治九年二月十四日

（右附屬書二漢譯文）

譯漢文

爲照覆事明治九年二月十二日接准

貴王大臣復文逐層閱悉、本大臣查前論朝鮮一節、極稱本國遣使以期無事、原夫朝鮮實具獨立之體、其內外政令悉由自主、我國亦以自主對之、是以除該國自主政令外、其與貴國間所有關係事理、我國決不顧及

貴國亦不得引條規中侵越等字加諸我國、故曰所謂屬國、徒空名耳、凡事起於朝鮮日本間者、於條約上固無與也、今閱來文、既以紓難解紛、爲中國自任之事、復稱中國苟有可爲之處、自由本王大臣早籌酌辦、以期彼此相安等語、是與本大臣所期望於隣國者、正相符合、曷不額慶、現在本國已派欽使往韓、自可樂觀其成矣、相應照復

貴王大臣查照、須至照會者

## 四八　三月八日　清國駐劄森公使ヨリ寺島外務卿宛

目下ノ處清國政府ニ對シ涉論スヘキ儀アラサル旨回答ノ件

（朱書）「第十一號」

機密別信

二月十五日附第一號別函本月四日接閲來諭ノ件々委詳領悉候抑就韓事與清政府所談ノ結末ハ前便呈覽候㋑㋒兩號來往ノ公文ニ止リ方今ノ處彼ヘ渉論スベキ義更ニ無之唯韓方ノ消息ヲ翹望罷在候ノミ右御答如此候也

明治九年三月八日

在北京　森有禮（朱印）

寺島外務卿殿

註　右文書ニ謂フ「第一號別函」ハ一五六ヲ指ス

## 四九　三月八日　清國駐劄森公使ヨリ寺島外務卿宛

（朱書）「第十三號」

### 歸朝願出ノ件

朝鮮ノ形勢平和ナルニ於テハ一旦歸國ノ儀ヲ願度ト存居候處前便ヨリ老母危病急發ノ事告ケ來リ且老父ハ衰弱ノ身心痛ヲ極メ頻ニ歸國ヲ待居候樣子ニ付一昨四日付ヲ以テ二ケ月間歸省ノ暇電信ヲ以テ願立候次第ニ候疾クニ恩許ヲ得ル事ト期望致候殊ニ黑田井上兩使臣江華入港以來一月ノ久シキヲ經テモ報告無キヲ以テ見レハ事ノ平和ニ整ルハ疑ヒ無ク若シ萬一事變生シテ師ヲ興スニ至ルトモ必ス別段ノ廟議ヲ遂ケラレ候上ノ事タルヘキニ付其間一時歸省ヲ許サレテモ北京ノ方何モ緊要ノ公用無之ニ付政府ノ爲メ聊モ不都合ノ事不可有之ト存候尚此段以書願出候也

九年三月八日

在北京　森有禮（朱印）

外務卿　寺島宗則殿

## 五〇　三月二十八日　寺島外務卿ヨリ清國駐劄森公使宛

### 朝鮮問題解決ノ報知竝ニ歸朝願許可等ノ件

三月廿八日附ニテ發

在清森公使エ別信第二號案

朝鮮一件談判ニ付近々御申越ノ密信逐次接手一々領悉候先以平和ノ結局ニオヨヒ兩國修好條規モ公布相成候條額慶此事ニ御座候即該條規今便差立候間委曲右ニテ御承知可有之候右ノ外八年間修好ノ聘使ヲ不問ニ附候條々今般江華灣暴發ノ舉トヲ並セ彼政府ヨリノ謝狀有之候得共右ハ廟議ノ趣有之公布不相成候間別段不申進候左樣御了知可有之候其表總理衙門談判向モ御見込通リノ運ニ至リ既一頓イタシ候上ハ差向御用筋モ有之間布ニ附一時歸朝御願出ノ段ハ本月ノ初以電信御申越ニハ相成候ヘ共爾時ハ全局玉成ノ模樣慥ト難相分ニ付不取敢御見合可相成旨電答オヨヒ置候段ハ品川總領事ヨリ轉報既ニ御承知ニ可有之候然ルニ爾後近々密信到手其御地談判ノ消息モ明白ニ相成加之結約ノ成果ニ及候上ハ先緊急ノ御用モ無之加之御老母御所勞ノ趣御寸衷推察ノ儀ニ付別紙寫ノ通相伺許可相成候間左樣御承知御都合次第御就途可有之候竹添進一郎儀ハ固ヨリ暫時附屬被命候儀ニテ公使館員外ノモノニモ有之既ニ該件落着ノ上ハ御歸朝ノ節御伴歸相成可然ト存候遣外公館經費等省節候ニ付テハ使館人員モ相減シ候筋ニ付其邊御含御取扱可有之候

池田副領事儀ニ付御申立ノ趣承知イタシ候當人降等就任云々ノ儀モ有之候ヘ共猶外領事館ヘ見合モ有之卒爾ニ處分致兼候間篤ト勘辨可致存候

右ハ數次密信ノ御報旁如此御座候也

三月　日

尚以李鴻章ト御對話ノ英文譯未タ落成不致候間今便寫差進兼候

註一、右文書差出人名ヲ缺クモ寺島外務卿ト認メラル

二、右文書ニ謂フ「別紙」詳ナラス

## 事項三　朝鮮國修信使來聘一件

〔第八卷事項四參照〕（事項五參照）

**五一**　三月二十八日　釜山日本公館ニテ山之城外務書記生等ト朝鮮國別差李濬秀トノ對話書

### 朝鮮國修信使發遣ノ儀治定ノ由告知ノ件

明治九年三月廿八日午後七時四十分別差李濬秀入館山之城書記生中野書記生尾間書記生面接

別差

一今日就館對面ヲ請候ハ他事ニアラス頃日東萊ニ上府致シ居タル處昨日都表ヨリ關文到來貴國ヘ修信使發遣ノ儀治定イタシタル段申來リ因テ早速館内ヘ御告知ニ及候樣府使ヨリ申付ラレ候ニ付先ツ以テ此段申述候

山之城

一修信使差渡サルヽ段御治定ニ至リタル旨不取敢御通知ニ預リ御篤志ノ至リ也實ニ御互抃喜ニ存候

一兩國隣交ノ道ニトリ欣喜ノ儀ニ御坐候

一サテ修信使ノ姓名及ヒ發京ノ日限等其他於江華府議定相成タル趣等委細不相分候哉

一姓名及ヒ發京ノ日限其他一切イマタ相知レス過日御面晤ノ節本月十日頃我四月四日ニ當ル訓導下萊ニ可至段申上候處昨日ノ樣子ニテハ來十五日我四月十日ニアタル（マヽ）内ニハ多分着萊ノ筈ニ付其砌萬事ノ子細申シ來ラント存シ候間其節御聽ニ可入候

右ニテ了ル

**五二**　四月十日　釜山日本公館ニテ山之城外務書記生等ト朝鮮國訓導玄昔運トノ應接記

### 修信使發遣ノ爲汽船借用シタキ旨依賴ノ件

附記　四月九日東萊府使洪祐昌ノ口陳書

修信使發遣ニ關スル條陳書竝ニ任官書ヲ轉達方依賴ノ件

附屬書一、條陳書

二、任官書



第八號附屬ロ號

明治九年四月十日午前九時半訓導玄昔運就館山之城書記生中野書記生住永書記生尾間書記生應接

互に挨拶畢て

山之城

一今般修信使御治定の段先頃別差より報知の末我國の火輪船御借入の儀去六日別差より談合の趣委細致承知候得共猶不悉の廉も有之足下に親く面接を遂け條々東京へ稟啓致度相控へ罷在候

訓導

一別差方へ出狀し先きに御報知致置候に付已に御承知被下たる通に候得共我國製船致さむとしては徒に時日を費し延引に可及候に付汽船借用の義御依賴申候因て條々別紙に荒增書載致持參候に付御披見を希候

於爰之れを受取る内壹枚は東萊府使よりの書付壹枚は依賴の條々壹枚は使員人數等を認たるものにて都合三枚なり

山之城

一貴書の條々致披見候萬事已に別差へ申答置候通り尾間書記生致歸京筈に候得共汽船取寄の儀時日如何にも切迫致居り四月廿五日我五月十八日までに屹度釜山浦到着の程難計甚案念の至に候

訓導

一御尤の至り乍去僕發京の砌信使の一列へ貴國汽船を借りて往來する時は實に神速に往來致すものなる段相咄し置候然は右日限通りには安く運ふ事と朝廷を初め被相心得たり全體僕にも修信使一同罷下る筈の處爰に態々先き立ち下萊御依賴に及候は此限日不延樣にと存込みての事也若し延期に相成時は僕使列に對して恥ち殊に向　朝廷恐入る事故何分にも急速の道御周旋希候

山之城

一此節何方えも寄船等の御望は無之哉

訓導

一我國通信使貴國へ罷渡り候儀年久の事と云水陸の事等可存樣無之往來の儀は貴國の御指揮に隨候譯にて聊寄船等の望無之候

但到泊の處心得置度候此時日本圖相見せ路程又は馬關神戸横濱等凡寄船すへしと思ふ場所丈け荒增相示せり

山之城

一貴國國旗等の沙汰は無之哉

訓導

一貴國の汽船に乘候譯に付別段我國の旗號相用不申候尤未た國旗とては不相定又當節は從來の通信使と相違候譯は體認仕候に付萬事貴國の御厄介に不相成樣雜物等持越候に付其段御上啓可被下候而して船厨等は何卒差支無之樣且又在京中にも可成丈御厄介不相成樣心得罷在候

書面の條々は宜敷樣御周旋希候

山之城

一致承知候

註　本號應接記ハ明治九年四月十日附山之城書記生ヨリ田邊外務大丞宛公信ノ附屬書ヲ獨立文書トセルモノナリ尙右對話ノ際玄昔運ノ齎セル三文書左ニ附記ス

（附記）

我

朝廷特

命禮曹參議金綺秀爲修信使將於本年四月廿五日發船前往貴國故玆先相通凡係條陳悉於任官書付幷卽轉達

貴朝廷是希

丙子三月十五日

大朝鮮國東萊府使洪　祐昌

（附記附屬書一）

（朱書）「口號附屬」

條陳

一修信使乘船日字定於四月廿五日

一抵　貴國外務卿大丞之我　國禮曹判書參判書契賚去

一一行人員爲八拾人

一行期在邇水路且遠我　國船隻未及營造又難迅涉貴國火輪船一隻可容一行人員及什物者賃騎爲便以此轉達

貴朝廷火輪船一隻指揮出送四月二十日內抵釜山然後可以趁期發行

一賃船價依　貴國指數以銀子計之書示多少於火輪船出來便

一使事凡務不可無審愼船旣賃騎則　貴國船格勢將同騎相當有御下禁雜之人

一貴國舌官幾人使之同騎往來

一上官下陸後所騎以車馬間賃騎

一信使一行所住處地名及水陸路程書示於火輪船出來便



一一行厨供自我準備或有窘乏之需則臨時貿備

丙子三月十五日訓導玄昔運

（附記附屬書二）

修信使禮曹參議金綺秀　正三位

別遣堂上嘉善大夫玄昔運　上上官

上判事前參奉　玄濟舜　上官

副司勇　高永喜　上官

別遣堂上嘉義大夫李容肅　上上官

書寫官副司果　朴永善　上官

畫員司果　金鏞元　上官

軍官前郎廳　金汶植　上官

前判官　吳顯耆　上官

伴倘副司果　安光默　上官

前郎廳　金相弼　上官

書記二人　上官

中官四十九名

下官十八名

## 五三　四月十日　釜山日本公館在勤山之城外務書記生ヨリ朝鮮國訓導玄昔運宛

### 修信使發遣等ニ關シ東京ニ速報スヘキ旨ノ件

貴國遣差修信使及需借火船事併不得不申稟之我朝廷故亶遣尾間書記生于　東京從速回報而但時日甚迫矣諒之

明治九年四月十日

館長代理印

訓導公前

## 五四　四月二十二日　寺島外務卿ヨリ三條太政大臣宛

### 朝鮮國ヨリ修信使渡來ノ儀ニ就キ上申ノ件

甲第五十三號

明治九年四月廿二日

太政大臣　三條實美殿　外務卿　寺島宗則

朝鮮國より修信使渡來に付上申

今般朝鮮國より修信使渡來の儀に付該國東萊府使(註五二附記)口陳書幷訓導より條陳書(註五二附記附屬書一)を以て草梁館在勤外務四等書記生山之城祐長迄申出候儀に付同館在勤外務七等書記生尾間啓次一昨廿日上京致候間則別紙(註五二附記、同附記附屬書一、二)使員姓名等相添此段上申候也

明治九年四月廿二日

---

## 五五　四月二十六日　宮本外務大丞等ヨリ黒田參議等宛

### 朝鮮國修信使迎接ニ關シ條陳ノ件

明治九年四月廿六日

各通　黒田參議
井上議官　閣下　外務大丞　宮本小一
外務權大丞　森山茂

一翰拜啓仕候然は朝鮮修信使迎接の義政府にても深く御配意にて彼よりは火輪船賃幷賄方とも自費營辨の筈に申來候得共此方にては一切官費を以支給し遣はされ候積り有之尤彼方にて強て相拒み候はゝ猶其時誼に任せ候積り有之候

一郵船黃龍丸を被差出候事に相決候此船には上等室六ケ所其外百五十房有之由に付萬端向は間に合可申存候

一外務少錄水野誠一幷荒川書記生尾間書記生其外等外出仕三名小遣等此地より發遣し釜山より中野書記生幷韓語生徒十一名附添出京せしめ候に付先つ大抵差支無之見込に御坐候

一東京旅宿は小川町錦小路一番地三井所持の舊幕高家の屋敷有之間敷も多く八十人のもの夫々階級を以て席順を定候に都合よろしく相見候間右を相定其段彼方えも前以申入候筈に有之候且疊表替又は氈絨等敷込候序も取設候筈に候

一迎船は對州へは不立寄馬關兵庫は數時間碇泊韓人を上陸散歩せしめ養生爲致候筈に有之候

一兵庫縣令等へ面謁せしめ候事は禮式等彼未だ我情實不案内の間は彼是と六ケ敷かるへくと存し候條先つ面會せしめす我よりも尋問せしめす一と先東京へ行連れ來り情實分解の上神奈川縣令を初歸途には必彼より先尋問せしめ候見込に有之是等は猶其場合により接伴の者程能周旋爲致候筈に有之候

一船中乘組中は韓人えも心得方ケ條を以相示し我官員幷船司水夫等へは禁酒又は其他嚴重の告戒を申付置候

一右等の外細密の事は玆に條陳不仕候抑此度信使來朝の擧は閣下の餘光より出候義に付諸事御指揮をも可伺筈にて取調中右黃龍船は當時長崎に在り不日大阪え相回り候筈との事にて迎接官俄に廿八日玄海丸便より東京出發の事に決定昨今意外の混雜極め候に付不得止事概略書中を以陳述仕候尤明廿七日朝荒川書記生尊邸へ可差出條猶高喩の趣及彼え相當の御用も候はゝ御直に被仰含度候依て此段申上候也

明治九年四月廿六日

---

## 五六　五月十四日　釜山日本公館在勤山之城外務書記生ヨリ朝鮮國訓導玄昔運宛

### 修信使迎船釜山到着等ニ關シ通知ノ件

附屬書一、迎接條陳書
二、艦内規則

（朱書）「信使迎船釜山着ノ上訓導玄昔運ヘ附與セシ書」

我四月十日接到貴國東萊府使洪公丙子三月十五日單簡(註五二附記)及玄訓導條陳書(註五二附記附屬書)現今貴國爲派修信使於我邦要貸用我火輪船乃使在本館尾間書記生賚貴書駛往東京以轉啓我朝廷朝廷深喜貴國之速有此擧也卽發遣火輪船一雙搭載接伴外務官員數名旣已到達此港矣貴信使啓行日時唯任其便若夫在船及京地旅館等諸項一切要需覼縷(註附屬書一、二)于別簡幸勿勞貴意敬具

明治九年丙子五月

在釜山大日本公館長代理
外務四等書記生　山之城祐長

註　本號文書ハ五月十四日日本公館ニ於テ山之城書記生等ト訓導玄昔運ト應接ノ際手交サレタルモノナリ

（附屬書一）

第一條

火輪船黃龍號ヲ艤裝シテ迎引ノ需メニ應ス是皆我政府營辨ニ係ル貴官員賃騎スルヲ用ヒス

第二條

外務少錄水野誠一外務七等書記生尾間啓次ヲシテ一船迎接(マヽ)ノ事務ヲ負荷セシム

第三條

通譯及遠客延接トシテ外務六等書記生荒川德滋同中野許多

郎其他生徒十一名ヲシテ同乘セシム

第四條

東京第四大區一小區錦街第二街一番地ニ於テ旅館ヲ設ク（註「圖」脱ス）邸圖ヲ附ス

第五條

厨供自便ノ義ハ船中自他混淆辨別シ難シ故ニ自我一切之ヲ供給ス諸君意ニ介スル勿レ

第六條

船中醫員一名ヲ備ヘ置ク

第七條

馬關兵庫兩港ニ於テ數時間碇泊以船客航洋ノ勞ヲ醫ス其間或ハ上陸散步又ハ旅亭ニ休息シ入浴スルノ備ヲ爲ス

第八條

横濱港ヨリ上陸東京ニ前往ス同港ニ外務省ヨリ更ニ迎接官ヲ出張セシメ前導スヘシ

（右附屬書一漢譯文）

第一條

艤火輪船黄龍號應貫信使一路航行之需如其煤炭諸費悉係我政府營辨不須貫信使傭賃

第二條

本省派外務少錄水野誠一外務七等書記生尾間啓次負荷貫信使一行旅航事務

第三條

外務六等書記生荒川德滋同中野許多郎及生徒十一名負荷通譯及延接事務

第四條

旅館設在東京第四大區錦街第二街一番地今豫附館圖一枚

第五條

船內厨饌一切自我供給之是爲船內一竈同炊其費用難辨主客也莫煩貫慮

第六條

軍醫員一名在船內

第七條

船到馬關兵庫兩港數時間碇泊以療航客之憊此時上陸間行或投旅舍灌浴梳髮攝養具有准備

第八條

船由横濱港上陸汽車一鶩前往東京到該港別有外務官員辨理貫信使入京之鹵簿





（附屬書二）

艦內規則

一艦內各房定有上中下等級須聽艦長指示各就其室

一艦內切戒火燭須小心注意吸烟亦有時有處非就其處則雖時限內不得吸之非得其時則雖就其處不得吸之嚴禁房內密鑽燧吹吸

一每室必有燈限時消滅故秉別燭出入亦爲所嚴禁

一艦內設有厠圊非就其處不濫尿溺　「編者云尿恐屎字依原本不改」（朱書）

一艦內禁濫吐唾要於唾壺或艦外而吐

一盥漱有場使水一切於其處禁他所氾濫

一水火夫行船極爲劇甚不可近切傍觀或妨張綱轉舵之事其或誤觸汽鑵踐鐵鎖入器械場則害及其躬

一甲板上禁快譚壯語艦內過昏夜戌牌亦然莫喧聒亂運艦號令

一甲板上限逍遙步趨之處禁限外隨意步趨

一嚙飯有定所有時限必要一齊同食不得各自隨意就席若其疾病有不能出房室者則告情辱食亦無妨

艦內有不許乘客進入之處切戒勿强迫濫過

一所帶有之行李物品須付之監督員收藏若其或有火藥易爆發或脆弱易腐敗之物則要詳明其性質以便特殊收藏但其朝夕必需物料或坐間不可須更離之打包小籠置之房內亦無妨

一會食時禁飲酒若酷嗜之者於房內就臥寢時飲少許亦無妨若使酒狂噪紛譁違者以犯禁論

是係船客塔載禁例士君子一見知了無敢犯之若其僕隷不可不揭示切戒玆譯述以告敢煩諸君丁寧告戒豫防船之患

明治九年四月

## 五七　五月三十日（假）

### 修信使迎船乘組水野少錄等ノ復命書

（朱書）「修信使迎船乘組水野少錄外三名復命書」

明治九年四月廿八日横濱より郵船玄海丸え乘組出發同月三十日午前二時神戸港着直に兵庫縣令への公書携持出廳縣令え面接にて相渡信使尋問の儀等委詳口陳夫より主任の官員え旅宿取設方等屢々引合の末海岸通り貿易會社借受の事に決し賄向等其筋へ豫め談示を遂け置候事黄龍丸大阪より回艦遲延に付三菱社員え引合候處大阪川口にて連日風浪の爲

め積米陸上け淹滯竝に從來乘組の外國人と引替の機關司延着等の事情申出候間追々遷延期日を衍り候樣にては不都合に付水野少錄荒川書記生尾間書記生五月五日大阪出張黃龍丸船內一覽候處元來同船は刻日發港の郵船に無之臨時回船荷物を重に致候由にて中甲板下は凡て敷板無之中々八十人餘の人員體載能乘組不相成候に付米陸上中に棚部屋取建吹烟所貳ケ所及闕品取整方等船長及會計主務の者え相談し賄方臨時四人雇上けの事等一々申談即日神戸に歸る五月七日午後六時黃龍丸神戸入港同七日驛遞寮より乘組の權大屬小杉雅三え面會中檣號族の事及船中取締向の儀に付熟儀の事夫より船中小繕も落成船足砂礫積入方等相果十日午後より兼て神戸にて買上の賄方物品等悉裝載同夜十貳時神戸拔錨同月十二日午前八時下ノ關着港即時上陸の處縣官出張無之に付區長井上保申へ引合山口縣令への公書送達方申談修信使渡來の儀竝取扱振等申聞旅館は海岸東細江町永福寺と決し賄向並端舟都合等其筋相談し同日午後四時下ノ關拔錨同十三日午前八時朝鮮釜山浦着即時上陸公館に到り山之城四等書記生以下一同え面接公信書類相達豫て宮本大丞殿より被申含候生徒出京の儀に付委詳口陳の處山之城書記生より



差支筋無之旨申出同人より一同え出京御達書相渡候事同日訓導玄昔運來館候樣通達す翌十四日訓導玄昔運來館引合の事委詳對話書にあり爰に略す十七日訓導玄昔運再來館引合向前同斷此日訓導玄昔運より迎接官一同並小杉驛遞權大屬船長鳥谷保え酒肴を贈らる衆議の上受納し答禮として紋紙二百葉愛日樓文壹部を贈る十九日より廿二日午前迄に修信使一行荷物大小六百十六箇積入相果つ日に迎接官及附屬生徒等割合出張取締致候事五月十八日兼而十七日應接の節申出有之候東萊府使よりの贈物酒肴訓導玄昔運手翰相添差越其品北魚七十連鷄卵五十箇燒酒二瓶なり受納の上折半を黃龍丸え分送す廿一日訓導玄昔運及上判事高永喜來館直に黃龍丸え罷越部屋割彼の都合に因て相改む信使の部屋は上房と題す上官の分は官姓を記す水野少錄荒川書記生尾間書記生立合居候得共廉立候儀は過般兩回の應接を累申せしのみ餘は雜談耳故に記せす廿二日午後二時修信使一行七十六人上船す艦中客席にて水野少錄中野書記生尾間書記生島田中軍醫小杉驛遞權大屬面謁す荒川書記生船長鳥谷保は甲板出迎の節相濟

修信使曰

今般遠く滄溟を超て我輩迎引の爲御出張御太儀に存候

水野少錄曰

修信使として我國え被來候段御苦勞に存候

右畢各自其房に就き休息す午後四時釜山拔錨廿三日午前七時四十分下ノ關着暫あつて上陸旅館永福寺へ入る高島山口縣十三等出仕兼帶二等警部能一三等警部巡查二十人山口縣より出張にて旅館警衛等嚴かなり兼て陸上夜泊は不致積申入置候處一行の者船に慣れす頗困難今猶氣分常に復せす旁本夜は是非陸上に一泊の勞苦を慰め度段申立候に付碇泊船は動搖無之陸地と異なるなく從是向瀨戸內は海波穩なる事且本省よりは少しも早く着京候樣屢電信も有之着發日時相違に付ては諸般の手順齟齬不都合の趣懇諭すれとも聞入す緊く請求已まず仍て此段本省え電報し彼の意に任せ永福寺へ一泊爲致翌廿四日午後四時下ノ關拔錨す下ノ關滯留中修信使より東萊府使え書狀達方倚賴に付長崎縣令え照會し山之城書記生の手を經て屆方取計候事滯在中食膳茶菓我方より仕賄候に付厚く謝す廿五日夜十二時神戸着翌廿六日午前七時三十分修信使已下一同上陸兼て取設の旅館貿易會社に入る神戸市中人民より修信使安着祝賀として菓實大籠入壹箇進呈致度旨縣官阿部誠一紹介にて申出乃玄昔運え申入披露の處落手相成厚く謝辭申述ふ彭城兵庫縣大屬出頭兼て縣令尋問に不及段御指示にはあれとも今同盟國の使節我管地に滯留するに不問は如何にも不安存候間御指令を參酌し某名代とし彭城大屬差出候旨申述候間玄昔運より披露信使面謁す爲答禮上判事玄濟舜縣廳え出頭す譯官中野書記生出張の事書間は市中一般國旗を揭け夜は街頭に紅燈を張り壯觀をなせり縣官の注意諸般大に都合能修信使も饗應の厚きを陳謝す即日午後五時乘艦翌廿七日午前六時神戸拔錨此際東萊府使への書狀達方依賴に付先規に因り取計尤右等の費用は彼より仕拂可致旨申出候間入費相分候上猶御相談可致旨申置廿九日午前四時橫濱着港八時上陸會議所へ入り休息十時四十五分の汽車便より出京直に錦街旅館え入る時一時半なり黃龍丸直に品川え回船同日中荷物端舟へ相移し神田橋下迄運送翌卅日無滯旅館へ運搬諸事御用相濟候此段復命仕候也

明治九年五月

外務少錄　水野誠一印

外務六等書記生　荒川德滋印
外務六等書記生　中野許太郎印
外務七等書記生　尾間啓次印

註　本號文書日附ヲ缺クモ假ニ此處ニ挿入ス

## 五八

五月三十日(假)　朝鮮國禮曹判書金尙鉉ヨリ寺島外務卿宛

**特命全權辨理大臣朝鮮國ニ前往シ日鮮修好條約ノ成立セルヲ回謝シ且舊好續修ノ爲金禮曹參議特派ノ件竝ニ贈品目錄**

大朝鮮國禮曹判書金尙鉉(朱枠)　呈書

大日本國外務卿大人　閣下

維時首夏清和伏惟
貴國雍熙
本邦輯寧均堪驩誦
本邦之與
貴國
隣誼懇款蓋有三百年之舊則脣齒攸依心膽相照固其互也
忽因事端彼此疑阻抑亦遐夐之地傳聞之言何能保無差爽
迺者
貴國大臣航海辱臨
本邦亦遣大臣迎接於畿沿鎭撫之府談晤歷日辨理精詳積歲
含蘊一朝開釋何等快活何等忻幸惟我
聖上濟念舊好之續修
特派禮曹參議金綺秀前往庸寓回謝之義尙鉉祗承
寵命謹將尺幅陳告大意庶幾
照領欣慰無斁恭希
若序保愛以
副遠懷不備
丙子年四月　日(朱枠)
禮曹判書金尙鉉(朱枠)

別幅
虎皮貳張
豹皮貳張
雪漢緞貳匹
白綿紬拾匹
白苧布拾匹
白木綿拾匹
各色筆五拾柄
眞墨參拾笏
憑付隨員略伸菲儀
晒收是望
丙子年四月　日(朱枠)
禮曹判書金尙鉉(朱枠)

註　本號文書日附ヲ缺クモ朝鮮國修信使ノ外務省ヲ訪問シ之ヲ差出セル日ニ挿入セリ

## 五九

五月三十日(假)　朝鮮國禮曹參判李寅命ヨリ外務大丞宛

**全權大臣朝鮮國ニ派遣アリタルヲ謝シ禮曹參議特派ノ件竝ニ贈品目錄**

(朱書)「二折半明ケ」

大朝鮮國禮曹參判李寅命(朱枠)　呈書

大日本國外務大丞大人　閣下

維夏始熱緬想
台候鴻禧溟海隔遠傳聞易訛兩相疑阻屢閱星霜每念隣交舊誼不勝慨難何幸
貴國大臣來與
本邦大臣洞析明辨無復留碍有若蘭畹雨收風定而其臭固自如也今奉
朝命
特派禮曹參議(ママ)議金綺秀以寓修謝之義從玆敦宿契而訂永好懽忻曷已肅此不備仰惟
照亮
丙子年四月　日(朱枠)
禮曹參判李寅命(朱枠)

別幅
豹皮貳張
青黍皮拾張
雪漢緞貳匹
白綿紬拾匹
生苧布拾匹
白木綿拾匹

各色筆伍拾柄
眞墨參拾笏
憑付隨員略伸菲儀
哂收是望
丙子年四月　日
禮曹參判李寅命（朱印）（註　朱印内ニ「禮曹參判之章」ト朱書シアリ）

註　本號文書日附ニ關シテハ前號文書ト同斷

## 六〇　五月三十一日　寺島外務卿ヨリ朝鮮國修信使金綺秀宛

### 朝鮮國修信使ニ謁見仰出サレタル旨通知ノ件

一　朝鮮國修信使ヘノ書翰

無號

以書翰致啓上候然ハ貴下今般修信使トシテ御來着ノ趣我
皇帝陛下ヘ及奏聞候處滿足ニ被思召候依テ特別ノ叡思ヲ以
テ貴下ヲ御引見可被成旨被仰出候條來ル我六月一日午前十
一時赤阪
皇居ヘ御參内可被成候此段得御意候敬具

明治九年五月卅一日　外務卿　寺島宗則

朝鮮國修信使　金綺秀貴下

（右漢譯文）

玆照會者貴下以修信使來我東京卽恭奏我
皇帝陛下陛下深嘉之特
旨准貴下謁見我六月一日午前十一時須昇赤阪皇居爲之告示
敬具
明治九年五月三十一日　外務卿　寺島宗則

朝鮮國修信使　金綺秀貴下

## 六一　六月一日　朝鮮國修信使金綺秀ヨリ寺島外務卿宛

### 朝鮮國修信使謁ミテ參内スヘキ旨通知ノ件

附記一、朝鮮國修信使參内謁見式次第書
二、謁見仰付ラレタル朝鮮國修信使姓名
三、朝鮮國修信使金綺秀ヘノ下賜品目錄





伏蒙
尊駕光降繼以
華函傳到　公文一度謹當依此趨走特荷帶指尤切感誦渝此順
侯
五月初九日　修信使　金綺秀（朱印）（金綺秀印）

外務卿閣下

註　六月一日修信使參内ニ關スル文書三通左ニ附記ス

（附記一）

六月一日

朝鮮國修信使内謁見式

一當日午前第十一時修信使ヲ外務官員同伴參内ノ事
　但修信使出館注進外務省等外之ヲ勤ム
一當日關係ノ官員大禮服着用ノ事
一修信使御車寄ニ至リ下車昇殿ノ事
　但修信使通行ノ節番兵捧銃式ヲ行フ
一式部官員修信使ヲ迎ヘ假ノ控所ニ誘導ス
一衣冠整了テ更ニ控所ヘ誘導ス
一外務卿宮内卿式部頭之ニ接ス
一式部頭修信使參内ノ旨ヲ言上ス
一内宮出御
一修信使ヲ召ス式部頭之ヲ外務卿ニ告ク卿修信使ヲ引テ
　御前ニ進ム
一立御
一修信使進ンテ立ツ外務卿名ヲ披露ス修信使拜禮ス
一御默答アリ
一禮畢リ修信使退ク
一控所ニ於テ茶菓ヲ賜フ

（附記二）

別記

修信使禮曹參議　金綺秀　正三品
別遣堂上嘉善大夫　玄昔運　上々官
別遣漢學堂上嘉義大夫　李容肅　同

「編者云（朱書）參内ノ節玄李二人ハ昇殿シテ控所ニ在ルノミ謁見ヲ賜ハラス又金綺秀ヲ御次ノ間迄誘導スルハ宮本外務大丞ニシテ御前ヘ誘導スルハ鮫島外務大輔ナリ」

（附記三）

修信使禮曹參議金綺秀ヘ下賜品

目　錄

一刀　壹口
一漆器　六個
一薩摩陶花瓶　壹雙
一鏈　五握
一赤地錦　壹卷
一紅白紹　貳匹
一甲斐色絹　拾貳匹
一越後白縮布　拾貳匹
一越後生縮　拾貳匹
一奈良白曝麻布　拾五匹

## 六二　六月一日　寺島外務卿ヨリ三條太政大臣宛

**修信使ヨリノ獻上品ニ關シ上申ノ件竝ニ之ニ對スル太政大臣決裁**

**附屬書**　朝鮮國修信使ヨリノ獻上品目錄

甲第七拾八號

太政大臣　三條實美殿　外務卿　寺島宗則

朝鮮國修信使ヨリ獻上品ノ儀

今般朝鮮國修信使來朝別紙目錄（註附屬書）ノ通陛下ヘ獻上致度旨申出右ハ御受納相成可然ト存候此段上申候也

明治九年六月一日

（朱書）「上申ノ通　明治九年六月九日　太政大臣印」

**（附屬書）**

主上ヘノ獻品　別幅
雪漢緞伍尺
虎皮伍令
豹皮伍令
青黍皮貳拾張
白苧布貳拾匹
白綿紬貳拾匹
白木綿貳拾匹
采花席貳拾張
鏡光紙貳拾卷



黃蜜參拾斤

## 六三　六月八日　島田海軍中軍醫ヨリ寺島外務卿宛

**朝鮮國滯在中同國人民ニ種痘其ノ他ノ治療ヲ施シタル旨報告ノ件**

明治九年四月廿八日朝鮮航海ノ命ヲ奉シ玄海丸ニテ午後四時拾五分横濱ヲ出帆シ同卅日午前三時神戸港ニ投錨シ汽船黃龍丸ノ來ルヲ俟チ五月十日夜十二時拔錨同十二日午前六時馬關ニ投錨ス同日午後四時十五分同所拔錨翌十三日午後四時十分對州泉ノ小松崎ニ對航シ同八時釜山浦ニ投錨ス此際海岸ヲ望メハ白斑羅列シテ恰モ薄雪ノ如シ之レヲ望遠鏡ニ望ムニ盡ク白衣ノ人民ナリ暫クアリテ上陸シ日本館ニ入リ館長代理外務四等書記書山（生カ）ノ城祐長ニ面接ス翌十四日報知ニ依テ別遣堂上訓導玄昔運就館シ修信使一行ノ庶務ヲ擔當ノ官吏ト談論ス予天然痘ノ害ヲ說キ次テ精シク種痘ノ良法ヲ示スニ彼レ肯セス此理アルナシ天賦ノ規病何ソ人工ヲ以テ防クヲ得ン先ニ我國一法アリ痘痂ヲ薰シテ嗅入ス此法極メテ害アリ恐クハ此類ナラン乎予大ニ之レヲ駁シテ曰ク我國數十年間數萬ノ人民ニ施スニ極メテ良法ニシテ一モ其害ヲ見ズ之レ我政府ノ貴國ニ傳法スル所以ナリ且ツ兄言ハスヤ先ニ薰法アリ云々假令其法ニ我彼精粗ノ差アリト雖モ到底人口ヲ以テ天賦ニ換ルモノニアラスヤ乃チ我法ハ精ノ精タルモノニシテ數百萬中一失ナシ之レ政府ヲ以テ保證スルモ敢テ辭セサル所ナリ依テ速ニ人民ニ布告シテ可ナラン於之彼レ語塞リ稍々アリテ曰ク疑念氷解セリ然ルモ先ツ經驗トシテ我兒ニ施シ實効ヲ見テ而テ後チナラザレハ良法トシテ布告スル能ハス然ラハ我力ヲ以テ人民ヲ說諭シ施行スルモ妨ナキ理ナリ如何曰ク妨ナシ依之翌十五日阪下村ニ行キ「トグス」（坂下村ノ民ニ稍々日本語ヲ解スル者アリ之レヲトグスト云フ蓋シ小通事ノ義ナリ）ヲ以テ該村ノ者ニ說諭スルモ愚人ノ常ニシテ狐疑甚シク又恬トシテ毫モ感セス於之思考スルニ無形ノ理ヲ以テ諭スヨリモ寧ロ有形ノ術ヲ施シテ導クニ如スト決シ群集中ヲ覽ルニ先天兎唇（ミツクチ）ノ甚ダ醜體ナル者アリ呼テ治法ヲ示スニ彼レ驚愕シテ曰ク吾不具ハ母腹中已ニ此醜體ヲ受ケ胚胎ス故ニ地方兎唇ヲ目シテ先天ノ佛罰ト云フ治法アルノ理ナシ蓋シ貴國ニモ亦此佛罰アリヤ曰ク之レアリ然レ共佛力ニ勝ル醫術ヲ以

テ直チニ完全ノ人トナス汝モ亦完全ノ人トナル意ナキヤ彼從容トシテ曰ク眞ニ治法アラハ請フ速ニ救ヘ哀哉爵人ノ名故ヲ以テ廿六歳未ダ配偶ヲ許ス者ナシ曰ク諾明日館ニ來レ必ス完全ノ人トナサン於之衆ニ向テ曰ク汝等能ク此者ニ注目シテ治術ノ後必ズ兩人ノ疑ヒアル事勿レト大言シ歸館ス明日來ル直チニ法ヲ以テ術ヲ終リ藥ヲ與ヘテ安眠セシメ二時ヲ經テ歸村セシム翌日來テ喜フ事限リナシ又其弟ヲ伴來シテ種痘ヲ乞フ施術ス明朝ニ至テ縫針ヲ脫スルニ拙手偶中シテ接合甚ダ整ヒ僅ニ一細線ヲ痕スルノミ是ヨリ頑民狐疑卒チ氷解シテ盡ク種痘ヲ乞フ種ヲ盡シテ十六兒ニ施行ス兎唇又一名來ル年甫拾六直チニ修術ス是ヨリ神醫來ルト四方ニ傳稱シテ治ヲ乞ハント欲スル者甚タ衆シ然ルニ西門ノ守衛東萊府ヨリ士卒ノ如キ者來テ日本館ニ出入スル者ヲ改ム總テ門鑑ヲ以テ證トナス目今大約七八十名ノヨシ但シ番卒ノ交代ハ十日間ト頑トシテ出入ヲ許サズ予之レヲ聞キテ舌官一名ト直云フチニ該門ニ至リ患者ノ出入自由ニナスベシト談判ナスニ彼レ曰國禁ナリ許スヲ得ス予叱シテ曰ク我レ知ル汝等先ニ一患者ヨリ錢ヲ得テ通行ヲ許セシニ非スヤ加之修信使ヲ我國ニ送ルノ際ニ當リ頑論何ゾ解ケサルヤ固守シテ許サザレバ吾直チニ爲ス所アラント迫ル彼レ曰ク然ラハ我番中ノミ自由ニ出入ヲ許スト約ス歸館ス是ヨリ患者陸續トシテ來ル就中捧腹ナルハ十有餘年前失明シテ兩眼恰モ湯煎セル虹螺ノ如キ者アリ或ハ癩疾ニ罹ル故ニ十年眉毛脫落肢尖腐落等ノ如キ者來ル一朝治ヲ得テ復舊ヲ乞フ然ルモ之レ僞神醫ノ能ク及ブ所ニアラサルナリ

眼疾甚タ多シ就中結膜炎最モ多シ按ズルニ海岸ノ砂上ニ住居シ光線ノ反射ヨリ起ルモノナラン發病直チニ皓凡水或ハ硝酸銀水等ノ點眼ヲ用レハ速ニ治ス可キモ醫術乏シキ故ニ或ハ角膜炎或ハ虹彩炎等ニ變轉シ終ニ失明スル者多シ

寄蟲多シ按スルニ撰スシテ肉食ヲ嗜ム故ナリ一患者藥ヲ與ヘテ大約一丈二尺餘ノ條蟲（サナダムシ）ヲ獲タリ

癩疾多シ原因知ル可ラズ

間歇（オコリ）熱多シ按スルニ卒ニ天候ノ變化及ヒ蚊ヲ防ンタメ白濱ニ曝寢スル故ナリ

歸路修信使一行中患者五六名ニ過ス是モ易々タル症ノミ船病ハ甚ダシ只管姑息法ヲ施シ投錨ノ全治ヲ俟ノミ

右ハ出發ノ砌宮本大丞殿及ヒ軍醫寮前田六等出仕殿ヨリ彼國衛生ノ術ニ乏シク憫然タルノ御厚意ニ據リ滯在中拙術ヲ施シ候略誌ニテ文中或ハ不都合ノ語モ有之候哉モ測カタク候得共一時ノ權道ニシテ止ムヲ得サルノ故ニ御坐候

明治九年六月八日　　海軍中軍醫　島田脩海

外務卿　寺島宗則殿



---

## 六四　六月十三日　朝鮮國修信使金綺秀ヨリ寺島外務卿宛

### 修信使歸國ノ期日確定セル旨通知ノ件

附記　明治九年五月朝鮮國修信使來聘日表

（朱書）「歸國商定ノ報知書」

伏惟天晴

台體萬祺區々禍祝　綺秀歸期俄與貴省權少丞商確以今二十七（マヽ）日敦定卽　貴國歷六月十八日也凡關事務指麾幹辦專係

台下執玆敢仰報伏希

崇裁

丙子五月二十二日（朱書）「我六月十三日」　修信使金綺秀　印

外務卿閣下

註一、本號文書中ニ於テ修信使出發ノ期日我六月十八日ヲ陰曆五月二十七日トシタルハ誤リニテ五月二十六日ナリ

二、本號文書發送ノ日附彼ノ五月二十二日ハ我六月十四日ニテ六月十三日ニ當ラス朝鮮國修信使來聘日表ニヨレハ六月十三日修信使ヨリ本文書ヲ提出シ居レルニ付此ノ日ヲ採リタリ

三、修信使來朝ヨリ歸國マテノ日表左ニ附記ス

（附記）

明治九年五月朝鮮國修信使來聘日表

一三月二十八日別差李濬秀草梁館ニ來テ修信使來聘決議ノ旨ヲ報シタリ但シ同館在勤山之城四等書記生ヨリ三月三十一日付ヲ以テ上報四月十六日本省ニ達セリ

一四月六日七日李濬秀幷同十日訓導玄昔運同館ニ來リ信使一行人員及發途日限我火輪船ヲ借入度等件々ヲ申出タリ因テ具上ノ爲メ在勤尾間七等書記生上京四月二十日到着セリ

一五月七日信使ノ迎船驛遞寮所轄滊船黃龍丸大阪港ヨリ神戸ニ廻着ス是ヨリ先キ迎接官幷醫員等郵船玄海丸ニテ神

戸ニ滯在セリ

一五月十日迎接官一同黄龍丸ニ乘組神戸港拔錨

一同十三日迎船釜山港着セリ

一同二十二日黄龍丸修信使一行七十六名ヲ載セテ釜山港拔錨

一同二十三日午前八時黄龍丸馬關着信使上陸シテ東細江町永福寺ニ一宿ス

一同二十四日午後四時黄龍丸拔錨

一同二十五日午後十二時黄龍丸神戸港ニ着ス

一同二十六日午前八時過キ信使以下一同上陸貿易會社ヲ以テ休憩所トナス但人民祝賀トシテ菓實大一籠ヲ贈ル信使受テ謝ス縣令ヨリ屬官ヲ以テ尋問シ信使亦屬員ヲ派シテ回禮ス

一同二十七日午前六時黄龍丸神戸港拔錨ス

一同二十九日午前六時過黄龍丸横濱港ニ着ス前日迎接ノ官員同所ニ出張アリ信使ヲ誘導シテ本町町會所ニ休憩イタサセ信使一行ヘ茶菓酒ヲ差出シ同九時三十五分休憩所ヲ發シテ停車場ニ至リ小憩同十時四十五分出發ノ滊車ニテ同十一時四十三分東京新橋停車場ニ着シ同所樓上ニ小憩茶ヲ喫ス正午十二時十五分同所ヲ發シ午後二時十分錦町二丁目壹番地旅館ニ着セリ行裝ノ遲緩ナル以テ知ルヘシ但シ信使ノ前列ニ騎兵ヲ以テ警備トセリ

一同日古澤外務權少丞ヲシテ信使ヲ尋問セシメ且明三十日午前十時外務省ヘ出頭書簡ヲ可差出旨ヲ信使ニ申入レタリ

一同三十日午前九時信使出門外務省ヘ出頭禮曹判書ヨリ外務卿ヘ禮曹參判ヨリ外務大丞ヘノ書簡ヲ差出シ正午十二時過歸館セリ

一五月三十一日外務卿ヨリ書簡ヲ以テ謁見ヲ賜ルニ付六月一日午前十一時赤阪皇居ニ昇ルヘキ旨ヲ信使ニ申入レタリ

一同日午後一時上判事玄濟舜幷中官下官ヲシテ宮内省ニ至リ信使ノ獻品ヲ差出サシム歸路博物館ヲ一見セシメタリ

一六月一日午前八時信使出門參内謁見ヲ賜ハリ畢テ吹上禁園拜見瀧見離宮ニ於テ午餐午後三時過歸館セリ

一同二日午後太神樂丸一權之進ヲ旅館ニ召テ演技ヲ信使ニ一覽セシメタリ

一同日信使ヨリ訓導玄昔運ヲシテ宗從四位ヲ尋問セシメタリ





一同三日信使及上々官兩人ヲ延遼館ニ於テ午餐ヲ饗シ太政大臣始參議各省長官對食上官以下一同ヲ其旅館ニ於テ晩餐ヲ饗セリ對食ナシ但シ信使等ハ饗應畢テ濱離宮拜見歸路宮本外務大丞同伴博物館ヲ一覽シテ午後六時過歸館セリ

一同日午前信使ヨリ各省長官ヲ尋問ノ爲メ屬官ヲ差出タセリ

一同四日信使ヨリ屬官ヲシテ黑田參議井上議官ヲ尋問セシム歸路博物館ヲ一見セリ

一同日午後六時過手品師柳川一蝶齋ヲ旅館ニ召テ演技ヲ信使ノ興ニ入レタリ

一同五日午後森山外務權大丞來テ信使ヲ誘引セントス信使固辭ス因テ訓導玄昔運始メ十八人ヲ伴行シ紙幣寮ヨリ上野公園淺草本願寺同觀音境内象ノ觀物花屋敷廣瀨自慤電氣器械等ヲ巡覽シテ還ル

一六月五日牛肉貳百斤鷄百羽鵞百羽生魚百尾葱貳百把大根貳百把菜貳百把ヲ信使ニ下給ス

一同六日午前八時三十分信使一行六十六人出門日比谷練兵所ニ到歩兵騎兵砲兵ノ操練ヲ拜見シ偶英伊兩公使ニ面接セリ畢テ外務省ニテ午餐シテ還ル

一同七日午後一時過信使宮本外務大丞ヲ訪ヒ午後九時過歸館セリ

一同八日午後一時過信使兵學寮ニ到リ大砲空發幷火矢水雷其他兵學教場等ヲ見閲シ畢テ招ニ應ジテ井上議官ノ宅ニ到リ九時四十分歸館セリ

一同九日午前信使及屬官數名内田九一ヲシテ寫眞セシム我ヨリ之ヲ勸ルニ因ルナリ

一同日皇女梅宮樣薨御ニ付鳴物停止因テ信使ニ告ク信使ヨリ國喪ノ義ハ始メテ承知セリ奏樂及朝暮ノ軍樂ヲ不用ト云ヘリ（信使ニ告ルハ事情アリテ十日ノ朝ナリ故ニ告ルニ昨日ヲ以テス）

一同十日招ニ應シテ午前九時過信使宗從四位ノ別莊ニ到リ午後八時歸館セリ

一同十一日招ニ應シテ午後一時過信使森山外務權大丞ノ宅ニ到リ午後八時前歸館セリ

一同十二日午前九時過信使近衛兵營ヨリ砲兵本廠一覽本廠ニテ午餐了テ午後工學寮及製作所一覽了テ伊藤工部卿ニテ晩食ヲ饗シ八時歸館セリ

一同十三日信使來ル十八日上途商定ノ旨書ヲ以テ外務卿ニ報シタリ

一六月十四日午後四時信使書籍館ニ到リ孔子木像ヲ拜シ講堂ニ於テ酒肴ヲ饗シ畢テ女子師範學校及開成校教場ヲ巡覽シテ午後八時歸館セリ

一同十五日信使及上々官兩人延遼館ニ於テ饗應ヲ賜ハル太政大臣等對食セリ午前十時信使幷屬官出門元老院ニ到リ議事堂一覽了リ延遼館ニ到リ食事了テ舞樂罷テ馬上打球ヲ一覽セシメ午後七時過歸館セリ

一同十六日午後角兵衛獅子（旅館門前ヲ過ク）ヲ呼テ信使ノ興ニ入ル

一書寫官朴永善順天堂ニ到リ種痘法ヲ傳習シテ還ル（書寫官トアレトモ醫員ナラン其行李多ク藥ヲ藏スルヲ見ル）

一同十七日午前十時信使外務省ヘ出頭因テ卿丞ヨリ判書參判ヘノ返簡及音物ヲ遞與シ且朝廷ヨリ信使ヘ所賜ノ御品ヲ渡シ又外務省ヨリ屬官以下一同ヘ物品ヲ下給セリ

一同日外務卿ヨリ書ヲ以テ信使歸路大阪造幣寮ヲ一覽スルヽヲ告ク信使承諾ノ謝書ヲ出タセリ

一同十八日午前十時三十五分信使一行出發正午十二時ノ滊車ニテ歸國セリ新橋停車場迄路順警備及横濱休息等ハ上京ニ同シ

神奈川縣權令野村靖來訪因テ信使縣廳ニ到テ回禮スヘキ處權令不在ノ趣ニテ屬官ヲシテ代ラシム

午後五時四十五分信使一行黄龍丸ニテ横濱拔錨六時四十五分横須賀入港

一十九日午前遠武主船助黄龍丸ニ來テ信使ヲ尋問シ信使病ヲ以テ面接ヲ辭謝ス十一時訓導玄昔運上陸シテ回禮ス因テ天城迅鯨二艘ノ製作ヲ實驗シ幷各所ヲ巡視シテ歸艦午後五時十分拔錨セリ

一六月二十二日午前七時三十五分黄龍丸神戸著ス風浪ノ爲メニ遲延セリ此日信使書ヲ外務卿ニ呈シ病ニ依テ大阪造幣寮ヲ一覽セサルヲ謝ス

一同二十三日黄龍丸滯泊午前該港在留米國領事ヨリ尋問トシテ横文三封差越タレトモ信使之ヲ斥シテ受ケス因テ護送官ヨリ領事館ニ照會スルニ我政府ノ爲メニ祝スル而已ト云ヘリ後チ横文ヲ開封スレハ領事ヨリ信使及玄昔運玄濟舜ヘ宛タル名票ナリ同午前十時十五分信使以下四十五名上陸貿易會社ニテ休息セリ信使ヨリ屬官一名ヲ派シテ縣令ヲ尋問シ縣吏來テ回禮ス午後十二時黄龍丸拔錨





一同廿五日午前六時十五分黄龍丸馬關ニ著ス信使以下五十名上陸永福寺ニテ休息午餐午後四時五十分拔錨

一同二十六日午後四時四十分黄龍丸對州嚴原港著ス六時十分信使以下七十二名上陸西山寺ニテ晩餐ヲ喫シ一宿ス九時宗從四位隱居家扶ヲ以テ信使ヲ尋問ス九時四十分玄昔運ヲ派シテ回禮ス

一同二十七日午前信使始一同宗從四位ノ宅ニ到リテ饗ヲ受ク午後八時十分黄龍丸嚴原港拔錨ス

一同二十八日午前七時三十分黄龍丸朝鮮釜山浦着ス信使一行彼大東館ニ上陸シ護送ノ官員モ送テ同館ニ分手シテ去ル

此日信使ヨリ外務卿ニ宛神戸ニテ發スル所ノ書翰達セリ即チ病アリテ大阪行ヲ止ムノ義ナリ

一六月三十日午前七時黄龍丸釜山港拔錨セリ

一七月六日午前七時五十分黄龍丸横濱着港信使護送ノ輩午前十時四十五分横濱出發ノ汽車ニテ歸京直ニ本省ニ出頭顚末ヲ具上ス

附

一信使五月廿九日東京ニ着シ六月十八日歸國ス滯京二十日ナリ又該使五月二十二日釜山港ヲ發シ六月二十八日同港ニ歸着ス日數三十八日也

明治十年五月

奥義制述

## 事項四　日鮮間通商章程締結ノ爲宮本外務大丞渡鮮一件（事項一參照）

**六五**　三月二十五日　三條太政大臣ヨリ外務省ヘノ達書

**日鮮間ノ貿易章程及諸規則等取調フヘキ旨達ノ件**

外務省

今般朝鮮國條約相整候ニ付テハ貿易上之章程及諸規則等早々取調可伺出此旨相達候事

明治九年三月廿五日

太政大臣　三條實美

**六六**　六月三日　寺島外務卿ヨリ三條太政大臣宛

**日鮮修好條規ニ基キ近々日鮮間ニ通商章程等ノ商議アルヘキニ付具案上申ノ件竝ニ之ニ對スル三條太政大臣決裁**

**附屬書一、**　日鮮修好條規附錄案

二、　日鮮通商章程案

三、　公貿易ノ條陳書

朝鮮國修好條規第十款（十一款カ）ニ兩國既ニ通好ヲ經タレハ別ニ通商章程ヲ設立シ兩國商民ノ便利ヲ與フヘシ且現今議立セル各款中更ニ細目ヲ補添シテ以テ遵照ニ便ニスヘキ條件共自今六箇月ヲ過スシテ兩國別ニ委員ヲ命シ朝鮮國京城又ハ江華府ニ會シテ商議定立セン云々ト有之依テ別冊修好條規附錄（註附屬書一ニ）案壹本貿易章程案壹本取調差出候元來宗氏廢藩後ハ別紙（註省略）丙號輸出入表ノ如キ微々タル貿易ニ有之貧困無產ノ朝鮮國向來貿易催進ノ目的難相立候加之目今迄ハ對州人民ニ限リ專貿易ヲ許シ有之候得共向後ハ日本全國ノ人民何レノ港ヨリ發船シテ彼國ヘ往キ彼國ヨリ歸船シテ我何レノ港ニ入ルモ隨意ノ事ニ相成候得ハ

註　朝鮮ノ交易ハ蒸氣船ハ勿論西洋形ノ風帆船ニテモ費用多分ニ相掛リ其所得ヲ償フニ足ラス故ニ日本形商船ヲ以簡易質素ニナシ往返セサレハ貿易ノ利潤ヲ得カタキナリ此日本船ヲ以往復ノ間必ス長崎又ハ對州ヘ寄泊シ輸出入稅ヲ收ムル如キ拘束法アリテハ帆船風便ヲ失フ而已ナラス時日ヲ空過シ且稅額ヲ課セラル、ヲ恐レ彼地ヘ前往ヲ好ムモノ增殖セサルヘシ收稅スルノ場所難相立ト存候且輸出稅ハ各國貿易品スラ是ヲ廢止シテ我作業ヲ催進セント欲スル時勢ニ付朝鮮輸出稅ハ今ヨリ無論ニ是ヲ徵セス彼國ヨリ輸入シ來ル物品ト雖少數且多クハ實用品ニテ國害トナルヘキ物品無之候條是亦數年ノ後迄ハ無稅ニ差定メラレ曾テ黑田井上兩大臣獻言ノ趣意御採用相成候方可然ト存候尤右ノ外對州人民同州所產ノ米麥ニテハ不足ニテ年々支給ニ差閊候趣ニ付宗氏公貿易ノ例ニ倣ヒ數年間日本銅錫等ヲ以彼ノ米木綿ニ交換スルノ道ヲ開キ對州人民ノ困迫ヲ救度ト存候依テ右條陳（註附屬書三）書丁號附上希高議候右ハ來七月中ヲ出スシテ我ヨリ再度出張商議ノ約束ニ有之右約信ヲ失ワサル爲本月初旬中ニ何分ノ御指令相成度候依之此段上伸候也

明治九年六月三日

外務卿　寺島宗則

太政大臣　三條實美殿

（朱書）「伺之通」

明治九年六月十九日」

（朱印）太政大臣三條實美印

**（附屬書一）**

（朱書）「甲號」

修好條規附錄

曩ニ日本政府ハ特命全權辨理大臣黑田清隆副辨理大臣井上馨ヲシテ朝鮮國江華府ニ詣ラシメ同國政府ハ大官判中樞府事申櫶副大官都總府副總官尹滋承ニ委任シ日本明治九年二月廿六日朝鮮曆丙子年二月初二日雙方互ニ調印シタル修好條規第十一款ノ旨趣ニ從ヒ日本政府ハ何某ニ委任シ再朝鮮國江華府ニ詣リ朝鮮國政府ハ何某ヲ委任シ相會商シテ議立スル條款左ニ開列ス

第一款

嗣後兩國都府ニ設置スル使臣館舍ハ隨處人民ノ房屋ヲ賃借スルモ或ハ地基ヲ賃借シ館舍ヲ建築スルモ時宜ニ從フヘシ

第二款

使臣竝眷屬隨員及朝鮮各港在留ノ日本管理官ハ朝鮮國內地ヲ經過スルヲ得ヘシ

第三款

使臣館管理官ヨリ各所ヘ通スル送文ハ自費ヲ以郵送スルモ或ハ該國人民ヲ雇專差スルモ各其便ニ從フヘシ

第四款

議定シタル朝鮮通商各口ニ在リテ日本人民地基ヲ租賃スルハ各其地主ト相議シテ價ヲ定ムヘシ朝鮮政府ニ屬スル地ハ朝鮮人民官ニ納ルト同一ノ租ヲ致シテ居住スヘシ而シテ釜山草梁項ニハ從前日本公館ノ周圍ニ關門アリテ日本人ノ出入ヲ自由ナラシメサリシカ今是レヲ廢撤スルヲ朝鮮政府許諾セリ其他ノ二口モ此ノ如キ關門ヲ設ケテ出入ヲ妨クル事ナシ

第五款

議定シタル朝鮮各港ニ在ル日本人民附近地方ヲ間行シ得ヘキ道路ノ里程ハ其地ノ埠頭ヨリ算シテ直經十里日本里程トス此里程ニ滿ル處ノ地名ハ豫メ其地方官ト管理官ト議定スヘシ此里程內ハ日本人民隨意ニ行步シ或ハ旅亭ニ宿泊シ土宜ヲ買辨スルヲ得ヘシ

第六款

議定シタル朝鮮各港ニ於テ日本人民朝鮮人民ヲ賃雇スルヲ得ヘシ或ハ朝鮮人民日本ヘ往カント欲スル時罪犯等ノ故障無キ者ハ朝鮮政府之ヲ抑留セサルヘシ

第七款

議定シタル朝鮮各港ニヲイテ日本人民モシ死去シタル時ハ適宜ノ地處ヲ選ミ埋葬スルヲ得ヘシ

第八款

日本國人民日本ノ諸貨幣ヲ以朝鮮國人民ノ所有物ト交換シ得ヘシ又朝鮮國人民ハ交換シ買得タル日本ノ諸貨幣ヲ以日本國ノ諸貨物ヲ買入ルヽ爲朝鮮國指定ノ諸港ニテハ諸人民相互ニ通用スルヲ得ヘシ

朝鮮國ノ銅貨幣ハ日本國人民隨意ニ使用シ輸出入スルヲ得ヘシ

第九款

朝鮮國人民日本國人民ヨリ買得或ハ贈與ヲ受タル諸物品ハ隨意ニ使用シテ妨ナシ

第十款





議定シタル朝鮮各港ヘ他ノ外國人日本人ノ籍ヲ借リ居留商買スルハ朝鮮國政府堅ク是ヲ禁止ス

第十一款

修好條規第七款載スル所ノ日本測量船朝鮮沿海ヲ測量スルニ臨時宜ニ隨朝鮮人民ノ家ヱ宿泊シ或ハ船中當用ノ物品ヲ其地ニ就キ買辨スルヲ得ヘシ

第十二款

朝鮮國ハ海外諸國ト通信セス日本國ハ諸國ト締盟友儀アルノ故ヲ以嗣後朝鮮國ノ沿海ヘ諸國ノ船舶風波ノ爲困難シ漂着スルアラハ朝鮮國人民仁慈ノ心ヲ以相當ニ救援シ是レヲ日本國ヨリ派出ノ官員ヘ遞付シ漂氏ノ本國ヘ送還スルヲ望ム時ハ日本官員承諾セサルナシ

第十三款

右十二款ノ章程及次ニ添ヘタル通商規則共修好條規ト同一ノ權ヲ有シ兩國政府遵行シテ違フナカルヘシ然レトモ此各款中兩國人民交際貿易上實際ノ障碍ヲ起シ改革セサルヘカラサル事柄ヲ認ムル時ハ兩國政府其議案ヲ作リ一ケ年前報知シテ是レヲ協議決定スヘシ

大日本紀元二千五百三十六年明治九年　月　日

誰　印

大朝鮮開國四百八十五年丙子　月　日

誰　印

（附屬書二）

（朱書）「乙號」

於朝鮮國議定諸港日本人民貿易規則

朝鮮國議定ノ貿易諸港ヘ日本商船（政府ニ屬スル軍艦又ハ運送船ヲ除ク）入口スル時ハ三日ノ間ニ船主又ハ船長ヨリ朝鮮官廳ヘ日本人民管理官ヨリ發給シタル證書ヲ呈スヘシ

此證書ハ船主ヨリ日本船藉航海公證ノ類ヲ港內碇泊中管理官ヘ交付シ管理官是ヲ接受シタル旨ヲ證スル爲ニ與ヘシ書ナリ

且其者ヨリ其船ノ記錄ヲ呈スヘシ

此記錄ハ船名發船ノ地名船ノ噸數石數船長ノ姓名乘組人數旅客ノ姓名ヲ日本文ヲ以詳記シ船長鈐印シタルモノ也

同時ニ其船ニ裝載シタル貨物ノ報單及一船準備品ノ記錄ヲモ呈スヘシ

此裝載貨物ノ報單ハ貨物ノ名或ハ其物質ノ實名貨主ノ姓名貨物ノ斤量丈尺記號番號（之アル貨物ニ限リ）ヲ日本文ヲ以詳細

開明シタルモノ也

第二則

進口船貨ヲ起載セント欲スル時ハ船主又ハ貨主ヨリ其貨物ノ名及元價斤量箇數ヲ日本文ヲ以詳記シタル願書ヲ朝鮮官廳ヘ呈スヘシ官廳ハ速ニ卸貨准單ヲ發給スヘシ

第三則

第二則ノ准聽ヲ得タル後貨主ハ其貨物ヲ起載スヘシ朝鮮官廳ニテ其貨物ヲ驗明セント欲スル時ハ貨主是レヲ拒ムヲ得ス

第四則

朝鮮ヨリ出口セント欲スル貨物ハ落貨ノ船名竝其貨物ノ名數ヲ第二則進口貨報單ノ式ニ倣ヒ願書ヲ貨主ヨリ官廳ニ呈スヘシ官廳ハ速ニ是レヲ許可シ且貨物ヲ檢査セント欲スル時ハ貨主是レヲ拒ム事ナシ

第五則

船上所用ノ雜物（米穀ノ類）ハ輸出違禁ニ依ル物品アリト雖數目ヲ約計シ備儲スルヲ得ヘシ

第六則

日本商船出口セント欲スル時ハ其前日ノ午前朝鮮官廳ヘ報知スヘシ官廳報知ヲ得ハ曩日船主驗呈セシ管理官ノ證書ヲ還付シ且出口準單ヲ發給スヘシ

日本ノ郵便船ハ成規ノ時限ヲ用ヒス官廳ヘ報知シテ出入スルヲ得ヘシ

第七則

左ニ揭クル各物件ハ進口ヲ禁スヘシ

物名　鴉片吸烟用

第八則

朝鮮政府及其人民議定シタル貿易港ノ外他ノ別港ヘ各物件ヲ運輸セント欲スル時ハ日本商船ヲ雇賃シ得ヘシ

第九則

朝鮮國ヲイテ議定シタル各港ノ外他ノ港岸ニ往テ密ニ賣買スル日本商船アラハ其貨物及賣買ヨリ得タル錢數ヲ幷セテ朝鮮政府ヘ沒入スヘシ

第十則

此規則ハ嗣後貿易ノ形況ニ從ヒ何時ニテモ雙方ノ委員其事情ヲ酌量シテ相會議シ改正增補スルヲ得ヘシ

大日本國明治九年　月　日　誰　印

大朝鮮國丙　子　年　月　日　誰　印



（附屬書三）（朱書）「丁號」

公貿易之條陳書

公貿易ハ宗氏ノ祖先日韓ノ交際ヲ周旋彌縫スルノ勞費ヲ償フ爲兩國政府是ヲ許諾シ宗氏ヨリハ銅錫胡椒丹木ヲ以彼ノ木綿米其他雜品ト交易スルニ至ル年々船數ニ定限アリ故ニ歲遣船ト稱ス此船宗氏ノ家臣等數名搭載シ草梁公館ニ在ル間水夫等ニ至ル迄彼ノ款待接遇ヲ受其禮數煩雜ナル而已ナラス朝鮮政府ノ費用貿易品ノ定額ヲ除キ右ノ雜事ニ支給スル處頗ル多シ故ニ朝鮮政府モ是ヲ厭惡ス然レトモ積年ノ久シキ彼政府ノ會計中貿易ノ實數ハ一定ノ習慣ヲナシ銅錫ヲ以錢貨ヲ鑄造シ慶尙道ノ米ヲ草梁項ニ搬運シ對州人ニ引渡ス等彼官吏彼是ト事務ノ章程アリ今新條約ニ依リ是ヲ廢スル時ハ頓ニ事務ノ章程ヲ失フ事ナレハ彼亦快シトセサル情アル由ナリ然レトモ公貿易ハ朝鮮政府宗氏ヲ懷安スル旨趣ヨリ出ツルナレハ亦彼ニ恩貸ノ意ナキニアラス今此趣意ヲ變換スルニハ兩國人民貿易ニ輸出入稅ヲ徵セサルヲ以兩國政府貿易官ヲ置ノ費用ヲ償フノ道ナキヲ以更ニ此公貿易ヲ興シ米麥ハ定額數ヲ以彼政府ヨリ我ヘ專賣シ我レハ銅錫等ヲ以テ是ニ換ヘ雙方トモ是等ノ品ハ人民ノ私賣ヲ許サヽル時ハ兩國政府多少ノ利潤ヲ得テ以人民貿易ノ費用ヲ補フ爲メトナセハ亦銘義ニ於テ害ナク彼ノ好ム處ノ貨幣ヲ用ヒスシテ物ヲ以物ニ換ルノ貿易ヲナスニ庶幾セン且宗氏家臣ノ時ノ如ク鄭重ノ處置ヲ爲サス在留官吏ヨリ彼ヘ物品ヲ引渡スニ一擧動ヲ爲ス迄ナレハ其他ノ舊例ハ悉皆革除シテ可ナリ然レトモ物價ニ昂低ノ變アリ十數年ノ後其變化幾若干ナルヲ知ルヘカラス故ニ今ヨリ此公貿易ヲ興スモ亦年限ヲ定メ其期限ニ至リ都合ヲ以繼年季ヲ爲テ約定ヲ爲サハ其得失利害モ右年限中ニ經驗シ得ヘシ玆ニ宗氏ノ時ノ例額ヲ附錄シ其利潤ノ概略ヲ揭ク勿論此事ハ彼政府ヘ照會シ彼同意スルニアラサレハ其額數ヲ定メカタシ隨テ此法ヲ興ス元資金ノ多寡モ今ヨリ算定シカタシ然レトモ大要貳萬圓內外ナルヘシ此法ヲ興スノ要旨ヲ玆ニ詳記ス

朝鮮ハ人民貿易ヲ許ストモ必ス米麥ノ輸出ヲ禁スルナルヘシ彼既ニ先般此事ヲ論及セリ然ルニ對州ハ朝鮮ニ附近ノ一孤島ニシテ土地瘠薄居民ノ米粮本州所產ヲ以給スルニ足ラス年來宗氏公貿ヨリ得ル處ノ朝鮮米ヲ補足シテ是不足ニ支給ス今此粮道ヲ斷ツ時ハ必ス九州中國ノ運米ヲ仰クナリ然

ルニ毎度船運ノ絶ヘタル時等米價非常ニ騰貴シ居民困苦甚シキ事アリト云今政府朝鮮ヨリ得ル處ノ米ヲ以年々對州人民ヘ賣却スル時ハ此弊少ク居民安堵スルヲ得ルト云且日本政府朝鮮交際貿易ニ付費ス處ノ費用ノ一半ヲ償却シ得ル也

丙子　五月

（下ケ札）
對馬全州ノ人員貳萬七千人
産出スル米千五百俵　但三斗三升入
麥七千俵但四斗入

下ケ札

## 六七　六月八日　太政官史官ヨリ外務大丞等宛

**宮本外務大丞理事官トシテ朝鮮國ヘ派遣ノ達アリシ旨通知ノ件**

**附記**　河上外務大錄等ヘノ辭令

六月七日分

外務大丞　宮本小一

理事官トシテ朝鮮國ヘ被差遣候事

右之通御達相成候間爲御心得此段申入候也

九年六月八日

史官

外務大少丞御中

**註**　右宮本理事官ニ隨行ノ河上外務大錄等ヘノ辭令一括左ニ附記ス

**（附記）**

外務大錄　河上房申

外務大丞宮本小一理事官トシテ朝鮮國ヘ被差遣候ニ付隨行申付候事

明治九年六月十七日

正院

同文　外務三等書記生　奥義制

同　同　浦瀨裕

同　外務四等書記生　石幡貞

同　外務六等書記生　荒川德滋

同　同　中野許太郎

同　外務省十三等出仕　仁羅山篤孝

外務省等外一等　益戸吉明



同　二等　田村岩藏

外務大丞宮本小一朝鮮國ヘ被差遣候ニ付隨從申付候事

明治九年六月廿二日

外務省

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 六八　六月十三日　寺島外務卿ヨリ朝鮮國禮曹判書宛

**日鮮修好條規第十一款ニ基キ宮本外務大丞ヲ理事官ト爲シ派遣セシムルニ付朝鮮國側ニ於テモ商議ノ官任命アリ度旨申出ノ件**

（朱書）「六月十三日」

以書簡致啓上候然ハ今般我朝庭外務大丞宮本小一ヲシテ理事官トナシ貴國京城ヘ前往イタサセ候右ハ修好條規第十一款ノ趣旨ニ因リ兩國間ノ人民通商ノ爲要用ナル各章程及修好條規中ノ條款ニ基キ更ニ委曲ノ件々ヲ約束辨理スル爲ニ派出候事也就テハ貴朝庭ニテモ右商議決定ノ權アル貴官ヲ簡ミ同人ヘ對シ御接遇有之度候敬具

明治九年六月　日

大日本國

外務卿　寺島宗則

大朝鮮國

禮曹判書金尙鉉閣下

**註**　右文書ノ轉達方ヲ六月十三日達ニテ寺島外務卿ハ來朝中ノ朝鮮國修信使宛依賴シ居レルモ該文書ハ省略ス

## 六九　六月十四日　宮本外務大丞ヨリ寺島外務卿宛

**理事官トシテ渡鮮スルニ付心得方伺ノ件竝ニ之ニ對スル寺島外務卿指令**

下官儀理事官トシテ朝鮮國ヘ被差遣候ニ付テハ左ノ件々相伺候

修好條規第十款（十一款カ）ニ通商章程等ヲ商議決定スルハ京城又ハ江華府ニ會スヘシト有之京城ニ會スルハ當然ニテ閣下ヨリ金尙鉉ヘモ御照會相成候事ナカラ彼ノ國俗日本人ノ入來ヲ欲セサルノ情實アレハ彼ノ請求次第江華府ニテ商議スル事ト

心得ヘキ歟

江華府ニヲイテ商議ノ爲彼ヨリ何等ノ官ヲ派出シ來ルヤ知ルヘカラス假令其官ハ卑下ナルトモ議政府ノ印アル委任狀ト金尙鉉ヨリ下官ヘ宛タル照會文ヲ持參シタル官員ナル時ハ是レヲ信認シテ商議調印イタスヘキ歟

右ノ者ヘ修好條規ノ

御批一函相渡シ可然歟

商議ノ件々五ニ異議アリ決定シ難キ時ハ其異議ノ條款ヲ抽キ後會ニ附シ自餘決議ニ至リタル條款而已ヲ以一篇トシ調印スヘシ若其條款緊要ニシテ決議ニ至ラサレハ通商ノ要旨ヲ失フ程ノ切實ナル件ナル時ハ暫ク調印セスシテ歸朝ノ上委曲其事由ヲ啓聞イタスヘキ歟

隨行官員ノ內彼ヘ對シ不體裁ノ事アル歟又ハ懲戒セサルヘカラサル事アル時判任官ハ其場ノ次第ヲ以假ニ謹愼ヲ申達シ或ハ是レヲ詰責シタル儘ニシテ歸朝ノ上其處分ヲ伺フヘシ等外亦是レニ准シ處分イタシ可然歟

滯船ノ時誼ニ隨ヒ感(カ)鏡道永興府ノ海灣ヘ廻船シ元山津ト稱スル地ノ形勢一覽イタシ置度ト存候敬具

明治九年六月十四日

明治九年六月廿八日　太政官印（朱絵朱書）

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 七一　六月二十八日　三條太政大臣ヨリ宮本外務大丞ヘノ訓條

### 朝鮮國側トノ交渉要領指示ノ件

外務大丞　宮本小一

訓條

一日本人ノ遊歩規程十里ハ彼モシ多少短縮センヲ求ムル時ハ五里迄ハ許諾スヘシ

一朝鮮人民日本ニ渡來スルノ件附錄案ノ如ク記載スルヲ欲セサル時ハ暫ク此條ヲ削去ルヘシ

一彼ヨリ耶蘇教ヲ彼國人ニ傳播スルヲ禁シ及ヒ他ノ外國人日本人ノ籍ヲ借リ朝鮮各港ヘ居留商賣スルヲ禁スル等ノ條款ヲ加入セン事ヲ請フトモ之ヲ許諾スヘカラス然トモ若シ之カ爲談判整ワサルノ場合ニ到ルトキハ理事官ノ名ヲ以テ別ニ書柬ヲ作リ其請求ニ應スルモ妨ナシ

一朝鮮官員貿易ノ爲朝鮮人民ヨリ賄賂ヲ求メ又ハ專賣ヲ許シ或ハ重稅ヲ課スル等ノ事アリト聞猶釜山ニ到リ實際ヲ



審問シ果シテ然ラハ此弊害ヲ救ヒ貿易ノ妨トナラサル爲ノ要領ヲ約束シ置クヘシ

一兩國男女姦通律ヲ設ケン事ヲ彼ヨリ强請スルモ我邦既ニ一定ノ律アリ今是ヲ變通スヘカラス然レトモ彼國一方ニテ其國民ヲ禁止セント欲スル爲國律ヲ立ルハ其意ニ任スヘシ

一彼我漂流人民ヲ救援スル爲ノ經費ハ兩國相互ヒ支給シテ其償還ヲ求メサルハ普通ノ常理ナレトモ朝鮮人民ノ我レニ漂流スル每歲比々トシテ絕ルナシ我カ人民彼ニ漂往スルハ僅々ナリ且彼邊民粮食足ラサル時ハ故漂シテ救活ヲ求ムルノ意ナキニアラスト然レハ是等ノ煩雜ヲ免カルヽ爲漂民ヲ救活スル時ハ相互ニ相當ノ補償ヲ約スルモ亦當然ノ理ナリ條約議定後別ニ此事ヲ約シ置ヘシ

一清國北京ト朝鮮京城トハ陸地來往シ得ヘキ地ナレハ兩國ヘ派出ノ我官員時トシテ兩都ノ間ヲ旅行シ得ヘキ爲朝鮮政府ヘ照會シ彼强テ是レヲ拒マサレハ約諾ヲ求メ置ヘシ

一貿易ノ催進ヲ要スル爲彼我共ニ輸出入稅ヲ徵スルナシ是通商章程中ノ要旨ナリ然レトモ朝鮮政府强テ收稅法ヲ今ヨリ起サント欲シ是ヲ肯諾セサレハ談判一決ノ場合ニ至





外務大丞　宮本小一花押

（朱書）「第一款可成丈ケ京城ニ於テ商議ス可シ

第四款謹愼申達スルニ及ハス

其他伺ノ通リ

一往返トモ釜山ニ寄船スルハ便誼ニ任スト雖トモ彼國滯留期日不得止場合ノ外一ケ月ヲ以限リトスヘシ

明治九年六月十四日

外務卿　寺島宗則」□（朱枠）

（宮本大丞朝鮮理事始末）

註　右文書ノ宛名ハ朱書指令ヨリ推シ寺島外務卿宛ト認メラル

## 七〇　六月二十八日

### 宮本理事官ヘノ委任狀

理事官外務大丞　宮本小一

一修好條規附錄

一貿易章程及之ニ屬スル諸件

右朝鮮國ニテ政府委任ノ重官ト協議決定スヘキ事

ル能ワサル時ハ朝鮮國ヘ輸入品稅ヲ從價五分ヲ以肯諾シ是レニ從ツテ收稅法ノ一款ヲ通商章程中ニ加ヘテ事ヲ議スヘシ

一貿易規則中左ノ一款ヲ加フヘシ進口出口ノ手數ヲ謝スル爲左ニ揭クル港金ヲ日本船主ヨリ朝鮮國官廳ヘ納ムヘシ

一連桅檣ノ商船及蒸氣商船　金五圓
本船附屬ノ小艇ヲ除ク
一獨木檣船　金貳圓
貨物五百石以上ヲ載セ得ヘキ船
一同　金壹圓五拾錢
貨物五百石ヲ載セ得サル船

日本政府ニ屬スル諸官船ハ港金ヲ出ス事ナシ

左ノ件々ハ彼强テ請求スルモ肯諾スヘカラス

一日本金銀貨於朝鮮同國人民使用スルヲ拒ム事
但金銀貨ノ名ヲ以使用スルヲ拒ムトモ金銀塊モ貨幣ニ作リタル金銀モ日本物品タレハ輸入シテ物貨ト見テ韓人ト貿易スルヲ得ル理アレハ本文ヲ必ス條約面ニ揭載セサルヘカラサル件トナスニアラス然レトモ成ルヘキ丈ケ揭載スルヲ求ムヘシ



一日本人民在韓中彼國人民ヲ使役ニ供スルヲ拒ム事

一輸入ヲ禁セサル間ハ朝鮮人民我邦物ヲ隨意使用スル事

一彼國ヨリ米麥ヲ輸出スルヲ禁止セント乞フ時ハ是ヲ許シ對州人民年來朝鮮米ヲ食用トスル便利ヲ失ワサラシメン爲彼承諾スルナラハ公貿易ニ似タル變通ノ方法ヲ試ムヘシ

以上數款ノ外我レハ以テ鎖末ノ事件ト爲スモ彼レニ在テハ關係少ナカラスト思量シ强テ約定ヲ要スル條款アラハ我國權及ヒ從來ノ外國交際上ニ害ナキ者ハ時宜ニ依リ彼ノ請求ニ應スルモ妨ナシ

明治九年六月廿八日

太政大臣　三條實美

（宮本大丞朝鮮理事始末）

---

## 七二

六月二十八日　寺島外務卿ヨリ朝鮮國禮曹判書宛

**日鮮修好條規第十一款ニ基キ宮本理事官ヲ派遣セシムル旨通知ノ件**

以書翰致啓上候然ハ我

皇帝陛下ハ外務大丞宮本小一ヲシテ理事官トナシ　貴國ニ前往セシム是ハ兩國交際ヲシテ益親和ニ至ラシムル爲修好條規第十一款ノ趣旨ニ隨兩國人民交際上ノ諸規則ヲ商議決定スルノ事務ヲ辨理セシムル爲ニ有之候同人ハ我

皇帝陛下ヨリ充分ナル信認ト委任ヲ蒙ル者也兩國間裨益ニナルヘキ事件ニ付彼カ陳述スル言ハ貴國政府是ヲ信用シ且余カ閣下ヲ恭敬スル意ヲ併セテ了知セラレンヲ祈望イタシ候敬具

明治九年六月

大日本國外務卿

寺島宗則

大朝鮮國禮曹判書

金尙鉉閣下

註　右文書ノ日附ハ他ノ記錄ニヨル

---

## 七三

七月十五日　釜山日本公館在勤山之城外務書記生ヨリ朝鮮國別差宛口陳書

**宮本理事官一行釜山來着ノ旨ヲ告ケ近日一行江華前灣ニ到ルヘキニ付其ノ趣ヲ京城ニ轉報アリ**



**度旨依賴ノ件**

於釜山公館山之城ヨリ別差ヱ交付ス

口陳

我

朝廷派理事官外務大丞宮本小一。前往　貴國京城一事。貴修信使在我東京之日。我外務卿業已經通知。今大丞駕船到此地。其航到江華前灣之期。料應不出旬有餘日。爲之敢煩貴下。轉申京城。便宜爲地

明治九年七月　日

大日本公館長代理

外務四等書記生　山之城祐長

（宮本大丞朝鮮理事始末）

註一、右文書日附ハ「宮本大丞朝鮮理事始末」所收「朝鮮理事日記」中ノ同文ノモノニヨル

二、右文書ノ和文見當ラス

---

## 七四

七月三十一日　朝鮮國禮曹ニ於テ朝鮮國出張宮本理事官等ト朝鮮國禮曹判書等トノ對話書

**日鮮修好條規御批准書等ヲ手交シ今後ノ談判ニ**

## 關シ應酬ノ件

明治九年七月三十一日禮曹ニテ判書ト對話始末奥中錄歸館後筆記

三十日理事官ヨリ明三十一日禮曹ニ罷出ルニ付刻限差備官ヲ以テ同曹ヘ申入タルニ當朝差備官來テ云日時切迫ニテ都合不宜サレトモ縱トヒ時刻遲延ニ及フモ今日面會スヘシ猶刻限ハ迫テ申越スヘシト午前再ヒ差備官來テ午後二時出頭スヘキ旨申出タリ因テ同時旅館出門二時三十八分禮曹ニ着セリ

但シ御批引渡ノ義ニ付理事官大禮服河上大錄奥中錄浦瀨中錄石幡權中錄荒川權少錄仁羅山十三等出仕小禮服外ニ矢野大軍醫勝田大尉益滿少尉同服都合九名同伴列席

扨禮曹ニ到ル直ニ休憩所（郎官ノ詰所ナリ）ニ案内シ姑クアリテ一差備官來リ云只今判書ノ處ニ到ルニ當春江華ニ於テ彼我大臣筆談中ニ書翰ニハ皇帝陛下ノ字ヲ省ヒテ朝廷ノ二字ヲ用ル事ヲ約セシニ今朝差出サレタル貴翰案（今朝差備官來リ判書ノ意ヲ以テ携帶ノ書翰案ヲ乞ヘリ因テ寫シテ與フ）ニ皇帝陛下ノ文字アリ變通ノ道アラハ改正アラン事ヲ請フト

一理事官右等ノ事ハ曾テ知ラス其筆談書ヲ差出サルベシ

一諾（差）シテ去

空シク待ツ事一時間餘アリテ

一ノ書翰案（差）ヲ出シ（先般江華ニテ代理公使ヲ派スル時携帶ノ書簡案ヲ彼ヨリ問ヒ來リシニ我ヨリ與之其書朝廷ノ字アルノミ）朝廷ノ文字アリテ皇帝陛下ノ文字ナシ

一浦瀨直ニ辨シ云代理公使ト理事官トハ趣意大ニ逕庭セリ理事官傍ヨリ云兎ニ角判書ニ面晤スベシ其上ニテ委細辨解スベシ

續テ判書面會ニ決セリ一行大廳ニ至ル禮曹判書金尙鉉禮曹參判韓敬源禮曹參議金永壽在坐彼我椅子ニ倚ル賓主ノ禮辭竝ニ一行ノ引合セ畢テ

一釜山ニ於テ東萊府使來リテ宴廳ニ饗シ其他路次地方官勞問及饗應等ノ厚キ甚タ痛入ル處ナリ貴政府ニ於テ弊使ヲ優待スルノ誠意ハ具サニ歸奏スヘシ箇所多ケレハ玆ニ廉書ヲ以御挨拶ニ及ベリ旅館到着後ノ御取扱ハ只御丁寧ノ至ト申ス一句ニテ盡スベシ今一々申上カタシ

一貴官（判書）來臨ニ付政府ヨリ地方ヘ無不都合樣ニト嚴達ハイタシタレトモ萬事不行屆ノ事アラント甚タ懸念セリ然ルニ意外ノ御挨拶ニ預リ大ニ安心セリ

一外務卿（理）ノ書簡ヲ出シ漢譯ヲ添ヘ浦瀨ヲシテ判書ニ差出サシメ

疑訝ノ廉アラハ明朝何人カ旅館ヘ遣サルヘシ委ク辯解ヲ致サン

一是レハ只今拜見セストモ既ニ草案ヲ拜見シテ承知セリ且聊不審ニ涉ル廉アリ一應申陳ヘタレトモ今日ハ此儘領受シテ政府ニ差出シ萬一貴簡中難悟解廉アル時ハ質問スル事アルヘシ

一御批（理）ヲ出シ手自ラ判書ニ渡ス

凡條約書ハ兩國委任ノ大臣檢印スト雖トモ其國君ノ意ニ適セスシテ許允ヲ不經ノ間ハ不可公行モノトス貴國主上ハ本春條約交換ノ時直ニ御批ヲ賜ヘリ今如此我皇帝陛下ノ御批アリテ國内一般布告スル時ハ所謂金石不易ノ約ナリ猶我人民ニ布告シタル國文竝漢譯ノ摺物二冊爲念差進スルナリ

一拜見（判）セリ早速我朝廷ニ獻納スヘシ

一委任狀（理）ヲ以テ判書ニ示シ

外務卿ノ書簡ヲ以テ徵官ノ身分ヲ知リ委任狀ヲ以テ理事官ノ權限ヲ知ルヘシ閣下ニモ定メテ貴朝廷ヨリ委任セラレタル可シ其書ヲ拜見イタシタシ

一委任狀（判）ハ拜見イタセリ而ルニ禮典ノ事ハ禮曹ニ關スレトモ新タニ事ノ出來スルモノハ關スル所ニアラス其邊ハ既ニ朝廷ヨリ人撰シテ講修官トナシ同官ヨリ萬事協議ニ可及ナリ

一條約（理）面ニ依レハ判書ヘ萬事御談判イタスヘキ筋ナレトモ御多事ニ付貴朝廷ニ於テ別ニ人撰スルトアル時ハ固ヨリ止ムヲ得サル也乍併其講修官ノ任タル如何ナル權ヲ授ケラルヽヤハ難計ケレトモ事々物々貴政府ノ裁ヲ仰クト云ノ類ナラハ協議ハ甚難タシ

一刑曹ノ參判趙氏ヲ以テ講修官トスル旨既ニ敎令アリ何レ趙氏ヨリ面晤イタサルヘシ

一使事（理）一日モ空シフスヘカラス明日講修官ニ面會イタシタシ

一明日（判）ハ聖上ヨリ貴官ニ謁見ヲ許サレ畢テ司譯院ニ於テ宴饗ヲ賜ハルト敎令アリ其節政府ノ長官始メ申大官尹滋承金綺秀講修官等參會ノ筈ニ付面晤サルベシ因テ明日ハ差支ヘリ

一明日聖上（理）ヨリ謁見ヲ賜ハルトハ實ニ意外ノ優渥ニテ感銘

有餘且只今承ル所ハ明日講修官差支ノ辭柄ニ出タルヤ又ハ併テ明日謁見ヲ賜フノ旨ヲ傳ヘラレ此席ニテ御請申上テ宜敷ヤ承リタシ

一判 既ニ敎令アル上ハ只今申陳ルノミニテ可然譯ナレトモ別段伴接官ヲ以テ公然申入ルヘシ

一理 書籍目錄書ヲ出シ浦瀨ヲ以テ判書ニ渡ス

此書籍ハ經書モアリ其外近來著述ノ書ニテ現今必用ノ書類ナレハ貴政府ニ獻ゼントス尤書籍ハ明朝差出スベシ且右書籍中或ハ地球ノ如キ辨解ヲ要スル者ハ爲之其節屬官一人ヲ附ス因テ何人ニ引會シ辨說シテ可然ヤ猶何處ニ差出シテ然ルヤ

一判 多々ノ書籍ヲ惠贈セラレ忝ナク領受シテ政府ニ差出スベシ別ニ貴价ヲ差ハサルニ及ハス貴寓ニハ差備官日々罷有ルニ付直ニ此者ニ附シテ說明下タサレタシ

一贈物ヲ居ナカラ渡スハ不本意ナリ

一判 固辭ス

一些理 細ノ品ナカラ微官ヨリ聖上ニ獻納セントス如何アルヤ

內分ニテ承リタシ

一江判 華ニ於テ貴大臣ヨリ獻品ノ例モアリ且我修信使貴京城ニ在テ獻品セシ事アレハ聊モ差支ナキ譯ナリ

一理 微官所獻ノ品ハ實ニ微々タル物ニシテ嚮キニ貴修信使及我大臣ヨリ獻納スル所ノ比ニアラス何レ目錄ヲ以テ伺フヘシ

一判 決シテ多少ニ關セス其誠意ニアルナリ

一理 少々依賴イタシ度キ事アレハ可相成ハ明日侍醫ノ內一名來臨ヲ乞フ

一判 諾弊邦醫道大ニ衰微セリ幸ニ貴用ニ適セハ大慶ナリ

右ニテ畢ル于時午後六時四十分ナリ歸去ニ臨テ判書云初テノ義ニ付休憩所ニ於テ一寸茶ヲ差出シタシ右固辭スレトモ聞カス依テ判書外二人ニ挨拶シテ休憩所ヘ退キ一同ヘ水菓子等三種ヲ添ヘテ燒酎ヲ差出セリ六時五十分退席七時三十分歸館セリ

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 七五

七月三十一日(假)　朝鮮國禮曹判書ヨリ寺島外務卿宛

**日本國政府ノ修信使金綺秀ニ與ヘタル款待ヲ謝シ且宮本理事官ト欣然商議セントスル旨回答ノ件**





（朱筆）「理事官齎シ歸ル書翰ニ付此ニ附錄ス」

大朝鮮國禮曹判書金　尙鉉　奉復

大日本國外務卿寺島宗則　閣下

謹玆回照者我

朝廷特派禮曹參議金綺秀前往修信聞抵

貴國禮遇過隆兼荷

愛護之

盛誼利涉層溟式遄竣還感戢甚大所付書契炤悉而條規議定事

貴朝廷理事官今將踵臨忻接爛商俾便兩間計也敬具

丙子年六月　日

禮曹判書金　尙鉉（朱筆）

（宮本大丞朝鮮理事始末）

**註**　右文書ハ日附詳ナラサルモ「宮本大丞朝鮮理事始末」所收「朝鮮理事日記」八月二十五日ノ條ニ「禮曹ニ至リ判書等ニ面シ外務卿ニ宛タル書二通ヲ領收シ」（前後略）トアル二通中ノ一通ト推定サルルモ假ニ日附ハ宮本外務大丞カ朝鮮國側ト會談セル最初ノ日卽チ七月三十一日ヲ採リ此ノ處ニ入ル因ニ右文書ハ宮本外務大丞歸朝ノ後九月二十一日寺島外務卿等宛ニ差出サレタリ九八參照

## 七六

八月一日　朝鮮國出張宮本理事官ヨリ朝鮮國禮曹判書宛

**朝鮮國王ヨリ謁見ヲ賜ハリタルニ對シ謝意表明ノ件**

**附記**　宮本理事官ノ朝鮮國王ヘ謁見記略

我邦與貴國隣誼累世帶礪無渝玆歲二月之吉乃更尋盟立約金石頓堅小一奉命來議定細目何料寵遇優渥特錫

廷謁伏惟我邦人至闕下古來甚希今入京與諸大臣相見更得拜清塵振古盛典恩榮洵深感戴無遺聊伸微悃敢告諸公希有執奏

敬白

明治九年八月一日

理事官外務大丞　宮本小一

（宮本大丞朝鮮理事始末）

**註**　一、右文書ノ宛名ハ「宮本大丞朝鮮理事始末」所收「朝鮮理事日記」ニ依ル

二、右文書ノ和文見當ラス

三、宮本理事官ノ朝鮮國王ヘ謁見記略左ニ附記ス

（附記）

朝鮮國王ヘ謁見記略

外務大丞　宮本小一

理事官トシテ朝鮮國ヘ派遣ノ命アレトモ國書奉帶シテ往キシニアラス

九年八月一日禮曹衙門ニ至リ判書ニ初テ對面ス判書云明日（註四參照）ハ我國王貴下ヲ引見セラルヘシ理事官云意外ノ榮ナリ然ラハ其通リ心得居リテ可ナリヤ判書云間違ナシ然レトモ猶別ニ公達アルベシ

其日ノ晩景ニ至リ伴接官漢城府左尹黄鐘顯理事官旅館ニ來リ云明二日我國王特旨ヲ以貴下ヲ引見セラルヘキ命アリ辰牌午前第八字王宮ヘ參ラルベシ

理事官云命ノ辱ヲ謝ス諸事不案内ナレハ委細ニ示教ヲ乞フ

伴接官云謁見式ヲ議スベシ我國諸臣國王ヘ謁見スル時ハ前以肅拜一ノ拜堂アリ王ノ空位ヲ正面ニ安ス此空王位ニ對シ先ツ四拜ノ禮ヲ行フ拜スル時ハ頭ヲ地ニ貼シテ興ツ此四拜ヲ行フ後更ニ王宮ニ出テ御前ニ　ヲ爲シ更ニ王ノ御前ニ出テ頭ヲ地ニ貼シテ更ニ拜禮ヲ行フ由也

貼シ禮ヲ行フ事四回ナリ是レカ先ツ我國ノ通禮也



理事官云其禮ハ貴國修信使我邦ヘ來リ皇帝謁見ノ命アリテ其儀式ヲ議スル日信使ヨリ謁見ノ禮丈ケハ自國ニテ王ヘ謁スル通リノ禮ヲ行ヒタシト云ヒ則其禮式ヲ下官ヨリ尋ネシニ今貴下陳述ノ如キ禮式ニテ我朝廷ノ式トハ相違スレトモ强テ差支ナキ樣ニ覺ユレバ其式ヲ申立宮中ニテ假ニ肅拜ヲモ爲シ其後皇帝ヘ謁見ノ禮モ濟タリ然レトモ下官ハ日本人ナレハ今此地ニ來ルトモ貴國ノ禮ニ依テ拜謁スル事ハ爲シ難シ

伴接官云然ラハ何等ノ禮ニ依ルヤ

理事官乃明治八年太政官第十八號布告書及繪圖ヲ出シ示シテ曰日本百官日本皇帝ヘ謁見ノ禮ハ圖面ノ如シ此禮ヲ以テ貴國主上ヘ謁見ヲ乞フベシ此禮ハ獨リ日本皇帝ヘ見ユル時ノ禮ノミナラス日本使臣各國帝王ヘ謁見ノ時モ此禮式ヲ用フ萬國普通ノ禮也嘗テ副島全權大使清國帝ヘ謁見セシ時モ此禮ヲ用ヒタリ

伴接官云ク然ラハ右ニテ宜シ若國王ヨリ上意アラハ相當ノ御請ヲナサレヨ隨員ハ極メテ少ナキヲ要ス

理事官云諾隨員ハ御前迄出ツル能ハサレトモ扣所迄召連レタシ且譯官ハ何等ノ事アルモ計リカタケレハ御前近クマテ召連置タシ

伴接官云宜シ

翌二日早晨理事官大禮服河上大錄奥中錄浦瀨中錄石幡權中錄荒川權少錄小禮服ニテ旅館ヲ出ツ道案内ノ差備官前導官旗手棍杖手前騎後騎等擁護シ王宮門前光化門ニ進ム左右ニ避邪ノ石獸ヲ安ス此處ヨリ下輿シ徒步シテ進ム宮門ハ中央扉左右扉ノ三門ニ分ツ左門ヨリ入ル小溝ニ石橋ヲ架ス溝淵ニ亘獸俯シテ水ヲ呑ムノ彫石アリ興禮門ノ左扉ヲ入ル以下皆同シ又勤政門ヲ入ル正面ニ勤政殿アリ方二三十間計リ四面大石ヲ以築キ上ケ基礎トナス其中央ニ殿アリ廣サ礎面ニ半ハス高拾間許リ樓アリ勤政殿ノ大三字ヲ扁ス我山門樓ノ如ク方形ニシテ樓下ハ則正殿ナルヘシ基礎ノ正面石階數級アリ階下ノ直線ハ幅三四間計リニ石ヲ敷テ道トナス道ノ左右ニ邊シテ小石碑ノ如キモノ駢立スル凡二十坐計リ第一坐左右トモ正一品ト鐫シ其次正二品又其次正三品ナリ以テ七八品ニ至ル此殿ハ平日鎖閉シテ用ヒス朝拜又ハ支那勅使ヲ受クル時開ラク事ト見ヘタリ按ニ通文館志ニハ仁政殿ニテ勅使ヲ受グト見ユ然ラハ別殿アリヤ殿ノ基礎ヲ圍ミ廻廊アリ此勤政殿ヲ正面ニ見テ左折スレハ惟和門アリ此門ヲ入右方ニ高キ石垣ヲ築立一門アリ崇陽門ト云フ



此門外ニ天幕ヲ二ケ所結立テ其内ハ屏風ヲ立廻シ理事官一行ノ休憩所ト爲ス此所ニテ履ヲ穿チ替ヘ暫ク休憩ス司禮官來リ云謁見迄猶少時間アリ別ニ廣キ休憩所アレハ案内スヘシト云テ再ヒ惟和門ヲ出勤政門ニ入リ左方ノ廻廊ニ入リ暫ク休憩ス

司禮官暫時ニシテ理事官及浦瀨裕ヲ案内シ更ニ惟和門ヲ入リ崇陽門ニ入ル河上大錄以下廻廊ノ扣所ニ扣居ル

理事官進テ崇陽門ニ入ル地上筵道ヲ敷キ左傍ニ佇立セシムル二三抄時間又伴ヒテ脩政門ヲ入リ左傍ニ佇立セシムル二三抄時進ンテ脩政殿ノ階ノ左邊ヨリ上ル上リ終レハ正面ニ國王出坐ノ位ヲ見ル即チ磬折一拜シ右ヘ斜ニ進ミ王位ト正面ニ對シ又磬折一拜シ進ンテ王位ヲ距ル八九尺許リ一ノ敷居ノ如キモノアリ則チ其敷居ニ逼リ立テ更ニ磬折一拜ス國王胡床ニ坐シナカラ上意アリ承旨理事官ヨリ遙後ニ侍立セル浦瀨裕ヲ呼テ上意ヲ傳フ裕進ンテ理事官ノ傍ニ來ツテ上意ヲ譯述ス

遠路遙々來リテ太儀ニ思フ

理事官則答テ曰

今日圖ラス拜謁ヲ許サレ又上意ヲ賜フ深ク隆恩ヲ拜謝ス

右ノ答辭終リ又一拜シテ却歩スル事數歩又一拜シ斜ニ階上ニ至リ又一拜シテ後面トナリ階ヲ下リ司禮官ニ導カレテ元ノ扣所ニ歸ル

國王ハ精好ニ似タル美絹ニシテ桃紅色ノ禮服ヲ衣タリ胸間ニ袞龍ノ如キ金繡ヲ見ル脩政門邊ヨリ既ニ遠見スルニ紅黄色共ニ美ナリ冠ハ唐冠ニ似タレトモ記臆セス高キ胡床ニ坐シ前面ニ横六七尺幅二三尺ノ机ヲ置キタリ此机外二三尺ノ空地アリテ直ニ理事官ノ進ミテ立タル敷居ナリキ王位ノ左右ニハ松葉色ニ雙鶴ノ繡文アル大禮服ヲ衣タル重官無數圍繞セリ金綺秀モ此内ニ在リ王位ノ右ニ日本制ト同シキ金裝刀一口ヲ捧ケ持タリ其他殿上諸官侍立シタレトモ能見留メス脩政殿ハ小ニシテ勤政殿ノ半ニ至ラス殿上ハ朝鮮ノ花紋席（吳座）ヲ敷タリ

理事官王前ニ進ミシトキ右ノ椽側ニテ奏樂アリ又階ヲ下リ脩政門ヲ出ツル時右側ニテ奏樂セリ

扣所ヨリ修政殿ニ至ル間弓箭ヲ挾ミタル赤衣ノ儀仗兵數百名屯集シ理事官進行ノ時ハ筵道ヲ挾ミ左右ニ駢立シ肩々相磨シ儀仗牆ヲ爲ス如シ其各色班々タル朝服ノ諸有司宮内ニ充滿シ頗美觀ヲ覺銃兵ハ一隻ヲモ見ス

扣所ニテ酒水菓子及甘キ醬ノ類ヲ出シ使員ニ賜フ又椅子ヲ持チ來リテ宮中ハ大臣ト雖トモ椅子ヲ許サス外臣ハ格別ナレハ許ス處ナリト云ツテ出シタリキ宮中ハ樹木多カラス目ヲ驚カス程ノ樹木ヲ見ス處々垂柳ヲ見ル洒掃ハ能屆キテ他ノ朝鮮人居所ト同シカラス

右拜謁ノ式終リテ光化門ヲ出輿ニ乘リ右折シテ司譯院ニ至ル

宴禮ヲ受奏樂三曲各種ノ食膳頗豐美ヲ盡ス（註省略）坐位別紙ノ如シ

明治九丙子年八月

宮本小一記

（宮本大丞朝鮮理事始末）

**註**四、右「朝鮮國王ヘ謁見記略」ニヨレハ宮本理事官ハ八月一日朝鮮國側ト謁見ノ下準備ヲナシ翌二日謁見ヲ賜ハリタルモノト認メラルルモ「宮本大丞朝鮮理事始末」所收「朝鮮理事日記」七月三十一日、八月一日、同二日ノ記事等ヨリ推シ宮本理事官ノ朝鮮國王ニ謁見シタルハ八月一日ト認メラル

**七七**　八月二日　朝鮮國出張宮本理事官ヨリ朝鮮國禮曹判書宛





## 醫方類聚贈呈ノ件

逕啓者醫方類聚二百六十六卷貴國文官醫官所撰集我邦喜多村士栗附之聚珍版成一部蓋士栗曾聞此書今佚於貴國而獨存於我也慨然校理捐資以附版是在距今三十餘年前士栗好古篤志之人曾爲醫官而今老矣聞下官有此行也寄一部曰願獻呈之朝鮮政府以博其傳且寓不忘其本之意也故今賴閣下紹介將以表士栗積年用心不屬徒勞雖然溟海遼遠士栗所聞不能保其無誤故先面質之御醫通訓大夫龍仁縣令洪氏而後果信其既佚於貴國而不傳也士栗今歲方過古稀其意謂聊於貴國醫學有所補闕幸甚小官感其秉心之公也今擧全部贈閣下請　貴政府納焉士栗所著醫書數部今併附贈其書目備在別幅肅此敬具

明治九年八月二日　　宮本小一

禮曹判書閣下

記

傷寒論疏義　　總評原序　壹卷
傷寒論疏義　　十卷
傷寒六經折義　　壹卷
金匱要略疏義　　六卷
傷寒論劄記　　壹卷
徑方權量略說　　壹卷
蚘志　　三卷
越俎藥誌　　壹卷
多疾彙箋　　三卷

通計二十七卷

（宮本大丞朝鮮理事始末）

**註**　右ニ對スル朝鮮國側ノ回答左ニ記ス

寄惠醫方類聚二百六十六卷並貴邦人士栗所著醫書諸種謹準札敎照納于政府仰惟閣下流通古書嘉惠鄰邦之至意不勝感歎況醫方類聚本是弊邦人著撰之書而見佚久矣士栗之捐貲附板憑玆　使韶辛勤投惠俾圖壽傳於　本國其心之公又可感也皇侃之論語義疏　中國佚而無傳因　貴國而得其舊本刊入於知不足齋叢書中廣布天下今醫方類聚亦自　貴國而得之士栗與閣下之功甚大矣顧此素昧僉扁之業士栗所著諸書雖未及瀏覽而可諒其術之精博也怖此奉覆

丙子六月十五日　　金尙鉉端（朱綬）肅□

理事官閣下

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 七八　八月五日　朝鮮國禮曹判書ヨリ朝鮮國出張宮本理事官宛

**禮曹判書ハ多忙且病弱ナルヲ以テ趙寅熙ヲ講修官ト爲シ日鮮修好條規細目ヲ商議セシムヘキ旨申出ノ件**

條約中細目議定弊職固當進參而弊職衰邁多疾曹務倥偬精力不逮難於幹當
朝廷以議政府堂上趙寅熙特差講修官詣館次以爲商訂矣仰希照會
丙子六月十六日　禮曹判書金尙鉉端肅
理事官崇鑒

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 七九　八月五日（假）　朝鮮國出張宮本理事官ヨリ朝鮮國禮曹判書宛

**趙寅熙ヲ講修官ニ任命ノ旨了承ノ件**

禮曹判書金尙鉉ヘ返翰

以手紙致啓上候　貴朝廷議政府堂上趙氏ヲ以テ特差講修官トナシ館次ニ來テ條約中ノ細目ヲ商訂セシメラルヽ由敬テ其盛情ヲ領シ寔ニ緬仰ヲ慰メ候台侯和ヲ缺クト承ル望ラクハ國ノ爲ニ自重セラレン事ヲ敬白
明治九年八月　日　日本國　理事官　宮本小一印
朝鮮國
禮曹判書金尙鉉閣下

（宮本大丞朝鮮理事始末）

註　右文書日附ヲ缺クモ假ニ禮曹判書ヨリ宮本理事官宛趙寅熙ヲ講修官ニ任命セル旨通知ノ日ノ處ニ入ル

## 八〇　八月五日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

**我ヨリ修好條規附錄箇條書竝ニ貿易章程ノ草稿ヲ提出シ意見交換ノ件**

第一號
明治九年八月五日午後三時二十五分日本國理事官宮本小一朝鮮國講修官趙寅熙トノ對話
但河上大錄筆記浦瀨中錄荒川權少錄譯傳金奎運玄昔運列座差備官七名中間ヨリ陪席
一禮畢テ賓主榻ニ就キ
一過刻禮曹判書ヨリ貴講修官ヘ御談判可致旨御通知之書簡ヲ受取タリ
一然ルヤ
一過日禮曹衙門ヘ罷出タル時我政府ヨリ下官ヘ被附タル委任狀ヲ以テ判書ノ覽ニ供シタリ貴講修官ニモ御望ナラハ御一覽ニ供スヘシ
一拜見致シタシ我政府ヨリ拙者ヘ附與セラレタル委任狀モ御覽ニ入レベシ
此時雙方ヨリ委任狀ヲ出シ互ニ一讀畢テ
一此度御談致スヘキ事ハ修好條規附錄ト貿易章程トノ二件ナリ貿易章程ノ方御分リ易カルヘシト存スルニ付先ツ之ヲ御咄致スヘシ
此時釜山草梁公館ノ圖ヲ出シテ示シ
一是レ公館ノ圖ナリ自古此處ニ船着アリ貴國ヨリ境界ニ守門ヲ設ラレ番人ヲ置カレ出入諸物品ヲ檢視セリ今後ハ此守門ヲ廢シ海口ニ沿フテ海關ト名クル役所ヲ貴國ヨリ置カレ輸出入物品ヲ改ラルヘシ尤從前ノ如ク公館ノ周圍ヲ限リ守門ヲ置ルヽ事ハ宜シカラス玆ニ貴國ヨリ此處ニ海關ヲ立ラレタル者ト見做シ御談判致スヘシ
一御咄計ニテハ相分リ兼ルニ付御書付テモアラハ拜見致シタシ
此時貿易章程ヲ出シ第一則ヲ說明ス
一一通リ拜見致シ尙相分リ兼ル廉アラハ御尋致スヘシ
一從前我國人民ノ貴國ニ到ル者其姓名ヲ明ニセス依テ今後ハ一々屆出我國人民ノ貴國ニ在ル者ノ姓名ヲ詳明ニセント欲スルナリ
一記號ナキ者ハ一切雜物ト見做シテ可然哉然ラハ前文ノ雜物云々トアル文ト矛盾シ不都合ナルニ似タリ如何
一記號ナキ品ト云ハ全ク雜物ト見做ス可キ者ニ非ス譬ハ俄ニ發船ノ時ニ臨テ差急キ何々ノ物ヲ積込ントスル時ハ一々其番號ヲ記スニ及ハサルノ類ナリ
讀テ第四則ニ到リシ時
一是等ノ法ハ從前疎漏ニシテ不整ナリ今ヤ貴國ノ爲メ精密ヲ盡シタル者ナリ

第五則ニ到リシ時

一貴國旱蝗ノ患アリ凶歲ニ遭フトキハ我國商民ヨリ五穀ヲ貸シ進スヘシ尤利息ヲ出サレハ二年三年ニテモ差支ナシ

一是ハ實ニ御厚意ノ事ナリ

第六則ニ到リシ時

一郵便船ハ至極差急ク者ナリ故ニ着發時日豫メ一定シ難シ

第七則ニ到リシ時

一是ハ貴國政府ヨリ御許可アレハ我國商民我商船ヲ借入不開港場ニテモ參ル事ヲ可得ト云趣意也

此時理事官ヨリ委任狀寫ヲ渡ス

一右一通リ御了解ニナリタリヤ尤御即答ヲ請フヘキ者ニモ非サレハ篤ト御熟考アリタシ

一此御書付ハ戴キテ宜敷哉我諸大臣一同政府ニ集リ居レリ歸リテ之ヲ示スベシ

此時修好條規附錄ケ條書ヲ出シ

一是ヲ一通リ說明可致尤文章ハ追テ御相談ノ上如何樣共可致扨我國使臣貴國京城ニ到レハ館舍ヲ借ラサルヲ得スト雖トモ若シ於貴國御貸下サル事難相成ケレバ地所ヲ借用シ新築可致筈ナリ唯今拙者ヨリ某ノ地所ヲ見立テ借用致度ト御



賴致スニハ非ス然トモ凡地代何程ト云事ハ承リ置タシ尤此事ハ特ニ條約書中ニハ載セストモ御約定ハ致置タシ

一委細了解致シタリ

一第二是ハ我國使臣都合ニ寄其妻子並書記譯官等ヲ携ヘ來ルヘシ此輩ト諸開港場在勤ノ我官員トハ何レモ自由ニ貴國內部ヲ通行スル事ヲ得タシ又貴國駐劄ノ我公使ハ或ハ北京駐劄ノ我公使ヨリ兼勤スル事モ有ルヘシ淸國ヘハ此旨內々打合ニ及タル處別ニ差支ナキ趣返答アリタリ依テ公使旅行ノ節ハ貴國內地通行無差支許サレタシ尤其旨國境關門ヘ兼テ御達置アリタク且要用ノ節ハ書翰モ自由ニ貴國人ヲ賴ミ先方ヘ達スル事ヲ得タシ

差備官一同陪席ヲ乞フ

一諾併シ拙者ヨリ差備官ニ對シテ議論ハ致ササルヘシ又差備官ヨリノ議論アリトモ決シテ受サルヘシ

一固ヨリ然リ唯大勢一時ニ承リ置ケハ若シ拙者承リ落シ間違ノ廉アリトモ傍聽ノ者正ク承リ置時ハ不都合ナカルヘシ

一第三是ハ修好條規第四款ニ在ル如ク各開港場ニテ我國商民ヨリ地所ヲ賃借スル事自由タルヘシトノ趣意ナリ尤兩國間貿易ヲ自由ニ爲ル上ハ我國人民寄留地周圍ヲ限リ門關ノ如キ者ヲ設ラルヽ事ハ兼テ御斷リ申置ヘシ

一然トモ境界ハ無クテハ不都合ナルヘシ

一貴國ニ於テ兩國人民雜居ヲ憂ラルヽ時ハ別ニ居留地ノ如キ者ヲ設ラルヘシ但四方ニ圍ヒヲ爲ルハ甚不宜事ナリ

此時差備官七名入リ來ル

一開港後ノ事ナレトモ唯今序ニ御咄申置ヘシ是ハ從前釜山ニ如圖地所アリ如此ノ大地我公館ニ屬シアレトモ全ク要用ト云ニモ非サレハ次第ニ寄少々ハ貴國ヘ御返却可致歟トモ存スレトモ訓導ニハ御承知ノ通リ館內蒼々タル古松樹數百千株アリ若シ返地ノ後貴國ニテ之ヲ伐ラルヽ事有ラハ誠ニ殘念ナリ去迎松樹ノ爲ニ地所ヲ借用致置ト云モ如何ノ事ナレトモ先ツ從前ノ通リ借用致置ヘシ就テハ未タ精ク取調ハ不致レトモ凡我國金貨七八十圓位ノ地租ニテ借用致置度是迄無租ニテ使用致來リタルハ謂レナキ事ナリ依テ今後ハ公平ニ地租ヲ納レ借用致スヘシ

一第四各開港場ニ在留スル我國人民諸方ヘ遊步規程地境界ハ日本里數十里四方ト定メ其境界ニ標示アリタク尤其境內ノ物ハ互ニ賣買ヲ許スヘシ且又我國商民每歲幾度歟時期ヲ定メ大丘及其他ノ如キ處ノ市ニ參ルヘキ爲メ旅行爲致タシ

一元來我國ニ於テハ淸國ノ商人參リ貿易ヲ致スト云處ハナシ然トモ我國ヨリ彼國ヘ參リ商買ヲ致ス事ハアリ

一第五自今兩國間懇親ノ交ヲ通スレハ貴國人民ノ內ヨリモ我國ヘ來ル事ヲ請フ者モアルヘシ然ル時ハ之ヲ御許可アリタシ尤脫走者ハ我國ニ於テモ之ヲ受サルヘシ依テ必ス憑照ヲ與ヘラレタシ

一第六我國人民貴國ニ在リテ病死スル事ハ測ラレ難シ其時ハ埋葬地ヲ使用致シタシ

讀テ第七款ニ到リシ時

一是ハ我國ノ錢ヲ以テ貴國人ヨリ御拂可被降トノ御趣意ナリヤ

一我國人民ヨリハ日本貨ヲ以テ貴國物品ト交換スヘシ尤朝鮮貨ハ我國人民ト雖トモ自由ニ之ヲ用ユヘシ貴國人若シ日本貨ヲ取ル時ハ日本物品ト交換スル事ヲ得ヘキナリ

一第八測量シテ廻ルト云丈ケノ事ハ分リタリ

一啻測量シテ廻ルト云ノミニ非ス時誼ニ寄必需ノ物アレハ沿海地方ニ請出ツヘシ其時ハ無差支御賣渡被降度若シ又病人等出來タル節ハ相應ノ御救助被降タシ

一委細承諾

一第九從前貴國ニテ我國人民ノ外西洋人沿海ニ漂泊スル事アル時ハ其地方ニヨリ啻救助ヲ加ヘサルノミナラス或ハ之ニ暴行ヲ加ヘラレタル事モ有リシ由既ニ米國トノ爭是レナリ今後不相替如此御仕向アリテハ恐ラクハ貴國不可測ノ憂アラン故ニ若シ漂流人アル時ハ直ニ救ヒ上ケ之ヲ我國ヘ御引渡アリタシ方今我國西洋各國ト交ヲ通セリ依テ我國ヨリ其本國ヘ引渡スヘシ右樣ノ御取扱ニ相成ラハ貴政府仁惠ノ御所置ト云ヘシ

一貴諭了悉セリ近來ハ可成丈ケ厚ク救助ヲ加ヘ清國ヘ送リ遣スヘキ分ハ清國ヘ護送シ又出帆ノ出來ル者ハ出帆致サセ餘程充分ノ取扱ヲ致ス事ニ成リタリ

一出帆ノ出來ル分ハ至極宜敷都合ナリ併シ清國ヘ護送セラルヽナラハ陸路悠遠ニテ餘計ノ手數モ懸ルヘシ因テ今後ハ我國ヘ御引渡ニ成レハ簡易ナルヘシ

一如此ナラハ大ニ便利ナリ時機ニヨリ御願致ス事モアルヘシ

一此事五ニ約定書ニ書載セ置ケハ宜シ

一第十一貴國官吏商法ニ關シ不正ノ者アレハ充分御取正シアリタク且平生嚴重御取締アリタシ尤於我國モ此邊ハ嚴ニ取締致スヘシ

一第十二兩國互ニ漂流人民即貴國李元春ノ如キ者アレハ今後爲之消費シタル金額ハ無覆藏申通シ之ヲ償却スヘシ否サレハ唯賓客ノ取扱ニ相成互ニ宜シカラス故ニ賄料一日凡何拾錢ト云樣ニ勘定書ヲ立ル事ヲ御約定致置タシ

讀畢テ後

一御相談致度个條ハ先ツ右ノ二冊ノ通リ也今日迄ノ御考ヨリハ簡易ノ事ニ思ハルヘシ拙者ヨリハ相當ノ事件ヲ申進ル積ナリ貴國ニテハ未タ御慣レ不被成トモ餘リ御考過被成時ハ却テ六ケ敷相成ヘシ偖又此條約書ノ終ニ於テ一言ヲ加ヘ度ハ右ノ通リ約定スト雖トモ他日若シ障礙ノ廉アリ不便利ナレハ改正スル事ヲ得ヘシトノ趣意ナリ於貴國或ハ拙者ニ欺カレ不都合ノ事アリトセハ兩三年ノ後ニ到リ之ヲ書改ムヘシ尙御亮解ニ不成廉アラハ幾度ニテモ繰返シ說明致スヘシ如何ヤ

一右ノ內拙者ノ獨斷ニテ御答申テ宜敷事モアレトモ兩國間ノ條約不容易次第ニ付政府ノ大臣ニ申聞タル上明日歟明後日ニハ罷出御答ニ及フヘシ





一右ノ御運ニナレハ誠ニ幸ナリ右ノ趣旨御同意ナレハ御相談ノ上文章ハ如何樣共改正致スヘク尤修好條規附錄ノ方ハ唯件書ノミニテ未タ成文ニハ非ス愈約定書モ出來レハ雙方調印致スヘシ依テ遲クモ明後日ハ御返答下サレタシ

一第四則中ニ在ル大丘初諸方ニ行ク事ニ付テハ我國人民モ間ニハ不宜者モアリ故ニ多人數參レハ其丈ケ弊害ヲ起ス事モアルヘケレハ日本管理官ヨリ人撰ニテ旅行ヲ願出サスヘシ貴國ヨリ其者ヘ旅行免狀ヲ御渡シ成リタシ然ラハ何程數免狀手數料ヲ貴國ヘ差出サシムヘシ尤是ハ我國商民某地ヘ旅行シ貿易上損益アルニ關セス手數料丈ケハ納メシムヘシ且貴國ノ爲メニ謀レハ旅行ヲ願フ者ヨリ何程數資本金ノ如キ預ケ金ヲ出サシメテ旅行ヲ御許シニナレハ無身元商人ハ妄ニ旅行ヲ願出サル事ニナルヘシ若シ我國商民某地ニ參リ其處ニテ入組ノ事アル時我國官員出張ヲ御賴ニナレハ何時ニテモ差出ヘシ其節ハ貴政府ヨリ旅費手當等ハ御渡ニ不及ナリ

一過刻御覽ニ入レタル拙者ヘノ委任狀ハ唯今差備官寫取ニ付無程差上ヘシ拙者ハ最早御暇ヲ乞フヘシ

一右ニテ用談終リ雜話ニ涉リ少焉講修官退出時ニ午後五時五十分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 八一　八月七日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

**日本國側作成ノ修好條規附錄ノ箇條書ニ對シ朝鮮國側ヨリ回答書ヲ提出シ意見交換ノ件**

**附記**　八月七日右朝鮮國講修官提出ノ回答書

第二號

明治九年八月七日午後一時五十分宮本理事官ト講修官趙寅熙トノ對話

河上大錄筆記浦瀨中錄荒川少錄通譯差備官八名陪席

一禮畢テ

一過日御咄ノ事ハ我政府諸大臣ト申談シ今日其御答ニ罷出タリ

一伺フヘシ

一書取ヲ致シ來リタルニ付御覽ニ入ルヘシ

一過日拜見ノ修好條規附錄个條書第九條ハ若シヤ脫文ニ

ハ非スヤ

一是ハ六ケ敷事ニハ非ラス朝鮮人民日本ヨリ買入或ハ貰ヒ受タル物品ヲ用ヒテ不苦トノ一ケ條ヲ脫シタルナリ何レ今日ハ成文ノ講本ヲ可差進積リナリ

一是ハ已ニ諸大臣ヘ爲見タル講本ニ付是ヘモ御書加被下タシ

此時第九條ヲ書加ヘ渡ス

講修官ヨリ一本ヲ出シテ

一委細是ニテ御承知被下タシ

理事官一讀畢テ

一御書取ノ趣ハ分リタリ就テハ追々御辨解ニ及ヘシ

一右樣ノ事ハ何レモ兩國宜ニ從テ御相談可致ナリ

一第一ニ二个所ノ港口ヲ開ク事ニ付御尋アリ右ハ元ヨリ二十ケ月トノ期限モアレハ拙者ハ其事ヲ御相談可致任ハ受居ラサル也尤我政府ニテ新開港ヲ急カサルノ趣意ハ貴國地理モ未タ分明ナラス故ニ先ツ大船ヲ可入樣ノ港ヲ測量シ貿易便利ノ處ヲ見立タル上ニアラデハ確定シ難ケレハ是測量ヲ急ク所以ナリ依テ大丘西浦珍島等各處ヘ行商スル事ヲ御談ニ及ヒ置ケリ若シ右ニテ便利ナレハ別ニ差急テ港ヲ開ニモ不及歟併御約束ハ致シカタシ多ク港口ヲ開テ益ナキヨリハ寧ロ釜山一ケ所ニテモ繁盛ナル方可然ナリ

一御尤ナリ我國ニテハ二ケ所ノ開港ハ第一ノ事歟ト存シ居レリ依テ豫メ承リ置ネハ又タ夫々ノ手當方ノ都合モアレハナリ我國ニテハ何處カ宜敷歟不知此度何ノ御咄モ無之ニ付怪敷存シテ御尋ニ及タルナリ成程釜山一个所ニテモ兩國人民貿易ノ爲メ便利ナレハ當分足レリトノ御詞ハ御尤ノ事ナリ

一第二此件貴國ノ人情ヲ以テ御考被成ハ一應御尤ニハ似タレトモ修好條規ニ係ル事ナレハ御尤トハ申シ難シ修好條規第二款ニ在ル通リ京城ヘ使臣ヲ出サネハ不成用向アレハ二年歟三年歟逗留スルモ不知然ルニ今日京城設官ノ事ヲ御斷ナサルトモ承諾ハ難致全ク修好條規ヲ違犯ナサレル儀ニ付尙委敷承リタシ

一此第二款ハ我國ニテハ此度貴官御入京ニ相成タル如クニ使臣ノ參ラレル事ト見做シ居レリ尤駐留久暫ハ便宜次第且京畿道ナリ釜山ナリ何方ヨリデモ御上陸相成不苦段ハ兼テ承知致シ居レリ何レ兩國通交ノ上ハ使臣互ニ往來ノ事ハ覺悟ナレトモ永住ト云事ハ一向承知不致唯一時ノ御用ニテ入京アル者ヲ云趣意ナリト認メ居レリ此邊御相談ニ及タシ

一駐留久暫ト云字ハ實ニ意味ノアル事ナリ或ハ急ヒテ歸ル使臣モアルヘシ或ハ落着テ交際ヲ結ヘトノ命ヲ帶テ來ル者モアルヘシ我國ヘ外國ヨリ來ル公使ノ內既ニ十年ニ過ル者モアリ先ツ玆ニ館舍ハ貴國ノ物ヲ借用致スト見做シテモ貴國ニテ早ク追返シ度ト云樣ノ御心得ニテハ大ニ間違アリ在留公使ナレハ今度拙者理事官ノ命ヲ奉シテ來リシ如キ者トハ全ク同シカラス

一元來第二款ノ使臣ト云事ヲ貴官ノ如キ者ヲ指ス事ト心得居レリ修信使歸國後初メテ各國公使用向ノ有無ニ拘ラス常ニ逗留アル次第ヲ承レリ愈北京在留公使ヨリ御兼勤トナレハ當地ヘ御入來ハ御斷申度開港場ニ管理官アレハ萬事不都合ハナカルヘシ平日公使ノ事務ハ決テ無之者ト保證致セリ自古京城中ニ外國人住居致タル例ナケレハ小民共於テハ實ニ驚愕致スヘク尤時々用向ニ付御來京ノ節ハ久暫トモ便宜ニ任スヘシ各國公使ノ貴國及淸國ニ於ル如ク平生用ナクシテ御住居相成段ハ是非御斷申度淸國ニハ各國公使モ在留ノ趣ナレトモ我國ニテハ唯貴國ノミナリ人心騷擾ヲ生シテハ不都合ニ付吳々モ此邊御良考下サレタシ

一今ニシテ始テ御承知トハ不都合千萬ナリ淸國ノ事ハ疾ヨリ御熟知ナルヘシ最早使臣ノ功能ヲ辨說スルハ餘計ノ事ナレトモ斯迄御嫌ヒナサレル上ハ一通リ說明セサルヲ不得抑使臣常ニ在留スルハ何歟內國ノ情事ヲ探ラルヽ樣ニ見ユレトモ雙方情實ヲ通シ平和ヲ主トスルニハ使臣ノ功ヲ缺クヘカラス已ニ先刻貴官ヨリ度々面接スレハ其度每ニ親敷思フトノ御挨拶アルニ非スヤ去ル者日ニ疎キ譯ニテ互ニ隔絕シテ居レハ自ラ隙ヲ生ル者ナリ貴國官員每月一兩度宛我使臣ト御會合被成ハ自ラ雙方ノ親睦ヲ重ヌヘシ曩キニ森山茂廣津弘信ノ訓導ニ於ル始末ヲ見給ルヘシ結末終ニ兩國大臣江華ニ會シ議政府ノ照會ヲ得ル迄ニ到レリ彼時若シ行違フタナレハ必ス戰爭ト可成程ノ大事ヲ積ミ累ネルニ至リシナリ然ラハ使臣ノ交際アル功ハ面倒邪魔ト云位ノ事ニハ非ス初メ我國ニテモ英國公使館ヲ燒拂タル者モアリ尤此事既ニ約定アレハ委細ハ贅言ヲ不費レトモ貴官ニハ御存ナキ歟ト思フユヘ右樣御辨說申進ルナリ御了解アリタシ

一委細承了已ニ新ニ二口ノ港ヲ開クト云フ事迄アレハ强

テ公使ノ入京ヲ嫌フト云ニハ非サレトモ自古清國人ト雖トモ來京ハ不致然ニ貴國使臣御入京アリテハ迷惑不少他日事起ルノ後ニ到リ最初何故ニ入京ヲ不斷シテ如此不都合ノ場ニ及ヒタルヤト後悔ノ時ニ逢フ歟モ難計依テ重大ノ事件アル時ハ入京シ平時ハ開港場ニテ事務御取扱下タサルレハ我國ヨリ用向ノ節ハ使ヲ差出ヘシ乍去平日貴京ニ駐劄セヨト命セラルヽトモ決シテ行クモノハアルマシ尤貴國公使京城ニ御住居アリテモ我國人ノ内ニテ俱ニ交際スル者ハ有之間敷拙者共コソ度々御面會致セハ情ハ厚クナレトモ貴國人語モ不通シテ御住居ニ相成テハ何分小民共落着申間敷又嘗テ貴國人ト紛議ヲ生シタルハ貴國御改新ノ事ニ付事情明了ナラサル爲メ阻隔ニ及ヒタリ今日ノ如ク平和ニ到リタル上ハ最早阻隔ヲ可生樣モナカルヘシ呉々モ右ノ一事ハ斷然御斷可申旨我諸大臣一決致シタリ

一夫ハ實ニ御氣ノ毒ナリ最初條約決定前ニ右ノ御談アレハ可然ニ既ニ兩國君主批准ヲ與ヘラレタル後ニ到リ今更如此御議論アリテハ實ニ大變ヲ可生拙者ハ唯細目ヲ可談迄ノ職分也个樣ノ大事件ヲ可受任ニハ非ス又貴國ヨリハ我東京ヘ來ル人無之トノ御咄ナレトモ貴官ノ如キ有志ノ方ヘ貴國王ヨリ被命タレハ如何可被成哉愛國忠誠ノ人ナレハ必ス王命ヲ奉シ東京御駐留モアルヘシ抑戊辰ノ事ハ情實不分ト述ヘラレタレトモ若シ彼時兩國使臣アレハ議政府ノ照會ヲ受ル程ノ不都合ニハ不到ヘキナリ右ノ事件ハ拙者承諾可致者ニ非ス實ニ不容易大事件ナレハ拙者歸京ノ上此御咄ヲ我朝廷ヘ申出タレハ彼調印未乾カサルニ已ニ如此事トハ萬々不都合ナリトテ大變ヲ生スヘシ依テ右樣ノ御論ハ相止メラレ細目ヲ議セラレタル方可然

一何分最初ノ心得ト相違致セリ段々御說ヲ承レハ我國ノ爲メニモ相成ル事ナレトモ不慣ノ人民是カ爲メ不都合ヲ生シテハ終ニ本條約ニモ可關ニ付何卒御良考被降タシ我國ト御國ノ間ニモ使臣ヲ我京師ニ永住セシムルトノ約ハ無之事故貴國ニテモ少シク御斟酌アリタシ

一然ハ暫ノ字ハ扨措キ久ノ字バカリヲ活シテ見レハ三年也五年也ノ久キ時間モ久ノ一字ニテ盡ルナルヘシ然シテ我家ヲ新築スル歟或ハ貴國官民ノ家ヲ賃借スル歟ト申處ナレトモ我方ニテ日本風ノ家ヲ建テヽハ不都合ニ付兎モ角モ貴政府ノ家ヲ貸サルヘシ家賃ハ御相談イタスヘシト云一段ノ御



談判ナラハ纏ルベシ小民不落着トノ情實ヲ被述タレトモ政府ニ御決意ノ事ナレハ小民ハ自ラ是意ニ從フヘシ所謂君子ノ德ハ風小人ノ德ハ草ト申處ナリ唯政府ノ御確決カ肝要ナリ貴國ト清國トノ條約ハ拙者ハ更ニ不存ニ付之カ爲メ御討論ハ致サヽルヘシ

一唯年數ノ長短ヲ以テ申ニハ非ス何分民情實ニ難行次第モアレハナリ併一時ニ是計申上テモ空ク時間ヲ移セハ尙拙者モ熟考可致ニ付貴官ニモ御良考下サレタシ

一抑貴重ナル條約ヲ兩國ニ於テ自由ニ可動者ト致セハ大不都合ヲ生スヘシ情實モアルヘケレトモ政府ノ義務ニテ執行スヘキ條件ナレハ篤ト貴政府ヘ御申上アリタシ

第三日本使臣陸路ヲ通過スル時ハ沿途送迎スヘシト是ハ大略御同意ナレハ別ニ辨解ヲ用ヒス乍併是ハ使臣在京ノ時釜山或ハ其他兩港口ヘ往來スル事ヲモ含メリ唯入京ノ時ノミヲ云ニ非ス使臣ノ眷族隨員ハ尋常商民ノ比ニ非ス尤使臣單身ニテ旅行ノ出來ル者ニ非サレハ家族モアルヘシ從僕モアルヘシ之ヲ眷族ト云又隨員トハ唯今席上ニ居ル某々ノ如キヲ云隨員ナレハ時トシテ使臣ニ代リ旅行スル事モアルヘシ尙又管理官ハ港口ニ居ル者ナレハ時々用向アレハ使臣ノ許ニ到リ面會ヲ要スヘシ是皆使臣ノ爲一身ノ手足同樣ノ者ナリ

一我京城ニ公使館ヲ不置時ハ北京ヨリ陸路往來ハ御斷申度且管理官ハ沿海地方ニ被居者ユヘ必ス海路ヨリ入京アリタシ眷族隨員ノ如キハ此度貴官ノ樣ナレハ更ニ差支ナシ

一然ラハ眷族隨員ノ分ハ無差支ニ決シタリ哉

一貴官ノ如クアラハ無差支併公使際限ナキ逗留ノ時ニ到レハ迷惑ノ事多シ

一唯今議スル所ハ全ク公使ノ事ナリ別ニ重大ノ事件アルニ非サレハ臨時官員ハ派出セサルヘシ公使ハ常ニ在留ノ者ナレハ妻子モ携ル事モアルヘシ又隨員モ多ク連レルヘシ

一使臣ヲ公使ト見做スニ到リテハ今日迄未タ決議ナシ追テ御相談ヲ願フヘシ

一管理官ハ海路舟ニテ往來セヨトハ一應尤ノ御論ナリ然レトモ若シ蒸氣船ナクハ或ハ陸行スル者無シトハ言ヘカラス又大船ナレハ仁川迄參リテモ漢江ニ入ル事ヲ得ス然ル時ハ仁川ヨリ陸路ヲ通行スル事モアルヘシ是則内地ヲ經過スルナリ故ニ此ニ書載ヲ要スルナリ

一然リ御辨解ノ通御尤ナリ

一北京ノ通路ハ不議トアレトモ玆ニ公使館設置決議ノ者ト見做シ御見込ヲ可承哉

一愈貴國公使館ヲ建ルニ致シテモ瀋陽ヨリ山海關ヲ通行スル道筋ハ我國人ト雖トモ自由ニ通過スルヲ不得故ニ此儀ハ御受致シカタシ清國ヨリモ山海關ニテハ差留ラルヘシ

一即刻拙者ヨリ確ト約定ハ不出來レトモ一昨日モ申進セシ如ク時誼ニ寄我國公使ハ北京ヨリ兼勤スル歟モ難計久暫便ニ任シテ冬分天津河モ凍合スレハ是非陸行セサルヲ不得併清國ヘ伺ハル丶一條ニ到リテハ御手數察シ入タリ此儀ハ別ニ委敷書取ニテ爲御見被下度其御辨解書ニ依テ拙者モ勘辨可致

一然ラハ別紙ニ委敷書テ可入御覧

一第四地基賃借ノ个條ハ別ニ御異存ナケレハ條約書ニ書加ヘ可然哉

一然リ差支ナシ

一第五游歩規程ノ事ニ付各港灣内ハ未タ決セス草梁和館界限トハ何程ノ處ヲ云哉



一貴國ノ十里ハ我國ノ何里ニ當ル歟ハ未タ知ラサレトモ已ニ草梁館ノ例モアレハ之ニ隨テ宜シカルヘシ

一夫デハ迚モ御咄ニハ不相成凡我國十里ト申ハ人足ノ一日程ナリ當所ヨリ仁川ノ濟物浦迄ハ十里餘ト聞ク貴國人ノ事ハ知ラサレトモ我國人ハ專ラ健康ヲ養フ爲メ遠行ヲ要スナリ纔ニ和館ノ如キ處ニ閉籠ラル丶時ハ鬱屈却テ不宜事テモ考出ス者ナリ尤十里内ニテ決テ大商買ヲ致スト云趣意ニハ非ス譬ハ歩行ノ節或ハ柿ヲ買ヒ瓜ヲ買フト云如キ事ノミ餘リ鎖細ニ論スレハ之カ爲メ害ヲ生スル事モアルヘシ御熟考アリタシ

一仁川ヨリ京城迄ハ凡我百里ニ當ル然ル時ハ其境内ニハ人民住居ハ難相成假令王命アリテモ婦人ヲ持テ居ル者ハ住居ハ不致ヘシ住居スル者ハ纔ニ男子ノミ也元來雙方人民安著爲致度トノ趣意ナレハ人民安着セサル事ハ政府ヨリ强テ止ル事難相成依テ坂ノ下迄位ノ遊歩境界ニテハ如何哉此御談ハ甚六ケ敷事ナリ

一何故ニ婦人ハイヤガルヤ

一我國婦人ハ同國人ニテモ不知者ハ逃避ル位ノ事ナリ況ヤ外國人常ニ往來ノ道筋ナレハ迚モ安堵シテ住居ハ不致ヘシ然ラハ其地ノ繁昌ハ期シ難シ

一甚タ了解シ難キ事ナリ若シ日本人民惡事ヲ爲セハ我管理官ヨリ直ニ之ヲ罰スヘシ惡事ヲ不爲者通行スルヲ人民ヨリ嫌フト云ハ貴國ノ想像說也而シテ拙者ノ論モ亦想像ヲ免カレス个樣ノ御論計リニテハ我政府ヘ復命致シカタシ尤是迄我國軍艦測量ノ爲メ沿海地方ニ到リシニ婦人ハ男子同樣ニ不參レトモ隨分近寄タリ嘗テ拙者江華ニ到リシ時婦人逃ケタル事アルニ付之ヲ修信使ニ咄シタレハ修信使ノ御說ニハ江華ノ時ハ和戰未決ノ時ナレハ婦人モ恐レテ逃去クルヘシ今度京城ニテハ必婦人共近寄ルヘシト語ラレタル事アリ是可證ノ事ナリ尙又過日拙者於釜山一ツ家ヘ參リタリ此處ハ昔ハ唯一軒ノ處ナリシカ三百軒ニモ相成五六十年ヨリ初テ繁昌シタル處ナル由然ルニ是ハ常ニ日本人ノ往來スル處ナリ若シ十里ニテハ餘リ廣過ルニ付今少シ勘辨呉ヨトノ御咄ナレハ相分レトモ前條ノ御詞ニテハ相分ラス

一若シ御咄ノ如ク極レハ十里内ハ人家ハ無キ者ト御見做被下タシ

一勿論我國ニテモ十里内ノ人家盡ク立退ト云事ヲ坐視シテハ不居ヘシ果シテ然ラハ爲之港ヲ閉ル程ノ事ト雖トモ御相談可申尤一昨日モ申進タル通此度ノ附錄ノ方ハ本條約ニ非サレハ實地施行ノ時差支筋アレハ書改ラルヘキ也

此時條約書附錄草案ヲ出シ示ス

一今日ハ迚モ落着ニハ到リカタシ次ノ條件ヲ御覧被降タシ

一第六他方ヘ行商ニハ及間敷ニ付坐シテ百貨ヲ集ル方可然トノ御見込ナレトモ是ハ當分開港ノ時モ間カアレハ其内人柄謹愼ノ者ヲ撰ミ差遣シ度若シ拙者ヨリ申進タル地名多過ルト云事ナレハ又御相談致スヘシ

一新ニ開港ノ儀ハ我國ニテハ聊嫌フニ非ス併シ陸地ニテ行商ノ事ハ甚厭フ所也篤ト御測量ノ上御開港被下度貴官ノ御見込ニテハ即今餘計ノ港ヲ開クヨリ陸地ノ貿易便利ナルヘシトノ事ナレトモ我國ニテハ開港ハ聊不苦故ニ第一ニ開港場ノ事ヲ御尋申タル也

一然ラハ實地測量ノ爲メ内地ヲ通行スル事ハ不苦哉

一愈御見立ノ上御上陸被成事ハ無差支

一今日ハ最早御勞レナルヘシ右件々ハ明日御決答被降タシ

一右ハ先ツ熟議ノ上ノ事ナリ兎ニ角雙方ニ不便ノ廉アレハ熟談ヲ盡シタシ

一一昨日差進タル條件ニ付文章ヲ綴リ試タリ御熟覽被下タシ

此時修好條規附錄草案ヲ遣ス

一條約書ニ載セハ兩國中ニ布告スヘシ然ル時ハ聊不都合ノ廉アリ因テ手紙ニテ互ニ往復致置タシ此二通モ御熟覽アリタシ

此時二通ノ書翰案ヲ遣ス

一又明後日參館御報可申上

右畢テ雜話無間講修官退出

六時二十分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

**註**　右對話ニ謂フ朝鮮國側ヨリノ回答書左ニ附記ス

**（附記）**

八月七日講修官持參之回答書

貴國既欲開港通商則今春條規中二處云々必以船路平順商民湊集之所然後便於貴國矣必以邑府附近管檢便利之處然後亦便於我國矣此爲首先講定之事也貴官應有商量於中者願聞之兩國使臣館舍及地基之事貴國通商於大清亦照各國通行之例貴國使留住北京而至若我國則不無兩不便宜之端我國曾不通商外國百姓人民初不識此等規例而今忽開館於闤闠叢雜之中剏見剏聞驚怪而疑惑必然之勢也貨利奔競之場何處無奸細無賴之徒乎生事於意外以致主客之疑阻最是可慮且各國使臣之駐燕京不但管領該國商民之事亦與各國使臣互相交涉必多其事而今於我國則貴國使臣獨留客館數處開港遠隔山川別無遙相接應之事則使臣駐京實無緊關事務矣凡事便否經歷乃知而此事則預料其不便而無益明矣港口設官既足管理則必無事務之煩於使臣而如有不可不商議裁處者小則書契往復大則兩相通使未爲不可開館駐京實難奉施

使臣及眷屬隨員日本人民管理官朝鮮內地經過之事此後貴國使臣或欲由旱路到京則自當沿途迎送而其他人員則何可不拘行進程限隨意行走於陸路耶凡事務歸兩國俱便不相妨碍然後方可永以爲好苟或一有不便之端恐不無後悔實難奉施既不得奉施於使臣之設館駐京則通路北京不必議到且非我國之所主張也日本人民居留地基賃借錢料之事地基自是我國人民之地基也房屋自是我國人民之房屋也或賃或借惟在兩相從便行之無煩講定周圍門墻不設亦可而行進程限之外則另爲立標勿相違越爲宜

日本里程比我國里程本有不同之說未知長短遠近之的確何如



耶各港灣內日本人民行進程限一依草梁和館界限爲宜而買辨售賣之節自在定限之內不須更煩論難

日本商民每歲定期行商各處事苟如是則開港二處及草梁和館均無設官立規之本意矣客商之逐利東西載貨奔走實非得計孰如安坐港口使各處商民湊會交易之爲穩便乎物貨之流通市舖之殷盛可期於開港之處而若復散行各處往來無常則恐滋意外弊端毫不兩相利益此一款亦不得奉施

第五止第十一諸條可依講本而惟在隨宜商定

彼此漂流人民經費之事恤難濟窮俱是爲民之政則如干經費何可計較耶

貿易規則自第一則止第九則幷可依講本

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 八二　八月九日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

### 日本國使臣京城駐留、遊步規程等ノ問題ニ關シ意見交換ノ件

第三號

明治九年八月九日講修官來テ理事官ト對話

四　日鮮間通商章程締結ノ爲宮本大丞渡鮮一件　八二

但奧中錄筆記荒川權少錄通辨彼ヨリ玄昔運金繼運其他ノ差備官數名陪席アリ

一禮畢テ

一一昨日委シク御談判イタセシ件々ハ如何

一御懸合ノ趣政府ニ於テ評議ヲ盡セリ然ルニ言語ニテハ重大ノ事件意味齟齬スルモ計リ難シ因テ今日ハ筆談ヲ仕リタシ

一御望ナラハ時宜ニ依テ筆談モ致スヘケレトモ元來日本人ハ我國文ハ一通リ心得テアレトモ漢文ハ不得手ナリ拙者ノ如キハ最不及ナリ乍併緊要ノ廉ノミ筆談スルハ可然

一然ラハ要件ハ筆談ヲ用ユヘシ

一貴國人ハ自ラ差支ナカル可ケレトモ不得手ノ日本人ハ筆談ヲシテハ急ノ間ニ合ハザル而已ナラス或ハ意ヲ誤ル事アリ又我國文ヲ以テ書記イタサハ貴國人解シカタカル可シ

一言語ニテハ意ヲ盡シ難シ筆談ナレバ一句ニシテ可盡モノアリ譬ヘハ陸路水路ト書スレハ直ニ分ルナリ

一水路ト云ヒ陸路ト云フカ如キハ書シテ可ナリ水路ヨリ云々陸路ヨリ云々ト言ニ至テハ一句ノ所盡ニアラス抑モ談判ヲ重ネ議定ノ結局ニ至ラハ必ス書簡ヲ殘シテ後世ノ證トス

ルハ勿論ナリ其談判中ハ筆談ノ代リニ傳語官ヲ用ユルナリ

一筆談ノ儀シバシバ申出テ貴意ニ戻レリ仰ノ通リ傳語官モアル事ナレハ只緊要ノ廉ニ至ラハ或ハ筆談ヲ乞フベシ

一承リタリ

此時講修官書付ヲ出シ

但此書付ハ修好條規第二款ニ十五ケ月後使臣ヲ京城ニ派スルトアレトモ館舍地基ノ事ナシ使臣眷屬ノ語ナシ公使駐京ハ不便ナリ各處行商ハ講外ノ事遊歩規程ハ朝鮮里法ヲ指點スル等ノ答辨ナリ

一今日ハ筆談ヲイタス積リニテ既ニ如此認メ置キタリ別段口上ニテ申サズ篤ト御熟覧ノ上一々御回答ヲ乞

一一覧了テ

駐留久暫ノ文字ニ着眼シテ考ヘ見ラルヘシ譬ヘバ久トイヘハ十年モ久又一年モ久ナリ暫トイヘハ一月モ暫又五月モ暫ナリ駐留ノ長短豫メ一定シカタシ故ニ久暫ノ二字ヲ約定セリ

一久暫ヲ論スルニ非ス其使臣ハ矢張貴官ノ如クニシテ來リ久暫アルノミト心得タリ

一拙官ノ來ル所以ハ修好條規十一款ニ照シ條約面ノ不足ヲ補ナフ爲ナリ若シ五年モ十年モ滯留スル事ナレハ客舍モ隨テ破損シ故ニ無賃ニシテ居ルノ理ナシ此後貴國ヨリ使臣ヲ我國ニ派出セハ若シ僅カニ五三日ノ滯在ニテ官舍ニ居ル時ハ如何アラン其他人民ノ家ヲ借リ或滯留スルニ至テハ必ス相當ノ入費ヲ受取ルヘシ夫レト同シク貴國ニ長住スル時家賃カ地代ヲ出サヽル理ナシ

一別ニ開港所ヲ取立ル時ハ地税ヲ受ル事モアルベシ使臣駐京ノ事ハ貴官ノ如ク我客舍ニ御住居アリタシ先般修信使ノ東京ニ到テ始メテ各國公使館アル事ヲ承知セリ乍併弊邦ニ於テハ決シテ家賃ヲ受ル事ヲ爲サズ

一然ラハ久暫ハ定メカタシ以後我使臣ノ來京スル時ハ久暫ヲ問ハス無賃ニテ客舍ヲ貸用スル事ヲ書簡ニテ證明ス可シ

一使臣ハ來ルトモ代理公使ヲ以テ見留メス只使臣トノミ思ヘリ

一強テ差支ナシ斯ク議論スル上ハ殊更ニ久留スル歟ノ疑訝モアルナラン決シテ左様ノモノニ非ス

此間講修官玄昔運ト談話アリ

一只今御噺ノアリシ書付ハ差出サルベシ

一書一紙ヲ出シ



如此書シテ如何

一即席ノ案文ナレハ申陳ルモ如何ナレトモ趣意ハ个様ニアリタシ若シ下案ヲ望マルヽナラハ差示スベシ

一其下案ヲ乞フ

此時彼ヨリ出セシ答辨書ヲ開キ示シ

一此開港所ノ事件ハ管理官ト地方官ト議シテ足ルベシトアレトモ意味大ニ違ヘリ若シ事件ノ起ルニ當テ管理官ト地方長官ト其議相合ハス裁決ナリ難キトキハ地方長官ハ京城ニ由テ裁ヲ仰グベシ管理官ノ如キハ千里超溟一々指教ヲ得カタシ必ス使臣ニ告ケ使臣政府高官ト其事ヲ談判ス是使臣ノ京城ニ駐留スル所以ナリ

一貴意ノアル所ヲ書記ヲ乞フ

一諸

何曾有使臣眷屬之語乎ノ一句ハ如何

一婦人ヲ召連ル事ハ領議政始メ政府一同ヨリ御斷リ申ス

一貴國ノ婦人ヲ人ニ示スヲ忌ムハ一昨日モ粗承知セリ然ルニ日本人ノ婦人ヲ連レ來ルヤ何ノ差障リニナルヤ

一眷屬ヲ忌ムハ久留ヲ恐レテナリ開館ヲ斷ルモ其意ナリ是故ニ御相談ニ及ベリ

一此地ニ婦人ヲ連レ來ル事先ツアル間敷事ト思ヘトモ議論ニシテハ必ス連レ來ル事ナシト云ヒカタシ

一可相成ハ眷屬ノ文字ヲ隨員トカ從者トカニ變通セン事ヲ乞フ

一隨員ハ固ヨリ召連ルナリ其事ハ考ヘ見ル可シ

清國通路ノ事ハ如何

一書取ニテ差出置ケリ

一未タ差出サレズ間違ナルヘシ

一大キニ違ヘリ何レ書取ニテ差出スヘシ

眷屬ノ儀ハ猶宜シク御勘考ヲ乞フ

一次ノ个條遊歩規程各處行商ノ儀ハ如何

一此儀ハ書取中ニ委細申上タリ

一是レハ斷リマテノ儀ナリ各處行商ハ姑ク置キ規程ハ如何條約面ニモ釜山ニテハ從前ノ慣例ヲ廢ストアリ且草梁館ノ如キハ坂ノ下（公館ヲ離凡十七八町ノ村落）迄モ到ル不能如此狹小ナル事ニテハ迚テモ相談ハイタサレズ（此時公館ノ繪圖ヲ示セリ）

一貴官ハ狹小ト云ト雖モ我ヨリ云フ時ハ狹小ト申スニアラス且規程ハ我里法ニテ取極メタシ又タ廣大ナル時ハ兩國民ノ間ニ葛藤ヲ生スルモノナリ

一草梁規程ノ如キハ反テ葛藤ヲ生ルモノナリ先般設門内ニテ拙官モ前歩ヲ留メラレタリ昨年中牟田海軍少將ハ重任ナリシカ同人東萊ニ到ル時モ貴國人民甚失敬セシ事アリ可然談判ニ可及處江華ノ一事落着ニ際シ其儘ニ棄置キタリ我國人民ハ貴國内ヲ往來スルトモ敢テ貴國ノ婦人ヲ犯スニアラス尋常ニ通行スル迄ナリ然ルニ痛ク拒ムハ其名ハ親密ニシテ其實ハ我ヲ斥ルナリ

一是非廣長ニ遊歩セズトモ貴國人ノ害ニハナル間ジク此儀ハ朝家ニ於テ堅タク御斷リ申スナリ敢テ朝命ニテ拒ムニアラス人民ノ慣習使然ナリ

一御嘶ノ處ハ甚タ不相分坂ノ下抔ニテ差留ルモノハ百姓等ヨリ造意スルモノニ非ス朝命ニ出レハナリ若シ差留サル樣ニト朝命アラハ百姓ハ固ヨリ差留メサルナリ清國ハ勿論其他各國共ニ旅行切手ヲ所持スレハ内地遊歩ハ勝手次第ナリ貴國ニハ未タ舊習ヲ脫セサル爲ナリ

此時我内地旅行免狀ヲ示シ

一此ハ我國ニテ外國人旅行スル時ノ免狀ニシテ之レヲ所持スレハ十里外ト雖自由ニ遊歩スル事ヲ得ヘシ　十里内ハ切手ナクシテ自由ニ行クナリ

一一見セリ

此時更ニ御國旅行免狀ヲ示セリ

一一覽了テ

承ル貴國一里ハ我十里ナリトセハ此間モ申ス通リ其規程内ハ人民ノ離散スル處ハ不安ナリ

一彼此所見反對セリ且貴下ノ陳ル所ハ總テ想像說ニシテ證據ナシ拙官ノ所陳ハ實驗說ナリ抑モ之ヲ實際ニ施シテ果シテ不可アラハ兩國協議ノ上改正セサル可カラス故ニ我國里法十里ト極ラレ實驗シテ其節人民離散スル事アラハ我モ亦政府ニ中立更ニ議ニ涉ルヘシ

一當春ノ條約面ニハ里程ハ載セス草梁館ノ規程ヲ廣メルトノ事ナラハ相談ノ仕方モアリ只今十里ノ規程ヲ取立ルニ至テハ何分人民騷擾シテ難澁スルヲ如何セン

一十里ト云ハ據アリ我邦遊歩規程ハ十里ナリ且日本人ハ一日ニ十里ヲ行クハ通例ナリ故ニ譬ヘハ貴政府ニ於テ十里四方ト云フ時ハ差支ル場合モアレハ某方ハ七里ニシテ某方ハ八里トカ云フカ如キハ事情所不得止アリテ相談アラハ勘考モイタス譯ナレトモ一丈ノ問ニ一寸ヲ答ルカ如シ決シテ承ル可カラス





一里程ノ儀ハ朝議ニ出ル所ニシテ講修官ノ專斷ヲ以テ答ル所ニアラス

未タ食事前ニ付一應休息シテ再ヒ出席ヲ乞フ

一此時洋酒ヲ命シ

食事前トハ更ニ存ゼス只今一盃差出セリ右ニテ休息アルベシ旅館故ニ食事ヲ差出カタク耻入タリ

一毎度御馳走ニ相成アリ難シ

一貴國人ハ一日四度食事スル趣承リタリ如何

一三度食事セリ乍併四度喰スル事モアルナリ

右ニテ畢ル正午十二時三十分出席四時五十分休息ノ爲メ講修官退席

第三號ノ續キ

明治九年八月九日午後五時五十分再ヒ對話

河上大錄筆記荒川權少錄通譯差備官十名許陪席

一禮畢テ

理事官書翰案ヲ出シテ

一是ハ先刻御咄ニ付認試タル也此通リノ書翰ヲ御遣相成ハ別ニ約條書中ノ个條ハ取消テモ宜シ

一諸大臣ノ字ハ禮曹判書ト御改被下度

一諾併シ此度ノ如ク禮曹判書ト御談判ニ不到シテ貴官ト御談判致樣ノ事モアル故諸大臣ト書タル也尤此書翰ハ貴官ノ御名ニテ拙者ヘ宛御遣被下度

一雖經幾歲月ノ字ヲ竣事之間ト御改被下度

一假令其時間長久ト書改ムヘシ

一矢張竣事之間ト御改被下度

一然ハ假令竣事之間長久ト改ムヘシ

一貴國代理公使ノ如キ事ハ元ヨリ於我國難許處ナリ且眷屬引纏抔ト申ス事ハ斷然御斷申上タシ最早今日モ晩景ニ及タレハ退出可致ニ付此邊御良考被下度

一使臣館舍ノ家租ヲ不受ト云一件ヲ唯今議シ居ルナリ

將又十里規程ノ義ハ如何哉

一我國里法百里四方ト申テハ爲之多少紛擾ノ事ヲモ可生ニ付是ハ我諸大臣ニモ是非御斷申上ル樣ニト申ス事ナリ

我國人情何分未開ノ甚キユヘ新シキ事柄ヲ見レハ卽騷擾ヲ可起ノ恐レアリ此邊御垂察被下度

一右ノ御咄ハ先刻ヨリ度々承レリ併シ拙者ノ所論モ御聞分有之度何分百里ト申談判ヲ一里ニセヨトハ迚モ結局ニ可到

御談ニ非ス

一是ハ我政府ニ於テ決議アリ依テ拙者ヨリ申立テモ迚モ變通ノ策ハ無之ニ付是非御斷申上タシ

一拙者モ我國ヨリ委任ヲ受テ參リ居使臣ノ身トシテ變通ノ道ハ無之併ナカラ百里ヲ八十里ト申樣ノ御談ナラハ又御相談モ申上歸朝ノ後復命モ可相成ニ右樣ノ御咄ニテハ落着難致貴政府ハ近ニ在レハ再三御申上篤ト御評議有之度

拙者ヨリハ日本及清國ニテ外國人旅行免狀ノ體裁マテ御咄ニ及ヒ百里ト御談判申タル處如此强テ御拒被成テハ貴國ノ情ヲ以テ我國マテ命令被成樣ナル者ナリ我國亦獨立ノ國ナレハ對等ノ權アル同盟國ヘ對シ右樣ノ事ハ不都合ナリ

此時講修官一書ヲ出ス

一一讀致セシニ先刻モ申タル通リ京城ニ館ヲ設クル事ヲ不許ト云樣ナル勝手ノ御談判ニテハ落着ハ致スマシ

一代理公使ノ如ク設館留京ノ事ハ相止メ此度貴官御來京相成タル樣致度然ハ久暫俱ニ便宜ニ任ス譯ナリ

一當春於江華拙者共申大官トノ對話アリ貴官ハ御承知ナケレハ一應御咄可致偖申大官ノ問ニ使臣ハ國帝ノ書ヲ齎シ來ルヤト答テ曰然リ申大官曰國書中ノ文字ニ帝ト王トノ別アリテハ差支不少ニ付取消テ呉ヨト答テ曰公使ニ三等アリ全權公使辨理公使代理公使ナリ上ノ二者國帝ノ書ヲ携來ルヘシ代理公使ハ外務卿ヨリノ書翰ヲ持參ルヘシト申大官曰然ハ可成ハ代理公使ヲ我國ヘハ御派出ノ都合ニ願度ト

右ノ御談判ハ申大官ニハ元ヨリ御存ナリ既ニ過日モ代理公使携來ル書翰ノ草案ヲ我旅館ヘ被持參タリ是マテ事隱便ニ落着爲致度趣意ニテ御談判致來タレトモ唯今ノ如キ御談方ニテハ條理貫徹不致ニ付無據拙者ヨリモ議論ヲ發セサルヲ不得申大官ハ此邊ノ事御熟知ナレハ明日ハ御一緒ニ御來館被下度篤ト御同人ト議論致スヘシ

一代理公使ニシテモ使臣ニシテモ同樣ナリ駐留久暫ノ事ハ尙明日御談判可致先ツ此一書ヲ御覽被下度

一拙者ノ論モ決テ此席ニテ可決ト云ニハ非ス詳細貴政府ヘ御申述アリタシ國事ハ重大ナレトモ貴官トハ已ニ三回ノ應接ニ到レリ假令燈ヲ點シテモ今席議論セサルヲ不得先ツ公使ノ事ハ偖置外ニ可議事件アリ御聞取アリタシ

一諾

一昨日差進タル漂民經費ト稅則ノ義ニ付二通ノ書翰案ハ如何ナリヤ御議論アラハ承リタシ



一兩國已ニ修好ヲ經タル上ハ於我國行レ難キ事ハ貴國ニテ御勘辨被下又貴國ニ於テ難行事ハ我國ニテ辛抱モ致スヘシ併シ我國人ノ頑固ナル事ハ御垂察被下度

一右ノ二通ノ書翰案ハ唯文章ヲ御內覽ニ供シタルナリ御異存ナケレハ清書シテ可差進ニ付御決答被下度

一右二件ハ匆忙ニシテイマタ我政府ノ熟議ヲ經ス明日書取ヲ以テ御報可致

此時修好條規附錄定本ヲ出シ示ス

一附錄ハ先日拜見ノ御書付ト同樣ナリ我政府諸大臣何レモ承知致居レリ故ニ別段拜見不致トモ宜シ御返却致スヘシ

一是ハ條約書ノ成文ナリ先日差進タルハ筆談同樣ノ者ニテ覺書ナリ

右ニテ議論殆一時間別ニ可記事ニ非ス

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 八三　八月十日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

### 日本國使臣京城駐留、遊步規程等ノ問題ニ關シ意見交換ノ件

四　日鮮間通商章程締結ノ爲宮本大丞渡鮮一件　八三

第四號

明治九年八月十日午後六時二十分理事官ト趙寅熙トノ對話

河上大錄筆記荒川權少錄通譯差備官十六名陪席

一禮畢テ

一昨日申進タル事件ハ如何ヤ貴政府ヘモ御申陳相成タリヤ

一御談ノ趣委細我政府ヘ申入タリ然トモ政府ニテハ貴需ニ難應旨決議致シ拙者度々政府ヘ出頭致テモ前議變セサル上ハ最早此御談判落著迄ハ政府ヘ出頭ハ致間敷樣拙者ヘ被申付タリ依テ貴寓ノ近傍ニ居リ專ラ此事ニ懸ルヘシ此旨御承知被下タシ

一誠ニ驚入タル御談ナリ然ハ貴政府ハ拙者ノ條理ヲ以テ辨論致ス事ヲ聞入スシテ是非强テ押付テ來イト被命タル樣見ユルナリ此上ハ貴官ノ名目ハ斷ヘタル者ノ如シ此後拙者ハ貴官ト御對談ハ不致貴政府ニテ右ノ說ヲ主張被成ル方ヘ直ニ御談判可致ト云ハサルヲ不得尤今日ヨリ如此可致ト申ニハアラサレトモ勢此ニ到ルモ不得止事也畢竟貴政府ノ內情

ヲ吐露ナサレル御咄歟ハ不知レトモ外國使臣ヘ對シテ些ト有間敷御談判ナリ

一貴諭了悉元ヨリ拙者ニ於テハ貴官ノ御趣意ヲ以我政府ヘ申入餘程盡力モ致シタレトモ何分政府ニテハ國情ヲ斟酌致シ夫故拙者ヨリ能ク講修ノ役ニ不負樣貴寓近傍ヘ參リ居兩國修好ノ道ヲ可貫徹旨被命タル也唯政府ヘ出頭ヲ被差留タルト申ニハ非ス拙者ノ御談判行屆サルヨリ右樣被申付タル事也

一承知致セリ然レトモ昨日モ申進タル如ク何卒程能決議致度存意ニ付使臣館舍ノ件ハ已ニ拙者ヨリ書簡案ヲ差進タレハ館舍無稅ノ趣意ヲ以右ノ一書ヲ御遣相成レハ宜敷又遊步規程ノ件ハ拙者ヨリ我國里法十里ト申進タレハ是ニテハ餘リ廣過ルニ付今少シ減縮致度ト云樣ノ御談判アレハ拙者亦可成樣相考御相談ニ及フヘシ如此ナレハ何レモ此談判ハ結局ニ可致處ヲ只一切不出來トノミ御申聞ニ相成リテハ到底可相纏目的ハ無之ト存ス

遊步規程ノ義ニ付此時又釜山地圖ヲ差示シ絕影島富民洞坂ノ下等ノ事ヲ說明ス

一委細承知致セリ我政府ノ本意ハ貴國トハ已ニ三百年來通好ノ國ナリ後來無事ヲ期スルニハ貴國人游步地ノ境界ヲ定メ遠方迄御越相成度トノ御談ハ貴國ニシテ御尤ナレトモ我國ニテハ何分人智未タ開ケサル爲メ貴國人常ニ往來ナサレル處ノ人民ハ盡ク引拂テ他方ヘ移轉可致然ハ多少ノ難澁ヲモ可生ト恐ルヽ也數度貴意ニ戻ルハ全ク我政府ノ趣意ヲ奉シテ後日ノ患ヲ防クナリ乍御氣ノ毒此邊御了解ヲ願フ爲メ斯迄折返シテ申進スルナリ

一貴政府ノ御議論ハ過日來已ニ度々承レリ貴官モ最早我國人住居致居ル近傍ノ村家別段衰微モ致サス却テ富民洞ノ如キハ盛大ニ到リタル事ハ御了解アルヘシ貴政府ノ御論ハ想像ナリ拙者ノ言ハ證據アリ何方カ條理アルト御考ナサレルヤ貴官唯中間ニ在テ取次ヲ被成計ニテハ講修ノ官ニハ非サルヘシ且先日來申進スル通リ今度ノ條約ハ假令決議調印致ストモ他日兩國間ニ不便ノ廉アレハ商議ノ上改正ヲ可得者ナリ自今我國人追々貴國ニ來ルニ游步規程不廣レハ或ハ其境界ヲ侵スノ患モアリ凡條理ハ一度申進タレハ分明ナルヘキニ不條理ノ御咄ヲ度々御申聞相成ハ最早止メ度事ナリ

一我政府ヨリ被申付事ニ付拙者其詞ヲ疎漏ニ致シテハ不相濟依テ委細書取ニ致來リタリ御一讀被下タシ



此時講修官一書ヲ出ス理事官一讀シテ

一拜見致セリ然ニ是ハ全ク拙者ノ所論ト反對ニ付貴官ノ爲メニハ貴重ノ書ナルヘケレトモ拙者ニ於テハ承服ハ難相成條理アル事ナレハ如何程ニモ辯論セサルヲ不得依テ此儘返却可致

昨日申大官ト御同道ニテ御來館ノ事申進置タリ今日ハ如何ノ御都合ナリヤ

一申大官ハ聊所勞ナリ昨日御咄ノ趣同人ヘ承リ合セタル處同人ニハ成程三等ノ公使アリ且國書ヲ帶來ラス書契ヲ齎シ來ル樣致度云々ノ義ハ委細御相談ニ及ヒタル事アリ然トモ京城ニ於テ設館ト云事ハ承知不致旨申居レリ

一然リ三等ノ公使アル事ハ已ニ御承知アルニハ非スヤ公使來レハ露宿ハ出來ス是館舍ヲ借用セサルヲ不得ナリ然ニ使臣ノ入京ヲ許シ設館ヲ不許トハ貴政府ヨリ無理ヲ被申ト云者也

一館舍ヲ設ケル一段ニ到テハ當春御談判無之唯此度ノ如ク一時御用ニテ御來京御用相濟ハ御歸國被成ル使臣ノ事ト存居タル也

一今般拙者ノ如キモ矢張館舍ヲ借用致居ルナリ全體ハ家租ヲ可差出條理ナリ

一我國ニ於テハ貴國使臣御來京ノ節家租ヲ可受取筈ハ無之

一依テ家租ヲ不受取ト云趣意ヲ書簡ニテ御遣ニ相成レハ可然也公使來京之事ニ付餘計ノ事ヲ彼是御談被成ハ不都合也

一貴意了悉當春取結タル修好條規ニ付テノ細目ハ六ケ月後愈邦ヘ御越相成御談判可有之事ハ疾ヨリ承知致居レリ昨日御談之鴉片烟及港稅等ノ件ハ卽細目ナリ明朝參館ノ上御相談ニ及ヘシ

一明朝モ拜顏可致ナレトモ拙者ノ所論ハ全ク貴政府ノ旨ト相違アリ貴講修官ノ職トシテ我理事官ノ議論ヲ御汲取アリ度ハ勿論ノ事也若シ拙者不條理ナレハ飽迄御辨解有之度否サレハ爲兩國此邊御周旋アリタシ既ニ修好條規ハ出來タレトモ今般ノ細目ノ談判都合能落着不致愈貴國政府不條理ナルニ於テハ此末又面倒ノ場合ニ可及拙者ノ所論ハ條理アリヤ如何御考被成哉

一委細承知致セリ此一書ハ兎モ角明朝迄御預リ置被下度一其御書付ヲ預ル事ハ難致元來兩國ノ條約ハ兩手ノ掌ノ如シ拍テ音ヲ發スルハ是片手ノ力ニ非ス兩掌全ク相合スル故

也兩國ニ於テハ遵奉可致條約ノ本旨ニ外レル樣ノ御咄ニテハ迚モ結局ハ相付申マシ

一一應御尤ノ事ナレトモ我朝旨ノ所在ヲ書取タル也是ハ拙者折角ノ意ニ付是非御預リ置御熟讀被下タシ已ニ先日貴官ヨリ御差出ノ書類ハ拙者御預リ申タル事モアリ

一過日約書ノ案文ハ差進タレトモ辨解ケ間敷書類ヲ御覽ニ入レタル事ハ無シ御預ケ申タルトハ何ノ書類ナリヤ承リタシ

併御書付之趣意拙者ニ貫徹不致ニ付テノ事トアレハ假令今タハ深更ニ及トモ一々此席ニテ御辨解致スヘシ

一已ニ御一讀被下レハ我政府ノ趣意ハ御明了ナルヘキニ付篤ト御考被下タシ

一書中ノ趣意ハ盡ク至當トハ難申先ツ第一件ヲ辨解致セハ使臣職掌ノ論アリ貴國ニ於テハ貴國使臣ノ職アリ我國ニテハ我國丈ケノ職ヲ命スヘシ昔德川氏ノ時貴國ト交際セシ如ク使臣ハ唯哀慶ノ爲メニスル事トノ御論アリ右樣我國迄貴國使臣ノ例ヲ以御指圖被成ハ更ニ外國公際ヲ御存ナキ故也我國ニ於テ使臣ニ何程ノ事ヲ命スルモ全ク我國ノ權內ニ在リ第一條ヲ申テモ如此餘亦皆然リ



一我國ニ於テハ唯貴國ニ通交スルノミニシテ外國ノ體裁ヲ知ラス依テ右樣ノ始末也尤此書付ハ拙者ヘ命令アリシ儘書取タル也

一其御談アラハ明日承ルヘシ

偖昨日差進置タル通商章程ハ如何ヤ已ニ先刻モ鴉片烟ノ御咄アリ彌右ニ御同意ナレハ定本ニ御見認ノ印ヲ被加御返却アリタシ淸書ニ取懸ラセ申度

一彼通商ニ付テノ事ハ小事ト認レハ小事ナレトモ矢張大事ノ濟タル上ニテ御相談致タシ

一是ハ先日モ講本ニ依ルヘシトノ御返答アレハ御同意ノ事ト存居レリ然ニ尙御相談被成度廉アリヤ

一今晩ハ已ニ遲クナリタリ明朝委細御相談申上ヘシ

一明朝ハ大事件ヲ御相談可致ニ付是非今晩承リタシ

一明日ノ御談ニ願タシ

一通商章程ノ事ニ付又此上御議論テモ可被成御積リナリヤ

一決テ然ルニハ非ス兎ニ角明朝拜顏ノ上委細申上ヘシ

一是ハ已ニ三四日前取極リタル事也然ヲ又彼是變替被成樣ニテハ迚モ貴國ハ信義ヲ以交際可致國ニハ非ス

一御渡被下タル書類ハ未タ我朝廷ノ覽ニ入レス明日參館ノ節持參御返答ニ及フヘシ

一先刻ヨリ右ノ始末ヲ不承ユヘ彼是御論ニ及タル也併過日モ講本ニ依ルヘシト有之處此後若シ貴朝廷ニテ御議論アリ變換被成テハ最早拙者ハ貴官ノ言ヲ信スル事能ハス

一諸

一外ニ漂民經費及官吏警戒ノ儀ニ付書翰案二通差進置ケリ是ハ如何ヤ

一唯一个條ノ大事件ノ爲メニ此義モ我朝廷ニ於テ決シ兼ルナリ

一今日モ定テ御討論モ可有之ト存ス且右書翰案之義ニ付テモ大旨意ハ元ヨリ御熟知ナレハ此丈位ノ事ハ貴官ノ權內ニテ御處分有リテモ可然樣ノ事也

一大小トナク萬事必朝議ニ懸ケ一決ノ上御決答可申上順序ナリ小事迄御斷申上テ調ハスト申ニハ無之併大事件ノ不決間ハ矢張確答ハ難申上

一唯程能相運度ト存シ斯迄御論ニ及タル也貴官ニモ吳々御周旋有之度

明日ハ通商章程幷書翰案二ケ條ノ御返答ハ必承リ度何時頃御來館可被降哉

一必正午前參館萬事御相談可致

右ニテ相濟無間講修官退出

午後七時三十分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 八四　八月十一日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

**談判要領ヲ得サルヲ以テ朝鮮國判中樞府事申櫶等ト面接シ度旨申入ノ件**

第五號

明治九年八月十一日午後六時五十分ヨリ理事官ト講修官トノ對話

河上大錄筆記荒川權少錄通譯訓導玄昔運陪席

一禮畢テ

一今日午前參館可致樣御約束致置タレ共今日ハ雨天且拙者聊所勞ニ付延刻ニ及ヒタリ失敬多謝

一昨日ノ御咄ハ如何哉

一何ノ件ナリシ哉

一昨日御談ニ及タル事ハ總テ御記臆アルヘシ

一先ツ貿易規則ノ件ヨリ御返答可申哉

一承ルヘシ

一貿易規則ハ已ニ雙方調議致タリ故ニ先ツ三件ノ要事ヲ決著可致樣我政府ヨリ被命タレハ此事ヲ御相談願タシ

一貿易規則ハ三件決著ノ後承ルヘケレトモ已ニ貴政府ニ於テモ御異存ナシトノ御返答アリタル上ハ御相談ハ相受申マシ

一貿易規則ハ我朝廷ニモ已ニ許諾ヲ經テ講本ニ依ルヘシト申上タレハ別ニ異議アルニ非ス然トモ三件ノ分ハ宜御相談ヲ願タシ委細書取ヲ致シ來レリ御一讀ヲ乞フ

一何ノ御書付歟ハ不知レトモ今日ハ一切拜見ハ致間敷ニ付一々御口陳アリタシ

一口上ニテハ申落ス事モアルヘシ書付ハ著實分明ニシテ間違モアルヘカラス拙者ノ詞ヲ書取リ致來タル者ナレハ御一讀被下タシ

一先日來拜見致タル書類兩國條約ノ本意ニ違背ノ廉多シ右樣ノ者ナレハ拜見致スモ全ク無益ナリ今日御持參相成タルハ何ノ書ナリヤ尤何ノ件ヨリニテモ承ルヘシ御咄アリタシ

抑貴官ト拙者ハ唯修好條規附錄ノ事ノミヲ御談判可致職分也修好條規ノ本意ハ貴官ト御議論致シテモ落着ハ致間敷依テ申大官尹工曹判書竝吳慶錫ノ三人ハ當春於江華萬事御談判致タル方ナレハ明日ハ右三人ト御同道御來館被下度吳慶錫ハ所勞ノ趣承知致タレトモ兩國條約ニ關スル大事ニ付必三人御同道アリタシ否サレハ到底此議論ハ落着不致右落着致タル上ニテ貴官ト附錄ノ事ヲ御談判致スヘシ

一當春取結タル條約ノ趣意ニ我政府ハ違背致タル事ハ無之代理公使ノ御咄ハ唯使臣ト見認タルナリ毫モ御約束ニ違タル事ナシ申大官タトヒ入館致シテモ別ニ拙者ノ議ニ替ル事ハ有マシ

一貴政府ハ條約ニ違背被成ト申ニハ非ス又申大官ノ御同意如何モ相分ラス併篤ト御相談致度ニ付理事官ヨリ面會ヲ乞ヒ之ヲ取次面會爲致事ハ全ク貴政府待遇ノ道ナルヘシ

一申尹兩人共政府ニ出席先日來ノ御談判ハ盡ク承知致居レリ故ニ假令兩人御面談致デモ別ニ替リタル議ハ有マシ

一申大官ニ異リタル御見込アリト云ニハ非ス然トモ當春段々御懇談致タル末ニ付篤ト御相談致タラハ相分リ易カルヘシ

一御申聞ノ内數ケ所ヘ行商ノ件アリ江華御談判ノ節二口ノ開港ト云事ハ承知致居レトモ行商ノ事ハ承リ不申

一此件ハ追テ御辨解可致右ノ三人ニ御面會致度義ハ如何哉

一我政府ヘ申出ツヘシ

一拙者ヨリモ申大官ヘ申進ヘシ扨三件ノ内第二ノ游歩規程一條ハ如何ノ御評議ナリヤ

一其邊モ委細我政府ヘ申入レタリ然トモ使臣一件落着ノ上ナラハ游歩規程ハ互ニ落着可致御相談申上ヘシ此邊御推量被下タシ

一然ハ今夕ハ最早御談判ハ難致兎モ角明朝右ノ三人御同道ニテ御來館被降ハ篤ト御相談可申是迄段々御談ニ付拙者心中不屑ノ激論ニモ涉リ貴官ニハ御氣ノ毒也餘事ハ畢竟枝葉ニ付今日ハ御談判ハ不致總テ緩々御談可致ナリ

一拙者モ講修ノ爲メ日々拜顏ヲ得ルモ因緣ト云ヘシ就テハ兩國ノ便ヲ謀テ隣誼ヲ可全樣程能御相談致度卑懷御推察被下ハ萬々幸甚

一於我國ハ江華ノ結約アリ已ニ批准モ賜ハリ且修信使モ我東京ニ參ラレ金石不易ノ約ヲ取結タル事ト存居レリ然トモ條約一タヒ間違ヘハ不測ノ大事ヲモ可生萬國ノ公法ニ條約ハ國ヲ固ムルノ具ナリ然トモ之ニ違ヘハ戰ヲ起スノ原ト爲ル者也ト云諺アリ今日貴國ニ對シテ可言詞ニハ非レ共是ハ各國古今ノ事勢ナリ

一兩國ノ交際ハ信義ヲ主ト可致ハ勿論ナレハ江華結約以來於我國ハ是ニ違背致ス事ハ無之ト存居ナリ併各國ノ公法ヲ擧テ條約ノ爲メ（マヽ）戰爭ヲモ可生ト云御詞ハ我國ニ向テ御申聞被成タルニハ非サルニモセヨ實ニ戒愼スヘキノ事也

一明日正午前三人御同道御來館ノ程是非御待申居ヘシ

一諾

一今度乍序貴官ヲ煩シ伴接官ヘ御傳言ヲ相願度事アリ右ハ近日用事アリテ我海軍ノ者多人數入京可致歟モ難計ニ付館舍ノ用意ヲ請度也

一伴接官ト相談可致

右ニテ畢リ無間講修官退出

午後七時半ナリ

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 八五　八月十三日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國判中樞府事申櫶等トノ對話書

### 日本國使臣ノ京城駐留、遊歩規程等ノ問題ニ關スル件

第六號

明治九年八月十三日午後二時十五分判中樞府事申櫶工曹判書尹滋承來館理事ト對話　本月十一日理事官ヨリ書ヲ申櫶ニ遣シ本日尹滋承吳慶錫同道來館ノ事ヲ申入レタル處吳ハ所勞ノ趣ニテ兩人參リタル也

河上大錄筆記荒川中野兩權少錄通譯訓導玄昔運差備官一名陪席賓主榻ニ就キ互ニ別後ノ安否ヲ問ヒ一應之雜話畢テ

一本日兩閣下ノ御來訪ヲ請ヒタルハ不本意ナレトモ拙者ヨリ貴宅ニ推參可致樣モナケレハ無據老體ヲ勞シタルナリ就テハ御談申度義ハ別事ニ非ス過日來講修官ト屢次御面談致シタル所我使臣貴京城ニ駐留ノ一件ニ付彼此ノ意味相違アルニ似タリ右ハ修好條規ニ關係可致事故一應御見込ヲ承知致シ度此件サヘ雙方ニテ落着候ハヽ他ノ條款ハ追々講修官ト御相談可致ト存居レリ全體修好條規第二款ノ趣意ハ如何御考被成哉承リタシ

一右ハ於我國ハ條約面ニ違背ハ不致積ナリ彼第二款ニ在ル通リ時ニ隨テ使臣ヲ派出シ卽我國ノ修信使貴國ノ理事官ノ如キ者京城ニ駐留相成ル事ハ元ヨリ承知致居レリ然トモ條約面ニ設館ノ文字ナケレハ今更條約外ノ事ヲ於我政府承諾スル事ハ難相成尤駐留ノ久暫ハ其時誼ニ任ス事ナレハ假令使臣ノ滯京長久ナルモ我國ヨリ歸期ヲ促ス事ハ不致ヘシ且開港場ニ管理官ヲ置ク事ニ付聊我政府ニ於テ異議ハ無之

一然ハ使臣ノ館舍ヲ設ル歟借受ル歟ノ一事ハ御異存アル樣承レトモ我國使臣入京ノ節館舍無之テハ不相成ニ付必貴國ヨリ館次ヲ御貸渡可被下尤駐留久暫ノ期限ハ豫メ分ラサルナリ依テ借用致ス者ト見做シ若シ損破致シタル節ハ元ヨリ相當ノ御挨拶ハ可致彌無相違御貸可被降哉如何

一今般貴官ノ如キ使臣ニシテ御入京被成時我國ヨリ拒絶致ス事ハ元ヨリ無之併通商ニ關スル用向ニテ使臣御入京長ク御滯在相成事ハ承知難致ト申政府ノ決意ナリ又使臣ノ爲メ館舍御貸申ストモ家租ハ受取申間敷總テ貴國ノ爲メ御迷惑トアル事ヲ於我國ハ可致積リ無之



一唯今講修官門外ニ在リ可相招ヤ

一已ニ先刻ヨリ御待申居ルナリ

一拙者共ハ私情ヲ以御對面致ス事ナレハ講修官ハ公禮ナリ故ニ一時門前ニ差控サセ置ケリ

一乍輕薄聊酒菓ヲ持參セリ差進度

一厚意感謝然トモ用談ノ終ル迄暫ク御見合被下タシ

一抑使臣ノ職制ハ唯今拙者ノ可議所ニハ非ス然トモ條約書ニ自今十五个月後使臣ヲ可差出云々ノ事アリ此語ヲ篤ト御味ヒアリタシ貴國ヨリ日本ノ方ヘ使臣ヲ派スルハ今日テモ差支ナキ故別ニ期限ナシ貴國ヘ我使臣ヲ派出ニ付テハ彼是ト手順モアルヘケレハ有餘ヲ取リ十五ケ月ト書キタルナリ此使臣ハ長逗留スル譯也如拙者一時來テ又去ルモノハ十五ケ月前ト雖モ入京スル也又ハ修信使ノ如ク唯書翰ヲ持參リテ返書ヲ携歸ルト云丈ケノ用向ナレハ格別日數ハ掛リ不申然モ十五ケ月後ノ使臣ニ到リテハ或ハ國書ヲ齎シ或ハ外務卿ヨリノ書契ヲ携ヘテ來ル時ハ假令如何許ノ長期限滯留致居トモ計ラレス之カ爲貴國ヨリ之カ歸期ヲ促ス事ハ不相成若シ貴國ヨリ使臣ハ長ク京城ニ駐留不相成トノ御談アレハ飽迄御議論ニ不及ヲ不得ナリ貴意如何ヤ承リタシ

三時十五分講修官來ル

一今般ノ如ク細目議定ノ爲メ使臣御入京或ハ哀慶ノ爲メ使臣御派出ノ節ハ拒絶可致樣モ無之乍併平日別段用向ナクシテ使臣駐留ノ事ハ條約書ニモ無之レハ御斷可申然ルヲ此件ヲ御論被成ハ約束外ノ事ユヘ疑敷存居ルナリ

一然ハ貴國ニテハ使臣ハ唯哀慶ノ爲メノミト御認メ被成哉交際事務ト云ハ哀慶ノ二字ニハ止ラサルヘシ今後交際事務ニテ使臣貴京城ニ來ル時ハ御斷被成哉如何

一交際事務或ハ哀慶ノ事ニ付御入京ノ使臣ハ御斷不申併通商ノ事件ニ付御入京ハ御斷申度如何トナレハ開港場ニ管理官アレハナリ

一交際事務ヲ以使臣ヲ差出スニ御差支ナクハ宜シ今日ハ使臣職務上ノ事迄御談ハ不致ヘシ

一既ニ條約書ニ在ル如ク交際事務ニテ使臣御差出ニ異議ハ無之

一過日貴官ヘ差進置タル約書草案ヲ御出シ被下タシ

一先日モ申上タル通リ第二款ノ件　使臣眷屬隨員入京云々也　サヘ御議定ニ成レハ宜シ

一使臣館舍ノ件先日來決議ニ不至依テ此件不決間ハ他事ハ

暫ク議セストノ御談アリ然ニ今日兩大臣ト御談判致タル所使臣入京ハ無差支來レハ無税ニテ館舍ヲ貸渡スヘシトノ御談アリ是ニテハ意味未タ全ク發輝トハ不致レトモ使臣入京ハ十五ケ月後ノ事ナレハ尚十ケ月計リノ間アリ卽今强テ議セストモ差支ハ無之ニ付今般ノ條約面ニ此件ハ相省クヘシ然ハ拙者歸京復命ノ日爲之譴責ヲモ可受ケレトモ先ツ暫ク此件ヲ省キ御相談致セハ可然落着可申歟併必ス議定致度御積リナレハ尚一言申進スヘキ事アリ如何承リタシ

一設館駐留ノ事ニ到テハ當春御約束モナケレハ於我政府承知難致然トモ開港場ニテ御設館アルコトハ元ヨリ差支無之

一貴官ノ言ヲ承ルニ尚雙方ノ趣意合ニ似テ不合ル所アリ依テ此度此件ハ相省キ可申哉夫トモ御差支アラハ飽迄御討論可申ト云拙者ノ言ナリ

一貴諭ノ如ク此件ハ雙方トモ充分ノ御相談ニ運ハス依テ之ヲ省クハ御尤ノ御考也承知致セリ

一其餘ノ件々ハ御差支無之哉

一眷屬隨員ノ事ハ先日來申進タル通リ開港場ナレハ差支無之京城ニテハ差支アリ又清國ヘノ通路ハ我國ニ國法モアレハ御談ノ通リ承諾ハ致カタシ

一清國ヘ通路不相成義モ委敷御辨解書ヲ御遣シ被降ハ他日ノ御談判ニ讓リ可申又眷屬ノ字ハ隷屬ト云字ニ換ユヘシ

一辨解書ハ差出申可

一行步規程ノ件ハ如何ナリヤ

一今一應我政府ヘ伺ヒ其上ニテ後日御返答ニ及フヘシ

一後日トハ明日ノ事ナリヤ

一明日若シ拙者御旅館ニ參リ不得トキハ訓導ヲ以御返答ニ及フヘシ

一行步規程ノ件ハ先日來實際ノ見込ヲ以申進タル所貴官ニハ御存無之傍人ノ意見ニ任セテ御答被成樣ニ推察ス若シ百里ヲ何十里ト云如キ御談判ナラハ訓導ヨリ承リ可申兎ニ角貴官ニハ實地見分ノ爲拙者御同道釜山迄參ルヘシ併シ可成樣ノ御相談アラハ彼方ヘ參ルニモ不及

一拙者釜山實見ハ不致レトモ地圖アレハ粗相分ルナリ且訓導モ熟知致居レハ拙者一人彼是議論致スニハ非ス御推察被下度

一然トモ拙者ヨリ條理ヲ以御相談ニ及ヒシニ唯不調儀トノミ御返答アリテハ實地ニ就テ論セサルヲ不得勢ナリ纔ニ十日計ニテ往返可相成事ナレハ彼地ヲ目擊シ歸京ノ上再ヒ緩々御相談致スヘシ

一御尤ナレトモ地圖ニテ大略承知致シ居レリ兎ニ角我政府ヘ申出タル上確答ニ及フヘシ

一凡人タル者有利勢ヲ見レハ其所ニ走ラサルハ無シ然ニ我國人ハ何分未開ニシテ貴國人ヲ見レハ恐懼シ終ニ擾動ニモ可及歟之恐レアリ嘗テ貴國英國ト交際ヲ被始タル頃貴國人ノ內英國公使館ヲ燒拂タル者アリト傳承セリ何レニシテモ不見慣事アレハ自ラ人心不穩ナリ

一然ハ地圖ヲ拜見致シ其上ニテ御相談致スヘシ

一貴諭ノ如ク一時我國民騷擾シタル事モアレトモ於政府ハ彌交誼ヲ厚フシ右ノ暴擧ヲナセシモノヲ罰シタレバ彼ヨリ今日ニ到ル迄一言申越タル事ハ無之依テ貴政府ニテ確乎御決意ノ上ハ愚民共假令一時如何樣ノ事アリトモ我國ニ於テハ聊意トハ不致ヘシ唯貴政府ノ御決心次第也

一農民共ハ元ヨリ愚ナル者ニ付或ハ右樣ノ不都合モ可有之御承知被下タシ

一故ニ政府ハ充分開化アリ度ト申進スル也

一於政府ハ其邊手拔リノ致樣モ無之次第ナレトモ何分愚民ニハ致方無之

一各地行商ノ件ハ我政府ニテ二口ノ開港場ノ御約束ハアレトモ此事ニ到テハ更ニ承知不致ニ付御斷可申樣命アリ

一先日モ申進タル通リ便利ノ良港口未タ充分ニ相分ラス因テ當分各地行商ノ事ヲ御相談致シ置商業彌便利ナレハ强テ新ニ開港ニモ不及歟ト存居ル也若シ數ケ所御差支トノ事ナレハ二三ケ所ハ御許諾アリ度尤他日開港ノ上ハ相止テモ宜シ

一大丘ハ陸路ナリ故ニ我政府ニテ承知難致トノ論アリ

一行商ノ件モ拙者決斷ハ難致ニ付我政府ヘ申入ルヘシ

一明日ハ遲クモ貴官御來館被下タシ差備官ノ言ニテハ自然錯誤ヲ生テハ宜シカラス

一兎ニ角政府ヘ申出タル後都合能御相談ヲ願フヘシ

一斯迄御相談致來タル事故此上御盡力アリ度細事ハ傍ノ者ヘ御尋アリテモ宜シケレトモ貴官ハ元ヨリ高官ナレハ御英斷アリ度

申櫶尹滋承別ヲ告ケ去五時五分

一我國人民公務ニ非レハ清國ヘモ參ル事能ハス若シ竊ニ參ル者アリ露顯スル時ハ梟首ニ行フ也故ニ貴國ヘモ漫リ

ニ參ル事難相成

一我國ニテモ海外ニ行ク者ヘハ公證ヲ與フルノ制アリ故ニ公證ナキ者ハ海外ニ航行スル事不能貴國ニテモ外國行ヲ爲ス者ヘハ必公證ヲ被與ハ可然

一我國ヨリ人民ヲ貴國ニ差出ス事ハ不相成條約書中ニ在ル管理官內地通行ノ件ハ御省キ被降タシ

一管理官內地通行ヲ御差許ナケレハ乍チ障碍アレハ此義ハ御同意難申先日已ニ貴官ヨリ無差支旨御返詞アリタルニ非スヤ然ニ今又右樣ノ御談ニテハ貴政府ハ信義ヲ以交ルヘキ者ニ非

一鴉片煙ノ販賣ヲ禁スルノ章ニ天主教ヲ禁スト云事ヲ御書加被下度

一右ハ當春中大官ヨリ御談有之節委細拙者ヨリ書取ヲ以御辨解ニ及ヒタリ尤於我國ハ天主教ヲ奉スル者ナシ既ニ釜山公館ニハ天主教ヲ禁スルノ制札ヲ揭ケ置ケリ依テ從前我國ニ於テ許可無之天主教ヲ禁スルトノ義ハ條約書ニ記載スル事ハ下相成鴉片モ我國ニテ嚴禁ナレトモ時トシテ或ハ支那人持渡ル事アリ故ニ貴國ノ爲メ此害ヲ豫防セントテ書載タルナリ

一兩國ヨリ亡命ノ者來ルトモ不受トノ事ヲ御書加被下度

一亡命ノ者アランカ爲メ我國ニテハ公證ヲ渡スナリ貴國ニテモ我國ヘ來ル者アラハ御渡可被成

一先刻釜山地圖ノ御談アリ就テハ京城及全國ノ圖一應拜見致シ度

一諾

右畢テ雜話ニ涉リ少焉講修官退出

六時四十分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 八六　八月十六日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

**日鮮通商章程ニ關シ意見一致シタルモ尙日本國使臣及管理官ノ內地通行、遊步規程等ニ關シ意見交換ノ件**

第七號

明治九年八月十六日午後十二時五分講修官來リ理事官トノ對話



河上大錄筆記浦瀨中錄中野權少錄通譯訓導玄昔運陪席

一禮畢テ

一御用談ノ趣速ニ可及御報ノ處於我政府篤ト議論ヲ遂タル後可及御答トノ事ヲ今日迄延日ニ及タリ御宥恕ヲ乞フ當春已ニ江華ニテ通商章程ノ細目ヲ可議トノ御談判モアリタル事故我政府ニテ御同意被致拙者檢印ヲ鈐シタリ但第六則ハ附箋ノ通リ改正致シ度（註附箋詳ナラス）

米及雜穀ノ輸出入ヲ得ルハ唯凶年ノミノ事ナリヤ

一既ニ申大官ト御談致タル事モアリ是ハ平年ト雖トモ輸出入ヲ得ヘキトノ趣意ナリ

一然ハ港口粮米絕乏ノ時輸出入ヲ得ルト書改メ度

又米粮ヲ貴政府ヨリ借入ルヘシトノ文ヲ書加ヘ度

一港口粮米絕乏ノ時ト限ル事ハ不相成又政府ヨリ借入ル時ハ借主ノ爲メ大ニ損害アリ故ニ商人ヨリ借入ノ文意ニ書タルハ貴國ノ利ヲ謀リタル者ナリ貴官ニハ外國ノ事情御存知ナキユヘ如此御論ヲ被發ナリ

一然ハ凶年ノ事ハ御省被下度

一拙者ハ成丈ケ御談判ノ取纏ル事ヲ希望致スニ付此分ハ御同意申ヘシ

一通商章程ノ一冊ハ是ニテ決定也

講修官ヨリ商譯都中ノ義ニ付書翰案ヲ出シ文中ノ意味ヲ問フ理事官之ヲ說明ス

一我國ハ從前ニ重稅ヲ課スル弊アレトモ今般拙者政府ヘ論辨致シタリ

商譯都中幷漂民經費ノ二件ハ異存無之ニ付如何取計可然ヤ

一御同意ナレハ拙者ヨリ書翰ヲ淨書シ可差進ニ付返翰ヲ御遣シ有之度即其御返翰案ヲ認試タリ御一覽可被成尤拙者ヨリ書翰ヲ差進タル後御返答被下事故可差急件ニ非サレハ御異存ナキ旨ハ明日差備官ヲ以御返答アリタシ

講修官二通ノ返翰案ヲ爲寫取タリ

一次ノ御談ヲ承ルヘシ

一過日來於我政府議論アルハ通商事務ニテ使臣御駐留ナキ上ハ北京ノ往來ハ不要ナルヘシトノ件ナリ此義ハ御止メ被降度

一交際法ノ趣意ヲ未タ全ク御承知ナキユヘ右樣ノ議論ヲ被起ナリ假令ハ通商事務ノ外用向ニテ使臣京城ニ來リ夫ヨリ

緊要ノ事項ニテ清國政府ヘ通行セントスル時若シ多間天津河凍合ノ時節ナレハ無據山海關ヲ踰ヘテ北京ヘ往來セサルヲ不得ナリ

一附錄ノ第二款ハ附箋（註附箋鮮ナラス）ノ通リ御改被下様御談申セト我政府ヨリ被命タリ

一右ハ承諾難致如何トナレハ交際事務ハ啻哀慶ノ爲メノミナラサレハ也且駐留久暫任時宜トノ約定アレハ使臣ノ駐京ヲ竣事間ト書ク事ハ相成ラス凡使臣タル者ハ其國帝ニ代リテ來ル程ノ貴重ノ官員ナレハ元ヨリ通商事務ニ關スヘキ者ニ非ス然ニ使臣通商事務ニ關スル哉ノ御疑念アルハ甚不都合ナリ

一使臣入京ノ節ハ城内或ハ城外ニ駐留可相成哉

一拙者ハ理事官ナレハ此御談ニ預ルヘキ任ニ非ス乍併一己ノ見込ヲ申進セハ我國人ハ必貴國人家接近ノ地ニ住居スル者ハ少クシテ多クハ郭外高爽ノ處ヲ好ムヘシ而シテ貴國ヨリ御貸渡ノ家屋アレハ別段强テ新築ニモ不及纔ニ不得止分ヲ作替致ス位ノ事ニテ住居可致ト存ス

一人民管理官ノ入京ハ我政府ニテ屹度御斷可申上旨被命タリ



一拙者ハ日本政府ノ使臣ニ付貴國政府ニテ御議論アル時ハ貴官ヨリ職トシテ御上申有之度

一我政府ヨリ貴官ヘ御議論被申ニハ非ス拙者ヘ被命タル故御相談ニ及ナリ

一然ハ拙者ノ所論ヲ假令幾度ニテモ貴政府ヘ御上申有之度

一此件ハ先ツ扨置次ノ條件ヲ御相談致スヘシ

一右ノ件ニ付拙者ノ論スル所ハ貴官ニ於テ至當トハ御考不被成哉如何

一雙方ノ言ニ條理アリ故ニ決スル事能ハス

一雙方ニ條理アル事ハ一決スル能ハサル筈ナレトモ御熟考アラハ自ラ御分リ成サルヘシ

一我政府ヨリノ命ヲ御傳申タル迄ナレハ今貴説ヲ承リタルトモ別ニ拙者ノ考エハ無シ

管理官ノ内地經行ハ入京ノ件ニ關スヘキ者ニ非ス

一定本ニハ管理官内地經過ヲ可得トノ趣意ニテ唯使臣ヘ面會ノ爲メ入京スルノミニハ非サルナリ

一然ハ管理官内地通行ノ趣意ヲ文中ヘ書加ヘ度

一凡兩國ノ條約書ニ右様ノ趣意ヲ何々ト限リテ書載スル譯ニハ不相成



一管理官人命ニ關スル程ノ用向ニテ不得已時ハ内地ヲ經過スルヲ得ヘシ其旨地方長官ニ及照會ヘシトノ事ヲ書加ヘ度

一御邦ナラハ緊急ノ用アル時ハ地方長官ニ照會シテ内地ヲ經過スヘシト認ムヘシ

一御談ノ趣我政府ヘ申入ヘシ

公文差立ノ件ニアル使臣館及ノ四字ヲ御削被降度

一使臣ヨリ手紙ヲ不出ヲ不得事モアルヘシ故ニ使臣ノ字ハ削ル事難相成ケレトモ館ノ字ヲ御嫌ヒ被成ハ省クヘシ

一使臣駐留ノ節ハ元ヨリ條約ナクトモ何時ニテモ御差立ノ書翰ハ相達スヘシ

一然トモ此事條約面ニ載セサルヲ不得ナリ

館ノ一字ヲ削ル事ハ御同意致タレトモ是ヲ以京城設館ノ事迄決定シタリトハ御認ハ無之様致度

一行步規程日本里法十里トアルハ朝鮮里法十里ト致度且下文（註附箋鮮ナラス）附箋ノ通リ文ヲ削リ度御承知被下タシ

各處行商ノ義ハ御斷申度

一御賴致置タル貴國地圖ハ御持參有之哉

一持參致居レリ

此時朝鮮全圖及京城圖貳葉ヲ出ス

一最初差進タル講本ハ貴政府ニテ決議ニナリタル哉

一然リ講本ヲ以伺出タルナリ

一朝鮮人民日本ニ來ルノ件ハ現ニ講本ニ書載セタリ然ニ右ハ講本外ノ事トハ如何ノ義哉

一自然亡命ノ者アラン事ヲ恐レテ外國ニ參ル事ヲ不許ナリ

一文中罪犯ノ者ヲ除ク云々トアリ

將又日本十里ト申進タルヲ朝鮮十里ニセヨトハ如何ノ御相談ナリヤ先日拙者ヨリ御内話申進タル事ハ已ニ御失念被成タリヤ

一我政府ニ於テ種々議論有之結局四方十里ヲ申セハ四十里ニ相成トノ論ニ決シタルナリ

一右様ノ御考ニテハ到底御相談ニハ不相成拙者ヨリ當然ノ事ヲ申出タル處貴政府ニテ其邊ノ御考無之依テ不得已變通ノ一法ヲ御相談可申右ハ北ハ東萊南ハ馬山浦迄每月十度ツヽ參ル事ヲ御承知相成レハ先ツ十里規程ニテ御相談可申併此儀難相整レハ百日也二百日也相懸リ緩々御談判致度尤貴官ニハ釜山迄一度御出張有之度

一何國迄(迄カ)モ議シテ不止トノ御詞ナレトモ拙者モ我政府ヘ申立是迄ニ相運タル也

一右ニ申進タル拙者ノ變通法ヲ今一應貴政府ヘ御申立有之度尤是ハ拙者ノ考意ニ付若御調議不相成ハ矢張最初ノ論ニ歸リ御相談致度貴政府ヨリモ日本政府ノ權理ニ不關係樣御談判有之度

一折角ノ御談ニ付我政府ヘ申出ツヘシ

講修官中食ノ爲メ退出四時

五時四十五分再開席

一我政府ニテ認タル條約草案ヲ御覽被下タリヤ

一通理リ拜見シタリ右ハ唯貴政府ニテ御認試相成タル者ナリヤ、

一我政府ノ意見ヲ被認丈ケナリ

一拙者ニ異議アレハ御討論可申上筈ナリヤ乍併如此講本幾冊モ出來テハ不都合ニ付若シ貴國ヨリ別ニ御書加ヘ被成度件アラハ篤ト御相談可致

一御尤ノ御談ナリ

此時理事官彼講本每款之ヲ辨解ス

一此上ハ釜山規程十里ノ件ノミ未落着ニ到ラサルナリ拙者モ是迄勘考致タル事故貴政府ニテモ御決意有之度

一二口ノ開港ハ全羅道ノ珍島咸鏡道ノ北青ヲ御開ニナレハ可然トノ我政府ノ見込アリ

一船入ノ場所ト貨物運輸方ト物產ノ有無トノ三ノ便利ヲ謀ルハ第一ノ事ナレハ兎モ角實地ニ就テ見分スヘシ尤測量ノ爲メ同シ處ヲ三度位ハ通行ヲ要スルナリ

一海路ヨリ御調ニナレハ可然

一陸路ヨリセネハ不相成併是ニハ長キ日月ヲ費スヘケレハ當分行商ニテ爲濟タル方可然尤我國ニ於テモ目的ナキ處ヲ空ク探索スル譯ニハ非ス爲之海ニ沿フテ通行スルハ元ヨリ公務ナレハ御承知有之度

一開港ノ義ハ已ニ條約濟ナリ海路ヨリ御越相成測量被成ハ可然ト存ス

一今日御討論ニ及タル件々ハ明朝貴政府ヘ御伺ノ上明午後御決答有之度此件サヘ相纏レハ其餘ノ事ハ隨分如何樣共御相談可致

咸鏡道永興府ハ太祖ノ廟アルユヘ開港場ニハ難致旨先般御咄アレトモ其後我軍艦彼地ヘ參タルニ廟ハ海岸ヨリ六十里計山手ニ在リト云然ハ關門ヲ被設主門ノ者ヲ被差置ハ不都合ハ有之間敷唯今開港場ヲ決定スルニハ非レトモ御談申進ルナリ御見込如何ヤ

一當春强テ御斷ニ及タル通リナリ就テハ北青ハ永興府ヨリ餘程富民モアリ繁昌ノ地ト聞ク御調被成ハ可然

右畢講修官退出

八時三十分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 八七　八月十七日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

### 日本國管理官ノ內地通行問題等ニ關スル件

第八號

明治九年八月十七日午後五時四十分講修官來館理事官ト對話

河上大錄筆記浦瀨中錄通譯荒川權少錄訓導玄昔運差備官兩三名陪席

一禮畢テ

一昨日御書取ノ第一第二ノ件ヲ我政府ヘ申出タル處一切御斷可申旨被命タリ

一然ハ條約書ニ不載トモ拙者ヨリ使臣ハ入京ノ時內地ヲ經過シ能フヤト御尋ニ及ヘハ貴政府ヨリ承知差支無之旨御返答アレハ宜シ管理官亦然リ

一內地トハ如何ノ處ナリヤ

一海岸ヨリ內地ニ入リタル處ヲ云譬ハ拙者通津ニテ上陸金浦陽川等ヲ通行致タル如キヲ云ナリ

一已ニ當春ノ條約アレハ使臣御入京ノ節ハ道中御通行ハ元ヨリ差支無之別ニ條約ヲ爲スニ不及ト存ス

一條約ノ細目ニ涉ルノ趣意也卽彼條約書ニ使臣入京ノ文アレトモ內地通行ノ事ナケレハ此後若シ貴國ヨリ物爭ヲ生シ內地經過難差許抔ト御申出有之トモ我方ニテ致方無之故ニ个樣ノ事ニ付能ク念ヲ入レサルヲ不得ナリ尤至當ノ事ナレハ貴國ノ爲メ差支無之上ハ我國ヨリ御請求ニ及フ事故御書加有之度

一管理官ハ貿易事務ヲ專ラ掌ル者ナレハ內地通行ノ儀ハ御斷申度

此上迚モ拙者ノ力ニハ不及

一然ハ昨日申進タル如キ困難船等ノ不得止事故アル時ハ如

何被成ヤ

一其節ハ地方官ヨリ救助ヲ加ヘ管理官ヘ引渡スヘシ

一管理官出張取調可致要件ヲ一應申進スヘシ凡大船ハ自分所持ノ者モアリ又借リ船モアリ且船中積荷物アレハ其所有主アルヘシ加ニ旅客等アリ若シ死亡スル時ハ一ノ訴訟ヲ起スヘシ此時管理官實地ニ就テ檢視セサレハ不相成時トシテハ船主ニモ惡事ヲ働ク者アレハナリ此外管理官職務上ニ付內地ヲ經過ヲ要スル事故種々アリ夫共管理官ノ旅行ヲ御差留被成條理ハ有之間敷

一何程ノ御論アリテモ到底我政府ニテハ不出來ト申事也

一我政府ヨリ拙者ヘ下命アリタル事故職務上飽迄御談判セサルヲ不得ナリ困難船ノ如キハ百年間稀有ノ事ナレトモ明日ニモ有ルカモ知レス其節ニ至リ地方長官ト御掛合ヲ致シテモ迎モ急ニハ相捌ケ申間敷故ニ不得止御討論ニ及フナリ

一拙者ニハ更ニ考方モ無之

一和親交際ニハ可成互ニ相纏ル樣御談判致度事也

一三ケ條ノ御書付ノ儀ハ迎モ拙者ノ力ニ及ハス宜御斷申上度

一右ハ貴官職トシテ御申出可被成詞ニ非ス夫共强テ御斷ナレハ拙者無據其筋ノ方ヘ面談スヘシト可申勢ニ立到ルナリ

一拙者ノ力ニテ致方無之ト申ニハ非ス

一貴官一人ニテ御談判被成ル事御迷惑ナレハ明日ハ申尹ノ兩大臣御同道被下度是迄拙者ニハ十分枉テ貴意ニ隨ヒ居ルニ付此上拙者ノ言ヲ御聞取無之ハ御無理ナリ

一拙者ハ講修ノ官ニ居レハ萬事御談判可致筈也申尹ハ之ニ關スル者ニ非ス

右ニテ雜話ニ涉リ無間相濟

八時十五分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 八八　八月十八日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

**日本國管理官及使臣等ノ內地通行、遊步規程ニ關スル件**

第九號

明治九年八月十八日午後六時四十分講修官來館理事官ト對話





河上大錄筆記浦瀨中錄通譯訓導玄昔運陪席

一禮畢テ

一今日ハ貴國主上ヨリ拙者及隨員迄鄭重ノ御料理ヲ賜リ難有感謝貴官ヨリモ宜敷御禮御執奏被下度

一賓客ヲ被慰候主意ナリ

扨過日來追々御談ノ趣我政府ヘ申入タル處何分承知難致旨ニテ拙者ハ貴官ノ爲メ周旋致シ居樣被存タリ然ニ段々議論ニ及ヒ漸ク御望通リ決議致タルコトモ有之ニ付此上ハ貴官ニモ御辛抱被下度

一已ニ拙者ヨリモ先日來段々貴意ニ從ヒ居レリ

一規程ノ儀ニ付テハ元里數ヲ以論スヘキコトナルニ別ニ馬山浦ノ如キコトヲ御申出ニ相成タルハ可恠事也ト我政府ニテ申居レリ

一百里ヲ五十里或ハ七十里トノ御相談ナレハ宜シ

右ノ御相談ナキ故無據變通ノ道ヲ申進タルナリ

一里數ハ十里ニテ取極度東萊馬山浦ノ儀ハ更ニ我政府ノ議ニ不及次第ナリ

一初メ十里ト申進タルハ元不相當ニハ無之然ルニ貴政府ニテ日本人ノ窮屈ヲ構ハス成丈ケ狹メヨトノ御趣意ナレハ寧ロ開港場ハ御止メ被成タル方可然ナリ

一使臣來京ノ時隨員已下經過ノコトハ調議シタリ併隨員人數幷船泊處ハ預メ取極御書加有之度

一管理官ノ經過ハ如何ヤ

一政府ニテハ未決ナレトモ拙者ノ考ニテハ別紙（註 別紙錄ナラス）ノ通リ書改タレハ如何御同意ナレハ政府ヘ申出ツヘシ

一右ニ付テハ存意モアリ且商船破損ノ時計ニ被限テハ差支アレトモ即今貴意ニ從置ヘシ併此文中ニ在ル通リ今後差支出來ノ節ハ隨時改正ノ儀ハ前以御承知有之度但字面ハ聊改正スヘシ

一諾

一使臣ニハ身分ノ貴賤等差アリ用事ノ輕重差別アレハ隨員人數ヲ限定スルコト難相成且船泊處モ預定シ難シ貴政府ニモ元ヨリ御嫌被成事ナレハ相省キ可申就テハ規程一條ハ如何樣ト歟御相談致シ度

一折角斯迄御相談ニ及タルコトナレハ成程隨員ハ大略ノ見込モ不相付ハ書加ヘストモ上陸場丈ケ送迎ノ都合モアルコト故御書載被下度

一貴國ノ爲メ御都合ハ宜敷共預メ上陸場ヲ定ルコトハ難相

成

一何卒御定被下様ニ御願申上ルナリ

一昨日此一款ハ不要トノ御話アリ今日ハ又御論變シタリ

一昨日愆文ト申上タル處愆文ニハ非ストノ御辨說アリタルニ付文章ヲ改メタリ已ニ我政府ニテモ決議ノコトナレハ今日ニテハ愆文ニハ非ス使臣通路ノ儀ハ條約書ニ不書載共御取極置被下度路筋普請ノ用意モアレハナリ

一使臣ノ爲メ民ヲ煩シテ態々道普請ヲ爲ルトハ意外ノ御話ナリ右樣ノ儀ハ於我政府不快依テ之ヲ書載スルコトハ不相成

一民ノ苦ヲ察シ道普請ヲ御斷被下テモ我國法ニテハ決テ不出來ナリ且僻地ナレハ御通行ノ節假令何程賃錢ヲ御出被下テモ臨時ニ人馬差繼ハ不相成右邊ノ都合モアルコトユヘ御定被下樣御賴申スナリ

一今後追々使臣入京ノ時毎トニ鄭重ノ御扱ヲ受ルハ意外ノ事也我國ニテハ決テ貴國ノ如キ待遇ハ不致ニ付貴國ノ御優待ヲ受ケカタシ尤使臣入京ノ時ハ必前以管理官ヨリ御通知申スヘシ

一貴國ノ法ハ委細致承知タレトモ我國ニテハ古來ノ例モ



アレハ何分麤粗ノ取扱ハ不出來ナリ使臣入京ノ儀ニテ別紙ノ如ク（註 別紙詳ナラス）御尋致タル節ハ書付ヲ以御答被降ハ大幸ナリ尤

一應我政府ヘ申出タル上御請求ニ可及

一貴需ニ應シ御答申スヘシ

使臣入京ノ節隨員已下通行ノ件ハ條約書ニ可書載ヤ如何

一書加ル樣ニ我政府ヘ伺フヘシ

右畢八時三十分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 八九　八月十九日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

### 日本國使臣內地通行ノ道筋、釜山遊步規程等ニ關スル件

第十號

明治九年八月十九日午後五時五十分講修官來館理事官ト對話

河上大錄筆記浦瀨中錄通譯中野權少錄訓導玄昔運差備官四五名陪席

一禮畢テ

一今般ノ談判ハ貴官御望通リ決議シタリ依テ今日ニテ相終リ申度存ス

使臣通行之道筋ハ昨日申上タル通リ兼テ極リ無之テハ使臣ト難認ニ付何卒御定メ被下樣御談可申旨我政府ヨリ被申付タリ

一一ケ所ニ限ル事ハ不相成トモ三港及通津ヨリ上陸可致ト相認ムヘシ

一一ケ所ト定ル事難被成ハ御尤ナリ就テハ通津ハ近便ノ道筋ニ付御歸國後ニテモ此邊ニ御定メ被下度

一拙者力ノ及フ丈ケハ可申立此他貴國ノ情實追々熟知ノ廉モアレハ可成貴國ノ爲メ御迷惑ニ不成樣取計ヘシ併シ堅キ御約束ハ不出來ナリ

一兩國互ニ情實アル事ヲ御承知被下ハ實ニ大幸ナリ尤唯今御定被下カタキハ御尤ニ付此件ハ相省キ可申

一諾

一管理官ノ義ハ貴需ノ通リ決シタリ依テ書載可申

一諾

一最早是ニテ決議ト存ス

一尙一二ケ條アリ

一各地行商ノ事ハ當春條約ナキ事故御相談ニ難及旨ハ已ニ先日申上置タリ

一未決議ニハ到ラス且釜山規程ノ件ハ如何哉

一昨日ノ御談ニテ已ニ濟タリト存ス

一大眼目ノ个條如此曖昧ニテハ決シテ相濟セカタシ

一此上我政府ヘ申立テモ聞屆ハ有之間敷ト存ス

一政府ニテ御聞屆有之間敷トハ貴官ノ想像ナリ此上ハ不得止拙者貴政府ヘ罷出諸大臣ト面晤致スヘシ

一拙者ノ情實ハ昨日申上タル通リナリ然ルニ政府ヘ御出頭御討論有之テモ決シテ不被行事ナリ何卒是迄ノ御懇情ヲ以此義ハ御取消被下度

一貴官ノ私情ヲ以兩國間ノ公議ヲ止ル事ハ不相成貴官力ニ不及トアレハ拙者貴政府ヘ罷出議論アル方ト飽迄御討論不致テハ拙者ヘ委任サレタル道ヲ不盡也若シ此末トモ貴官御引受アラハ不相替御談判可致

一東萊馬山浦ノ義ハ中頃ヨリ御發ノ議ユヘ我政府ニテ承知難致トノ事也

一是ハ珍敷御說ナルヤ中頃ヨリ申出タルニ付調議不相成ト

ハ如何ノ譯ナリヤ雙方調印濟迄ハ御談判ノ都合ニ依リ追々可申出事アリ尤東萊ハ最初百里ト申進タル里程内ニ籠リタルナリ

一何程御議論被下テモ到底不行事故此分ニテ御仕舞被下度

一拙者ハ日本政府ノ使臣ナレハ此儘ニテ絶議ハ難致最初ヨリ日本里法十里ト云事ヲ申進タルニ何故此事ハ御忘被成タリヤ

一已ニ我政府ヨリ貴國十里ヲ我國十里ニ可致トノ議ヲ申上置タレハナリ尤我十里ニテ宜シト一應御返答アリタルニ付全ク落着致シタル者ト心得居レリ且馬山浦ハ東萊ノ御談ヨリ後レテ承リタリ

一決テ不然貴國十里ニ致度ト御申聞被成タルニ付然ハ東萊馬山浦ノ變通法ヲ御相談可致ト申進タルナリ其證據ハ書付アルヘシ其書付ノ事ヲ已ニ御失念被成タリヤ言詞ハ後日ニ殘ラサル者トハ乍申席上筆記モアレハ決テ前後相違ノ御談ハ承リ難ク右樣不都合ノ御談ニテハ一國ノ委員トハ不被存無據最早貴官トハ御談判可不致ト申ス場合ニ立到ルナリ

一過日御内話ノ節東萊ノ事ヲ承リタリ依テ初メハ東萊計リ御申聞被成タリト申ナリ

一右ハ是非トモ日々東萊迄ノ往來ヲ御許不被成テハ此御論ハ落着不致トノ趣意ヲ申進タルナリ然ルニ其後貴國十里ニ致度トノ御話有之ニ付然ハ毎月十日宛東萊ト馬山浦ヘ往來ヲ御許有之度ト申タルナリ

一如何樣ニ致テモ迚モ此御相談ハ相成ラス

一拙者ヨリ右樣變通ノ方法迄相考申進タルハ唯兩國交際ノ便宜ヲ謀リタルナリ然ニ一概ニ不出來トノミ御返答アリテハ外國ニ對シ應接スヘキ道ニ非ス

一使臣入京ノ義ニ付書取ヲ以御尋可申間貴官ヨリモ書付ヲ以御回答被下度

一追テ御報ニ及フヘシ

一扨前件ハ此分ニテハ迚モ承知可致樣モナケレハ其議論ヲ主張ノ大臣ヘ御面談可申ニ付貴官御同行被下哉或ハ拙者ヨリ參上可致哉

一政府ノ論モ拙者ノ見込モ同樣ナリ

一併政府ニテ不承知ト御申聞被成故右樣申進スルナリ

一拙者ノ不出來事ハ政府ニテモ出來サルヘシ

一先日來拙者申進タル議論ノ主意ハ能ク貴政府ヘ貫徹無之樣存スル故ニ貴政府ヘ罷出直ニ御討論ニ可及ト申進スルナリ

一段々同樣ノ事計申上貴意ヲ煩シタリ最早晩景ニ付退出致スヘシ

一今日初ノ御詞トハ大ニ相違致シタリ尚拙者ノ議論間違無之樣貴政府ヘ御上申之上御回答ヲ乞

右ニテ畢八時五十分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 九〇　八月二十一日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

### 釜山遊歩規程ニ關スル件

第拾壹號

明治九年八月廿一日午後四時四十分講修官來リ理事官ト對話

河上大錄筆記浦瀨中錄中野權少錄通譯訓導玄昔運陪席

一禮畢テ

一先日來御談判ノ一件ハ如何ノ御評定ニ成リタリヤ

一何分談合致兼於拙者甚心配致居レリ依テ昨日モ可致參上筈ノ處其儀ヲ不得ナリ今日ハ主人ノ道トシテ一應ノ御伺ヲ致タルナリ

一如何ノ御廟議ナリヤ確ト承リタシ

一貴官ヘ御答可申上趣意ハ今日モ別ニ先日來ト換ル事無シ既ニ商譯都中ヲ廢シ守門設門ヲ取毀ツ事等皆貴意ニ從ヒ決議致シタリ釜山規程ノ儀ニ到テハ我主上ヘ上奏ノ上我十里四方ト極リタル事故今更何程御議論有之テモ拙者ノ盡力ニテハ如何樣共致シ難シ

一貴政府ノ御見込ハ全ク正理ニ違ヘリ抑兩國和親條約ヲ結タル上ハ彼商譯ヲ廢スル等ノ事ノ如キハ我國ヨリ不申出共貴政府自ラ御處置可有之筈ナリ之レハ拙者ヨリ御請求及タリト申ニハ非ス唯氣附タル儘御談致シタルナリ然ルニ右樣ノ御心得ニテハ萬事御相談ハ難相成也

一三百年來交際上用ヒ來リシ舊法ユヘ我國ニテハ可成改革ハ不好レトモ貴國ヨリノ御好ニ依リテ廢シタルナリ

一決テ我國ヨリ御請求ニ及タルニ非ス即修好條規第九款兩國人民貿易ヲ寛裕ニスルトアル意ニ基キ御談ニ及ヒタルナ

リ假令三百年來ノ國法ト雖トモ新條約面ニ差支アル箇條ハ改革セサルヲ不得ナリ

一右ハ今更彼是議論スヘキ事ニ非ス

一最初行步規程百里ト申タルハ大抵日本人步行ノ路程ヲ量リテ申進タルニ貴國ヨリ之ヲ御許ナキノミナラス剩ヘ拙者ヨリ申出タル變通法モ聞カレス唯理モ非モ問ハス一概ニ御斷ト計御申答アレトモ右ハ元ヨリ我國ノ爲ノミヲ謀リテ御請求致スト云者ニアラサレハ拙者ハ日本政府ノ委任ヲ受タル使臣ナレハ無據飽迄御討論セサルヲ不得ナリ

一已ニ一昨日モ此御論ヲ承リ居今日參上致タルモ於拙者別段考方アルニハ非ス唯主人ノ道ヲ以罷出タル迄ナリ

一然ハ貴官ハ規程十里ニテ滿足ナリト御考被成哉

一拙者ノミニ非ス我政府ニ於テ可然トノ見込ナリ已ニ政府ニテ決議ノ上ハ拙者ノ力如何樣共致方無之彼是空敷御論致テモ却テ失敬ト相顧ミ昨日ハ參上不致也

一貴官ニシテ右樣ノ御見込ニテハ是迄段々御辨論申進タル事モ皆無理ト御考被成ヤ

一拙者ノ見込ハ卽我政府ノ見込ナリ拙者ハ唯御取次致スノミノ事ナリ



一貴政府ノ事ヲ論スルニ非ス貴官ハ拙者ノ所論ヲ無理ト御考被成ヤ如何承リタシ

一我政府ニテ不當ト被存事ハ拙者ノ心ニテモ同樣存スルナリ

一貴意ニ於テ何事ヲ不當ト被致ヤ

一十里四方ニテ相當ナリ東萊府馬山浦等ニ到ル事ハ不相當ト存スルナリ

一我國人貴國內三五十里ノ處ヲ經過スルニ於テハ何ノ害アリヤ無害者ヲ御差留可被成條理ハ有マシ

一差支筋ハ先日來申上タル通リナリ何分外國ト交際不致國ユヘ外國人ノ不來處ヘ貴國人來レハ我人民安着不致事ヲ恐ルヽナリ此儀ハ追々御相談可致

一追々相談トハ今日初テ承リタリ人民安着不致トノ事ヲ每々御申聞被成共決テ不然其證據ハ種々可申出事アリ就テハ先日モ申進タル如ク一度御同道ニテ實地ニ就テ見ルヘシ如何

一拙者ノ實見ハ如何樣ニアリトモ元ヨリ我政府ニハ熟知致居事也扨如此ノ御談判ニ涉リテハ互ニ愛敬ノ道ニ非ス依テ他事ヲ御相談致スヘシ

一此御論ノ未濟間ニ他事ヲ議スヘカラス彌拙者ノ所說ハ不當ナリヤ

一不當ト存スルナリ

一何ガ不當ナリヤ

一我政府ニ於テ不被許事故不當ト存ス

一貴政府ニ關スヘキニ非ス道理上ニ於テ不當ト認メラルヽヤ且拙者ノ言不當ナレハ其譯ヲ承リタシ

一先日來申上居通リノ事也右樣ノ御談方ニテハ拙者ヲ御待遇可被下道ニハ非スト存スルナリ

一貴官ヲ御待遇不致ト云ニ非ス然トモ拙者ノ言ヲ不當ト御考被成トキハ御辨論セサルヲ不得ナリ

一我國ニ於テ風俗ノ爲メ不宜ト存スル故右樣申上ルナリ

一風俗ニ於テ不宜トハ實ニ不可解事ナリ我國人ハ野蠻ト御認被成哉

一我國人ト雖トモ隔遠ノ地ヘ參レハ其地方ノ人々之ヲ見テ驚ク位ノ勢ナリ

一屢々申進スル如ク草梁公館ニ參ル貴國人衆多アリ然ルニ風俗ニ拘ルトアレハ其御辨解ヲ御出可被成儲右樣談判追々六ケ敷相成貴官ニ於テモ別ニ無詞故昨日モ御來館無之位ニテハ最早貴官トハ殆道ノ絕タル樣ナリ拙者ハ我政府ヨリ別段ノ委任モアレハ明朝貴政府ヘ罷出諸大臣ト御面話致スヘシ其序右ノ一件モ御談可申ニ付貴官ヨリ此旨御通達有之度

一我政府ヨリ講修官ヲ被差出追々御談判ニテ過半相濟タル處今日如此ノ御談ニテハ拙者心中甚困却セリ明日假令貴官政府ニテ御議論アリテモ迚モ落着ハ致スマシ

一明日ハ條約外ノ一事ヲ申進スル積リ也其節申大官初ヘ御面會此事ヲ御談可致而シテ其上都合ニ寄可取計事アリ

一貴官我政府ヘ御出頭ノ事ハ諸大臣何レモ承知致居レリ然トモ右ハ談判濟ノ後ニ可致積リニ付明日俄ニ御出頭ノ都合ニハ相運ヒ申間敷

一然ハ右ハ伴接官ヘ御面會ヲ乞ヒ此旨御依托スヘシ

一伴接官ヘ御托相成ルモ拙者モ同樣ノ事也過日御內話申上タル次第ハ別ニ御良考モ不被降哉

一公事ニ付私情ヲ以テノ御論ハ乍御氣ノ毒承知致シカタシ

右ニテ相畢講修官退出六時三十分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 九一　八月二十三日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ對話書

### 釜山遊歩規程等ニ關シ意見一致ノ件

第拾貳號

明治九年八月廿三日午後六時三十分講修官來リ理事官ト對話

河上大錄筆記浦瀨中錄中野權少錄通譯訓導玄昔運及差備官八九名陪席

一禮畢テ

一其後我政府ニテモ段々心配操返シ議論ニ及ヒ終ニ略貴意ノ如ク決シタリ依テ今日ハ嬉敷御談判ヲ相終リ申度一承ルヘシ

一各處行商ノ儀ハ已ニ開港ノ約アレハ御請求ニ難應トノ廟議ニ付暫ク開港ニ寄セ御取消被下度又釜山規程ノ事ハ馬山浦ニ到テハ何分調議難致ニ付相止メ東萊迄ハ常ニ往來相成樣內決シタリ何卒此邊ニテ決定ヲ乞

一各地行商ノ事ハ是非御差支トアレハ强テハ不申進トモ開港場ヲ測量ノ時ニ當リ唯海路ノミニテ上陸ヲ被拒テハ不便利有之ニ付其近傍陸路ヨリモ相越測量致候樣御承知アラハ宜シ

一右ハ先日モ申上タル通リ何港歟御心當ノ場所出來タル上ニテ御上陸實見被成事ハ差支無之尤其節ハ前以東萊府ヘ御報知被下タシ

一馬山浦ヘ往來ノ事强テ御斷ナレハ致方無之次第也就テハ此上ハ文章ヲ確定シ清書ニ相懸リ可申

一訓導ヨリ御請求及ヒタル東萊釜山ヘ行步ノ儀ニ付手錄ハ隨員ノ內ヨリ御投與被降樣相願タシ

一諾元ヨリ承知致居レリ

一然ハ河上君ヨリノ手錄ニシテ御遣シ被降ハ大幸ナリ

一後刻同人ヨリ訓導ヘ相渡スヘシ

右ニテ談判相濟修好條規附錄文章逐款論定ス講修官退出八時五十分

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 九二　八月二十四日　朝鮮國出張宮本理事官旅館ニ於テ同理事官ト朝鮮國講修官トノ應接略記

### 修好條規附錄並ニ貿易章程調印交換ノ件





附記一、日鮮修好條規附錄

二、日鮮通商章程

三、八月二十四日朝鮮國出張宮本理事官ト朝鮮國講修官トノ往復書翰

朝鮮國ノ宿弊芟除並ニ日鮮漂民經費償還ノ件

第拾三號

明治九年八月廿四日午後九時講修官來リ理事官ト對話

河上大錄訓導玄昔運及差備官凡廿名列席浦瀨中錄中野權少錄通譯

註一、右ノ機會ニ調印セラレタル日鮮修好條規附錄、通商章程並ニ宮本理事官ト朝鮮國講修官トノ間ニ往復セラレタル書翰ヲ左ニ附記ス

一禮畢テ雙方互ニ條約書清書ヲ出シ示シ細讀ノ上雙方相違之廉無之ニ付調印各壹通ツヽヲ交換ス對話略之

一修好條規附錄第四款凡日本里法一里ニ當ルノ字事故有之河上大錄刪去ス

右畢テ理事官酒杯ヲ差出シ雙方首尾能談判整調印濟タル事ヲ祝ス

講修官退出十二時

（宮本大丞朝鮮理事始末）

（附記一）

修好條規附錄

日本國政府曩ニ特命全權辨理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黑田清隆特命副全權辨理大臣議官井上馨ヲシテ朝鮮國江華府ニ詣ラシメ同國政府ハ大官判中樞府事申櫶副官都摠府副摠管尹滋承ニ委任シ日本曆明治九年二月二十六日朝鮮曆丙子年二月初二日野權少錄通譯

一禮畢テ雙方互ニ條約書清書ヲ出シ示シ細讀ノ上雙方相違之廉無之ニ付調印各壹通ツヽヲ交換ス對話略之

一修好條規附錄第四款凡日本里法一里ニ當ルノ字事故有之河上大錄刪去ス

右畢テ理事官酒杯ヲ差出シ雙方首尾能談判整調印濟タル事ヲ祝ス

講修官退出十二時

（宮本大丞朝鮮理事始末）

修好條規附錄

日本國政府曩遣特命全權辨理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黑田清隆特命副全權辨理大臣議官井上馨詣朝鮮國朝鮮國政府派大官判中樞府事申櫶副大官都摠府副摠官尹滋承會同于江華府日本曆明治九年二月廿六日朝鮮曆丙子年二月初二日

子年二月初二日雙方互ニ調印シタル修好條規第十一款ノ旨趣ニ從ヒ日本國政府ハ理事官外務大丞宮本小一ニ委任シ朝鮮國京城ニ詣リ朝鮮國政府ハ講修官議政府堂上趙寅熙ニ委任シ相會同シテ議立スル條款左ニ開列ス

第一款

嗣後各港口駐留日本國人民管理官朝鮮國沿海地方ニ於テ日本國ノ諸船困難ニ遭ヒ緊急ナリト聞クトキハ地方官ニ告ケ該地ニ到ル道路ヲ經過スルヲ得ヘシ

第二款

嗣後使臣及管理官ヨリ各所ヘ通スル送文ハ自費ヲ以テ郵送スルモ或ハ該國人民ヲ雇ヒ專差スルモ各其便ニ從フヘシ

第三款

議定シタル朝鮮國通商各港ニ在リテ日本國人民地基ヲ租賃シ住居スルハ各其地主ト相議シテ價ヲ定ムヘシ朝鮮國政府ニ屬スル地ハ朝鮮國人民ヨリ官ニ納ルト同一ノ租額ヲ出シテ住居スヘシ釜山草梁項日本公館ニハ從前同國政府ヨリ守門設門ヲ設ケシカ今後之ヲ廢撤シ一ニ新定ノ程限ニ依リ標ヲ界上ニ立ツヘシ他ノ二港モ亦此例ヲ照ス



協議妥辨互相調印今照其修好條規第十一款旨與日本國政府委任理事官外務大丞宮本小一詣朝鮮國京城朝鮮國政府委任講修官議政府堂上趙寅熙會同擬議其所定立條款開列于左

第一款

各港口駐留日本國人民管理官於朝鮮國沿海地日本國諸船致敗緊急得告地方官經過該地沿路

第二款

使臣及管理官所發之文移書信郵致費銀事後辨償或雇人民專差各從其便

第三款

在議定朝鮮國通商各口日本國人民之租賃地基居住者須與地主商議以定其額屬官地者納租與朝鮮國人民同如夫釜山草梁項日本館從前設有守門設門從今廢撤一依斯定程限立標界上他二港口亦照比例



第四款

嗣後釜山港ニ於テ日本國人民行步ヲ得ヘキ道路ノ里程ハ波戸場ヨリ起算シテ東西南北各直徑十里朝鮮里法ニ依ル凡日本里法一里ニ當ル（朱印）「註文十字ヲ删去ス」（朱書）ト定ム東萊府中ニ至テハ里程外ニ在リト雖トモ特ニ往來ヲ爲ス此里程內ニ於テ日本國人民隨意行步シ其地ノ物產及日本國物產ヲ賣買スルヲ得ヘシ

第五款

議定シタル朝鮮國各港ニ於テ日本國人民ハ朝鮮國人民ヲ賃雇スルヲ得ヘシ朝鮮國人民其政府ノ許可ヲ得ハ日本國ニ來ルモ妨無シ

第六款

議定シタル朝鮮國各港ニ於テ日本國人民若シ死去シタル時ハ適宜ノ地處ヲ選ミ埋葬スルヲ得ヘシ但他ノ二港ノ埋葬地ハ釜山埋葬地ノ遠近ノ例ニ依ル

第七款

日本國人民日本國ノ諸貨幣ヲ以テ朝鮮國人民ノ所有物ト交換シ得ヘシ又朝鮮國人民ハ交換シ買得タル日本國ノ諸貨幣ヲ以テ日本國ノ諸貨物ヲ買入ル、爲メ朝鮮國指定ノ諸港ニテハ人民相互ニ通用スルヲ得ヘシ



第四款

嗣後於釜山港口日本國人民可得閒行道路里程自埠頭起算東西南北各直徑十里朝鮮里法爲定至於東萊府中一處特爲往來於此里程內日本國人民隨意閒行可得賣買土宜及日本國物產

第五款

在議定朝鮮國各口日本國人民可得賃雇朝鮮國人民若朝鮮國人民得其政府之允准來於日本國亦無礙

第六款

在議定朝鮮國各口日本國人民如病故可得撰適宜之地以埋葬一依草梁遠近爲之

第七款

日本國人民可得用本國現行諸貨幣與朝鮮國人民所有物交換朝鮮國人民用其所交換之日本國諸貨幣以得買日本國所產之諸貨物以是在朝鮮國指定諸口則可得人民互相通用

朝鮮國銅貨幣日本國人民得使用運輸之事兩國人民敢有私鑄

日本國人民ハ朝鮮國銅貨幣ヲ使用運輸スルヲ得ヘシ兩國人民私ニ錢貨ヲ鑄造スル者アレハ各其國ノ法律ニ照シテ斷處スヘシ

第八款

朝鮮國人民日本國人民ヨリ買得タル貨物或ハ贈與ヲ受タル諸物品ハ隨意使用シテ妨無シ

第九款

修好條規第七款ニ載スル旨趣ニ從ヒ日本國測量船小船ヲ放チ朝鮮國沿海ヲ測量スル時或ハ風雨ニ逢ヒ或ハ干潮ノ爲メ本船ニ歸ル能ハサル時ハ該處里正ヨリ其近傍ノ人家ニ安着セシムヘシ若シ需用ノ物品アラハ官ヨリ辨給シ後日其入費ヲ完濟スヘシ

第十款

朝鮮國ハ未タ海外諸國ト通信セス日本國ハ年來諸國ト締盟友誼アルノ故ヲ以テ今後朝鮮國ノ沿海ヘ諸國ノ船舶風波ノ爲メ困難シ漂着スルアラハ朝鮮國人民理ニ於テ之ヲ愛恤セサル無シ該漂民本國ニ送還セラレンヲ望マハ朝鮮國政府ヨリ各港口駐留ノ日本國管理官ニ遞付シ本國ニ送還セシム該官員之ヲ領諾セサル無シ



第八款

朝鮮國人民所買得於日本國人民貨物或其贈遺之各物隨意使用無妨

第九款

從修好條規第七款所載有日本國測量船放小船測量朝鮮國沿海或際風雨或潮退不能歸本船該處里正安接近地人家如有需用物品自官辦給追後計償

第十款

朝鮮國未曾與海外諸國通信而日本則異于此修好經年所締盟有友誼嗣後諸國船舶爲風波所窘迫漂到沿邊地方則朝鮮國人民須於理無不愛恤之該漂民望送還于其本國朝鮮國政府遞致各港口日本國管理官送還于本國

第十一款

右十款ノ章程及之ニ添ヘタル通商規則共修好條規ト同一ノ權ヲ有ス兩國政府遵行シテ違フ莫カル可シ然レトモ此各款中若シ兩國人民交際貿易上實地ノ障碍ヲ生シ改革セサル可カラサル事柄ヲ認ムル時ハ兩國政府其議案ヲ作リ一箇年前報知シテ協議決定スヘシ

大日本紀元二千五百三十六年明治九年八月廿四日

理事官外務大丞宮本小一(印)

大朝鮮開國四百八十五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙寅熙(印)

(附記二)

朝鮮國議定諸港ニ於テ日本國人民貿易規則

第一則

日本國商船日本國政府所管ノ軍艦及專ラ通信ニ用フル諸船ヲ除ク　朝鮮國ニテ許可セシ諸港ニ入津ノ時船主或ハ船長日本國人民管理官ヨリ渡シタル證書ヲ三日ノ内ニ朝鮮國官廳ヘ差出スヘシ

所謂證書ナル者ハ船主所持ノ日本國船籍航海公證ノ類ヲ入港ノ日ヨリ出港ノ日マテ管理官ニ差出シ置キ管理官ヨ



第十一款

右十款章程及通商規則共有與修好條規同一權理兩國政府可遵行之無敢有違然而此各款中若兩國人民於交際貿易實踐有認頓爲障碍不可不釐革則兩國政府速作議案前一年報知之以協議改立

大日本國紀元二千五百三十六年明治九年八月二十四日

理事官外務大丞宮本小一(印)

大朝鮮國開國四百八十五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙寅熙(印)

通商章程

於朝鮮國議定諸港日本人民貿易規則

第一則

日本國商船除日本國政府所管之軍艦及專用通信之諸船　入朝鮮國准聽貿易諸港之時船主或船長須呈日本國人民管理官所發給之證書於朝鮮國官廳不出三日

所謂證書者船主所帶日本國船籍航海公證之類自其進口之日至出口之日交付之管理官管理官即付以接受各書證票是

リ此證書類ヲ預リタル證票ヲ與フ是ヲ日本國現時施行ノ商船成規ト爲ス船主本港碇泊中此證票ヲ朝鮮國官廳ヘ差出シ日本國ノ商船タルヿヲ驗明ス

此時船主又其記錄簿ヲ差出スヘシ

所謂記錄ナル者ハ船名并ニ本船ヲ發スルノ地名積荷ノ噸數石數（共ニ船舶ノ容積ヲ算定スルノ名）船長ノ姓名乘組水夫ノ人員船客ノ姓名ヲ詳記シテ船主調印シタル者ナリ

此時船主又本船積荷ノ報單并船內所用雜物ノ簿記ヲ差出スヘシ

所謂報單ナル者ハ荷物ノ名或ハ其物質ノ實名并荷主ノ姓名記號番號ヲ詳記シテ（記號番號ナキ荷物ハ此例ニアラス）報知スルナリ此報單及其他書類ニ何レモ日本國文ヲ用ヒテ漢譯文ヲ副ルヿ無シ

第二則

日本國商船進港ノ積荷ヲ陸揚ケセント欲スル時ハ船主或ハ荷主ヨリ更ニ積荷ノ物名并元價斤量箇數ヲ書記シ朝鮮國官廳ニ屆出ヘシ官廳屆書ヲ得ハ速ニ荷卸シ免狀ヲ渡スヘシ

第三則

船主或ハ荷主第二則ノ免狀ヲ得タルノ後其荷物ヲ陸揚ケスヘシ朝鮮國官吏若シ之ヲ驗査セント要スレハ荷主敢テ之ヲ拒ム事無シ官吏亦注意驗査シテ之カ爲メ毀損ヲ致スヿ無カレ

第四則

出港セントスル荷物ハ荷主第二則入港積荷屆書ノ式ニ照シ船名并荷物ノ品書個數ヲ書記シ朝鮮國官廳ニ屆出ヘシ官廳ハ速ニ之ヲ許可シ出港荷物免狀ヲ渡スヘシ荷主免狀ヲ得ハ本船ニ積込ムヿヲ得ヘシ官廳若シ其荷物ヲ驗査セント要スレハ荷主敢テ之ヲ拒ムヿ無シ

第五則

日本國商船出港ヲ要スル時ハ前日正午前ニ朝鮮國官廳ヘ報知スヘシ官廳報ヲ得ハ嘗テ預リ置キタル證書ヲ還附シ出港免狀ヲ渡スヘシ

日本國郵便船ハ成規ノ時限ニ拘ラスシテ出港スルトモ必ス官廳ニ報知スヘシ

第六則

嗣後朝鮮國諸港口ニ於テ粮米及雜穀トモ輸出入スルヲ得ヘシ

第七則





爲日本國現行商船成規船主本港碇泊中轉呈斯證書於朝鮮國官廳驗明爲日本國商船

此時船主又呈其記錄簿

所謂記錄者船主詳記本船之名發本船之地名本船所積載之噸數石數（共算定船舶容積之名）船長姓名船內水手之數目搭載旅客之姓名而船主鈐印者也

此時船主又呈本船裝運貨物之報單及船內應用雜物之簿記

所謂報單者詳細開明貨物之名或其物質之實名貨主之姓名記號番號（不用記號番號之貨物不在此例）報知之也此報單及呈明諸書之類悉用日本國文無副譯漢文

第二則

日本國商船起載進口船貨之時船主或貨主須更呈明其貨物之名及元價斤量數目於朝鮮國官廳官廳得呈明須速發給卸貨准單

第三則

船貨主得第二則准聽之後須起載其貨物朝鮮國官吏要驗明之貨主無敢拒之官吏亦須小心驗明無或敢爲之致毀損

第四則

出口之貨物貨主照第二則進口貨報單之式呈明落貨之船名及貨物之名數於朝鮮國官廳官廳須速准聽之發給出口貨准單貨主得准單卽落載于本船官廳如要驗査其貨物貨主無敢拒之

第五則

日本國商船要出口須於前日午牌前報知朝鮮國官廳官廳得報須還付前日所收領之證書以發給出口准單

日本國郵便船得不由成規之時限出口亦必報知官廳

第六則

嗣後於朝鮮國港口住留日本人民粮米及雜穀得輸出入

第七則

港稅

連桅檣ノ商船及蒸氣商船稅金五圓

單桅檣ノ商船稅金貳圓荷物五百石以上積

單桅檣ノ商船稅金壹圓五十錢荷物五百石以下積

日本國政府ニ屬スル諸船舶ハ港稅ヲ納レス

俱ニ附屬脚艇ヲ除ク

第八則

朝鮮國政府或ハ人民諸物品ヲ不開港場ノ口岸ニ運輸セント欲スル時ハ日本國商船ヲ雇入ルヽヿヲ得ヘシ雇主若シ人民ナレハ朝鮮國政府ノ免狀ニ照シテ雇役スヘシ

第九則

日本國船隻若シ通商ヲ許サヽル朝鮮國ノ港口ニ到リ私ニ買賣ヲ爲スヲ該地方官見屆タル時ハ最寄管理官ニ引渡スヘシ管理官ハ其所得ノ錢物一切ヲ取上ケテ朝鮮國官廳ニ交付スヘシ

第十則

鴉片烟販賣ヲ嚴禁ス

第十一則

兩國現ニ定ムル規則ハ今後兩國商民貿易形況ニ依リ各委員時ニ隨テ事情ヲ酌量シ商議改正スルヲ得ヘシ此カ爲メ兩國委員各調印シテ即日ヨリ遵行セシム

大日本國紀元二千五百三十六年明治九年八月廿四日

理事官外務大丞宮本小一(印)

大朝鮮國開國四百八十五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙寅熙(印)

**(附記三)**

以書翰致啓上候陳ハ貴國ノ我邦ト交ヲ通スル以來其貿易ヲ爲ス宗氏ト貴政府之ヲ爲シ人民各自ノ通商ヲ准サス之ニ加フルニ貴政府中年以降各色物品ノ貿易ヲ以テ例シテ官吏ノ自營ヲ准聽セシヨリ慣習一命令アル如ク弊端漸ク滋シ今般協立スル所ノ修好條規第九款ニ基キ兩國人民ノ貿易ハ寬裕弘通ヲ主旨トスル勿論ナレハ右等ノ弊竇宜ク速ニ革除セサルベカラス蓋シ我人民ノ貴國ニ輸送スル各物件ハ我海關ニ於テ輸出稅ヲ課セス貴國ヨリ我內地ヘ輸入スル物產モ數年間我海關ニ於テ輸入稅ヲ課セサル事ニ我政府ノ內議決定セリ寬裕ノ議コヽニ及フモノ他ナシ兩國人民ヲシテ有無相通シ長短相補以テ用ヲ利シ生ヲ厚フセシムルニ在ルナリ然ル量事情會商改正爲此兩國委員各鈐印即日遵行

大日本國紀元二千五百三十六年明治九年八月二十四日

理事官外務大丞宮本小一(印)

大朝鮮國開國四百八十五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙寅熙(印)

註二、右附記一、二ハ明治九年十月十四日第百二十七號太政官布告ヲ以テ布告セラレタリ

ニ竊ニ貴國現今ノ情形ヲ察スルニ鎖閉纔カニ解ケ禁網始テ開ク料ルニ人民ノ交通未タ俄ニ親密ニ至ルヘカラス貿易互市急ニ繁盛ヲ期シカタシ時ヲ察シ宜ヲ酌ミ兩國政府ノ最モ當サニ注意保護スベキ要件ハ務メテ協議シテ之ヲ創立シ通商ノ妨害障碍トナルベキ事項ハ速ニ芟除セサルベカラス萬一相胥テ貌視シ互ニ苟合ヲ爲サバ通交ノ名有テ其實無シ故今條件ヲ左ニ揭ケテ後來ノ證ト爲ス

一從前貴國ニ於テ通商ヲ准行スル者ヲ限テ數名ト爲シ商譯都中及許可ヲ得タル人民ノ外ハ他ノ人々通商スルヲ得ス嗣後宜ク寬裕ニシ人々ヲシテ廣ク互市ヲ行フヲ得セシムベシ且或ハ貿易ノ數量ヲ限制シ或ハ甲ハ止タ某貨ヲ販キ乙ハ某物ヲ買フヲ得ザル等推酤ニ倂シキ束縛





港稅

連桅檣商船及蒸氣商船稅金五圓除附屬脚艇

單桅檣商船稅金貳圓載得五百石以上貨物

單桅檣商船稅金壹圓五十錢載得五百石以下貨物

屬日本國政府諸船舶不納港稅

第八則

朝鮮國政府或其人民除指定貿易口之外欲運輸各物件於他口岸得雇日本國商船雇主如係人民照朝鮮國政府准單而後雇役

第九則

日本國船隻如到不准通商朝鮮國口岸私爲買賣該處地方官查出交付就近管理官管理官將所有錢物一併沒入交遞朝鮮國官廳

第十則

嚴禁鴉片烟販賣

第十一則

兩國現定規則嗣後從兩國商民貿易形況如何各委員得隨時酌

法ハ阻絶シテ復行フアルナシ

一朝鮮人民日本人民ト貨物ヲ賣買シタル後其都度朝鮮官府ニ稟報スルヲ要セス貴政府其出入物貨ノ多少ヲ知ラント欲セハ海關出入ノ報單ヲ一覽シテ徵スルニ足ル更ニ人民ヲ煩ハス可カラス

一兩國人民ノ貿易スル之ヲ保護シ之ヲ催進スル爲メ官吏ヲ派セザル可カラズ其派員ハ政府ヨリ俸給アリ法度アリ以テ廉ヲ養ヒ行ヲ飭フニ足ル別ニ人民ニ向テ毫モ求索スルノ理無シ若シ派員貪心無厭陰誘需索或ハ窘迫セシムル時ハ貿易ノ路ヲ妨害スル測ル可カラス故ニ政府ハ須ク戒飭シテ其弊端ヲ未發ニ禦ク可シ若シ奸狀敗露證跡分明ナルモノハ政府其責ニ任ジテ之レカ處分ヲ爲ス可シ

一海關ヲ設ケ稅額ヲ定メ兩國人民ニ約束シテ徵收スル是ヲ公稅ト爲ス今特リ進口船公稅ノ一則アリ此外若シ進口貨物內地ニ入ルノ時出口貨物內地ヲ出ルノ時其要路ニ取締所等ヲ設立シ以テ陰ニ諸種ノ稅餉ヲ徵シ或ハ其貨物點檢ノ勞ニ托シ賄ヲ納ル等皆是貿易ヲ公許スト雖トモ其實ハ貿易ヲ沮抑スルナリ自今斷然是等ノ事ヲ廢シ再ヒ弊竇ヲ開ク可カラス

右數款ハ條約附錄中揭載スヘキ緊要ノ條款ナリ然レトモ人民ニ公布シテ不可ナルモノアレバ刪去シテ別錄シ互ニ交付シテ相約束セリ其權理ハ附錄ニ異ナル無シ此レカ爲メ嵗礪シ併セテ時祉ヲ祈ル敬具

明治九年八月廿四日

日本國理事官

外務大丞　宮本小一印

朝鮮國講修官

議政府堂上趙寅熙閣下

（右漢譯文）

逕啓者貴國與我邦古來好交其爲貿易也宗氏與貴政府爲之不准人民各自通商加之貴政府中年以各色貿易例准聽官吏自營慣習如令弊端漸滋今新約協立據第九款兩國人民貿易主寬裕弘通則是等弊竇宜速革除其我人民所輸送于貴國之各物件我海關不課輸出稅且我人民將貴國各物產輸送我內地來亦數年間不課輸入稅此事是係我政府內議決定蓋寬裕至此者無他貿易大旨素自在使兩國人民有無相通長短相補以利用厚生矣然竊察貴國現今情形鎖閉纔解禁網始開料當人民交通未可頓至親密貿易互市難急期繁盛察時酌宜則兩國政府之所最當注意保護要件務當協議創立而其爲妨害障碍之事項則不可不速芟除若夫相胥貌視互爲苟合是有通交之名而無其實故今揭條件以爲後來證左

一從前貴國准行貿易者限爲數名除商譯都中及經允商民之外他人不得復行之嗣後宜寬裕使人々得行之且其或限制數量或甲止販某貨乙不得買某物等其所爲類似推酤者宜阻絶莫復行

一朝鮮人民與日本人民賣買貨物不要每回照數必稟報朝鮮政府官如欲知其出入物品多寡則閱海關出入報單而足矣不須復煩人民

一兩國人民互相貿易則要保護催進之不宜無派員其派員入有俸給出有法度足以養廉飭行不可使之肆求索人民若夫隱誘窘迫貪賂無厭則妨碍商路不測故政府須速戒飭以塞弊端若夫證跡分明奸狀敗露者政府須任其責以爲之處分

一設海關定稅額約束兩國人民以徵收是爲公稅而今特有進口船公稅之一則若其進口貨物入內地之時出口貨物出內地之時要路關隘設立摧酤市場以陰徵諸種稅餉或關吏托其點檢之勞以納賄等皆是公許貿易而其實沮抑之也故自今斷然廢撤罷革不須復開弊竇

右數款係條約附錄內當揭載緊要條件而至公布之人民則有未可者故刪去之別錄交付以相約束而其權理則不異附錄爲之嵗礪併祈時祉敬具

明治九年八月廿四日

日本國理事官

外務大丞　宮本小一

朝鮮國講修官

議政府堂上趙寅熙閣下

以書翰致啓上候陳ハ兩國人民不幸ニシテ客土ヘ漂着ノ節ハ其地方官民ヨリ即時憐恤救援ヲ加ヘ衣服飲食及相當ノ諸品ヲ與ヘ閉籠幽囚ノ如キ處分ヲ施サス其生命權理ヲ全フシテ本國ニ護還スヘキ事ハ修好條規第六款ニ在リ就テハ從前兩國漂民ノ爲メ地方ニテ費ル所ロノ經費ハ悉ク隣國交際ノ義務ト爲シ其本國政府ヲシテ之ヲ辨セシメサル慣例ナリト雖トモ締約已來兩國人民往來月ニ加ハリ歲ニ增ス時ハ漂民亦隨テ多カルヘシ之ヲ待ツニ賓禮ヲ以テスレハ煩細ニ堪ヘス故ニ今後漂民救助ノ經費ハ雙方互ニ之ヲ約シ寒暑ニ適スル

時衣一領ノ外一日食料日本ニテハ金十錢朝鮮ニテハ錢五十文ト定メ漂民引渡ノ時錢數何程ト會計シ其本國政府之ヲ完清スヘシ既ニ此完清アレハ其他ノ手數ハ各其漂着シタル國ノ義務ナレハ相互ニ謝禮ヲ爲ニ及ハス

一漂民ノ爲メ特ニ船隻ヲ差シ出シテハ鄭重ニ過ルノミナラス船費モ少ナカラザレバ便船ヲ待テ之ヲ護還スベシ故ニ其滯留時間自ラ長短アリ其間身體適度ノ勞ヲ爲シ養生ヲ爲サシメ亦其人ヲシテ徒然坐食セシメサル爲メ之ヲシテ採薪索綯等ノ如キ應身ノ力役ニ就カシメ相當ノ賃錢ヲ給シ而シテ其所獲ノ錢物ヲ以テ滯留ノ經費幾分ヲ償却セシムヘシ然ル時ハ本國政府ニテ辨スヘキ數ハ僅ニ其不足ヲ補フ而已

一漂民歸國ノ日若シ齎シ歸ル所ノ錢物アレハ固ヨリ本人勞役シテ得ル者ニ付官之ヲ沒スルノ理ナシ宜ク安堵本業ニ復セシムヘシ

右兩國政府ニ於テ遵行違フ莫ルヘシ此カ爲メ約契イタシ候

敬具

明治九年八月廿四日

日本國理事官

外務大丞　宮本小一印

朝鮮國講修官

議政府堂上趙寅熙閣下

（右漢譯文）

逕啓者從前慣例兩國人民不幸漂到客土則地方官宜救援憐恤給衣服飲食及應用雜物不須處之如俘囚禁錮其全性命以護還本國者載在修好條規第六款但其經費所由出任漂到國政府自辨以爲交際義務而是固非穩當保永久之道蓋曾竊惟締約以來兩國人民往來月加歲增則漂民亦應隨多而待之以賓禮恐不堪煩細也故嗣後漂民救恤經費除寒暑時衣一領外每一日口粮費在日本爲貨幣十錢在朝鮮爲錢五十文交遞該漂民之時錢數會計若干各本國政府完清之但其救恤事項則是有漂民地方當務之事何須煩伸謝

一特發船隻送還漂民事過鄭重航海費亦不少須船舶相往來之時送還故其逗留時日自有長短此時間使彼就採薪索綯等適宜力役定賃雇錢物官籍之及送還之期扣除其口粮費以付之則減其本國政府應賠金額幾分矣

一漂民歸國之日若有所齎錢物是係其身勞役以所贏餘則官無沒入之之理宜安堵以復本業



右兩國政府須遵行莫違爲此契約敬具

明治九年八月廿四日

日本國理事官

外務大丞　宮本小一

朝鮮國講修官

議政府堂上趙寅熙閣下

奉覆者貴示兩件冊子其一新立通商規制務歸寬裕官吏之營私討索商譯之專利摧酤一切革除及人民買賣不要每回照數貨物出入特許數年免稅也其一兩國漂民救恤經費會計追償及漂民留連雇賃力役扣除應償而其所剩餘保護還業等項也右件一一照領益歎貴意務在交便兩國民人纖悉具備惟當依此施行永遵章程玆庸回覆敬冀　照亮

丙子七月初六日

講修官政府堂上趙寅熙（印）

大日本國理事官

外務大丞　宮本小一閣下

## 九三　八月二十五日　朝鮮國出張宮本理事官ヨリ朝鮮國側ニ提出セル箇條書

開港地測量ノ爲便宜供與方申入ノ件

嗣後日本國測量船、欲發見朝鮮國開港適宜之口灣、其當進航也、先自管理官、指定地名以報告東萊府、雖發見水深山圍適宜港灣、陸上岨隘、不適居住、則港雖洵良乎、亦無用也、故審驗陸地形況、即測量家要事、此事地方官預先領意、其上陸時、須指導無得拒之事

明治九年八月廿五日

理事官　宮本小一

（宮本大丞朝鮮理事始末）

註　右文書ハ「宮本大丞朝鮮理事始末」所收「朝鮮理事日記」ニヨレハ宮本理事官歸路通津府ニテ訓導玄昔運ニ手交セルモノナリ

## 九四　八月二十五日（假）　朝鮮國禮曹判書ヨリ寺島外務卿宛

宮本理事官ノ朝鮮國講修官ト修好條規附錄等ヲ議定セルハ日鮮兩國ノ爲欣快ナル旨回答ノ件

大朝鮮國禮曹判書金　尙鉉　奉復

大日本國外務卿寺島宗則　閣下

謹茲回照者

貴國今以外務大丞宮本氏爲理事官派送

本邦京城我

聖上特賜宣見禮遇隆摯既又

命政府堂上趙寅熙爲講修官與

貴理事官會接商酌就修好條規疏補細目是皆一從便宜務

求

兩相裨益洵宜遵守勿替以保永好慶忻曷喩

貴理事官專對精詳竣事復路

貴朝廷亦應喜幸於茲也恭賀

貴國雍熙順祈

台候崇福敬具

丙子年七月　日

禮曹判書金　尙鉉

註　右文書ハ日附詳ナラサルモ「宮本大丞朝鮮理事始末」所收「朝鮮理事日記」八月二十五日ノ條ニ「禮曹ニ至リ判書等ニ面シ外務卿ニ宛タル書二通ヲ領收シ」(前後略)トアル二通ノ中ノ一通ト推定サルルニ付假ニ日附ハ此ノ日ヲ採リ此ノ處ニ入ル因ニ右文書ハ宮本外務大丞歸朝ノ後九月二十一日寺島外務卿等ニ差出サレタリ九八參照



## 九五

九月三日(假)　朝鮮國禮曹判書ヨリ寺島外務卿宛

**日本國使臣ハ交聘事務ノ爲ニノミ京城ニ派遣セラルヘキ事竝ニ一定ノ通路ヨリ京城ニ入ルヘキ事ノ二ケ條ノ要求申出ノ件**

大朝鮮國禮曹判書金(朱格)在顯呈書

大日本國外務卿寺島宗則閣下

謹茲照會者、今番

貴理事官與我講修官會同擬議、定立諸款、作爲修好條規附錄凡十有一款、外有

兩國使臣派送

京城、只以交聘事務、至若通商、自有各港口管理官職掌、不必以此事務、專使駐京事、嗣後

日本使臣之往來船舶處所、必有一定地方、然後迎送之節、可以如禮整備、依今番理事官之行、上下船皆從通津、永爲定式事、此二款實是我政府與

貴理事官屢回講確商定者、而

貴理事官以爲有難擅斷、還報

東京之意、成示手錄、茲以據實修書、而追當添載二款于條規附錄、合爲十三款、此希諒會、俾成金石毋渝焉敬具

丙子年七月　日

禮曹判書金(朱格)在顯

(宮本大丞朝鮮理事始末)

註　右文書日附詳ナラサルモ朝鮮史編修會編「李太王朝史」ノ丙子朝鮮李太王十三年七月十六日(明治九年九月三日ニ當ル)ノ條ニ「(前略)本國、日本國使臣ノ入京ハ交聘事務アル時ニ限リ、久駐ヲ許サズ、使臣入京路ハ通津府ヲ以テ一定セントス。理事官宮本小一專擅ノ權ナキニ因リ、是日、禮曹ニ命ジテ、日本國外務省ニ照會セシム。」トアル照會文カ右文書ト推定サルルニ付假ニ日附ハ此ノ日ヲ採ル

## 九六

九月八日　朝鮮國議政府堂上趙寅熙ヨリ宮本外務大丞宛

**朝鮮國側ヨリノ二ケ條ノ要求貫徹方盡力アリ度旨依賴ノ件**

四　日鮮間通商章程締結ノ爲宮本大丞渡鮮一件　九六　九七

爽軒摻別、居然爲一旬有餘矣、秋水蒼葭、每懷靡及、伏以

王靈祥颷助颯、層溟利涉　回槎、極祝

貴國寧謐、寶覃晏吉

文祺勞頓、神葆清禧、區々溯祝、若結于中、公僕而頻執掌之務、私而多惱心之憂、現在樣子殊無足遠浼爾、向者公幹時、不以通商事派使駐京、及日後使行船泊處、以通津一處指定事、屢有奉議者、而　閣下之不要擅斷、認是愼重之盛意、至有所手錄以　示者、又於分手之席架、以北面囑矣、竊想　閣下到底周全、而今我政府使儀曹修書契賚去、蓋此二件事、諒出於兩國事勢之俱當折衷故耳、惟　閣下另圖之、俾成兩國金石之憲、幸甚々々、頓褫略探、統希　肅亮、不宣

丙子七月廿一日

趙寅熙頓首

宮本鴨北先生　閣下

(宮本大丞朝鮮理事始末)

## 九七

九月二十日　宮本外務大丞ヨリ寺島外務卿宛

**朝鮮國トノ往復公文ニ記載スヘキ兩國元首ノ敬**

## 稱ニ關シ朝鮮國側ト交渉顚末報告ノ件

另陳者兩國交聘勿煩國書只自兩政府及外務省禮曹隨其事之大小互相書契奉有　公之今春酬酢往使來使幷用此式須有現定文字方可永遵毋替爲此耑陳切企．回音

丙子七月初六日

講修官　趙　寅　熙□（朱絳）

理事官貴下

右ノ照會文ハ我國ヨリ書契其外ノ文ニ我
皇帝陛下ハ云々ト書記スルヲ忌嫌シテ可成ハ
朝廷又ハ政府ノ文字ヲ以テ之ニ塡テ換用シ止ムヲ得サル時ハ
皇上ノ字ヲ用ヒクレ度ト懇望スル意ナリ其外書契中定式ノ文字アリ度ト云意ハ輕シ蓋此一論ノ起リハ本年春辨理大臣江華府ニテ條約談判紛々トシテ緒端ヲ得カタキ時彼ノ第一畏惡スルハ後來我ヨリ使臣ノ國書ヲ攜帶シ來リ書中日本皇帝書ヲ朝鮮國王ニ送ル云々ト稱スル如ク王ト帝ト書中對照スルヲ最モ嫌惡シテ寧ロ和搆ヲ欲セサル方ニ傾カントスルノ勢アリ申櫶ヨリ下官ニ問テ云願クハ後來使臣貴國ノ國書ヲ攜帶セスシテ來ルノ方便ナキ歟下官云公使ニ三等アリ第一等二等ハ國書ヲ携帶ス第三等ハ外務卿ノ書契ヲ攜フル而已申櫶云然ラハ爾來我國ヘ派遣ノ公使ハ外務卿ノ書契ヲ攜來ル公使ニイタシタシ我云大凡交際國ノ例ニ依レハ、三等公使ヲ置ヨリ二等ヲ欲シ二等ヨリ一等ヲ欲スルハ公使ヲ受クル國ノ常習也然ルヲ貴國ハ是ニ反シテ三等ノ公使ヲ望ム是我國ニテ必ス一定ノ約ヲ爲シ難ト雖トモ其望ハ行ハレ易キ方ナレハ當分必ス代理公使ヲ派遣スル方ニ定ルナラン申櫶云然ラハ我國ノ大幸也偖其代理公使ノ帶來ル書契ノ體裁ハ如何我云亦一定ノ文ナシト雖トモ大凡ヲ記臆ス望マレルナラハ示スヘシ櫶云幸也則別紙ノ如ク擬案ト書シテ與フ其文中我皇帝トカ朝廷トカ書シテ可ナルヘキ處ヲ政府ト書シタリ然レトモ是ヲ以書契ノ式ヲ一定シ約束シタルト云ニアラス則擬案ノ二字及末尾ニ記名ナキヲ以徵スヘシ且此案ハ本國外務卿ヨリ彼國外務卿ヘ書送スル體裁ヲ示シタル而已其君主稱號ノ如キハ固ヨリ記載セサルヘシト約シタルニ非ス然ルニ今度下官ヲ理事官トシテ派遣セラル、事ヲ彼禮曹判書ニ記送セラル、閣下ノ書契ニ我
皇帝陛下ハ外務大丞宮本小一ヲシテ云々トアリ此書ヲ禮曹





ニ呈スルヤ皇帝陛下ノ四字アリテハ受領スルニ難シト云意ニテ禮曹衙門ニテ判書カ下官ニ面スル迄一時間餘躊躇シタリ最前彼ノ依賴ニ應シ書契ノ下書ヲ示セシナリ無程シテ兎モ角モ面シテ書契ヲ受取リ迫テ其事ヲ議スルカ或ハ此儘議セサルヘシト云テ書契ハ受取タリ其翌日申櫶尹滋承金綺秀來リ他人ヲ退ケテ內話セン事ヲ乞フ其時申櫶云當春嘗テ約シタル書契ノ式ニ違ヒ今度貴君カ携ヘ來タル外務卿ノ書契ニ皇帝陛下ノ文字アルハ如何答テ曰當春決シテ約シタル事ナシ申櫶則前文ノ擬案ト御批ノ案文下官ヨリ示セシモノトヲ出シ示ス答テ曰是固ヨリ擬案ニシテ約書ニアラス且此書ハ外務卿ヨリ三等公使ヲ派出スル時書契ノ文意ト記載スヘキ事柄ノ體裁ヲ示ス而已政府ノ字ヲ朝廷ト書スモ皇帝陛下ト書スモ其字ヲ降ス間ニ意義アルニアラス且如此字面迄一定シテ變通セスト約セシ事モナシ我外務卿カ下官ノ事ヲ判書ニ書送スルニ當リ下官傍ヨリ彼是ト啄ヲ容ルノ理ナシ且皇帝ト稱シ國王ト稱スル如キ君主ノ稱號ヲ切實ニ指顯シテ書スルヲ嫌フトノ事ハ貴國ノ所好ナラハ何故先般貴國ヨリ修信使ヲ我國ニ派遣スルニ當リ判書ヨリ外務卿ヘ宛タル書中ニ我聖上ト記載セラレシヤ其前後ノ文段ヲ味フニ必シモ貴國ノ君主ノ稱號ヲ切實ニ指摘セスシテ可ナルヘキ處ナルニ聖上ト書シタリ是貴國ニテモ其例アルニアラスヤ我朝廷ニテ修信使ヲ接待スルニ當リ我
皇帝陛下特旨ヲ以信使ニ延見ヲ賜フ故ニ我外務卿ヨリ判書ノ答書ニ其事ヲ記載シテ我
皇帝陛下云々ト稱セシニ非ラスヤ貴國此書契ヲ甘受シテ居リナカラ今僕カ携帶シタル書ニ對シ新ニ異存アル而已ナラス本春ノ擬案マテヲ出シ深ク怪マル、ハ不審ノ至也此時信使ノ往復書契ノ寫ヲ示ス信使ハ判書ノ書契ヲ持テ使トシテ往キタルニアラス王命ヲ奉シテ行キタルナレハ判書ノ書契ハ深ク注意セス且知ラサリシト申櫶ニ答ヘ彼等一坐大ニ困却セシ體ナリキ故ニ以下ハ論旨ヲ別ニシテ出タリ櫶云然ラス固ヨリ書契ノ相往來スル君主ノ稱號ヲ指サ、ルヲ得サル場合ニ至ル時ハ指サ、ルヲ得ス今貴國ノ皇帝ト書シタル字ヲ論スルニアラス陛下ノ字ヲ論スル也我國ニテハ殿下ト稱ス貴國ハ陛下ト稱ス殿陛自ラ差等アルニ似タリ故ニ我國ニテ是ヲ嫌フナリ答テ云帝王ノ二字ニ差等アレハ可成丈帝王ノ稱號ヲ以テ書契相往復セサルヲ望ムノ論ハ曾テ是ヲ聞ク殿陛ノ二字ノ論ハ未タ曾テ聞カサル處ナリ抑事件ノ勢ニ就テ朝廷ト稱シ政府ト稱シテ足ル事モアリ君主ノ稱號ヲ直切ニ指摘シテ出サ、レハ濟マサル處アリ臣下トシテ我君主ノ稱號ヲ出ス時ハ是ニ敬語ヲ加ヘサル能ワス我日本ノ君主ノ稱號ハ皇帝

也是ニ敬語ヲ加フレハ陛下也是勢ノ然ル處臣下トシテ斟酌スル能ワサル也然レトモ一書中ニ日本皇帝トアリ朝鮮國王ト幷稱シテハ貴國ノ嫌フ處ナレハ御批ノ文案本春下官ヨリ示シ今申儻携來ルモノニハ日本皇帝宣示ス朕カ良友ナル朝鮮國君主トアリシヲ下官先般歸國後外務卿ヘ云々申立タレハコソ眞ノ御批文ニハ大朝鮮國ト友儀ニ厚ク云々ト御記載ニナリ君王ノ字ハ省カレタリ如此可成貴國ノ都合能樣ニ力ノ及丈ケハ周旋シタレトモ其事ハ毫モ挨拶ナクシテ新ラシキ異論ヲ加ヘラルヽハ深ク驚ク處ナリ權云御批ノ文誠ニ都合ヨロシ御名迄記シ賜ヒシハ丁寧スキタル事也偖右ノ論ハ兎ニ角以後トモ周旋ニテ我皇帝陛下ト稱セラルヘキ處ヲ皇上トデモ記載セラレ陛下ト記載セサル樣ニ願タシト哀乞ノ辭ヲ挿ミ懇談ス下官答テ曰可成貴國ノ都合能キ樣ニ周旋スルハ下官輩ノ職務ノ當然也然レトモ以後皇上ト書式ヲ定ムル事ハ約束シカタシト云テ此一席ハ濟ム然レトモ同國政府ハ猶此一事ニ熱汗ヲ注クト見ヘ此照會ヲ講修官ヨリ出セリ却ケテ受ケサラント欲セシカ猶熟思スルニ是我委任中ノ事件ニアラス亦輕事ト見做スヘカラス依テ東歸ノ後猶熟議シテ回答スヘシト答ヘタレハ彼モ我政府ノ議ヲ乞度意裏ト見ヘ即答セサルヲ更ニ



幸トセシ體ナレハ携歸シテ猶高見ヲ乞ヒ且從前ノ始末ハ曾テ陳述シタレトモ玆ニ又謄錄シ幷セテ其概略ヲ陳述候敬具

明治九年九月廿日

外務大丞　宮本小一

外務卿　寺島宗則殿

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 九八　九月二十一日　宮本外務大丞ヨリ、岩倉右大臣等宛

### 日鮮修好條規附錄竝ニ貿易規則締結ノ次第上申ノ件

朝鮮國修好條規附錄貿易規則約成之義　下官義

理事官トシテ朝鮮國ヘ被差遣候旨ノ使命ヲ奉シ七月三日淺間艦ニ乘組横濱解纜釜山ニ着シ同所從前貿易ノ習風及積弊ノ改革スヘキモノヲ取調更ニ江華灣ニ廻航同月三十日朝鮮京城ニ着シ翌三十一日禮曹判書ニ面シ修好條規ノ御批及外務卿ノ書契ヲ渡シ八月一日國王ヨリ拜謁ヲ被命謁見ノ式相



濟其後禮曹判書ヨリ別紙寫ノ書契ヲ以テ（註七八ト同文ニ付省略）該判書ハ條約談判ニ關與セス特ニ刑曹參判議政府堂上趙寅熙ナル者ヲ講修官ニ命シ下官ト對議セシムルノ旨申來リ乃趙寅熙ニ面會議政府ノ委任狀ヲ一覽シ同月五日ヨリ條約附錄貿易規則ノ談判ヲ起シ同二十四日決議ニ至リ各書ニ調印交換相濟同二十六日京城出發今日歸京仕候

彼我調印有之

一　修好條規附錄和文（註九二附記一參照）　壹冊

譯漢文副之

彼我調印有之

一　同朝鮮文　壹冊

彼我調印有之

一　貿易規則和文（註九二附記二參照）　壹冊

譯漢文副之

彼我調印有之

一　同朝鮮文　壹冊

一　朝鮮國ニテ嗣後諸稅ヲ徵セス

官吏ノ賄賂ヲ求ムルヲ停止シ

或ハ商譯都中ヲ廢スル等ノ趣

意講修官ヘ照會文寫（註九二附記三參照）　壹冊

譯漢文副之

一　彼我漂民經費ノ義約束ノ照會文寫（註九二附記三參照）　壹冊

譯漢文副之

一　右二件講修官ヨリ應諾ノ本書　壹冊

一　條約談判結了後禮曹判書ヨリ外務卿ヘ宛タル書契（註七五、九四參照）　貳通

右差上候

一下官義彼地滯留中同國政府ヨリノ接待方ハ日本人自由ニ門外ヘ散行ヲ許サス或ハ公務アル者ノ外他人ヘ接見セシメサル等未開ノ風習ヲ免レサル事有リト雖トモ其他ハ總テ鄭重優渥ノ接遇ヲ極メタリ同國ノ我國ニ對シ友誼アルノ徵ヲ顯ハシタルハ厚ク御想像被降後來同國トノ交際一層ノ懇遇ヲ與ヘラレ候樣奉存候依テ此段上申候敬具

明治九年九月廿一日

外務大丞　宮本小一　花押

右大臣　岩倉具視殿

外務卿　寺島宗則殿

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 九九　九月二十一日　宮本外務大丞ヨリ寺島外務卿宛

### 朝鮮國側ヨリ提出セシ二ケ條ノ要求ニ關シ陳述ノ件

於朝鮮京城八月二十四日講修官ヨリ田シタル口上書寫

兩國使臣派送京城只以交聘事務至若通商自有各港口管理官職掌不必以此事務專使駐京事

嗣後日本使臣之往來船舶處所必有一定地方然後迎送之節可以如禮整備依今番理事官之行上下船皆從通津永爲定式事

此一款上文ハ既ニ復命書中ニ上陳セシ如ク朝鮮政府日本使臣ノ京師ニ駐劄スルヲ嫌惡スルノ餘リニ發スル論ナリ抑同政府ハ各國互ニ公使ヲ派出シ交際國ノ京師ニ在留シ交際事務ヲ辨理スルハ交際ヲ保續スルノ要事タルヲ辨知セス日韓兩國ノ交際ハ古代ノ如ク其國君主ノ慶哀又ハ臨時國災ノ弔問或ハ緊急止ムヲ得サル事務ノ沸起シタル時ニ限リ使臣ヲ派出シ京師ニ至ラシメ其哀慶問弔ノ典ヲ擧ル如キハ數日ニシテ事務ヲ了シ得ヘシ非常事務ハ固ヨリ其長短ヲ期シ難シト雖トモ是亦際限アル事ナリ此兩端ヲ除クノ外外國使臣故ナク他國ノ京師ニ駐留スルノ理ナシトノ論說ナリ蓋シ此論說ハ古代ノ交際法ニ於テ其理ナキニアラス且現今日本朝鮮ノ間試ニ公使ヲ派出スル時ヲ今ヨリ想像スルニ相互ニ其國ノ形勢ヲ探索スルカ或ハ陰ニ勸說訓誘スルノ事務アル而已ニシテ公然タル公使ニ相當スル本務ハ希有ニ屬スルナルヘシト豫算スルモ當ラスト爲サス朝鮮政府ノ此論說ヲ起ス一理ナシト謂ハサルヲ得サルヘシ然ニ同政府ニ對シ其實ハ各港管理官カ通商事務ニ付地方官ト論說諧合セサル時ハ在京ノ使臣之ヲ禮曹衙門ニ照會スルノ順序ヲ以使臣職務中ノ一端トナス時ハ爾後貿易ノ形況ニ隨ヒ使臣ノ朝鮮京官ニ面接スル事端幾分カヲ增加スルナリ然ルヲ朝鮮政府ハ暗ニ此通商事務ヨリ起ル事緒ヲ在京使臣カ論シ出スヲ嫌惡シ右ハ各港管理官ノ職務ナリ公使等ハ必シモ此事務ヲ以テ專使駐京スルニ及ハサル事ト題ヲ出シタルナリ愚考ニ此事ニ就テ彼是ト細瑣ニ涉ル論ヲ起サンヨリ暫ク抛却シ置我一方ハ修好條規第二款使臣ハ京城ニ駐留久暫トモ時宜ニ任スト云二字ニテ現實公使派出ニ臨ミ猶其曲折ノ事情ヲ彼ヘ說明スル方便誼ナルヘシト思量シ談判半途ニシテ此論ヲ止メタリ然ルニ彼猶此問題書ヲ送リ何卒勘辨ヲ加ヘラレタシ且此書ノ意未タ悉サヽレハ猶跡ヨリ政府ノ書契ヲ以テ貴政府ニ照會スヘシト講修官演說シタレハ然ル上ハ此書ハ暫ク帶歸シテ照會書ノ來ルヲ待ツヘシト答置候

下文ハ日本使臣爾後朝鮮ニ來ル時一定ノ道筋ニ由リ入京セン事ヲ望ムナリ是其實彼カ內國ノ地理形勢ヲ目擊セラルヽヲ嫌惡スルノ餘リニ出ツル論ト雖トモ表面ニ陳述スル論說ハ使臣ヲ送迎スル一定ノ路次ニアラサレハ彼政府甚不都合ナリト云意ナリ下官今般先ツ釜山ニ着シ山之城祐長ヲ以テ理事官一行江華灣口ニ回航シ南陽仁川富平何レニモ入京ノ便路ヨリ進行スヘシ宜ク引誘ノ者ヲ差出サレン事ヲ乞フト其以前訓導玄昔運日本滯在中ニモ此事ヲ申入置タリ　申入サセ其後江華灣口ニ回着スルニ及迎接官李容肅來リテ下官一ト先江華府ニ上リ休頓センヲ望ム是レ彼ハ事ヲ鄭重ニ爲スノ國風ヲ以テ同府ニ休息所ヲ設ケタレハ彼所ニ來ランヲ望ムト雖トモ其實江華府ニ安頓セシメタル上ハ同所ニ應接官ヲ出シ事ヲ濟マセ入京ノ事ヲ止メント欲スル意ヲモ含有セシナラン下官斷然此事ヲ拒ミ仁川府道ヨリ京城迄ハ七八里ノ路程ニシテ最近ナレハ此道ヲ經テ入京セン事ヲ談セシニ仁川府使尹暎モ共ニ來ツテ此路ヲ拒ミ仁川街道ハ嶮惡ニシテ車馬共ニ行キ難シト云海後軍士官等此路ヲ經タルニ大要此言ニ違ハスト云　下官云我ハ此道程近クシテ便利ナラント思ヘハ行カント欲スルナリ嶮惡ナルヲ以テ行路ヲ止ムルハ肯諾スヘシ然シ仁川道ヲ旅行スルニ差支ナキ權利ハ有テルナリ扨仁川街道嶮惡ナラハ通津府街道ヲ行クヘシ控海門樓ノ道ハ漢江ノ逆流ヲ溯リ「ソントルモク」ノ處危險ナレハ今少シ近キ處ヨリ上岸シ通津ヘ行クヘシト答ヘ彼モ承諾シタリ然ルニ控海門ノ外他ニ公道ナシト見ヘ遂ニ同所迄舟ヲ進メ同所ヨリ上陸シ通津金浦陽川ヲ經テ楊花鎭ヲ渡リ入京シタリ路次經過ノ各所ヲ見ルニ新ニ山道ヲ廣クシ又ハ敗橋ヲ修理シ泥路ヲ埋メタル等ノ處アリ休泊所ハ各府ノ廳衙ヲ用ヒ新ニ布設ヲ施シタル有樣ニテ其修飾ノ手數尋常ノ事ニアラサルヘシ是固ヨリ地方官ノ職務ニシテ下官經行ノ爲メ急ニ修飾ヲ加ルハ平生ノ怠ヨリ出ツル事ト雖トモ朝鮮ノ風習ヨリ考レハ外國使臣ノ爲メ容易ナラサル手數ニテ外國人ノ知ラス心附カサル所ニ無限ノ煩勞ヲ爲セシナルヘシ加之送迎ニ鹵簿ヲ備ヘ喇叭隊ヲ前導スル抑長途ノ路次ニテハ送迎人ノ堪ユル處ニアラサルヘシ若シ釜山ヨリ百里餘ノ路

程ヲ經テ我輩入京スルト決シタル時ハ沿途ノ混雜政府ノ費用想像スルニ餘リアリ是等ノ意味アルカ故ニ使臣入京ノ路次ヲ一定シ置度ト望ムナリ下官ノ答ニハ差支ナカルヘシ路次ハ固ヨリ一定シ難シ去リ迚其道ニ由ラス邊鄙ノ海岸ヨリ隨意ニ上陸シ入京スルノ理ナシ必ラス三開港場カ又ハ清京兼勤ノ使臣ナラハ清京ヨリ陸路ヲ經テ貴國ノ清京ヘ往クノ公路ニ隨ヒ進入スル事アルヘシ又江華灣ロモシ開港トナラサルトキハ此路次ハ海路入京ニ最近ナレハ不開港トハ云ヒナカラ此門路ヨリ進ム事モアルヘシ其節ハ今度ノ經驗ニ隨ヒ少シク迂回ナカラモ通津ノ道筋ヲ行ク方便利ト覺ユルナリ右ノ數道ノ外ハ使臣入京スル理ナシト答ヘ置タルニ彼ハ猶足ラスト爲ス意アルカ願クハ通津一方ヲ以テ定路ト爲サント欲スル望ナリ此兩條ハ照書文來ル後尙閣下ノ高案ヲ以テ回答ヲ與ヘラルヘキ事トハ存候得共先ツ彼カ口陳書ニ依リ其意味ヲ陳述イタシ置候敬具

明治九年九月廿一日

外務大丞　宮本小一

外務卿　寺島宗則殿



## 一〇〇　九月二十一日　宮本外務大丞ヨリ外務卿代理鮫島外務大輔宛

### 修好條規附錄取極上取捨ヲ爲シタル顚末詳報ノ件

附屬書一、八月二十四日河上外務大錄（京城ニテ）ヨリ朝鮮國側ニ提出セル手錄

釜山遊歩規程內ニ於ケル日本人ノ言動ハ充分取締ル可キ旨請合ノ件

二、嚴原支廳出張山崎長崎縣權大屬ヨリ宮本外務大丞（在嚴原）宛書翰拔書

對馬ニ於ケル米穀補給ノ現況報告ノ件

三、宮本外務大丞（嚴原ニテ）ト長崎縣嚴原支廳トノ往復書翰

對馬ヨリ朝鮮國行日本物產ニ從來課稅シ居リタルヤ否ヤ等諸件ニ關スル件

下官義朝鮮國京城ニテ修好條規附錄貿易規則等結約之始末ハ既ニ致上申候然ルニ兼テ御降付之訓狀中ノ條件及本省ヨリ嘗テ御伺濟ノ附錄擬案條款中ノ旨趣實際ニ臨ミ斟酌セシ件々左ニ縷述仕候

一京城使臣館地代又ハ家賃ヲ議スル事

一使臣及眷屬隨員朝鮮內地旅行之事

右二件條約擬案中ニ揭載アルヲ省キタル所以ハ朝鮮政府此二題ニ驚愕シテ曰築館ノ事及使臣駐京ノ事ハ條約面ニ揭載無キ條件ナレハ承諾シ難シト我曰修好條規第二款ニ云使臣京城ニ至リ駐留久暫共ニ時宜ニ任スト然レハ使臣ノ爲メ館舍ナカル可カラス若シ適宜ノ館舍ナキ時ハ地面ヲ賃借セサルヲ得ス故ニ此事ニ議及スル也彼曰事務アリテ派遣ノ使臣ハ固ヨリ我政府之ヲ客待シ館ヲ貸シ諸物ヲ支給ス可シ別ニ館ヲ設クルニ及ハスト我曰駐留ノ久キハ幾年ニモ涉ル可シ其間日本ノ習俗ニ適シタル家屋無カル可カラス假令之ヲ借ルトモ家賃ヲ出サスシテ住居スルノ理無シ彼曰使臣ノ駐京定期無シト雖モ故ナクシテ久駐スルノ理有ルマシ故ニ其使事未タ終ラサル間ハ何ツ迄モ館舍ヲ貸ス可シト彼ノ大旨ハ玆ニ止リ到底公使ノ京城ニ駐劄スルヲ嫌惡スルノ餘最初條約ノ節ヨリ京城ニ日本館ヲ築キ使臣ヲシテ無際限永住セシムルトノ文意ナシトシテ今之ヲ條約附錄ニ揭載スルヲ欲セサル也此一條ノ爲メ再三ノ討議ヲ費シ我ハ駐留久暫共ニ時宜ニ任ストノ條約アレハ五年十年ノ間駐留スルモ我ノ隨意ナリ設シ此使臣久駐ノ意ニ非サレハ自今十五ケ月後ト云文字ヲ加フルノ理無シ今度理事官ノ入京ノ如キハ固ヨリ臨時ノ事務ナレハ十五ケ月前ト雖トモ入京スルヲ以テ第二款ノ文意ハ斯ル臨時使臣ノ事ニ非ル意味ヲ徵ス可シ十五ケ月後ト定メシハ朝鮮政府ニテ是ヲ程能處分スルニ諸般ノ手數アルヲ想像シ多少ノ猶豫ヲ與ヘタルナリ日本東京ニ朝鮮使臣ヲ置クハ條約結收ノ日ヨリシテ差支ナケレハ十五ケ月後ノ文字ナシト云意味ヲ主張シ論及スレハ彼ハ眞ニ之ヲ拒ムノ辭柄ナシト雖トモ偏ニ京城ニ日本館ヲ築カレテハ人民驚愕ニ堪ヘスト云乞哀ノ情實論ヲ含ミ修好條規第二款ニ築館ノ文ナキヲ幸トシ附會シテ使臣ハ只其時々ノ公務ヲ以テ往來スル者ト見做シ久暫ノ二字ハ其事務ノ輕重ニ從ヒ多少日數ニ長短アルモ十年五年ノ久キ居住ノ意ヲ含ミタル文字ニアラサル可シトノ意見ヲ張リ辨論屈セス終ニハ彼ヨリ我使臣ノ職制ヲモ論及シ一事終テ一事興ルハ格別ナリ若シ事終ルノ後故ナク滯留スルノ理ハ有マシ或ハ使臣ハ各口在留ノ管理官ノ如キ通商事務ニ關係スルノ理有マシ抑ト論出ス是等ノ論趣ハ一々辨解シタレトモ我ノ要用トスル家賃地代ノ事

ヲ強テ附錄ニ掲載セント欲スル時ハ此一款ノ爲メ數十日ノ議論ヲ費サヽルヲ得ス退テ熟考スルニ修好條規既ニ明文アリ使臣駐留十年乃至二十年ニ至ルモ久ノ一字ニテ足ル可シ實際使臣ヲ出スニ當リ彼此事ヲ拒ミ使臣ノ速歸ヲ促スノ權ナシ然ハ家賃地代ハ其時ニ臨ミ使臣ヨリ徐々ト議シテ可ナリ必ス附錄ニ掲載ス可キ要件ニ非レハ寧ロ此條ヲ削去シ時日ヲ空渉セサル方軍艦碇泊ノ都合ニモ可然ト相考談判未決中我ヨリ此條ハ暫ク删去スヘキ旨ヲ唱ヘ出シ斷然删去セリ決シテ彼論意ヲ是トシ删去シタルニ非ス後日猶ホ築館駐京ノ議ヲ起ストモ差支アル事無シ又使臣等朝鮮内地旅行ノ件ハ假令彼國政府ヨリ日本使臣ノ永住ヲ承諾スルトモ公事ニ非スシテ内地ヲ微行スルハ方今朝鮮ノ風習ニテハ不可行ノ勢ナリ如何トナレハ今度入京親ク其實況ヲ目擊セシニ彼國到處驛亭ノ設ナク旅人ハ路次ノ民家ニ投宿シ一飯ノ饑ヲ療シ僅ニ露臥ヲ免ルノミ其家屋大抵豚柵牛欄ニ異ナラス固ヨリ客房アル無シ使臣何樣ノ輕便ナル旅裝ヲ好ムトモ此汚穢糞臭ノ家ニ止宿スル能ハス故ニ各所ニ在ル官廨公衙ヲ借リ客房ト爲シ飲食灌沐及其他共地方官ノ供給ニ賴リ眠食セサルヲ得ス如此トキハ其地方官ヲ煩ス容易ナラス且地方官此供給ヲ爲ス政府ノ特命アルニ非レハ敢テ奔走セス然ハ使臣タル者不得止緊急要務ニ非サルヨリハ彼内地ヲ旅行シ彼政府ヲ煩スノ理無シ況ンヤ私ニ旅行スルハ江山風月ヲ愛玩シ適宜ノ健康ヲ養フニ過キス此國ノ民間ヲ旅行スルハ一ノ辛苦ヲ試嘗スル迄ニシテ必ス多少ノ汚穢ニ觸レ疾疫ノ基ヲ起スノミ然ハ内地旅行ノ條アルモ徒條ト考タレハ相省キタリ清國北京ヨリ陸路朝鮮京城ニ到ルモ前文ノ意味ナレハ通行スルノ權アルモ通行スルニ堪ヘス故ニ此事モ議論半ハニシテ止メタリ

一各口日本人民游歩規程之事

右游歩規程ハ我十里ト題ヲ出シタルニ是亦彼ノ尤驚愕嫌惡スル所ナリ蓋シ釜山ノ近傍古來倭寇ノ侵掠ヲ受ケ倭人ヲ畏ル鬼蜮ノ如シ中葉以降對州人民一手ニ專住ス此州人頗ル不良ノ行爲アリシ事ハ兼テ聞知スル所ナリ故ニ彼ヨリハ我全國皆然ト視做シ今日ニ至ルト雖トモ日本人民忌憚スル情實尚甚シ且彼國風俗男女ノ別ヲ嚴ニスル徒ニ表面ノ形飾ニ過キスト雖トモ亦慣習ノ久キ自ラ一種ノ俗ヲ成シ男子ノ來テ婦人ノ面前ニ臨ムヲ惡ム等ハ未タ嘗テ他ノ外國ニ視サルノ風俗ナリ然ルニ從前對州人民不良ノ徒或ハ此羞惡俗ニ反對シタル所業ナキニシモ非ルヘシ是レ彼國ニ於テ日本人ノ彼村落街坊ニ徘徊スルヲ惡ムノ風俗ヲ成セシ所以ナリ故ニ政府勉メテ此規程ヲ短縮セント欲シ釜山從前設門アリシ處迄ノ舊慣ニ仍リ一歩モ改革更張セサルヲ求メタリ我意ト大ニ反對スルヲ以テ我ハ一切之ヲ肯セス且既ニ倭館ノ南方富民洞ノ如キ六七十年前纔ニ二三ノ人家アリシニ今ハ一部落ヲ成スニ至ル何ソ日本人民ヲ嫌惡スル者豈ニ如此倭館ニ密通シテ部落ヲ成サンヤト辨解シタレハ彼レ此理ニ窮シ終ニ多少ノ擴張ヲ肯諾シ彼十里（我一里二丁二十四間ニ當ル）四方ノ直經ヲ規程ト爲スニ至ル試ニ此規程ヲ以テ釜山港ノ一處ニ當レハ彼地タル空山峨々トシテ聳ヘ四方トモ間行逍遙スヘキ場所ナシ故ニ我二里三里ノ遠キニ赴クヘキ日本人ハ絶無ニシテ僅有ノ勢ナラン唯一ノ釜山城ノ行ク可キ方向アルノミ此城下ハ殆ト右ノ規程内ニ及フノ地ナレハ既ニ人民間行ニ於テ不足ナカル可シ然トモ東萊府ハ此釜山及倭館近傍ヲ管轄スル本府ナリ倭館ニ來ル商民多クハ此府内ニ住ス故ニ東萊府ニ往來シ得レハ日本人民商業ニ便利ナルハ勿論ナレ此地ヲ加ヘン事ヲ懇請セシニ彼容易ニ承諾セス且日本人ノ來テ公廨ニ入リ或ハ故ナク府人ノ家ニ立入ラン事ヲ畏ルヽ等瑣末ノ故障ヲ辭柄ニシ力ヲ盡シテ拒ミタリ此談判ノ爲メ又々數日ノ時間ヲ費シ追々曲折ノ談ニ入リ河上大錄ノ名ヲ以テ別紙甲號（註附錄第一）ノ手錄ヲ送ラセ僅ニ彼憂苦スル念慮ヲ解キ遂ニ此一款ヲ結收ス訓狀中我五里迄ハ短縮スヘシト有レトモ倭館ヨリ東萊迄凡我四里ニモ可及歟實際ニ於テハ我人民充分ニ差支ナキ游歩規程ト相考候

附云附錄文章中朝鮮里法十里ハ我一里ニ當ルノ文字ヲ加ヘタルニ彼レ殊ノ外之ヲ疑惑シ我里法彼ト符合セサル時ハ物議ヲ起ス基ナリト想像シ我一里ニ當ル云々ノ文字ヲ削去センヲ求ム尤切ナリ依テ彼里法ヲ訓導ヨリ別紙乙號（註省略）ノ如ク證文ニ爲シ差出サセ長短計較スルニ我一里ヨリ二丁廿四間ノ長キニ過レハ彼ノ請ニ應シ我一里ニ當ル云々ノ字ヲ删去ス

一未開二港ノ規程ハ釜山ト同ク彼ノ十里ト爲サヽルヲ得ス然トモ其地勢ニ從ヒ東萊府ノ如キ緊要ノ地アレハ之ヲ加ヘント欲ス故ニ今般ハ未定ノ港場ノ間行規程ハ取極メスシテ止ム後日二港議定ノ任ヲ受クル者ヘ此義御傳命被降度候

一訓狀ニ彼ヨリ耶蘇教ヲ彼國入ヘ傳播スルヲ禁シ及他ノ外

國人日本人ノ籍ヲ借リ朝鮮各港ヘ居留商賣スルヲ禁スル等ノ條款ヲ加入セン事ヲ請フトモ之ヲ許諾ス可カラス然トモ若シ之カ爲メ談判整ハサルノ場合ニ到ルトキハ理事官ノ名ヲ以テ別ニ書柬ヲ作リ其請求ニ應スルモ妨ナシト有リ此二件彼果シテ論出シ附錄中ニ掲載セン事ヲ求メ彼ノ稿本中歷然ト一款ヲ成シタルヲ示セリ然ルニ此二件ハ本春黑田辨理大臣申櫶ト應接中彼ヨリ申出タル件ニ付下官ノ名ヲ以テ別紙丙號ノ手錄ヲ申櫶ヘ渡シ大臣ノ應接亦結局ニ至リタル事ハ同年三月中閣下ヘ上申シ辨理大臣ヨリモ亦政府ヘ上申ニ及ハレタリ今度講修官右手錄ヲ所持致居レリ依テ下官ヨリ右二件ハ本春渡シタル拙者ノ手錄ニテ充分ナル可シ今改テ條約面ニ掲載スルニ不及ト答ヘタレハ彼竟ニ承諾シタリ然ル上ハ本春下官ノ手錄ハ今度理事官ノ名ヲ以テ專對シ手錄シタルモ同樣ノ義ニ付今度約書ト共ニ我政府ノ履行シテ不可違者ト御見做朝鮮派出ノ各官員ハ勿論同國交際ニ關係ノ者ハ何レノ向ニテモ此意味ト齟齬セサル處置アラン事ヲ致希望候

（註 三ニト同文ニ付省略）

（註 附屬書二）

但彼カ此談判ノ條款中ニ西洋物品ヲ輸入スル事ヲ禁止セント望ム一款アリ下官ノ答ニ此義ハ大ニ難事ナリ且朝鮮人西洋物品ヲ好マサレハ多分ノ輸入ハ有間敷ト答ヘ夫ノ胡椒蘇木金巾ノ類彼レ數年購求シテ國用ニ充ツルモ西洋輸入品タルヲ知ラス是等ヲ辯解シテハ却テ難論ヲ引起ス基ニ付前文ノ如ク曖昧ト答タレハ彼モ信用シタル歟其儘發論ヲ止メタリ

一訓狀中ニ彼國ヨリ米麥ヲ輸出スルヲ禁止セント乞フ時ハ之ヲ許シ對州人民年來朝鮮米ヲ食用ト爲ル便利ヲ失ハサラシメン爲メ彼レ承諾セハ公貿易ニ以タル變通ノ方法ヲ試ム可シト有リ右ハ現今對州ノ形況取調ノ爲メ於嚴原長崎縣支廳出張ノ權大屬山崎忍之助ニ面議シ彼ノ意見書ヲ得テ熟考スルニ近コロ數年間朝鮮米ヲ仰カスシテ食糧ニ窮セサル方法モ粗整備シタレハ自今朝鮮米ヲ緊要トシテ求メサル旨別紙丁號ノ如シ且既ニ條約面歲遣船等ノ事ヲ革除ス云々トアレハ此米銅交換法ハ卽チ公貿易ノ純粹ナル者ニ付之ヲ沿襲スルトキハ他ノ舊弊革除ノ力ヲ失フノミナラス政府銅ノ專賣ヲ爲シ人民自由ノ賣買ヲ許サヽル等多少不佳ノ影響ヲ生スレハ我ヨリハ進ンテ此事ニ議及セス彼ヨリモ公貿易ヲ爲サレハ大ニ事端ヲ省クトノ旨ヲ語リシ事モ有リ彼レ敢テ舊章ヲ顧戀セサル樣子ニ付遂ニ談判ニ及ハスシテ止メタリ

（註 附屬書三）



但貿易規則輸出物ノ禁ナシ第六則ニ米粮及雜穀ノ輸出ヲ許ス明文アリ然トモ彼意ハ各港居留ノ日本人民ノ食糧ノ爲メ米穀類ヲ買入ルヽヲ免許スル意ヲ以テ許可シタルナリ文章ニ據テ論スレハ米穀ノ輸出ヲ許スニ似タリ

一朝鮮政府今度酌議ノ貿易章程ニ據リ輸出入品ノ稅ヲ徵セサル方ニ談判整タリ然ル上ハ本年六月三日附ニテ同月十九日御伺濟ノ政府ヘ建白ノ御旨趣ノ如ク我國ニテモ朝鮮國ト貿易品ノ輸出入ニ稅額ヲ徵セサル樣早々御一定相成度從前對州ヨリ我物產ヲ朝鮮ヘ輸出スルニ臨ミ各物品ニ重稅ヲ課シタル事ハ別紙戊號同所支廳ヨリ差出シタル調書ニ審カナリ此事タルヤ下官ヨリ講修官ヘ照會シタル書中ニモ雙方互ニ隱密ノ稅ヲ徵セスト約シ置嗣後彼レ若シ此禁ヲ犯サントスル事有レハ嚴ニ論責セント欲スル見込ニ付對州ニテ現行スル徵稅法ハ可成速ニ廢止ノ御處分有之度候

（註 附屬書三）

右ノ件々復命書中ニ記載スヘキ處長文ニ屬スルヲ以テ割テ別錄ト爲シ上申候敬具

明治九年九月廿一日

外務大丞　宮本小一（花押）

外務卿代理

外務大輔鮫島尙信殿

追錄

下官乘組ノ淺間艦ハ總員二百七十餘名ナリ該員下官京城滯留中數里ノ嶮ヲ侵シ二三ノ士官來京スル者アリト雖トモ其他ハ何レモ艦內ニ閉籠サレタルマヽ也全艦一日所費ノ食料多數ナルハ勿論澹水亦少量ナラス江華前灣ハ遠淺ニシテ澹水汲取ノ爲メ小船ヲ往復スル一日一回ニ過キス較モスレハ退潮又ハ風波ノ爲メ沮滯セラルヽ事アリ故ニ今度ノ滯艦ハ頗ル困迫セシ體ニテ澹水モ充分ナラス菜蔬ノ新鮮ナルヲ求メント欲スルモ僻地ニシテ多ク得ル能ハス各所ヲ探索シテ漸ク數人ノ口ニ供ス牛一頭一時ニ宰割シテ僅ニ下等水夫迄ニ及フ而シテ此牛亦容易ニ求メ難シ下官ヨリ政府ニ依賴シ政府ノ命ヲ以テ買得ルニ至ル如此始末ナレハ滯留二旬ニ及フ頃艦長ヨリ下官彼ト應接ノ模樣如何ヲ問ヒ少ク之ヲ促スノ意アリ幸ニ數日ナラスシテ結局ノ時ニ至リ艦中尙數日ヲ支ヘ能フノ力ヲ貯ヘテ長崎迄歸着セリ若シ後來朝鮮京城ニテ事ヲ議スル時ハ是等ノ前轍ヲ鑑ミサル可カラス今般艦長豫算シテ米粮乾菜充分貯ヘタレハ事ニ差支ナク搭載各員亦

新鮮物ノ乏キヲ容忍シテ濟ミタリト雖トモ澹水不便蔬肉買得カタシ水夫放行ヲ得サル等ハ意外ノ患ニシテ之カ爲メ炎暑ノ天別シテ病客ヲ生シタル者ナラン是等ノ困難ハ滯京事ヲ議スル任ニ取リテハ後顧ノ念ヲ生シ持重ノ力ニ乏ク彼ノ術中ニ陷リ易シ護送艦ハ一旦回歸シ時期ヲ酌量シ復タ來ルモ不可ナル無シト雖トモ是亦使臣ノ力ヲ薄クシ未開國ノ風習ニテハ輕侮ヲ受ケスト云難シ然レハ朝鮮ノ使事ハ後來モ此一難事ニ困ムナルヘシト相考候筆次上申致置候也

註一、右文書ノ別紙類見當ラサルモ「宮本大丞朝鮮理事始末」中ニ之ニ該當スルモノ書載セラレアルヲ以テ甲、丁、戊ノ各號ノミ左ニ摘錄ス

**（附屬書一）**
（朱書）「甲號」

日本人民行歩釜山港口規程境内、及東萊府中之時、不妄入公廨及人家、且男女護路、以存禮貌、貴我人民情好未熟之間東萊及釜山開市之日、無敢入場、我管理官來于釜山之日、此等之事、戒飭遵守貴政府莫須憂慮此皆係目前細鎖事項、我理事官頗解貴國人情習俗、後來我人民之來貴國益多、則管理之方法、亦當有善處之

明治九年八月廿四日

外務大錄　河上房申

（宮本大丞朝鮮理事始末）

**（附屬書二）**
（朱書）「丁號」

長崎縣嚴原支廳出張權大屬山崎忍之助ヨリ差出シタル書翰ノ拔鈔

對馬島ノ藩政ニ屬スルトキハ特リ朝鮮貿易ノ主權ヲ執リ公私貿ノ二種ヲ立其公貿ト稱スルモノハ舊約ヲ固守シテ物價ノ差格ヲ問ハス彼是贈答ノ交待アリテ此ヨリ贈ル所（銅物及ヒ蒔繪器具ノ物品ト彼ニ得ル所（米穀大小豆木綿等ノ類）ノ物ト當時ノ比較ヲ檢スレハ凡壹萬圓ノ者ニシテ拾萬圓ノ所得ト爲ル而シテ是其藩費ノ一端ヲ償フ者トス其私貿ト稱スルハ公貿制限ノ外ニアラサレハ之ヲ通商セス故ニ其他（海黃唐木綿砂糖陶器凡日用ノ雜品）ノ物品ヲ輸シ或ハ交換シ或ハ賣却シ又彼ニ取ル所（布海苔天草煎海鼠犬牛皮等ノ類）ハ數倍ノ利益ニ歸スルヲ以テ全島ノ融通ニ到ルト云

曩キニ如此利外ノ利ヲ擅收スルニ慣レ今日ニ到リ民屋ノ日用ニ充實セサルハ宿弊ノ根基スル者ト知ル可キノミ然ルニ藩治ノ日ハ朝鮮米穀ノ輸入モ宗氏ノ交誼上每年壹萬石ノ額





ヲ得ルモ固ヨリ米穀ハ彼ニ於テ輸出ニ吝ナル狀アルヨリシテ尙宗氏ノ例規ヲ廢セシ以來ハ交通スル所ノ物品自然ト減却シ米穀等最モ稀少ニ到ルノ折柄肥筑防長各地方ヨリ輸入スルモ絕海人民ノ不幸ト云ハン一時不融通ノ際ニ當リ奸商等ニ利ヲ射ラレ貧民其生ヲ保ツ能ハサルノ患アルノミナラス通常ニ在テモ內地ニ比スレハ壹石壹圓以上ノ高價ト爲ル是實ニ保護上ノ缺典ニ出テ憫視ノ餘之カ法ヲ案シ本縣ヨリ汽船運轉ノ議ヲ昨年中內務省ヘ具狀ノ末本年二月ヨリ航海ノ三菱汽船アリ於此諸般頗ル便宜ニ涉リ米穀ノ融通最モ其便ヲ得タリ然トモ米穀ノ輸入凡一ケ年貳萬石ニ下ラスシテ多クハ現金ヲ以テ買收シ其交換スル產物ト只海利ノ二三種ニ出テス若シ一タヒ海產不漁ニ到ラハ人民忽チ衣食住ノ窮乏ヲ釀生スル徵候ヲ知ル可キ者ナリ．云々

（宮本大丞朝鮮理事始末）

註二、右文書ノ宛名ハ本號文書本文ノ文意ヨリ推シ宮本外務大丞ナリ

**（附屬書三）**
（朱書）「戊號一」

拙者儀今般兩國貿易筋ノ御用有之朝鮮京城ノ方ヘ致出張候就テハ御軍艦淺間艦ニテ一兩日中又々此地ヘ立寄可申候條左ノ件々其節迄ニ御取調置被降御軍艦着次第速ニ御回答有之度候

一對州ヨリ朝鮮ヘ向從前日本物產各種輸出ノ節御支廳歟又ハ町會所ニテ稅或ハ稅ナラストモ手數料ノ名義ニテ取立候金額有之候ハハ右ハ何種々ハ何程何品々ハ何程ト申取極リ可有之右取極リノ高幷此兩三年取立高ノ總數何程ニ相成候哉內譯書相添

一朝鮮物產釜山ヨリ輸出シ對州ヘ輸入ノ節モ品物ト品高ニ從ヒ前件ノ如キ稅銀歟又ハ手數料ノ名義ヲ以取立候銀圓有之候ハハ前書ノ通リ內譯相添

一右ハ稅ノ名目ニ候ハハ大藏省ヘ相納ル事ナルヘシ或ハ町會所等ニ手數料トシテ納ル迄ナラハ大藏省ヘ納ル事ニハ非ルヘシ然ル時ハ其金ノ遣拂方何々ニ支消候哉

一稅銀ノ外別ニ手數料又ハ俗言スワイ銀ト稱スル者ニテモ取立候事ニ候ハハ右ノ兩種ニ分ケ候內譯書

一對州全島ノ人員幷同島所產一ケ年分米麥ノ總數

一同島所產ノ米麥ノミニテハ全島人民ノ食料不足ニ付他ノ地方ヨリ年々買入候米麥ノ總高何程幷此買入米麥ノ金高

此四五年來米價ニ從ヒ多寡モ可有之候條年々ノ內譯書
一對州人民米麥ヲ朝鮮地方ヨリ買入候ハヽ博多大坂下ノ關
等ノ如キ他ノ地方ヨリ買入候ヨリ簡易ニシテ米價モ少ク
安價ニ相成同島人民ヲ救助スルノ一策ニ當リ可申由兼テ
承リ及候今日ニ到ル迄果シテ然ル歟或ハ朝鮮米ヲ仰クニ
不及シテ好キ處分有之候哉致承知度候
右ノ條々御確答有之度候也
明治九年七月十四日
嚴原海岸碇泊
外務大丞　宮本小一
在嚴原
長崎縣支廳出張御中

（宮本大丞朝鮮理事始末）

（朱書）「戊號二」

兩國貿易筋之御用ニ付朝鮮京城ノ方ヘ御出張相成候
ニ付御談ノ趣左ニ取調候
第一條對州ヨリ朝鮮ヘ向從前日本物產云云日本物產各種輸
出ノ節取立候稅額別紙（註省略）甲號帳簿ノ通ニ候將兩三年間輸
入高ハ別紙（註省略）乙號ノ通ニ候
第二條朝鮮物產釜山ヨリ輸出云々
對州ヘ輸入ノ節ハ稅金又ハ手數料等ノ取立無之候
第三條右ハ稅ノ名目ニ候ハヽ大藏省ヘ云々
朝鮮輸出品稅金ハ大藏省ヘ相納候
第四條稅銀ノ外別ニ云々
輸出稅金ノ外別段取立金無之候
第五條對州全島ノ人員云々
對州全島ノ人員竝同島所產ノ米麥凡別紙（註省略）丙號ノ通ニ候
第六條該島所產ノ米麥云々
食料不足ニ付他ノ地方ヨリ輸入ノ米麥明治六七兩年調別
紙（註省略）丁號ノ通リ候
第七條對州人民米麥ヲ朝鮮地方ヨリ云々
米穀ヲ朝鮮地方ヨリ買入候ハ物品ヲ以交換或ハ賣却シ
テ購求スル等內地々方ヨリ買入候ヨリ幾分カ便利可相
成相聞候尤最前歲遣船往來中ニハ年凡壹萬石內ノ輸入
ト相聞然ル時ハ該島年凡貳萬石ノ不足ヲ補フ能ハサレ
ハ猶內地ノ運轉モ難止相見候
右之條々及御回答候也



明治九年七月
外務大丞　宮本小一殿
長崎縣嚴原支廳印

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 一〇一　九月二十九日　宮本外務大丞ヨリ朝鮮國禮曹判書等宛

**無事歸着ノ旨ヲ報シ併セテ在鮮中ノ款待ニ對シ謝意表明ノ件**

禮曹判書參議エノ書翰

逕啓者炎涼頓變時氣漸佳暢適如何下官八月二十九日發仁川灣寄泊長崎神戶等諸港超溟無恙以本月廿日歸到東京顧念在貴國京城也辱蒙聖上謁見且優遇渥待延及隨員爲歸國餘榮爲此專礪佈悃併祈時祉敬具
明治九年九月廿九日
日本國
外務大丞　宮本小一
朝鮮國

禮曹判書金閣下
禮曹參判韓閣下
禮曹參議金閣下

（宮本大丞朝鮮理事始末）

註　宮本大丞ヨリ申樵、趙寅熙、金綺秀宛ノ右文書ト同文意ノ書翰（何レモ九月二十九日附）アルモ省略ス

## 一〇二　九月日　決　宮本外務大丞ヨリ寺島外務卿宛

**釜山ニ我カ醫官派駐ノ必要ナル所以等ニ關シ意見開陳ノ件**

朝鮮國開港場ヘ日本人民管理官ヲ差置クノ一儀ハ修好條規及今般結約ノ貿易規則中ニモ記載シ同國政府認諾ノ義ニ付可成速ニ派出相成度候勿論管理官ハ理事官ト云如キ類ニシテ本官ト爲サス七等又ハ八等ノ官員中ヨリ兩三年ヲ期限トナシ釜山港在勤ヲ命シ書記會計ヲ司トル者十三等以下ニテ一名其他譯官又ハ驅使ニ供スル等外ノ者一兩名ハ現存ノマヽ是ヲ廢セス差置レ當分ノ內ハ貿易ノ形況如何ヲ視察シ其繁盛ニ赴クニ隨他外國ノ諸港ノ如キ領事ヲ置カレ候テ可然（下ケ札一）

ト存候

一朝鮮ノ風習從來尊大鄭重ヲ好ムヲ以我風俗簡易單獨ナルヲ輕蔑スルノ色アリ此事ヨリシテ事務ノ不都合ヲ生スル勢ナキニアラス故ニ其給ハ他外國諸港派出ノ官ヨリ薄クトモ多員ナルヲ好トス

一釜山港ニハ醫官ヲ置サルヘカラス（釜山ハ彼ノ地ノ僻地ナレハ醫師モナシ）日本人現今ト雖多數ナリ後來增殖スル時ハ病客隨テ多カルヘシ現今雇醫ノ高田英策ハ不充分ナル旨山之城ヨリ聞リ故ニ官醫ノ內巧手ナル者ヲ六ケ月ツヽノ交替トナシ小病院ヲ設ケ在勤セシムベシ是表面ハ日本人ノ爲ト雖其實朝鮮人民ヲ懷安シ一ハ日本ヲ尊崇シ依賴仰望ノ心ヲ興サシメ一ハ彼國民開化ノ端ヲ爲ノ捷徑ナルベシ向キニ修信使ヲ迎引ノ爲黃龍丸ニ乘組タル大軍醫島田修海送行大軍醫實吉安純及下官ニ伴行ノ大軍醫矢野義徹カ滯留中彼人民日本名醫來レリト稱シ渴望シテ治療ヲ乞フ者陸續トシ絕ヘス其中途ニシテ分袂ニ忍ヒサル者アリ蓋シ彼國百事廢蕪ニ屬セサルナシ就中醫道尤甚シキ樣子ナリ故ニ洋科洋藥ト雖是ヲ嫌惡スル事ナク治療ヲ乞外科ノ神速効ヲ奏スルニ至テハ最彼レカ心服スル處ナリ故ニ此國ヲ開化ニ誘導スル捷徑ハ醫術ヨリ善キナシト思ワル願クハ政府此ノ費ヲ厭ワス先ツ醫官ヲ釜山ニ置レン事ヲ別紙二通（註一通ハ省略）台覽ニ備（下ケ札二）置候也

明治九年九月

外務大丞　宮本小一

外務卿　寺島宗則殿

（下ケ札一）

一々御尤ニ拜見候

（下ケ札二）

別紙一通見ヘス



## 一〇三　十月十七日　寺島外務卿ヨリ各國公使宛

### 日鮮修好條規附錄竝ニ貿易規則送付ノ件

（朱書）「十月十八日」

以手紙致啓上候然は今般朝鮮國と取結候修好條規附錄竝貿易規則及布告候に付別冊差進候此段得貴意候敬具

九年十月十七日

寺島外務卿

貼紙

（貼紙）

各國公使姓名閣下

（註）兩國ハ（英、獨ヲ指ス旨ノ墨線アリ）

兩國ハ十七日達但請求ニ因別紙ノ譯文ヲ添フ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 英 | 百四十號 | 伊 | 三十五號 | | |
| 米 | 六十三號 | 蘭 | 三十六號 | 丁 | 三十號 |
| 白 | 三十六號 | 墺 | 三十號 | 露 | 五十九號 |
| 秘 | 二十五號 | 西 | 三十七號 | 佛 | 四十五號 |
| 獨 | 六十五號 | | | | |

寺島外務卿

## 一〇四　十月二十日　寺島外務卿ヨリ三條太政大臣宛

### 朝鮮國漂民救助ノ儀ニ關シ伺ノ件竝ニ之ニ對スル三條太政大臣決裁

附記　十一月十八日太政官ヨリ使府縣ヘノ達

朝鮮國漂民救助規則改正ノ儀達ノ件

甲第百三拾四號

朝鮮人民漂流救助之儀

朝鮮人民日本ヘ漂流ノ節處分ノ儀從前屢回御布告相成候處今般外務大丞宮本小一彼地ニテ契約ノ旨有之從前之條例ニテハ抵觸候條別紙ノ旨趣ニ御改正有之度候此段相伺候也

明治九年十月二十日

外務卿　寺島宗則

太政大臣　三條實美殿

追テ從前（註參照）御布告ノ寫附錄候也

（朱書）「伺ノ趣聞屆第拾號（第百十號ノ誤カ）ノ通相達候事

明治九年十一月十八日

太政大臣印」

（宮本大丞朝鮮理事始末）

註　右文書別紙タル外務省作成ノ草案ハ之ヲ省略シ第百十號太政官達ヲ便宜左ニ附記ス

（附記）

第百拾號

使府縣

明治元年六月同六年八月第貳百八拾貳號第貳百八拾三號布告同七年十月第百三拾四號達朝鮮國人民漂着ノ節處分規則左ノ通改定候條此旨相達候事

但費用ノ內公費ニ可相立分ハ一時豫備金ノ內ヨリ拂

出シ追テ明細仕譯帳竝證書類相添受取方內務省ヘ申出ヘシ

明治九年十一月十八日

太政大臣　三條實美

一朝鮮國人民本邦ヘ漂着候節其地ヨリ同國釜山港ヘ便船於有之ハ直ニ該港日本人民管理官ヘ宛送屆ヘシ便船アラサル時ハ長崎縣廳及對州嚴原同縣支廳ノ內ヘ送致スヘシ同廳ヨリハ釜山港ヘ發スル船ニ托シ送屆クヘシ

一漂民衣服欠乏ノ者ハ時衣一領公費ヲ以テ支給スヘシ

一漂民滯在中ノ費用及彼國ヘ送致ノ費用等ハ彼國政府ヨリ一日金拾錢ヲ出スヘキ約束相成候ニ付右ヲ目的トシ漂民取扱方成ルヘク簡易ニ致シ不足ノ分ハ公費タルヘシ

一漂民健康ナラハ本國ヘ引渡ス迄ハ成ルヘキ丈ケ工業ニ就カシメ相當ノ工錢ヲ付與スヘシ但其工錢ハ右朝鮮政府ヨリ出スヘキ日給錢ヲ差引ヘシ

一溺死及漂着後病沒ノ者ハ彼地ヘ棺送ニ及ハス埋葬シテ其事由ヲ外務省內務省ヘ報知スヘシ

（宮本大丞朝鮮理事始末）

---

## 一〇五　十月二十六日　英國公使ヨリ寺島外務卿宛

日鮮修好條規附錄及貿易規則落手ノ旨竝ニ該附錄ノ第十條ニ滿足ナル旨回答ノ件



Yedo,
October 26, 1876.

Sir,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's despatch of the 17th instant, forwarding copies of the two Agreements concluded on the 24th of August last between the Japanese Commissioner Miyamoto Okadzu and the Corean Commissioner Chio Inki, and entitled Appendix to the Treaty of Amity and Friendship, and Regulations under which Japanese trade is to be conducted in Corea.

I observe that it is provided in the Xth Article of this Supplementary Treaty that the Corean Government shall treat with kindness the shipwrecked people of any country with whom Japan has friendly relations, and shall give them over to the Agent of the Japanese Government residing at any of the Open Ports of Corea, in order that they may be restored by the Japanese Agent to their native countries.

I have already expressed to Your Excellency personally my appreciation of this humane and generous stipulation which I believe to be entirely due to the enlightened news entertained by Your Excellency's Government respecting foreign intercourse, and in reporting the conclusion of this Supplementary Treaty to my Government I shall not omit to call their attention to this proof of friendly feeling on the part of Japan towards all those foreign countries with whom she holds Treaty relations.

I take this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

HARRY S. PARKES,
H. B. M.'s Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary.

His Excellency
Terashima Munenori,
etc., etc., etc.

（右和譯文）

以手紙致啓上候陳は過八月廿四日貴國理事官宮本小一と朝鮮理事官趙寅熙との間に修好條規附錄及朝鮮國內日本貿易章程の名を以て締結相成候條約貳通本月十七日附貴翰を以て御回達相成り致落手候右附錄第十條に日本國と和親の交誼ある國々の人民難船する時は朝鮮政府におゐて丁寧に待遇し朝鮮國の開港場駐留の日本政府管理官に交付し其本國に送還せしむへき旨記載有之候右仁愛の箇條に就ては拙者深く感服致候旨既に閣下へ及面陳置候畢竟貴政府外交上の識見高明なるに依り玆に至り候義と存候就ては拙者右條約附錄訂結相成候旨我本國政府へ報告致候節右の通り締盟各國に對し御表出相成候貴國の御懇情に留心致候樣必らす我政府へ可申遣候右の段得御意度如斯に候敬具

東京千八百七十六年十月廿六日

英國全權公使
ハルリエスパークス

外務卿　寺島宗則閣下

註　右ノ外獨國辨理公使（十月十九日附）西班牙國代理公使

（十月二十一日附）米國公使（明治十年一月二十九日附）ヨリ夫々寺島外務卿宛右ト同文意ノ回答アリタルモ省略ス

## 一〇六　十一月日缺　宮本外務大丞ノ意見書

### 朝鮮國ニ於テ開港場トシテ適當ト思惟セラルル地點ニ關スル件

朝鮮二處開港ノ說

朝鮮國ノ開港場ヲ撰擇スルニ黑田辨理大臣江華ニテ條約談判中釜山ノ外咸鏡道永興府ノ海港ヲ開カン事ヲ彼ヘ申入タレハ彼政府ハ深ク擬議シタル樣子ナレトモ終ニ彼地ハ李氏開祖ノ廟アレハ外人ノ其廟邊ニ近ツクハ深ク差支アル旨ヲ陳述シ固辭シテ肯聽スヘキ樣子ナケレハ大臣モ是レヲ强請セスシテ止ム其後下官京城ニ在ル日試ニ講修官趙寅熙ニ對シ該地ノ事ヲ話シタレトモ彼レ依然トシテ容聽スヘキ樣子ナク前說ノ差支ヲ唱ヘテ謝シタリキ抑永興府ノ海灣ハ地圖ニ就テ閲スルニ其良港ナルハ論ヲ俟タス且海岸ニ懸流アリテ船用ノ淡水ヲ汲取ルニ甚便利ナル由ナリ黑岡帶刀海軍中尉ノ說ニ同人ハ龍驤艦ニ乘組該港ヲ概測シタリ此港灣中文川郡ノ松田ト稱スル地方尤大船碇泊ニ便ナリト云龍驤艦該地碇泊中永興府ノ大都護府金昌熙ナル者出來ツテ面接ス且云此地大祖ノ廟ヲ距ル遠カラサレハ其地方ヘ行ク勿レ我乃問テ云大祖ノ廟幾里許曰五十里許日本ノ五里ニ當ル我云然ラハ上陸スルトモ其方面ヘハ深ク行ヘカラス彼云幸也

下官此事ヲ聞及ヒタレハ趙寅熙ニ對シ五十里ナラハ其方面ヲ二十里又ハ三十里ニ止メ門關ヲ設ケ外人ノ入ルヲ拒マハ足ルヘシト迫論シタレトモ京官ハ永興府ノ地理充分知ラサル故カ永興府トサヘ言ヘハ太祖ノ廟ニ近シト云テ拒絕スル樣子也下官ハ該港ヲ是非トモ開ク事ノ談判ヲ遂ケヨト委任ヲ受タルニアラサレハ右ニテ止ム其後浦瀨中錄或ル朝鮮人ノ所說ヲ聞キタリトテ左ノ地名ヲ說ケリ

全羅道　興德ノ西浦

江原道　通川ノ庫底

此地ハ何レモ朝鮮人民ノ貨物輻湊シテ日本ト貿易スルニ便ナル地ナリト云ヘリ此或說ハ朝鮮政府ノ策略ニ關係セス全ク商民ノ都合ヲ以唱ヘタル眞說ナルヨシナレハ或ハ貿易ノ爲メ最便利ナル歟モ知ルヘカラス然レトモ地圖ニ就テ見ル



ニ該地名ノ位置正確ナラス且朝鮮人民ノ所見ハ我倭小船ヲ以テ出入シ得ヘキ河湊ニシテ西洋形ノ船ヲ容ルヽニ便ナルヤ否知ルヘカラス假令人烟繁華ナルモ港灣大船ヲ泊スルニ不便ナル時ハ良港トナスニ足ラス然レトモ爾後海軍ノ測量船ヲ出ス時ハ必ス此地ノ探索ハ充分ニ遂ケタル末ニ猶良否ヲ議シ度キモノナリ

又一ノ朝鮮官員ヨリ浦瀨ニ私言シタルニハ全羅道ノ珍島咸鏡道ノ青山地圖ニ此地名ヲ見ス尤貿易ニ便ナルヘシト然レトモ浦瀨ノ考ニハ珍島ハ南方斗出シタル地ニシテ西洋船度々此地邊ヲ航過シ或ハ碇泊シテ薪水ヲ求ムル事モアル樣子ニテ朝鮮政府モ煩鬱ノ情ナキニアラス故ニ寧ロ開港トナシ日本船ヲ置方便利ナラン青山ハ豆滿江ニ近キ地ナル由ナレハ是亦魯ノ侵入ヲ防ク一策ニ日本人ヲ置カントスル爲ニ此二港ヲ官員ハ唱ヘ居ルナラント云ヘリ

以上ノ說ニ就テ愚見ヲ序ニ陳述センニハ永興府ハ我政府他ニ一ノ所見アリテ此地ヲ要スルナリト見ル時ハ假令其地ノ盛不盛ハ暫ク論セス爾後其地理ヲ密測シ更ニ太祖廟ニ接近セサルノ確證ヲ彼ヘ說示シ彼ノ信用ヲ得ル樣ニ懇々ト說明スル時ハ或ハ彼之レヲ聽容スル事モアルヘシ然レトモ斯ク迄力ヲ費シテ開港場ト定メ得ルモ其地タルヤ黑岡ノ說ニ依レハ草屋蕭々タルヲ見ル而已對州竹敷ノ港ノ如シト聞ケハ貿易物品ヲ買賣スヘキ人種ハ更ニアル事ナク其近傍五十里七十里ト雖モ商業ヲナス都會ハアルマシト思ワル且我商船魯ノウラシヲストツクヘ往クニアラサルヨリハ往返スルノ便ナキ地ニシテ秋末ヨリ春季ノ間迄ハ北風海波ヲ揚ケ嚴寒堪ユヘカラスト想像セラル然レハ利益ヲ主トシテ往ク商船ハ命令アルニ非レハ該地ニ往クヲ好ムモノ稀ナルヘシ永興府ハ我北海道小樽港ノ如ク青魚ノ漁獵盛ンニシテ一網千金ノ利ヲ擧ル如キ物產アラハ西國ヨリ北海道ヘ行ノ道程ヨリ永興府ノ方較便利ナレハ我商民或ハ彼地ヘ春夏ノ交往航スルモノモアルヘキ歟現今朝鮮人ハ大網海利ヲ收ムル事ヲ知ラス或ハ知ルトモ敢テ爲スヲ好マサレハ該港ノ利ヲ謀ルニ今急ニ是ヲ如何トモ爲スヘカラス

然ル時ハ該地ヲ開クニ盡力スルトモ貿易ノ結果ニ兩國臣民ノ利益ヲ得ルハ遠カラン青山ハ其所在スラ知ラサレハ論及スル能ハサレトモ永興府ヨリ更ニ北部ノ由ナレハ或ハ我柯太千島ノ如キ形勢ナラン

珍島西浦ハ共ニ大體ノ地勢ニ就キ或ハ貿易便利ヲ得ルニ至ランカ珍島邊ハ海草類ニ富ムノ地ナルヨシ也

下官ノ考ニハ可成ハ朝鮮都府ニ接シタル地ニ就キ貿易港ヲ開キタシ勿論江華府ハ最前我辨理大臣モ着目セラレタル地

ナレトモ其時ハ意外ニ不繁華ノ地且漢江ノ下流迅急ニシテ小船ノ往復便ナラス江華灣口亦大船碇泊ニ不便ナレハ惣テ此地ヲ開港場ニナスヲ斷念セシナリ然レトモ下官今度朝鮮京城ニ入リ國勢ヲ考ルニ江華ノ不繁華ハ我日本人ノ觀ル眼ヨリ不ノ字ヲ加フル而已朝鮮全國中ニ就テ推察スレハ屈指ノ繁華場ナルヘシ故ニ京城開城江華ノ三府ヲ目的トナシ江華ノ灣口ニ貿易場ヲ置クハ貿易上ニ就テハ最大一ノ繁昌朝鮮中ニテヲ得ヘシ淺間艦長ノ說ニ江華灣口森林島陰ノ處海底頗ル深ケレハ此地迄ハ大船進行シ得ヘシ此岸頭ニ大波止場ヲ築キ碇泊ノ浮標ヲ置ク時ハ較安穩ヲ保チ得ヘシト云說アリ今此說ヲ借リテ臆說ヲ加フル時ハ此地ヲ開港場トナシ岸頭ニ納屋ヲ置キ來船ノ貨物ハ急ニ此納屋ヘ藏蓄シ彼ヨリ輸出ノ物品モ豫シメ此納屋ニ蓄ヘ置卸貨載貨トモ可成日數ヲ縮メ用心緊密ニシテ出入ヲ迅速ニ爲シタラハ我品川港ヨリハ較便利ナルヘシ而シテ此地ヲ開港トナスニハ別ニ朝鮮政府ト議シテ京城ノ入リ口ナル楊花鎭ヲ以開市場トナシ此地ニ日本人ノ居留ヲ許可セシメ家屋ヲ占有シ物品ノ取引ハ此地ヲ以貿易場ト爲ス時ハ第一京城ヲ距ル纔ニ二里ノ地ナレハ自然ト京人京官ノ來往モ便利ニシテ朝鮮人ヲシテ海外物ヲ



觀覽シ需用シ便利トスルノ最捷經ナル場所ト云ニ至ラン且開城江華トモ江運ノ便アレハ是亦往來ニ容易ナリモシ一朝京城ヘ使臣ヲ置ク時ニ至リテハ雙方相應シ其便益我東京ト横濱ノ如ク論ヲ俟タスシテ知ルヘシ朝鮮人ノ風化ヲ變遷セシムルモ亦此地ニ市場ヲ開クニ如クハナシ此地ノ形勢ハ漢江ノ廣サ猶數百武ニシテ樹木多ク遠近ノ山色濃淡相接シ江山ノ風景朝鮮中尤明媚ノ地ト云ヘリ冬ハ江水氷結スル由ナレトモ氣候ハ適宜ニシテ少シク不潔ノ空氣ヲ攪和擺掃スルニ足ルヘクト想像スル也故ニ此一事ヲ朝鮮政府肯諾スルナラハ一應力ヲ盡シテ說得シタキ事ト思フナリ勿論大船江華灣口ヘ進航スルモ多島海ヲ屈曲通過シテ漸ク彼ノ岸ニ達スルナレハ航海ノ難ハ免ルヽ能ワス倭船ノ容易ニ行キ得ヘキ處ニアラス西洋形帆船モ亦容易ニ進ミカタカルヘシ而シテ江華灣ヨリ楊花鎭ヲ遡ルハ滿潮ノ勢ヲ假リ進行ヲ得ル其時間モ二日ヲ費サヽルヲ得ス故ニ此開港開市モ充分良策ト爲スニ非ス然レトモ他ニ適宜ト思フ地ハ一ケ所モ考ヘ得サレハ暫ク鄙見アル處ヲ陳シテ他日ノ參考ニ備ル而已

丙子十一月

宮本小一記

（宮本大丞朝鮮理事始末）

## 事項五　近藤管理官釜山港駐在一件（事項四參照）

**一〇七**　十月三十一日　太政官史官ヨリ外務大丞等宛

**近藤外務省七等出仕ヲ管理官トシテ釜山港在勤仰付ラレタル旨通達ノ件**

外務省七等出仕　近藤眞鋤

管理官トシテ朝鮮國釜山港在勤被仰付候事

右ノ通御達相成候間爲御心得此段申入候也

九年十月三十一日

史官

外務大少丞御中

追テ過刻御達ニ及候同人ヘ御達文面ハ御取消有之度候也

**一〇八**　十一月一日(假)　寺島外務卿ヨリ花房外務大丞宛

**釜山ニ出張シ近藤管理官ヲシテ使命ヲ達成セシムルヤウ指令ノ件**

外務大丞　花房義質

朝鮮國釜山港出張中ハ管理官近藤眞鋤ヘ委任ノ條件貫徹シ且諸般改正之事務惣テ其宜ヲ得ル樣注意可致事

明治九年十一月

外務卿　寺島宗則

註一、本號文書日附ヲ缺クモ便宜此ノ日ニ挿入ス

二、花房外務大丞ニ對スル辭令寫見當ラサルモ「百官履歴」ニ依レハ十月三十一日「御用有之朝鮮國草梁館ヘ被差遣候事」トアリ

**一〇九**　十一月十三日　寺島外務卿ヨリ近藤管理官ヘノ達

**管理官トシテ擔當ス可キ事務委付ノ件**





管理官七等出仕　近藤眞鋤

管理官ハ釜山貿易事務及同所渡來ノ人民船舶貨財等ニ至ル迄總テ保護スルモノトナス故ニ彼レ等カ權利ヲ全フシ貿易ヲシテ壅滯沮塞ノ患ナカラシムヘシ故ニ管理官ハ是等ノ事務ニ就テハ總テノ責任ニ擔當スルモノト爲ス

一同所在勤ノ判任官等外ノ者黜陟進退ノ事ハ總テ其情狀ヲ具シ本省ヘ伺出ベシ雇ノ者ニ至ツテハ放雇トモ其都合ニ任ス但シ人員ヲ增シ或ハ給額ヲ增加スルノ類ハ總テ本省ヘ伺ヒ出ベシ

一諸般ノ經費例規アルモノハ支銷シテ其仕譯ヲ月々報告スヘシ規外又ハ非常ノ費用ニシテ急ニ仕拂ヒヲカザルヲ得サル分其時宜ノ情狀ヲ熟考シ假ニ仕拂置其始末明細ニ具上スベシ總テ官金出納ノ銷鑰ハ之ヲ管理官ニ歸ス

一管理官ハ東萊府伯ト對等ノ者ト心得ヘシ公事ヲ議シ或ハ文書往復等總テ彼レヘ對シ照會シ日常銷末ニ涉ル件一々府伯ニ會晤セント欲スル時ハ道路沮隔實際不便ノ事アルト見ル時ハ訓導ト晤談シ或ハ屬官ヲシテ會晤セシムルモ苦シカラスト雖トモ其開端及ヒ結末總テ後來ノ證左或ハ例規トナルヘキモノハ一切府伯ニ對シ處置スベシ

一朝鮮政府既ニ條約訂盟スト雖トモ其實彼レノ所好ニ非ス動モスレハ閉固守舊ノ態ヲ顯ハシ或ハ官吏陰ニ賄賂ヲ貪リ貿易ヲ妨害シ物品輸出入ノ故障ヲ生スル等ノ類少ナカラスト聞今急ニ此弊竇ヲ塡塞スルニ至ル能ハザルベシト雖トモ事々物々注意シ彼等カ所爲苟モ條約諸書ノ趣旨ニ背戻スル事アルト見ル時ハ盡力シテ是レヲ沮止シ彼ノ積習汚俗ヲ改革スルノ地位ニ進ムヲ要スベシ

一貿易ノ形況ハ深ク視察ヲ加ヘ內外共ニ催進シ得ヘキ期ヲ見ル時ハ彼ノ地方官ヘ請求シテ其便宜ヲ開興スルノ道ヲ求ムベシ內地ハ本省及ヒ勸商局ヘ申報シテ其方法ヲ求ムベシ

附輸出入貿易品ノ月報及ヒ日本人民出入表ハ可成明細ニ取調申報スベシ

一朝鮮政府耶蘇教ヲ禁スルハ條約書ニ揭載セスト雖トモ宮本理事官(註三二附屬書)ノ手錄中ニ揭起シタレハ條約書ト同一ニ視做スベシ總テ彼國ハ法教ヲ禁諱スルノ習俗ナレハ我人民教典ニ關係スル事ヲ彼地ニテ施行スルカ或ハ傳播スルハ兩國交際ニ影響ヲ生シ不佳ノ基トナルヲ怕ル宜シク是レヲ禁歇スル處置ニ注意シ止ムヲ得サル時ハ伺ヲ經テ處分スベ

シ

一外國軍船釜山港ニ進入スル事アル時同盟國ノ友誼ヲ表スル爲相往來スルハ其場合ニ於テ止ムヲ得サル事ナカラ是レヲ除クノ外ハ一切彼レニ關係シ或ハ該船地方官ニ向ツテ請求スベキ諸件ヲ中間ニ立受付又ハ周旋スベカラズ該船人我居留地内ニ上陸スルトモ我地方ニ非レハ是レヲ拒ムノ權ナシ然レトモ彼等我人民ノ家屋ニ止宿セン事ヲ求ル時ハ地方官ニ問合差支ナキ答辭ヲ得タル後止宿セシメ我係累トナラサル事ニ注意スベシ

但困難セル外民ヲ救助スルハ修好條規附錄ニ在リ本條ト混スベカラス

一若日本旗章ヲ揭ケタル諸船舶ヘ外國人民搭載シ來ル時ハ上陸ヲ峻拒スベシ

一我軍艦入港スル時ハ指令官ノ求ニ應シ可成ノ所要ヲ辨スベシモシ軍艦朝鮮沿海ヲ測量スル趣旨ナル時ハ其方向ヲ地方官ヘ先報シ譯官ヲ貸與シテ乘組スベシ

一艦長管理官ヲ尋問スル時ハ相當ノ回禮ヲ爲スベシ我ヨリ先訪スルハ其時ノ場合ニヨリ朝鮮政府ヘ關係スル使員又ハ少將以上ノ官タルベシ艦内ノ人員上陸ノ節可心得地方諸規則等ハ厚ク報知シテ日本人士ノ彼地ニテ事緒ヲ起ササル樣彌縫スルハ管理官ノ要務ト知ルベシ

一規則ヲ知ラスシテ海外行免狀ヲ帶往セサル人民其管藉分明且產業ニ就クニ堪ユルノモノト見ル時ハ假公證ヲ與ヘ居留セシムルモ妨ナシ或ハ無賴ノ徒脫走ニ類スル者ハ無公證ノ始末相糺シ歸國セシムベシ

一遊步期程内及東萊府中我國人行步ノ節ハ男女路ヲ讓リ禮儀ヲ正シクシ妄リニ公廨人家ニ不立入樣常ニ注意シテ人民ヘ垂戒スベシ

一草梁現今ノ館地ハ其儘據置地租ヲ拂フ事ヲ議スヘシ家屋ノ朝鮮政府ヨリ所建ノ者ハ之ヲ撤却セシメ或ハ租ヲ納レテ之ヲ借リ又ハ相當ノ價ヲ以テ之ヲ買取ル等實地ニ就キ便誼ニ從ヒ處分スベシ但シ館舍倉庫改造ヲ要スル事アレハ其費用ハ伺ヒヲ經テ相定ムヘシ

一朝鮮政府ヲシテ海關ヲ草梁ニ設シムル其地位我借入地内ニ係ルアレハ地ヲ割テ之ヲ返却シ或ハ更ニ貸付スル等都合ノ可否ニ從テ處分スベシ

一朝鮮京城ヘ使臣ヲ駐留セサル間ハ同國ト交際ノ諸事件亦管理官ノ擔當スル處トナス宜シク彼我ノ情實ヲ酌量シ交



際ノ親睦ニ歸スルヲ謀ルベシ且彼政府ノ動靜ハ巨細ニ報知シテ遺漏アルベカラス

一朝鮮官吏或ハ免許ヲ得タル朝鮮人民日本ヘ來ラント欲スル時郵便船ニ駕シ對州其他外國人ノ爲開カサル港ヘ上陸又ハ其道路ヲ經過スルハ妨ナシ伺ヲ經ス是ヲ許可シ彼政府ノ公務ヲ以テ來ル者ヘハ譯官ヲ添ヘテ上京セシムベシ

右件々是レヲ委付ス

明治九年十一月十三日

外務卿　寺島宗則

## 一一〇　十一月十三日　宮本外務大丞ヨリ朝鮮國禮曹參判宛

### 修好條規第八款ノ趣旨ニ從ヒ管理官ヲ派出スル旨照會ノ件

（朱書）「無號」　十一月十三日近藤七等出仕ヘ渡ス」

玆ニ照會スルモノハ我政府今般外務七等出仕近藤眞鋤ヲシテ日本人民管理官トナシ貴國釜山港ヘ派出セシム是レハ修好條規第八款ノ趣旨ニ從ヒ我國人民ノ權利ヲ保護シ船舶貨財貿易等ノ事務ヲ措辨シ貴我人民ノ友愛交誼ヲ保續スルノ要職ヲ負荷セル而已ナラス兩國政府幸ニ協同セル和親ノ情誼ヲ相傳通暢叙スルノ任モ兼有セルモノ也就テハ貴政府亦同氏ノ職掌ヲ認メ同氏ノ職務上ヨル起ル處ノ事件ニ付東萊府伯ニ會晤移文スル時ハ府伯亦能是レヲ款接シ充分ナル便誼ヲ與ヘラレン事ヲ我政府希望スルノ趣旨ヲ下官ヨリ閣下ヘ通知ス冀クハ閣下是レヲ貴政府ヘ報上シテ府伯ヘ下命アラン事ヲ玆ニ貴政府ノ雍熙ヲ祝シ併セテ閣下ノ平康ヲ祈ル敬具

明治九年十一月十三日

日本國外務大丞　宮本小一印

朝鮮國禮曹參判閣下

（右漢譯文）

（朱書）「十一月十三日達了」

譯漢文

玆照會者我政府一從修好條規第八款之旨以外務七等出仕近藤眞鋤爲管理官派遣貴國釜山港該官所負荷者卽保護我國人民之權理措辨船舶貨財貿易等之事務不使貴我人民之交誼至

背戻之要任也若夫將兩國政府現今所保存之和親情誼能爲通暢傳叙者亦在其職內也故逢有其所掌之事則面商于東萊府伯或移文照會府伯亦能與之款接以令得便宜是我政府之所望於貴國也乃使下官告之於閣下所希閣下啓聞諸貴政府貴政府認識其所職下敎府伯幸甚肅慶貴政府雍熙併祈閣下平康敬具

## 一一一　十一月十三日　宮本外務大丞ヨリ朝鮮國議政府堂上趙寅熙宛

**京城駐劄日本使臣ノ事務ノ範圍竝ニ日本使臣京城ニ入ル通路ヲ一定セントノ要求ニ關シ問合ノ件**

（朱書）「丙子年十一月十五日近藤眞鋤出立ノ節持參ス」

謹テ玆ニ照會スル者ハ貴國禮曹判書金閣下ヨリ我外務卿寺島氏ヘ照會セラレタル貴國曆丙子七月ノ貴翰寺島氏之ヲ展讀シ下官ニ命シテ左ノ事ヲ閣下ニ諮問スヘシトノ命ヲ受タリ書中兩國使臣京城ニ派送スル只交聘事務ヲ以テス通商ノ若キニ至テハ自ラ各港口管理官ノ職掌アリ必シモ此事務ヲ以テ專使京ニ駐ラサル事ト嗣後日本使臣ノ往來船舶處所必ス一定ノ地方アリ然後迎送ノ節以テ禮ノ如ク整備ス可シ先般下官ノ行上下船皆通津ヨリスルニ依テ永ク定式ト爲ス事トヲ載セラレタリ然ルニ使臣ノ職掌ハ專ラ兩國交際事務ヲ以テ主トス而シテ交際事務ハ啻ニ吉凶哀慶ノ二典ニ止ラス互ニ兩國政府ノ下ニ駐留シ兩政府ノ情誼ヲ暢達シ阻隔ノ患ナカラシムルヲ以テ使臣ノ職務ト爲スハ　貴政府ニ於テモ固ヨリ了解セラルヽ所ナルヘシ下官ノ煩瀆ヲ須ヒサル也蓋天地間ニ在リ互ニ邦國ヲ成ス時ハ其人民相交通セサルヲ得ス夫交通トハ有無相補ナリ艱難相救ナリ既ニ人民ノ交通アレハ則人民ノ上ニ立邦國ノ責ニ任スルノ雙政府亦交誼ヲ相修メ友道ヲ相講セサルヲ得ス是則通信通商ノ道由ツテ起ルユヱン也故ニ通信通商理ニ於テ二途ナシ況貴我兩國ノ如キハ一葦航スヘク人民往來スル日タル既久シ尋常商務管理官之レヲ擔任シテ足ル敢テ兩政府ヲ煩ハスナシ若夫交道風波ヲ生シ商路之レカ爲否塞シ管理官地方官ト會議シテ諸ハス紛錯遂ニ大事ヲ釀成スルカ或ハ貿易ノ形況時勢ノ變遷ニ從ヒ通商章程ヲ擬議シ以其弊端ヲ釐革スルノ類是皆商路ヨリ起ツテ重大事件ニ交渉スルニ至ル此時ニ當ツテ使臣之レヲ辨理セサレハ誰レカ能之レニ任セン然ラハ通商ヨリ起リタル事項ハ概シテ使臣預リ知ル所ニ非スト爲スノ理ナク若シ之ヲ拋棄スルトキハ使臣ノ職掌ヲ缺クニ至ルナリ貴判書所謂只交聘事務ヲ以テストハ未タ必シモ如此ナラザルベシ謂フニ右ハ要領ヲ總括スルノ意ナラン或ハ曩キニ貴修信使我邦ニ辱臨セラレシ如キノ類ヲ以テ單ニ交聘事務ト爲サルヽヤ我外務卿之ヲ判定スル能ハス若シ前文ニ言フ如キ使臣ノ職タル哀慶ノ二典ニ止ラス兩國交際諸般ノ事務ニ關渉シ專ラ兩政府ノ下ニ在ツテ其情宜ヲ暢達シ和親ヲ保護スルニ在リト爲サハ我外務卿ノ所見ト差異ナキニ似タリ貴判書ノ意見果シテ如此ナリヤ又嗣後日本使臣　貴國ニ往來スル船舶必ス一定ノ地方アルヘシトノ件ハ本春貴我兩國間ニ於テ締約セシ修好條規第五款ニ　貴國沿海通商ニ便ナル港口二處ヲ開クトアリ蓋シ此二港ト釜山港トノ三所ハ皆邦人ヲ接受スルノ門路ナレハ此門ニ由テ京ニ入ルハ理ニ於テ不可ナル無キニアラスヤ抑日本地方ニ密邇シテ便宜ナルハ釜山港ヲ以テ最ト爲ス故ニ使臣所駕ノ船舶時トシテ釜山ニ止リ是ヨリ上岸陸行スル事モ有ルヘシ或ハ清國地方ヲ經過シテ　貴國ニ轉航スル使臣ハ通津ニ於テ上陸スルヲ以便ト爲ス事モ有ラン　貴政府預メ此門路ヲ一定シテ必ス之ニ由ラシメント欲スルハ我使臣ニ大ナル不便利ヲ與フル者ト云ヘシ故ニ　貴政府ニ乞フ處ハ通津ト他ノ三港ヲ以弊邦人通行ノ路ト爲スベシ夫通津ハ最京ニ近キ街路ナレハ開港ト爲サヽル時ト雖モ須ラク便ニ隨ツテ特ニ是レヲ許セハ大ナル幸ナリ他日貴信使我邦ニ辱臨スルノ日貴國船舶航海自由ナラハ必ス横濱ノミヲ限リテ上陸ノ地ト爲サス神戸長崎函館何レモ其便ニ從ヒ上陸スル事有ランモ我政府之ヲ肯諾セサルハ無カルヘシ是則同一理也若シ夫レ貴翰中所謂迎送ノ節以テ禮ノ如ク整備スヘシトハ竊ニ思フ前日下官ヲ優待サレシ成例ニ依リ盛ンニ儀衞ヲ張ルノ準備ヲ爲スカ爲メ往來ノ道途ヲ一定セント議及セラルヽニ非ス乎果シテ然ラハ下官一回此盛禮ヲ受ルスラ我政府安ンゼサル所ナリ況ンヤ今後我使臣　貴國ヲ出入スル時毎トニ敢テ　貴政府ヲ煩スニ忍ヒンヤ必ス當サニ固辭シテ受サルヘキナリ夫レ既ニ供給自便ニシ迎送事務簡單ナレハ則　貴政府ノ注意ヲ煩スニ足ラス人民安堵業ヲ執レハ通路ヲ前定スルニ及ハサルナラン此二件貴判書ノ意見ヲ悉了シテ而後外務卿答書ヲ脩メント欲ス希クハ閣下更ニ明敎ヲ賜ラハ幸甚敬具

明治九年丙子十一月十三日

大日本國
外務大丞　宮本小一印

大朝鮮國
議政府堂上趙寅熙閣下

（右漢譯文）

譯漢文

謹玆照會者　貴國曆丙子年禮曹判書金閣下致書我外務卿寺島氏寺島氏命下官諮問來書之意於閣下書中曰兩國使臣派送京城只以交聘事務至若通商自有各港口管理官職掌不必以此事務專使駐京事曰嗣後日本使臣往來船舶處所必有一定地方然後迎送之節可以如禮整備前日下官上下船皆由通津永以爲定式事夫使臣之爲職以專掌兩國交際事務爲主任而交際事務不止吉凶慶弔二典則駐留其國政府所在之地各通暢其情誼互相親睦莫有阻隔之憂此則使臣之職掌　貴政府亦所既詳悉不須下官煩瀆也蓋在兩間互成邦國則其人民不得不相交通夫交通也者有無相補也艱難相救也人民業已交通矣則立人民之上任邦國之責之雙政府亦不得不相修交誼相講友道是則通信通商之道所由而起也故通信通商於理無二途況貴我兩國一葦可航人民往來爲日亦既久尋常商務管理官擔任之足矣無敢煩兩政府若夫交道生風波商路爲之否塞管理官與地方官會議而不諧遂紛錯釀成大事或貿易景況從時勢變遷則擬議通商章程以釐革其弊端等是皆由商路起而交涉以至成重大事件當此時不有使臣辨理之誰能任之若夫由通商所釀成之事項概爲使臣所不管知拋棄之以不顧慮則是缺使臣之職掌也而貴判書以爲交聘事務者可未必如是其然顧此是總括概論其要領耳不然則以如貴修信使曾辱臨我邦者爲交聘事務乎我外務卿未能確審之若或以爲使臣之爲職即如前項所斥者不止哀慶二典其關涉于交際萬般事務駐劄其政府所在之地暢達情誼保護和親者乎則與我外務卿所見似無有差異貴判書之意其將何在嗣後使臣往來之船舶必應有一定地方此據修好條規第五款所揭於　貴國沿海通商港口更開二處合算釜山爲三處則此三港是皆接受弊邦人之門戶由是門戶以入京於理似無不可且其密邇我之地方無如釜山港者故今後使臣所駕之船舶時或繫泊釜山旱路上京者亦不保無之或經過清國地方轉航向　貴國之使臣欲由通津以進京者亦應有之今　貴政府預指定其門戶必欲令由之則無乃與我使臣以大不便之地乎故所需于　貴政府宜及今改圖以通津及他三港爲弊邦人通路夫通津則最爲近京街路故雖不定爲開港之時須隨便特准之則幸甚猶他日有貴信使辱臨我邦任其船舶便宜上陸不必定橫濱一港神戶長崎函館等皆爲其出入門路我政府無有敢限制之若夫所謂迎送節次可如禮整備者窃謂是如前日優待下官之例盛張儀衛大設饗餐爲之故欲一定其道途乎果然則下官一回辱是渥待猶我政府之所不安況今後我使臣之往來于　貴國者不可知凡幾回而每回煩擾　貴國吏民如前日豈所可安受之乎哉必固辭不敢受也夫既供給自便送迎事簡則不另煩

貴政府且其人民安堵執業則不足以前定其通路亦應非過論也故今此二件外務卿欲再了得貴判書意見而後修書以答故先使下官諮問之願閣下更賜明敎無任悃愊之至敬具

明治九年丙子十一月十三日
大日本國
外務大丞　宮本小一印

大朝鮮國
議政府堂上趙寅熙閣下

註　右文書ハ九五朝鮮國禮曹判書金在顯ヨリ寺島外務卿宛ノ書翰ニ對スル問合セト認メラル





## 一一二　十一月二十日　釜山在勤近藤管理官等ヨリ鮫島外務大輔宛

### 着韓ノ次第竝ニ近況報告ノ件

十二月七日到
第一號

拜啓卿輔兩閣下益御清適抃賀の至に存候下官一行本月廿日長崎港著同夜浪花丸號郵船に乘替五島對州を經一昨廿四日夕第四字無滯釜山港に致投錨候

一草梁公館內諸官一同無異此節渡航の商人凡百餘入程在留船舶も十一二艘滯泊致居候

一訓導は去九月中旬京城より歸任致候趣に候得共一事も改革の萌無之守門設門等にて出入の收稅其外夜商等百事依然山之城權中錄より每度催促致候所管理官渡來を待を口實とし因循守舊の趣等同人より追々具狀及置候通に御座候尤兼て館內に往來の商民は舊來束縛の苛酷に不堪却て我管理官の渡韓を念望致すもの多く皆自由貿易を相望居候趣

一昨日下官より東萊府使へ宛書翰を以着韓を報し幷に面晤

の日を問合置候に付不日會晤の端を開き遂に條約面實踐の場に可相運但訓導は本日來館可致哉の趣に相聞候

一韓地本年の不登は特に甚敷來歲の種粒をも食盡し候程の由に相聞釜山近傍の韓民遂に我商民に就き米麥を求め候者不少一旦は東萊府使より潛に日本人より米麥を買取候者を制止候故歟多く夜蔭に乘し潛買致候事も有之由の處此四五日前より白晝公買候樣相成候趣尤下官等嚴原にて近來韓地へ輸入の石數略聞合候所既に米四百石程麥千石餘も有之今般渡航の浪花丸にも八百俵程は積込輸入致し殊に此度商譯都中の手より是迄公木と唱へ木綿一萬貳千匹を差出し米と貿易致し度旨を我商民に依賴致し候由此木綿は韓民年貢中の一にて曾て公貿易に供し候品に有之候間定て其政府よりの需求に出候義に可有之と被存候但し韓地にて即今米價肥後上米にて凡七圓程の由に有之候

一浦瀨荒川中野三名へ御達しの辭令書相渡し候處（註別紙覽當ラズ）別紙の通御請書各通差出候

右着韓の次第幷に當地の近況等報知申上度具狀如此に御座候頓首

九年十一月廿六日

管理官　近藤眞鋤

外務大丞　花房義質



鮫島外務大輔殿

逐て昨日東萊府使へ面晤の期問合候末本日訓導玄昔運來館來る卅日府使來訪來月三日下官入東萊と取極候尤も其手續萬端は唯今引合中に有之逐て委曲可申上候得とも先右日限取極候段不取敢申上置候也

## 一一三　十二月三十五日　釜山在勤近藤管理官ヨリ鮫島外務大輔宛

### 東萊府使トノ初會晤ノ次第報告ノ件

（朱書）「第二號」　一月五日接

致啓上候陳は鄙官一行去月廿四日釜山港到着東萊府使來館の日限取極候迄の次第は第一號信（註一一三參照）にて御承知被下候事と存候右府使來館の義は最初鄙官東萊に到り面會致し度旨及照會候處訓導玄昔運を以賓客入來あれは主人自ら出て迎るを禮とす故に府使宴廳迄罷出御面會可致尤も同所に於て酒饌差出度旨申出候に付其儀は相斷り度府使既に此地に出張相成候へは却て我に取りて賓客なり先我館に御入來相成我にて饗應の設を爲すへしとの談判に渉り終に其日府使（註參照）來館初對面相濟酒食差出候上府使より宴廳へ遊覽の爲來臨相望候に付即花房大丞始め鄙官幷石幡山之城兩權中錄中野權少錄住永十四等出仕等と共に招に應し同處に於て樂を張り酒饌を供し甚丁寧に有之但し宮本大丞（註一一〇參照）より參判宛の書契は府使より本日受取度旨申出候に付相渡候處直樣遞送可致趣に御座候且又本月三日は花房大丞及拙者屬員とも如約束東萊府に相越候處迎の官員數名相越し喇叭喝道頗る嚴重に有之尤も右は前日應接の砌此後事物簡易を主とし兩國失費を省き以て交情親密を要するなれは右等の行裝は可相廢旨引合置候得とも何分此度は初回の義故例習全廢難致由乍去從前とは餘程簡略に致し候趣にて人數も餘程相省き候樣子に御座候東萊に至り官衙前秋梧軒と申所に於て府使と面會酒饌奏樂饗應の模樣は前日同樣の事に御座候右東萊府使と初會晤の次第大略如此右申上置候也

九年十二月廿五日

管理官　近藤眞鋤㊞

鮫島外務大輔殿

註　本號文書中ニ謂フ「其日」トハ一一二ヨリ察シ近藤管理官ト訓導玄昔運トノ間ニテ取極メタル東萊府使來訪ノ豫定日十一月三十日ニ該當スルト認メラル

## 一一四　十二月三十五日　釜山在勤近藤管理官ヨリ鮫島外務大輔宛

### 修好條規附錄條項ノ實施ニ關シ東萊府使ト談判ノ上取極メタル箇條報告ノ件

附屬書一、釜山港出入商船取扱方心得

二、十二月六日近藤管理官ト朝鮮國訓導玄昔運トノ對話書

修好條規附錄條項實踐ニ關シ豫備交渉ノ件

三、十二月十二日近藤管理官ト洪東萊府使トノ對話書

修好條規附錄條項實施ニ關スル件

四、十二月十三日近藤管理官ト洪東萊府使トノ對話書

遊歩規程等ニ關シ交渉ノ件

（朱書）「第三號」

一條條(約カ)實踐の條々協議の爲府使へ會晤の義及問合置候處本月十二日府使訓導任所迄出張致候趣回答有之即十二十三兩日同處にて談判の上取極候箇條左の通に御坐候

一守設門廢撤の義は來る我十六日より可着手但し海關官吏出張可致の處其住居朝鮮風に取直し候迄止息の場所無之候間右普請中凡二十日と見積り夫迄は夜分守門にて休息爲致度に付此日限内は守門丈廢撤御見合有之度旨懇願致し候に付格別差支に相成間敷相心得承諾致し尤守門將幷門扉は即日爲相除候然る處爾後韓人の居留地に出入貿易致候者も日々相增可申に付ては無賴の者も混入致し如何樣の不都合相釀し候哉も難計且人々貿易の模樣も相知る爲舊裁判家へ官吏を置き韓人の出入相改度旨申出候に付當夏宮本理事官趙講修官との往復公文を示し其言の約條に違背し且事の有害なるを辨し候處猶嘯々申出兎角談判相纏りかね候に付未た實踐の寸效もなきに違背の語あるは不都合なり條約履行日月を經て果して妨礙ありて不得已者あれは他日其事情を承るへしと申聞此談判は先つ相止めさせ候

一居留地地租の義は五十圓と取極め來る十六日即條約實踐の日より起算し相納候事に定め既に本年も纔の日數に付翌年分を併て可相拂に付ては自今毎年抄翌年分を完清候事に約束致候

一官舍取換幷に買取候分別紙「甲」號(朱書×註 甲號見當ラス)の通り草案相認差示し候處府使に於ては異存無之候得共未た此處分に付政府の命令無之候に付一應伺の上可取定との義にて無據延引罷在候

「一海關の義も前官舍同樣の義に候へとも既に兩門廢徹候付ては兩國貿易の出入監視する者も無之に付假りに此一ケ所丈け受取逐て京城より本任官員被差出候迄は權りに關校を可置旨申出る仍て別紙「乙」號(朱書×註 附屬書一)海關事務取扱規則を示すに異存なし但し未た關印も下付無之義に付本任官到着迄の間は總ての取扱管理官にて世話致し遣し候事に決着す」

一遊步期程の義は最初直徑の釜山城邊に達する旨我測量圖に據り申入候處愕然いたし朝鮮國には未た測量圖無之に付實地に就き測量致し度と申聞候上陸路に由り繩を引開雲鎭口に止るを以て主張致し候に付彼の測量は直徑の正義に適せさるを辨し候處彼れは附錄朝鮮里法に依ると云





を以て測量法も亦朝鮮方法に從ひ定むへしと主張致し我は條約面に據り直徑の字眼を固執し終に曲直の論に涉り到底協議に至らす府使より京城に相伺ひ指令を待て再議すへしと申出るに付標木は右伺中不相立事に約し候事

一東萊府に通行の義は差支無之候得共豫め其姓名員數を報知無之ては迷惑の趣頻りに申出候に付再三辨破の末其情實不得止事も相聞へ候に付本省發給の旅行免狀を示し此免狀紙背へ管理官檢印を加置へきに付府門出入の節門吏之を檢査すれは其姓名員數も判然可致に付豫め之を報知するにも不及へし但し在留人民の内數年前渡韓致し未た免狀所持不致ものあり右等は新に免狀相受候迄の間管理官より假免狀相渡し置候て通行可爲致議に一決し本月十六日より施行致し且又朝鮮國風習として夜分は外出の者も無之處日本人夜行致候ては如何の難義出來可致哉も難計に付夜行は堅く禁止候樣府使より依賴候に付當分の間之を禁し候樣可致と申置候處其後永禁に致旣度旨申越候に付辨論の上渡航の者心得書に書加候事に談決即別紙(朱書×註 丙號見當ラス)「丙」號の通に御坐候

右の數件は談判の大略に御坐候委曲の手續は別冊對話書三(註 附屬書二、三、四)通にて御承知可被下候尤花房大丞本日の郵船にて歸朝相成候間實地の模樣同人より御聞取可被下候右申上候也

九年十二月廿五日

管理官　近藤眞鋤㊞

鮫島外務大輔殿

**(附屬書一)**

(朱書)「乙號」

一釜山港出入商船取扱方心得

第一條

凡ソ日本國商船貨物旅客ヲ裝載シテ釜山港ニ入ル者ハ船長直ニ管理官廳ニ至リ船藉航海公證及ヒ荷物送狀正副二通ヲ差出スヘシ

管理官廳既ニ船藉等ヲ受取レハ第一號書式ニ從テ證書ヲ給ス可シ且ツ其送狀ヲ査檢シ某年某月某日輸入濟等ノ字ヲ裏書シテ官印ヲ押シ另ニ正副二本ヲ合セテ割印シ副本ヲ廳ニ留メ正本ハ即チ還付スヘシ

第二條

船長右第一條ノ手數ヲ經ルノ後三日内ニ海關ニ至リ管理官廳ニテ給スル所ノ證書ヲ呈シテ日本船タル事ヲ證明シ且ツ

第二號書式ニ從フテ記錄簿及積荷報單竝ニ船內應用雜物ノ簿記ヲ呈シ港稅ヲ納ル可シ海關之ヲ受取リ卽チ港稅受領ノ證書ヲ給スル事第三號式ノ通リタルヘシ

第三條

貨主或ハ船長其貨物ヲ陸揚セント欲スル時ハ第四號書式ニ從フテ荷揚願書二通ヲ海關ニ呈スヘシ海關ニ於テハ之ヲ積荷報單ニ照シ荷揚免許等ノ字ヲ裏書シ官印ヲ鈐シテ之ヲ還付シ副本ハ關ニ留ム

第四條

凡ソ日本國大小商船朝鮮國貨物ヲ積入レ本國ヘ回漕セント欲スル者ハ其貨主ヨリ正副二通ノ送狀ヲ管理官廳ニ呈ス可シ管理官之ヲ檢閲シテ割印シ副本ヲ廳ニ留メテ正本ニハ相違無之旨ヲ裏書シ官印ヲ押テ還付スヘシ

第五條

船長或ハ貨主其貨物ヲ船積セントスルトキハ第五號書式ニ從テ積荷願書正副二通ヲ海關ニ呈スヘシ海關之レヲ査閲シテ副本ヲ本館ニ留メ正本ニハ積荷免許等ノ字ヲ裏書シ官印ヲ鈐シ別ニ正副二通ニ割印シテ正本ヲ還付スヘシ

第六條

以上ノ手數ヲ了シテ出港セントスル船ハ其前日正午前ニ船長ヨリ第六號書式ノ如ク出港屆書正副二通ヲ海關ニ呈スヘシ海關之ニ割印シ其壹通ニハ特ニ印ヲ鈐シ前日領シ置キタル證書ト共ニ還付スヘシ

船長更ニ管理官廳ニ至リ出港時限ヲ稟告シ曾テ給セラルヽ所ノ證票ヲ還納シテ船籍航海公證等ヲ受取ルヘシ

第七條

第六號ノ手數ヲ經ルノ後再ヒ積荷ヲ要スルモノハ更ニ第五號條成例ニ從フヘシ或ハ事故アリテ出港遷延數日ニ及フモノハ詳カニ其情由ヲ海關及管理官廳ニ陳スヘシ然ルトキハ前日ノ屆書ヲ廢スルヲ得ヘシ更ニ日期ヲ定ムルニ至ラハ又例ノ如キ出港屆書ヲ呈シテ其准許ヲ得ヘシ

註　右附屬書一中ニ云フ第一號ヨリ第六號マテノ書式ハ全部略ス

（附屬書二）

明治九年十二月六日近藤管理官訓導玄昔運對話中野權少錄住永十四等出仕通辨筆記

管理過日府使ニ拜晤ノ時日ヲトシ條約實踐ノ事件ヲ議定セン專ヲ申入置タリ御都合宜日限御取極相成タル歟



訓導來廿六日卽我十一日　迄ハ府使差支アリテ拜會ヲ得難シ廿七日ニハ任所迄下來可致候間同所エ御出張被下遊步期程等ノ事件御評議相成度尤府使ハ廿七廿八兩日ノ間ニ逗留ノ積リニ候

致承知候

府使ト御會晤ノ事件ハ何々ノ箇條ニ候哉內々拙者マテ御聞カセ被下間敷哉

御相議ノ廉ハ守設兩門ノ廢撤並地租ノ一件遊步規程ノ一件海關設立ノ一件貴國所建ニ係ル家屋處分等ノ件々ナリ

來廿七日府使御面會ノ節彼是議論相生候樣ニテハ體裁不宜候間豫メ貴意モ相伺ヒ且當方ノ見込モ略申上置候テハ如何

御見込アレハ可承

守設兩門廢撤ノ事ハ素差支無之設門ノ方ハ速ニ可取除候エトモ此兩門地撤除スレハ我邦人貿易ノ外見物ノタメ多人數入込夜分抔モ取締ノ道モ無之往々下都合ノ事ナト相生候哉モ難測候間陪通詞ノ內兩三名出張出入ノ人數ヲ調ベ且ツ其日ノ貿易品數ヲモ取調候樣致度候

是ハ存モ寄ラヌ御見込ナリ先第一ニ何ノ地ニ右樣ノ役人ヲ御差置被成候積リナル哉

守門モ可廢撤候得トモ從來ノ門番並門扉等相廢候丈ニテ不苦候ハヽ都合宜乍去是モ皆可撤却トノ思召ニ候ハヽ致方無御坐付テハ裁判家ハ素我政府ノ所構ニ候得ハ此處エ陪通詞詰居リ取調致度候

裁判家ヲ貴國ノ御用ニ相成候儀ハ差支無之候得トモ右樣ノ役人ヲ差置キ出入ノ人數貿易ノ品數等御取調ナサレ候儀ハ寬裕弘通ノ大旨ニ背キ兩國人民自由貿易ヲ相妨候モノナリ自今貴國ニテ海關設立相成候エバ貿易ノ形況ハ船舶出入ノ都度報單記錄簿ノ類ニテ明了相成候事故右樣ノ御手數ハ無用ナルヘシ又見物人多數出入スルハ卽チ交際ノ親密ニ相成候基ニ付兩國ノ間ニテ尤可喜事ナリ今ノ御見込ニテハ貴國ニハ束縛ノ餘弊未タ御除キ無之甚不可然事ナリ

右ノ役人ヲ差置候迚決シテ稅金ヲ徵シ貿易ヲ妨候ト申儀ニハ無之唯其日ニ幾許ノ商賣ヲ成シ何等ノ物品入館セシ哉ヲ知ルマテニゴサ候但シ海關ニテ報單ヲ閲シテ知ルハ物品ノ大數ノミニテ何人何品ヲ商買セシヤノ細目ハ不相分又遊客多ク相成候エハ其內ニハ不逞ノ徒モ有之候間地方ノ職掌ニ於テ甚タ懸念スル所ニコザ候

貴我兩國人ノ間不所行ノ者有之候ハヽ管理官ト府使照會處分致スベシ右邊餘リ御掛念相成候テハ交際擴張致ス日ハ有之間敷總テ貴國ニテハ未タ御不慣ノ儀故右樣ノ御見込モ相立候ナリ我邦ニテハ通商ノ國凡十五六ケ國人民自由ニ貿易致シ何ノ差支モ無之物貨ノ出入ハ總テ海關ニテ取調敢テ地方官吏ノ所關ニ無之若一々之ヲ其人ニ付取調事ト致セハ上下其煩ニ堪サルハ勿論商人抔モ危懼ヲ懷キ隨意ニ取引致候事不出來隨テ通商ノ道壅塞致シ可申兩國政府無稅貿易ノ趣意能々御勘考可有之候

此一件ハ先ツ姑ク措キ他ノケ條相伺度候

惣テ右樣ノ御見込有之候テハ條約面ニ對シ不都合相生可申貴國ノ爲心痛致候ナリ偖地稅ハ如何御見込候哉

是ハ宮本公京城ニ於テ八十圓程御差出相成度御談示有之候エドモ我政府ニテ五十圓位ナレハ受取可申旨ニテ御約束致置スナリ

拙者ニモ左樣承リ居レリ然ラハ其邊ニテ府使面晤ノ節取極ムベシ

遊步期程ニ付別段御見込ハ無之哉

期程ハ我國測量圖ニ據レハ直徑一里二丁廿四間トシテ北ハ釜山城外ニ及ベシ併貴國ノ測量ニテハ如何

愕然トシテ我國ニテハ未タ測量致サス候得トモ古館村外迄ニテ釜山迄ハ達セサル事ト存候

此時測量圖ヲ出シ示ス

貴示ノ如ニテハ海陸ヲ超ヘ一線ニ引クヲ以直徑トナサレ候ヘトモ我々テハ陸路ニ沿ヒ其間寸尺ヲ量ル積ニコザ候直徑トハ眞直ニテ屈曲ナキヲ云ナリ陸路ニ沿ヘハ灣アリ山アリ其高低灣曲焉ソ直徑タルヲ得ン

偖々困却ノ至リナリ猶府使ト細議可致候將亦彌立標ノ上ハ標畔ニ番小屋ヲ立可申且東萊府ハ特別進行ノ地ニテ府民素ヨリ貴國人ニ慣レズ俄ニ貴國人勝手ニ入込候樣ニテハ大ニ差支出來可申候間前往ノ人ハ豫メ姓名ヲ御報知被下候ハヽ右ノ番小屋ニテ鑑札ヲ渡シ且通辨ノ爲通詞ヲ付添ス樣可致候

夫レハ決シテ難出來儀ナリ條約面ノ通隨意間行スルハ貴政府ヨリ御承知ノ事ナリ今日ニ至御差支ハナキ筈ナリ又事實ニ依テモ不可行ハ譬ヘハ我商人釜山ニ至リ商法ヲナスモノ其時宜ニ因テ直樣東萊ニ赴カサルヲ得サルナルヘシ其節再ヒ館內エ歸リ管理官エ屆出其筋エ報知ノ手數ヲナス時ハ其



日ハ徒消シテ大ニ機ヲ誤ルニ至ルベシ又數十人ノ商客遊人東萊エ散行致候ニ付貴政府一々通詞ヲ御附ナサル事ハ甚六ケ敷事ナルベシ標畔ノ番所御立ナサルヽモ拙者ニ於テ無用ノ事ト存セラルヽナリ如何トナレハ我人民期程ヲ犯スモノアレハ拙者エ御通知下サレハ直ニ之ヲ罰スヘシ尤兼テ右樣ノ事無之樣相達シ置事無論ナレハナリ

此時彼川上大錄書簡寫ヲ出シ理事官ハ能我國ノ人情ヲ解シ善處之トノ文字ヲ指シ兼テ加樣ゴ文通相求候儀モ有之善處之字我々ノ實ニ所望ニ御坐候間我國情御察相成其儀ハ御同意被下度是非府內出入ノ人數其日ニ府ニテ承知致置樣不相成候テハ大ニ不都合ニコザ候

善處之カ爲種々御談示致候也但最前ヨリノ御見込ハ貴下御自分ノ御見込カ府使ノ御見込ニ候哉

尤府使ノ見込ニ候間篤ト御勘考被下度候

然ラハ府使御面會ノ上猶御相談可致候館舍ノ儀ハ如何

前ニ申述シ裁判家一軒申受候外別段見込無之

然ラハ我運上所ヲ貴政府エ差進シ他ノ諸建物ト御交易ノ御談示ヲ此次ニハ致スベシ但海關章程ハ書取ヲ以御覽ニ入レ猶口授可致候

今日ハ最早御暇仕リ可申來ル廿六日又々參館可仕候

右ニテ畢ル

（附屬書三）

九年十二月十二日近藤管理官洪東萊府使ト訓導ノ任所ニ會シ對話石幡權中錄筆記中野權少錄通辨

各一禮了テ

守門設門ハ條約面ノ通リ撤却ノ御取計既ニ可有之ノ處今ニ依然タリ是等速ニ著手アリテ條約履行ノ兆驗ヲ內外ニ示サルヘシ

貴府官渡航ナリシ上相談シテ履行スヘシト打延シ置タリ

一日モ是ヲ存シテ舊ノ如ク差置時ハ兩間ノ人情爲ニ阻隔シ自ラ不都合モ生シ易シ速ニ是等妨礙ヲ爲ス者ヲ除キタシ

兩門ヲ廢撤スルハ素リ論ナシ但此以後雜人輩多ク館內ニ入込ニ於テハ却テコレガ爲ニ種々ノ弊端ヲ開如何ナル事ヲ仕出候哉モ難計此事ヲ心配致シ候ナリ

其御心配ハ尤ナカラ奸細ノ徒ヲ戒ムル爲ニ兩國良民ノ商業ヲ妨クルハ甚タ謂レナキ事ナラスヤ其奸民ヲ戒ムルニハ自ラ其取締リ筋モ可有之直樣兩門廢撤アルヘシ

條約實踐ハ來月一日ヨリ始ムヘシ乃チ此日ヨリ兩門廢撤